

沖縄子ども調査事業

未就学児調査詳細分析報告書

平成 30 年 6 月

(平成 30 年 11 月 1 日改訂版)

沖縄県

調査事業受託者

沖縄県子ども調査事業共同体

目 次

はじめに	3
調査概要	4
第 1 章 保護者の働き方	12
第 2 章 妊娠・出産期の状況	29
第 3 章 保育所・幼稚園等の利用状況	35
第 4 章 5歳児の状況（就学に向けて）	46
第 5 章 保護者とのかかわり・子育てサークル等の利用	52
第 6 章 地域・社会とのつながり	61
第 7 章 健康	67
第 8 章 人生経験	90
第 9 章 現在の暮らし	101
まとめ	113
単純集計	116
自由記述	139

はじめに

沖縄県では、沖縄県の子どもとその保護者の生活実態を明らかにするため平成 27 年度に「子どもの貧困実態調査」を実施し、都道府県として初めて子どもの相対的貧困率が 29.9%であることを公表しました。これは、当時公表されていた全国の子どもの相対的貧困率 16.3%の約 1.8 倍となっており、県内の子どもたちの厳しい生活実態が明らかとなりました。

このことから、沖縄県では平成 28 年 3 月に「沖縄県子どもの貧困対策計画」を策定し、国、県、市町村が連携して、子どものライフステージに沿った切れ目のない総合的な支援を行うほか、子どもの貧困対策を推進するにあたり、計画的かつ効果的に子どもの貧困対策に資する事業を実施するため、平成 28 年 3 月に 30 億円の「沖縄県子どもの貧困対策推進基金」を設置しました。

また、内閣府が全国に比べて特に深刻な沖縄の子供の貧困に関する状況に緊急に対応するため、沖縄の実情を踏まえた事業をモデル的・集中的に実施する「沖縄子供の貧困緊急対策事業」も平成 28 年度から開始され、地域の現状を把握し、子供を居場所などの支援につなげるための調整等を行う支援員の配置や、食事の提供等を行いながら、日中や夜間に子供が安心して過ごすことのできる子供の居場所が設置されております。

さらに、沖縄の未来を創造する子どもたちが、安心して暮らし、夢と希望を持って成長していける社会の実現を目指し、県民一体となって子どもの貧困解消に取り組むため、県内各界各層の 105 団体で構成する「沖縄子どもの未来県民会議」が平成 28 年 6 月に設立されました。

そのような中で、沖縄県では平成 27 年度に小・中学生を、平成 28 年度には高校生を対象とした子どもの生活実態調査を実施し、子どもたちの厳しい生活実態が明らかとなりました。

平成 29 年度においては、未就学児の子どもたちを取り巻く社会や経済の状況が、子どもや保護者の日常生活にどのように影響しているかを調べ、今後の子育て環境のさらなる充実に必要となる施策を検討していくことを目的に、1 歳児及び 5 歳児の保護者を対象とした調査を実施したところであります。

本報告書においては、平成 29 年度に内閣府の「地域子供の未来応援交付金」を活用して実施した未就学児調査の結果を用いて、1 章では保護者の働き方について、第 2 章では妊娠・出産期の状況について、第 3 章では保育所・幼稚園等の利用状況について、第 4 章では就学に向けた 5 歳児の状況について、第 5 章では保護者とのかかわりや子育てサークル等の利用状況について、第 6 章では保護者の地域や社会とのつながりについて、第 7 章では子どもや保護者の健康について、第 8 章では保護者の人生経験について、第 9 章では現在の暮らしについて、経済状況や世帯分類、雇用形態などによりクロス分析を行ったものであります。

本調査結果を基に必要な施策に反映することで、貧困の連鎖を断ち切り、未来を担う子どもたちが夢や希望をもって健やかに生まれ育ち、豊かな可能性を發揮できる社会の実現に向け、全力で取り組んで参ります。

調 査 の 概 要

調査概要

◆調査目的

未就学児の保護者を対象に、子どもたちを取り巻く社会や経済の状況が、子どもや保護者の日常生活にどのように影響しているかを調べ、今後の子育て施策のさらなる充実に必要となる施策を検討していくことを目的に調査を実施しました。

◆調査実施主体

沖縄県から委託を受け、一般社団法人沖縄県子ども総合研究所、学校法人沖縄大学、NPO 法人沖縄県学童・保育支援センターの3者によるコンソーシアム、沖縄県子ども調査事業共同体が調査を実施しました。

- ◆調査対象
- 1歳児（平成27年4月1日～平成28年3月31日生まれ）の保護者
 - 5歳児（平成23年4月2日～平成24年4月1日生まれ）の保護者

◆調査方法

- 1歳児 市町村別人口構成比をもとに調査票配布数を算定し、沖縄県が各市町村へ住民基本台帳から配布数に相当する世帯を無作為抽出するよう依頼し、その名簿をもとに郵送にて配布・回収を行いました。そのうち、一部WEB回答もありました。
- 5歳児 対象年齢児の施設種別（保育所、認定こども園、幼稚園等）、市町村別の人口構成比を考慮しランダムに抽出した156施設へ配布を行い、施設から対象児の保護者へ配布・回収いただきました。

- ◆調査期間 平成30年1月9日（火）～1月24日（水）

◆回収状況

対象年齢児	配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
1歳児	6,790	2,031	29.9%	1,929	28.4%
5歳児	4,052	2,839	70.1%	2,800	69.1%

◆学識協力者

調査票にかかわる助言ならびに調査分析への協力を要請し、調査企画・分析を実施しました。

上原 健二	(沖縄女子短期大学)	中村 強士	(日本福祉大学)
加藤 彰彦	(沖縄大学名誉教授)	山野 良一	(沖縄大学)
鎌田 佐多子	(沖縄女子短期大学)	湯澤 直美	(立教大学)
小西 祐馬	(長崎大学)	吉葉 研司	(名古屋学芸大学)
島村 聡	(沖縄大学)		※敬称略、50音順

備 考

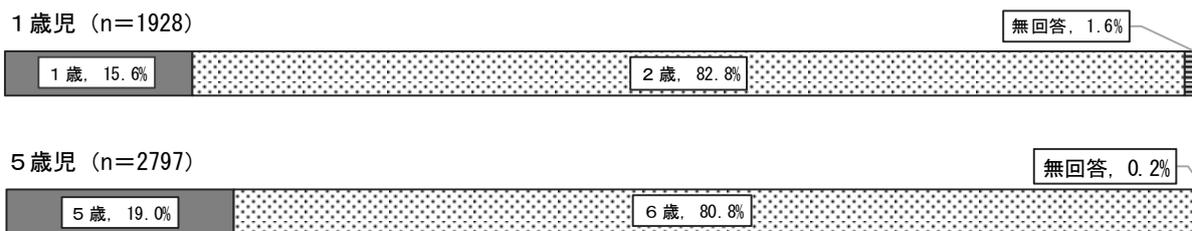
- ① 図表で示している回答数の割合 (%) は、小数点第 2 位を四捨五入して算出しているため、数値の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ② 問 1 で回答者について聞いています。回答者が施設職員等の場合は、問 1 以降の設問については回答せずにそのまま提出してもらうよう依頼したため、問 2 以降の回答者総数と有効回答数が異なります。
- ③ 本調査では、調査票の作成にあたり、札幌市「札幌市子ども・若者生活実態調査」(平成 28 年)、大阪市「大阪市子どもの生活に関する実態調査」(平成 28 年)、堺市「堺市子どもの生活に関する実態調査」(平成 28 年)を参考にしました。
- ④ 本報告書でいう小中学生調査、高校生調査とは、沖縄県で実施した平成 27 年度の小中学生調査(小学 1 年生、5 年生と中学 2 年生が対象)と平成 28 年度の高校生調査(高校 2 年生が対象)のことを指します。

基本属性

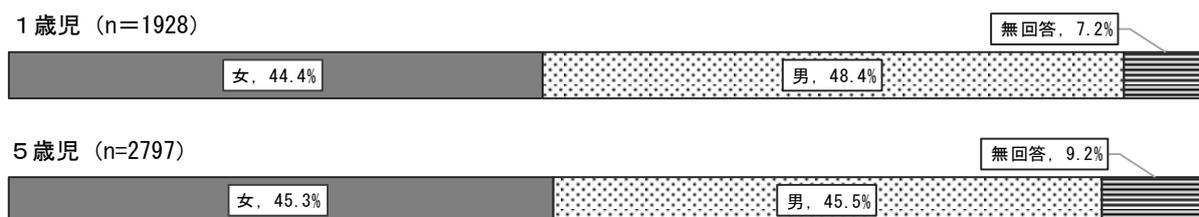
① 調査対象のお子さんの年齢・性別

調査対象児は、1歳児、5歳児に設定しました。実年齢をみると、1歳児ではすでに2歳になっている子どもが82.8%、5歳児ではすでに6歳になっている子どもが80.8%でした。性別は、1歳児が女子44.4%、男子48.4%、5歳児は女子45.3%、男子45.5%でした。

年齢

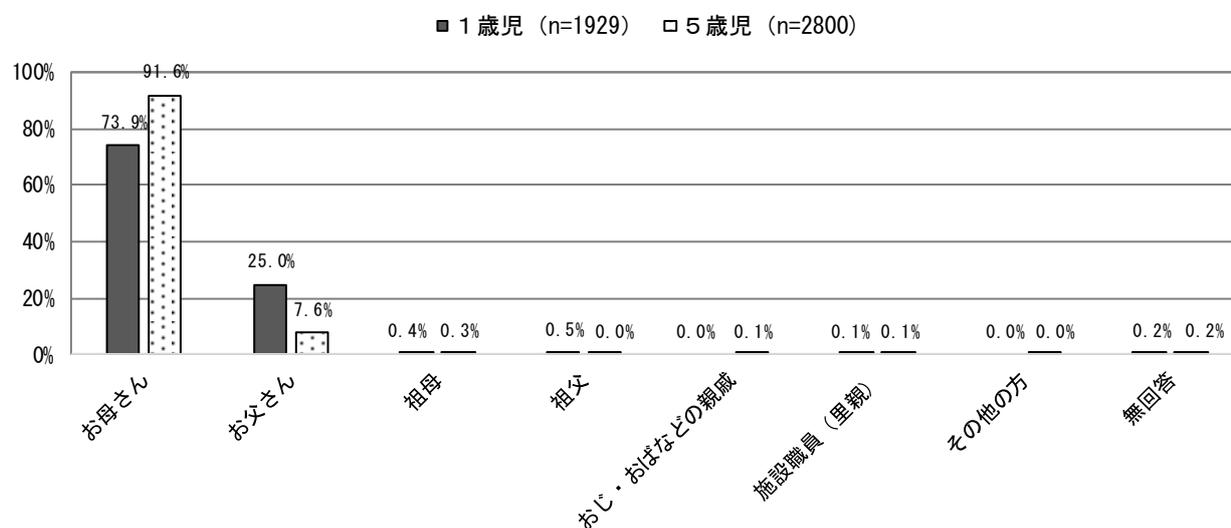


性別



② 回答者属性

アンケート回答者は、1歳児、5歳児ともに母の方が圧倒的に多いです。母親が、1歳児73.9%、5歳児91.6%、父親が1歳児25.0%、5歳児7.6%となっています。

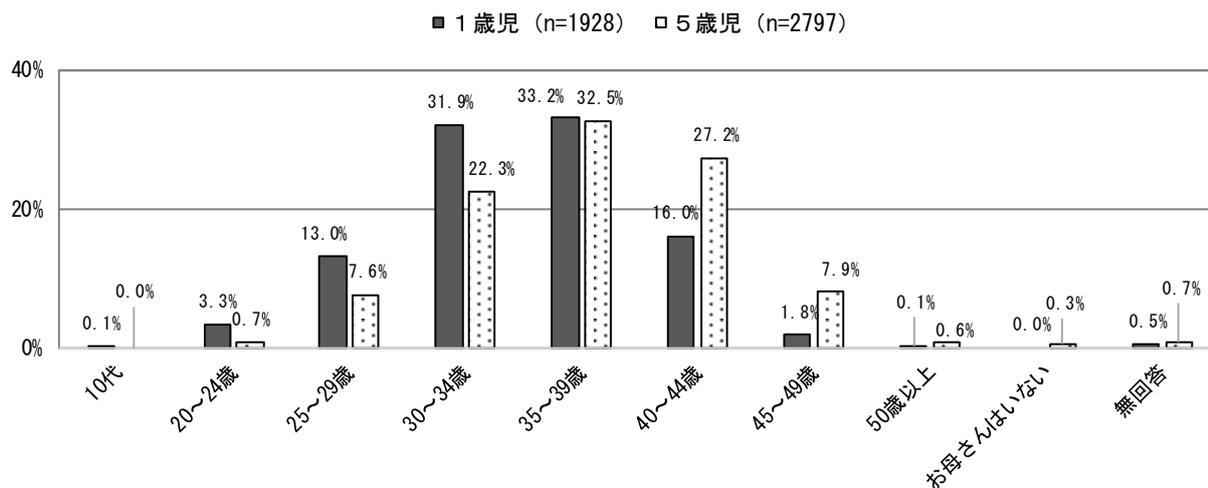


③お子さんの父母の年齢

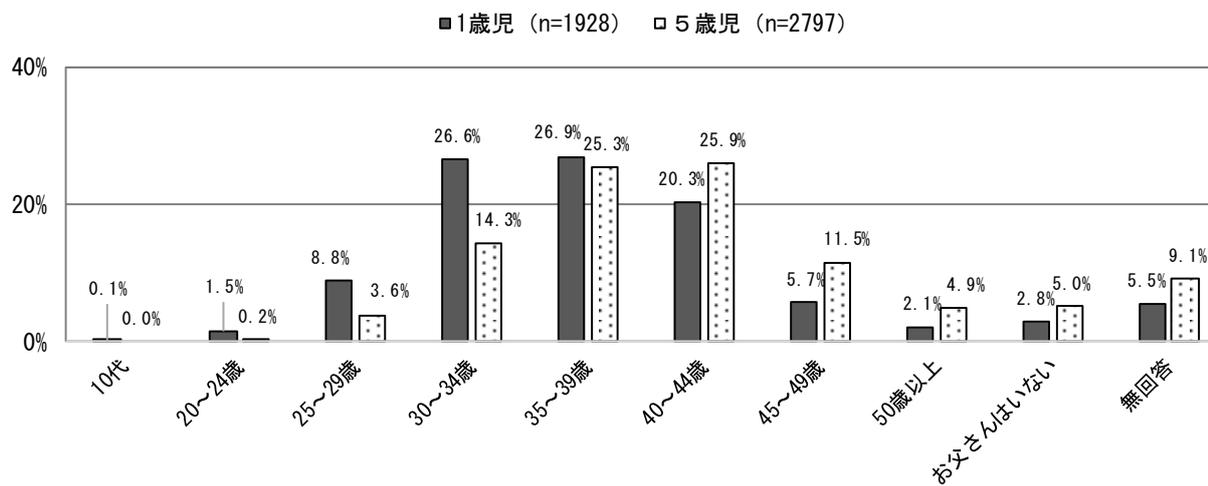
母親の年齢は、1歳児では「35～39歳」が33.2%と最も多く、次いで「30～34歳」が31.9%となっています。5歳児では、1歳児同様最も多く占めたのは「35～39歳」で32.5%、次に多かったのは「40～44歳」で27.2%となっています。

父親の年齢は、1歳児では「35～39歳」が26.9%、「30～34歳」が26.6%の順となり、5歳児は、「40～44歳」が25.9%、「35～39歳」が25.3%と続いています。

母親



父親

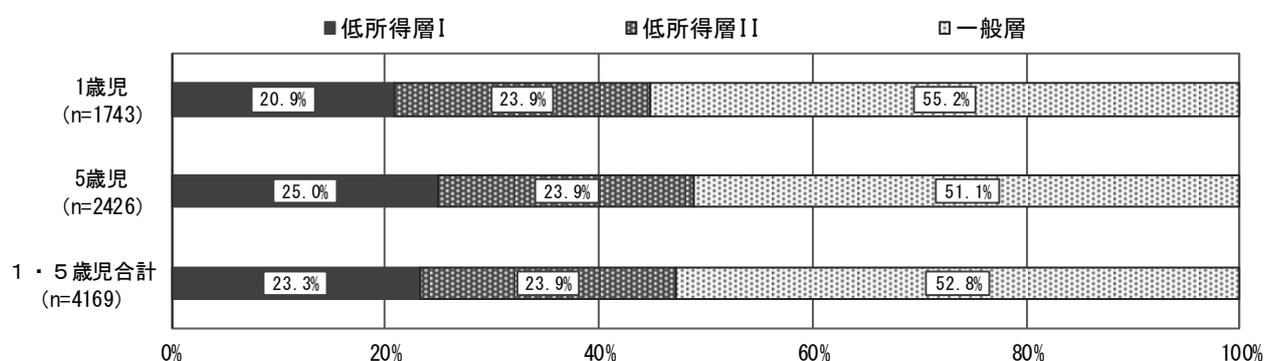


④所得区分

本調査では、経済状況による影響を分析するため、調査票における世帯の人数と世帯収入（税金や社会保険料の額を差し引いた手取り収入）から等価可処分所得（世帯の可処分所得（手取り収入）を世帯人数の平方根で割った額）を算出し、世帯の困窮程度を3つの区分に分類しています。分類にあたっては、厚生労働省の「平成28年度国民生活基礎調査」における貧困線（等価可処分所得の中央値の半分にあたる122万円、中央値は245万円）を基準に、回答者の約半数を占める層（本調査において「一般層」という）と比較することで、より詳しく経済状況による影響を分析するため貧困線の1.5倍の額となる183万円でも区分を設けています。

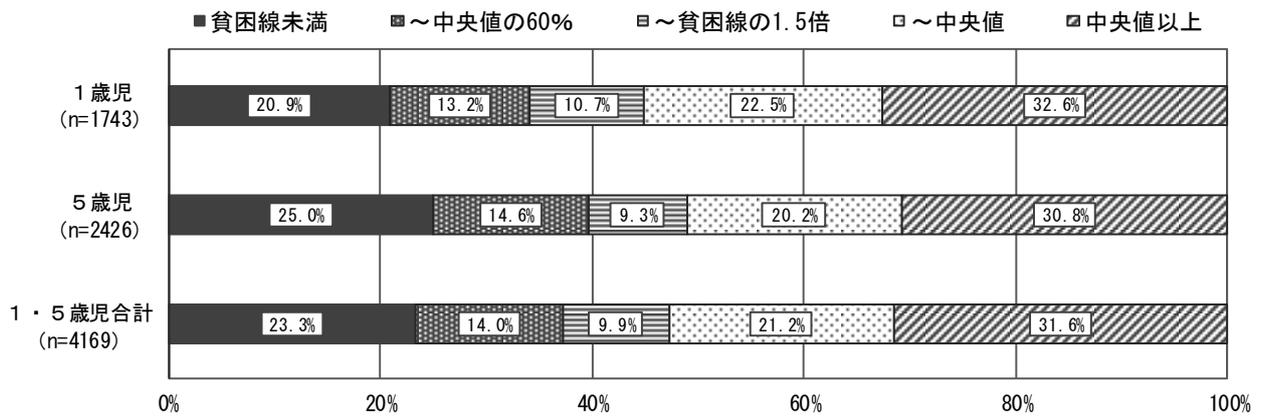
区分の名称	貧困線をベースにした額	所得	(参考) 4人世帯の場合の年収
低所得層Ⅰ	122万円未満 (1.0倍未満)	低	年収244万円未満
低所得層Ⅱ	122万円～183万円未満 (1.0～1.5倍未満)	↓	年収244万円～366万円未満
一般層	183万円以上 (1.5倍以上)	高	年収366万円以上

この区分を基に、それぞれの年齢の状況をみると、貧困線以下となる低所得層Ⅰは、1歳児では20.9%、5歳児では25.0%となっています。また、貧困線から1.5倍の間の層となる低所得層Ⅱは、1歳児、5歳児ともに23.9%となっています。

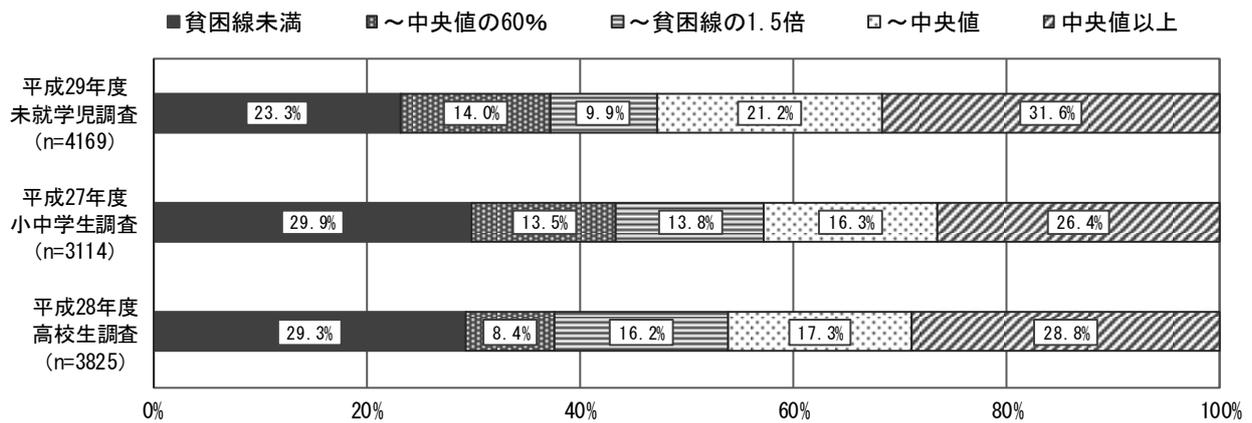


また、参考までに、EUなどで取り入れられている中央値の60%を貧困線とする区分と、中央値も取り入れた区分も追加すると、貧困線から中央値の60%の層は1歳児が13.2%、5歳児は14.6%、中央値以上は1歳児・5歳児ともに3割程度となります。

【参考①】 EUなどで取り入れられている中央値 60%を貧困線とする区分も取り入れた分布



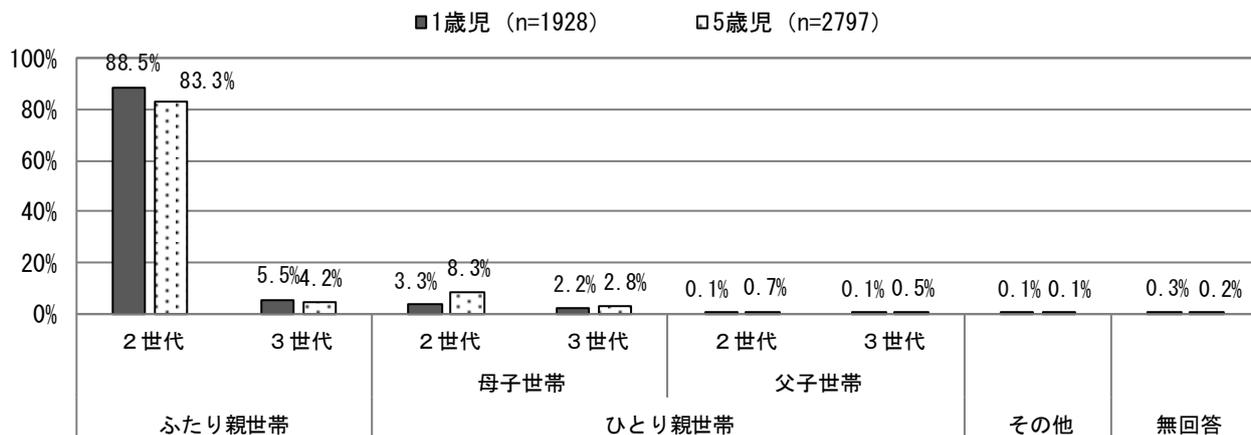
【参考②】 EUなどで取り入れられている中央値 60%を貧困線とする区分も取り入れた分布での過去調査との比較



注1) 平成27年度小中学生調査は、「平成25年度国民生活基礎調査」において推計された貧困線122万円と中央値244万円で算出。平成28年度高校生調査は、同調査に消費者物価指数の変動から算出した係数(103.95)をかけて、貧困線127万円で算出(中央値は254万円で算出した)。

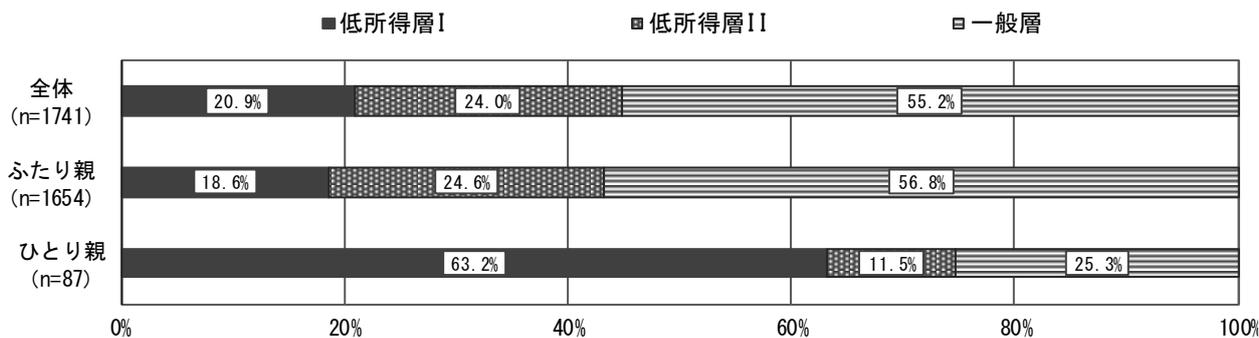
⑤世帯類型

本調査では、世帯区分をふたり親世帯（両親＋子ども）と、ひとり親世帯である母子・父子世帯（親＋子ども）とその他で区分し、さらに2世代（親＋子ども）と3世代（親＋子ども＋祖父母）で類型を設けています。この類型で見ると、1歳児、5歳児の世帯の80%以上が2世代のふたり親世帯でした。ひとり親世帯（母子・父子世帯）については、1歳児よりも5歳児の方の割合が高くなっています。

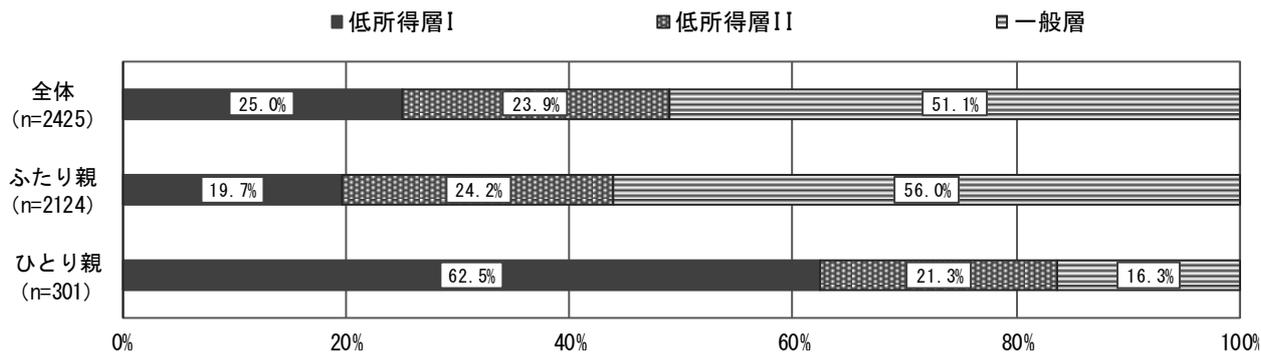


また、先の所得分類を用いてふたり親世帯とひとり親世帯（母子・父子世帯）別の経済状況を見ると、1歳児、5歳児ともにひとり親世帯の方が低所得層Ⅰの割合が高くなっており、1歳児では全体の20.9%に対しひとり親世帯は63.2%、5歳児では全体の25.0%に対し、ひとり親世帯では62.5%となっています（ただし、1歳児についてはn値が少なく留意が必要です）。

【1歳児】世帯類型別にみた経済状況（ふたり親世帯・ひとり親世帯のみ）



【5歳児】世帯類型別にみた経済状況（ふたり親世帯・ひとり親世帯のみ）



第 1 章

保 護 者 の 働 き 方

第1章 保護者の働き方

◆ 1-1 母親の就労状況

母親の就労状況を見たものが図1-1-1と図1-1-2です。今回の調査では1歳児および5歳児という就学前の子どもを持つ保護者を対象としていますが、全体で見ると働いていない母親は1歳児では23.9%、5歳児では20.9%に過ぎず、1歳児の約76%、5歳児の約79%という大半の母親が何らかの形で就労していることがわかりました。また、このことはふたり親世帯のみに分析を限定しても、同様の傾向が見えました（図1-1-3、および図1-1-4）。

どのような雇用形態で働いているかを1歳児と5歳児で全体を比較して見る（図1-1-1・図1-1-2）と、「正規の職員・従業員」（正規雇用）の割合は1歳児（35.9%）のほうが5歳児（29.3%）より高く、「パート・アルバイト」の割合は1歳児（22.7%）のほうが5歳児（30.5%）より低いことが把握されました。

一方、「働いていない」母親の割合には、経済状況によって違いがあることもわかりました（図1-1-1・図1-1-2）。1歳児では、一般層が21.4%なのに対して、低所得層Iでは29.6%と高く、5歳児では、一般層が20.2%なのに対して、低所得層Iでは24.3%と高くなっていました。また、このことはふたり親世帯に限定して分析するとより明瞭な傾向が見え、一般層と低所得層Iの差は、1歳児で約10ポイント、5歳児では約9ポイントありました（図1-1-3、および図1-1-4）。

雇用形態についても、経済状況による違いが見えました（図1-1-1・図1-1-2）。1歳児については、一般層では正規雇用が49.7%であり、「パート・アルバイト」が14.2%であるのに対して、低所得層Iでは、前者は13.5%であり、後者は33.7%と、低所得層では正規雇用の割合が低く「パート・アルバイト」の割合が高いことがわかりました。5歳児では、一般層では前者は39.8%であり、後者は23.8%であるのに対して、低所得層Iでは、前者は12.9%であり、後者は38.9%と1歳児と同様の傾向でした。

図1-1-1 【1歳児】お母さんの現在のお仕事の状況を教えてください。

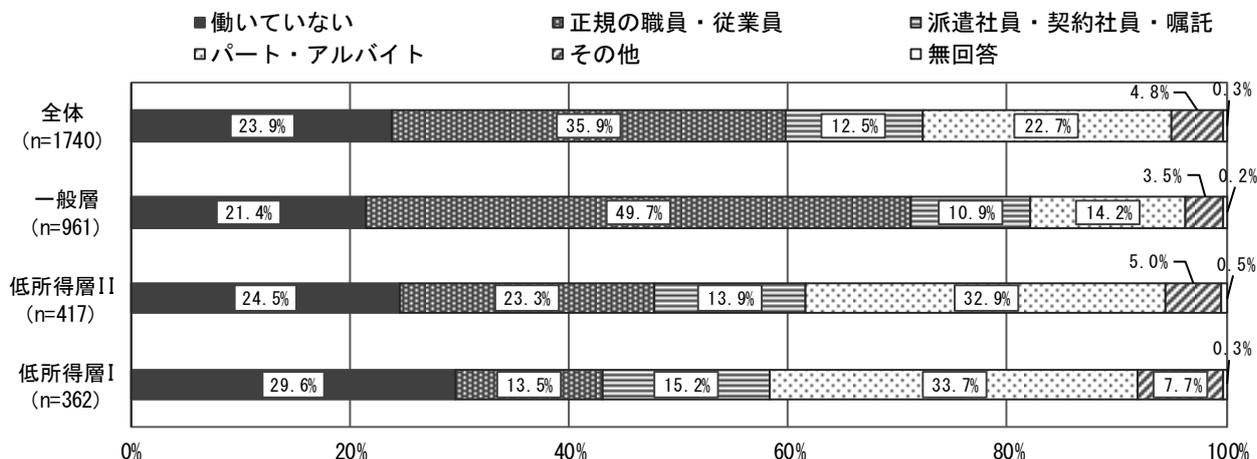
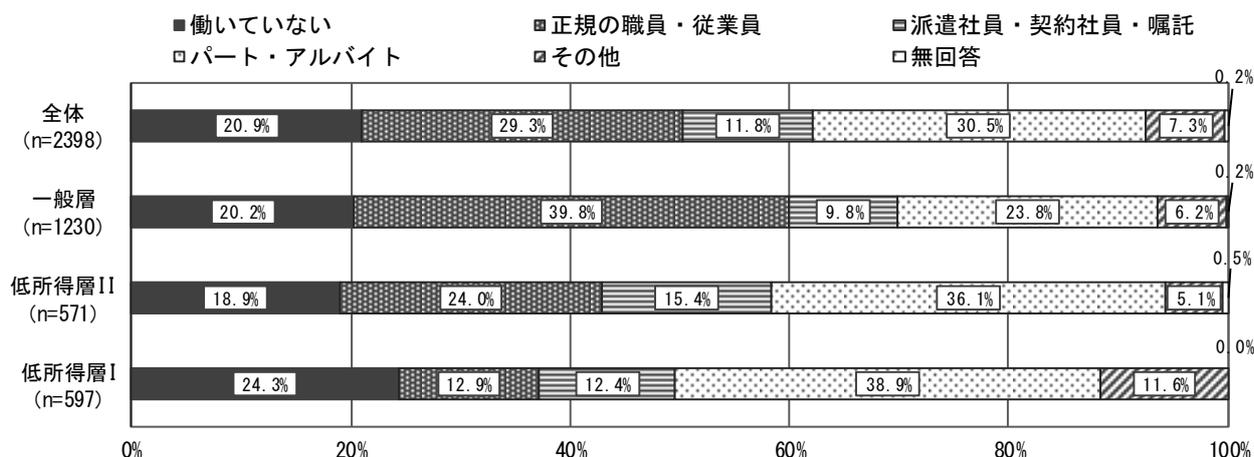


図1-1-2 【5歳児】お母さんの現在のお仕事の状況を教えてください。



[ふたり親世帯のみ]

図1-1-3 【1歳児】お母さんの現在のお仕事の状況を教えてください。(ふたり親世帯のみ)

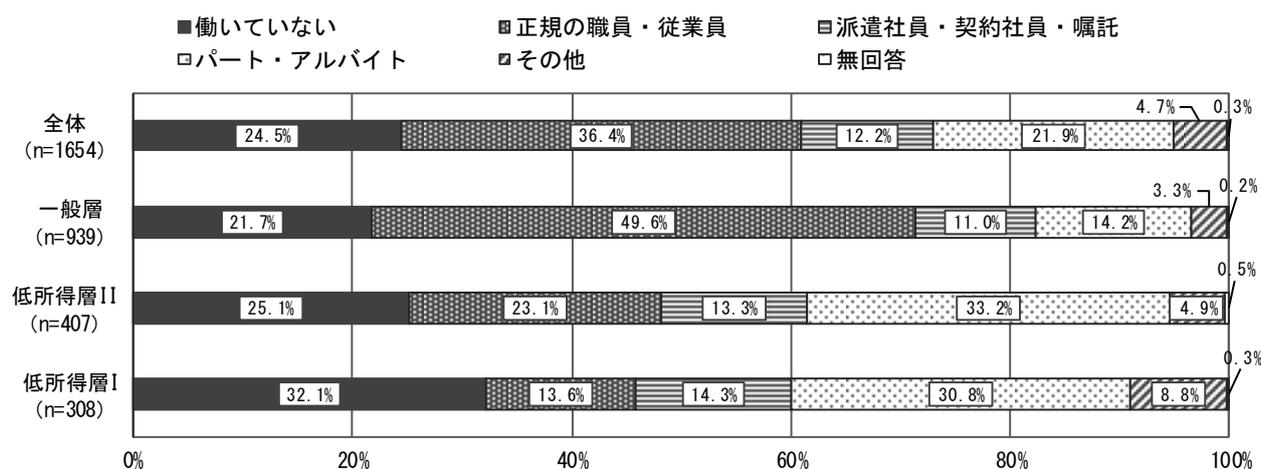
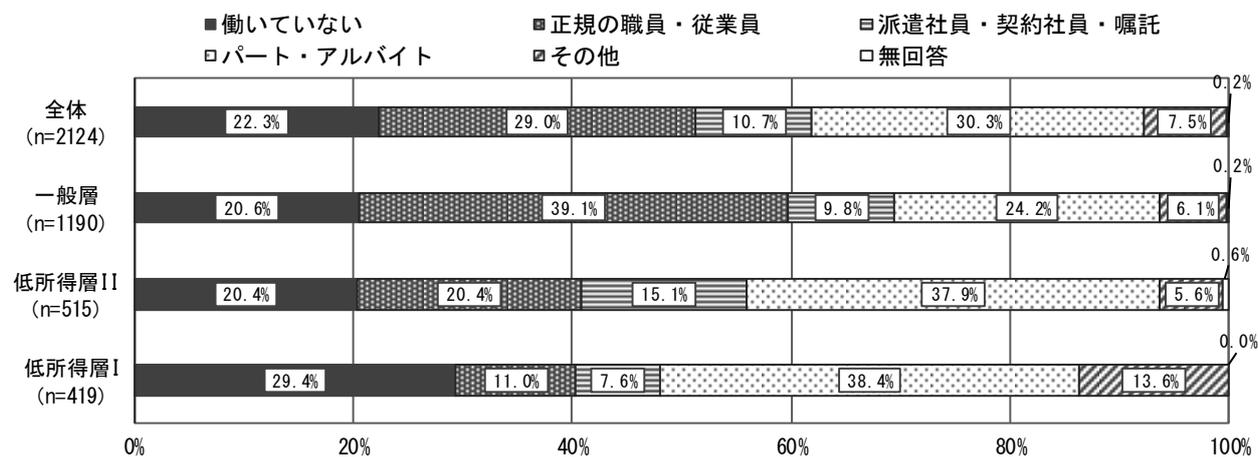


図1-1-4 【5歳児】お母さんの現在のお仕事の状況を教えてください。(ふたり親世帯のみ)



◆ 1-2 母親の週平均労働日数と労働時間

図1-2-1と図1-2-2は、働いている母親に1週間の平均的な労働日数を尋ねた結果です。全体で見ると、約7割の母親が週に5日間（つまり週休2日）働いており、3日以下や4日という短めの日数で働く人は少数であることがうかがえます。一方、就学前年齢の子どもにもかかわらず、週6日以上働く母親の割合が1歳児で13.3%、5歳児では15.9%いることもわかりました。

また、図からは、経済状況によってこうした点に違いが見えることもわかりました。週5日間働く割合は、1歳児も5歳児も一般層（70%台）に比べ低所得Ⅰ・Ⅱの層（60%台）では低く、1歳児では3日以下や4日という短めで働く割合が一般層（9.8%）に比べ低所得Ⅰ・Ⅱの層（13.8%・18.8%）では高いことがうかがえました（5歳児では短めで働く割合にはあまり差が見えませんでした）。週6日以上働く母親の割合は、1歳児、5歳児ともに一般層（11~12%）に比べ低所得Ⅰ・Ⅱの層（15%~21%）では若干高いことがうかがえ、特に低所得Ⅰ・Ⅱの層では1歳児（15%~17%）に比べ5歳児（19%~21%）で増加していることが見えますが、このことは母子世帯が5歳児のほうが高いことからくるものと推察されます。

図1-2-3と図1-2-4は、母親の1週間の平均労働時間を分析したものです。本調査では、働いている日の平均的な労働時間（残業時間を含む）を尋ねており、それと図1-2-1と図1-2-2で報告した平均的な労働日数をかけ合わせることで計算をしました。無回答は省略しています。

すると、全体では1歳児で週30時間という短めで働く母親が約2割、週40時間以上働く母親は約4割でした。5歳児では、前者が約3割、後者が約4割でした。

一方、経済状況による分析からは、図1-2-1・図1-2-2でみた傾向がより明確に見えることがわかりました。また、1歳児と5歳児で少し状況が異なっていることもわかりました。1歳児では、30時間未満で働く母親は、一般層では約15%ですが、低所得層Ⅰ・Ⅱでは約33~34%です。40時間以上働く母親は、一般層では約52%ですが、低所得層Ⅱでは約35%、低所得層Ⅰでは約31%でした。一般層に比べ、低所得層Ⅰ・Ⅱの母親のほうが、30時間未満という短めに働く人の割合が高く、週40時間以上というフルタイム労働をする方の割合が低い傾向が見えます。5歳児でも同様の傾向は見えるのですが、経済状況による違いがやや薄まる傾向が見えます。30時間未満で働く母親は、一般層では約26%ですが、低所得層Ⅰ・Ⅱでは約29~32%です。40時間以上働く母親は、一般層では約47%ですが、低所得層Ⅱでは約40%、低所得層Ⅰでは約37%でした。

[労働日数]

図1-2-1 【1歳児／母親】一週間の平均的な労働日数を教えてください。

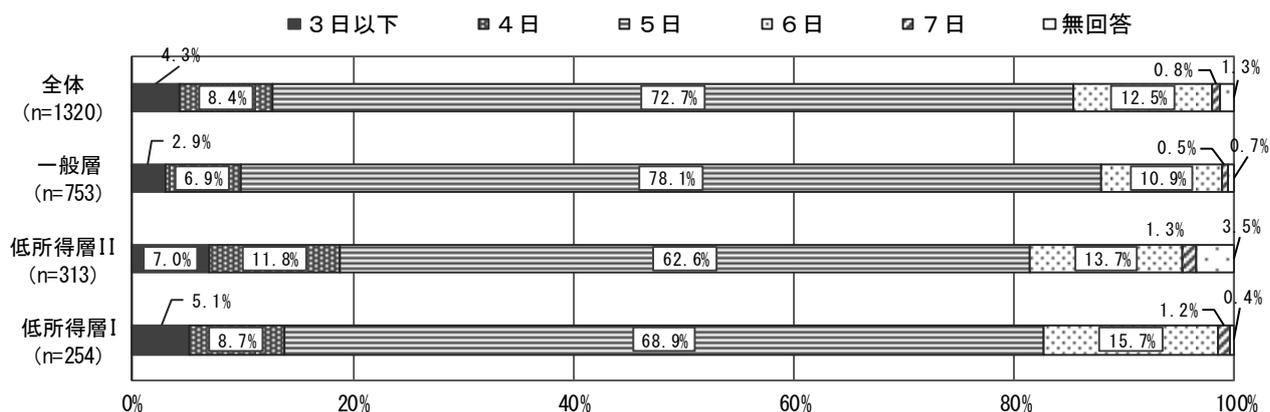
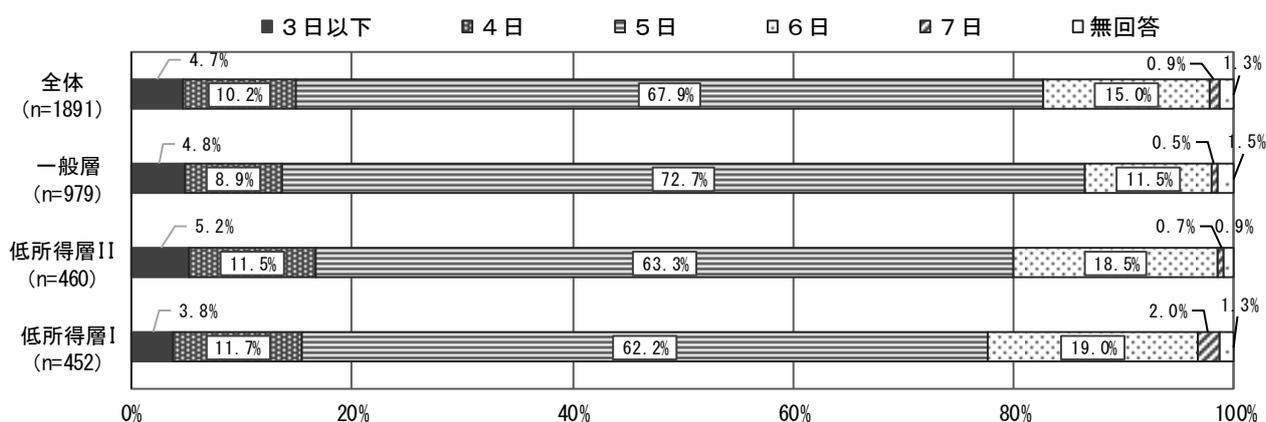


図 1-2-2 【5歳児／母親】一週間の平均的な労働日数を教えてください。



[労働時間]

図 1-2-3 【1歳児／母親】一週間の平均的な労働時間（残業時間を含む）

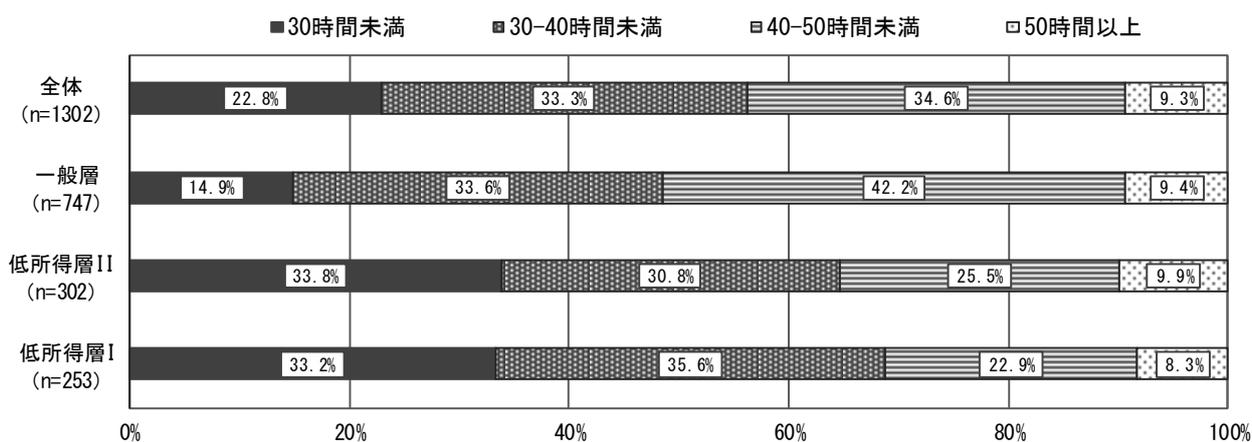
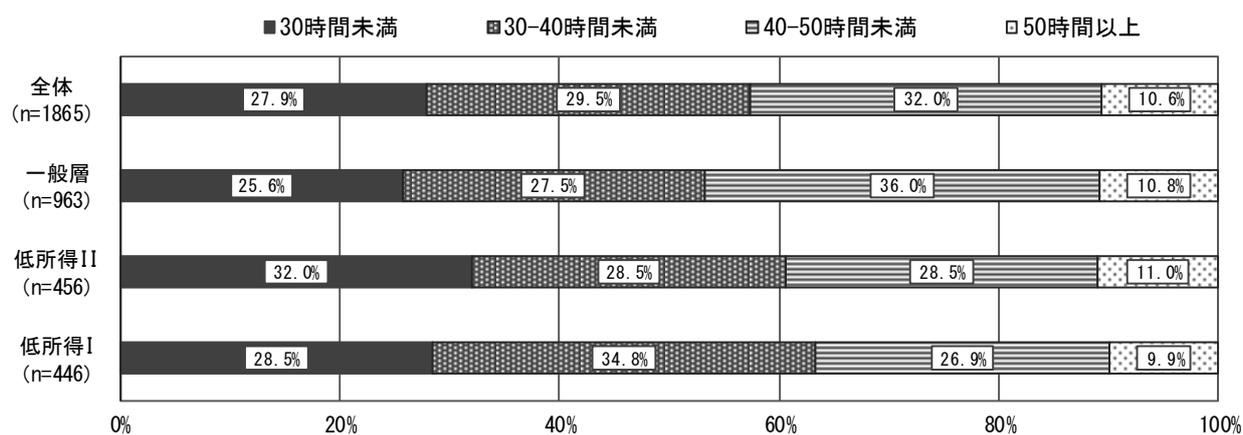


図 1-2-4 【5歳児／母親】一週間の平均的な労働時間（残業時間を含む）



◆ 1-3 母親の就労形態

図1-3-1と図1-3-2が1歳児及び5歳児の働いている母親の平日の日中以外の勤務形態（非典型労働）について尋ねたものです。全体からは就学前の年齢の子どもにもかかわらず、1歳児、5歳児を持つ母親ともに、「早朝勤務」や「夜間勤務」が1割程度、「深夜勤務」が6%程度、「土曜出勤」が5割程度、「日曜・祝日出勤」が3割程度見られることがわかります。

一方で、経済状況による違いは、大きいとは言えないようです。1歳児で「早朝勤務」や「夜間勤務」、「深夜勤務」が一般層で若干高いこと、5歳児で「土曜勤務」の割合が低所得層Ⅰ・Ⅱで若干高いこと、「あてはまる勤務がない」（非典型労働がない）割合が一般層で高い傾向が見られることを除くとあまり差は見られません。

[非典型労働]

図1-3-1 【1歳児／母親】お仕事には平日の日中以外の勤務もありますか。（複数回答）

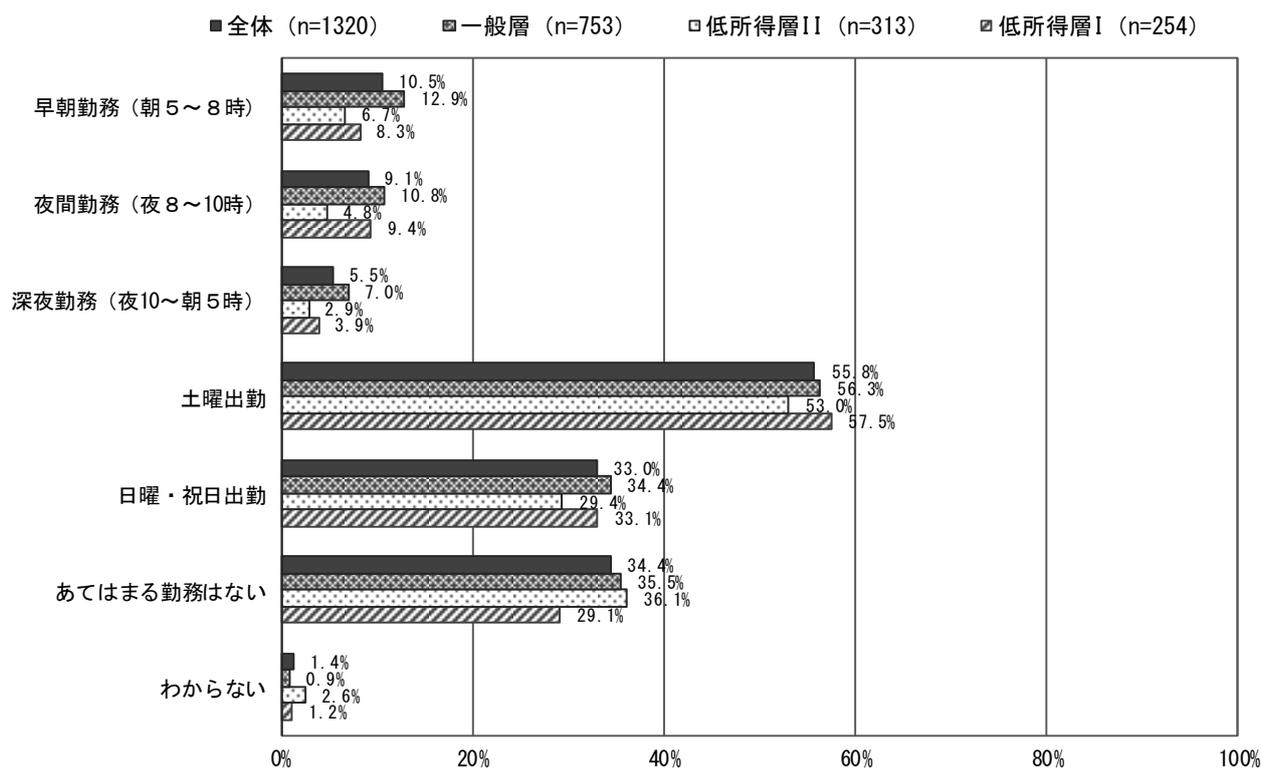
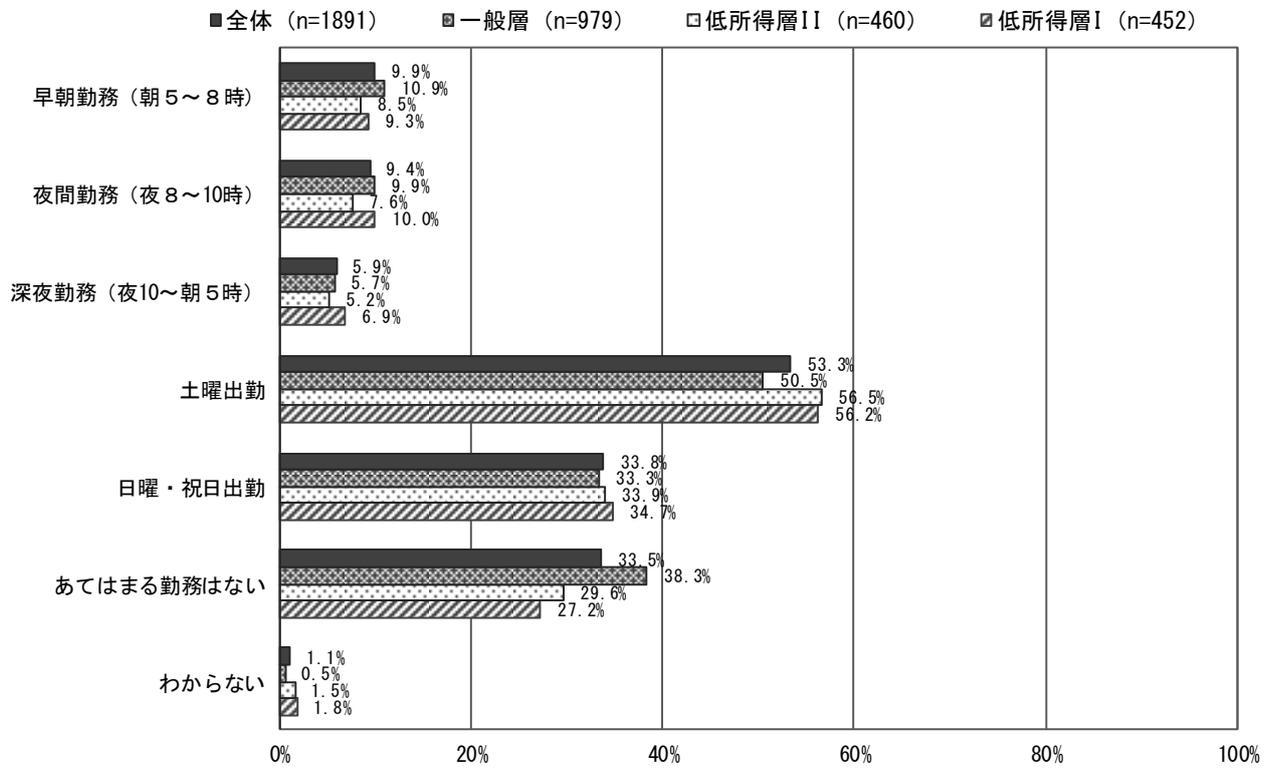


図 1-3-2 【5歳児／母親】お仕事には平日の日中以外の勤務もありますか。（複数回答）



◆ 1-4 母親の就労状況—働いていない理由

働いていない母親にその理由を尋ねた結果を図1-4-1と図1-4-2に示しています。全体で見ると、「子育てに専念したい」が一番に高い割合であり、「子どもの預け先がない」が2番目、「家事・育児が負担」、「条件にあう雇用先がない」が次に続いていることがわかります。特に、5歳児に比べ1歳児のほうが「子どもの預け先がない」ために働いていないと答える割合が10ポイント以上高く、低年齢児の保育の利用が困難な状況であることが考えられます。

また、経済状況による傾向も見え、「子育てに専念したい」や「家事・育児が負担」という理由は一般層で高く、「子どもの預け先がない」は低所得層Ⅰ・Ⅱで高い傾向が見て取れます。「子育てに専念したい」に注目すると一般層では約6割が該当しますが、低所得層Ⅰでは30%台に留まっています。また、「子どもの預け先がない」は、一般層では約2割（5歳児）から約3割（1歳児）ですが、低所得層Ⅰ・Ⅱでは、ともに約3割（5歳児）から約5割（1歳児）となっています。特に、1歳児の低所得層Ⅰ・Ⅱでは、働いていない理由の一番は「子育てに専念したい」ではなく、「子どもの預け先がない」ことであることに注目する必要があります。

さらに、全体から見ると割合は低いのですが、「健康上の理由で働けない」と答えている割合が低所得層Ⅰで高くなっている（特に5歳児）ことに留意すべきであり、健康の章においても再度親たちの働き方の問題に触れています。

なお、父親はほとんど働いているとの結果のため、父親の分析は行っておりません。

また、本質問項目は「都市と地方における子育て環境に関する調査（平成23年度 内閣府）」で用いられた質問項目を参考に作成しています。

図1-4-1 【1歳児／母親】働いていない理由を教えてください。（複数回答）

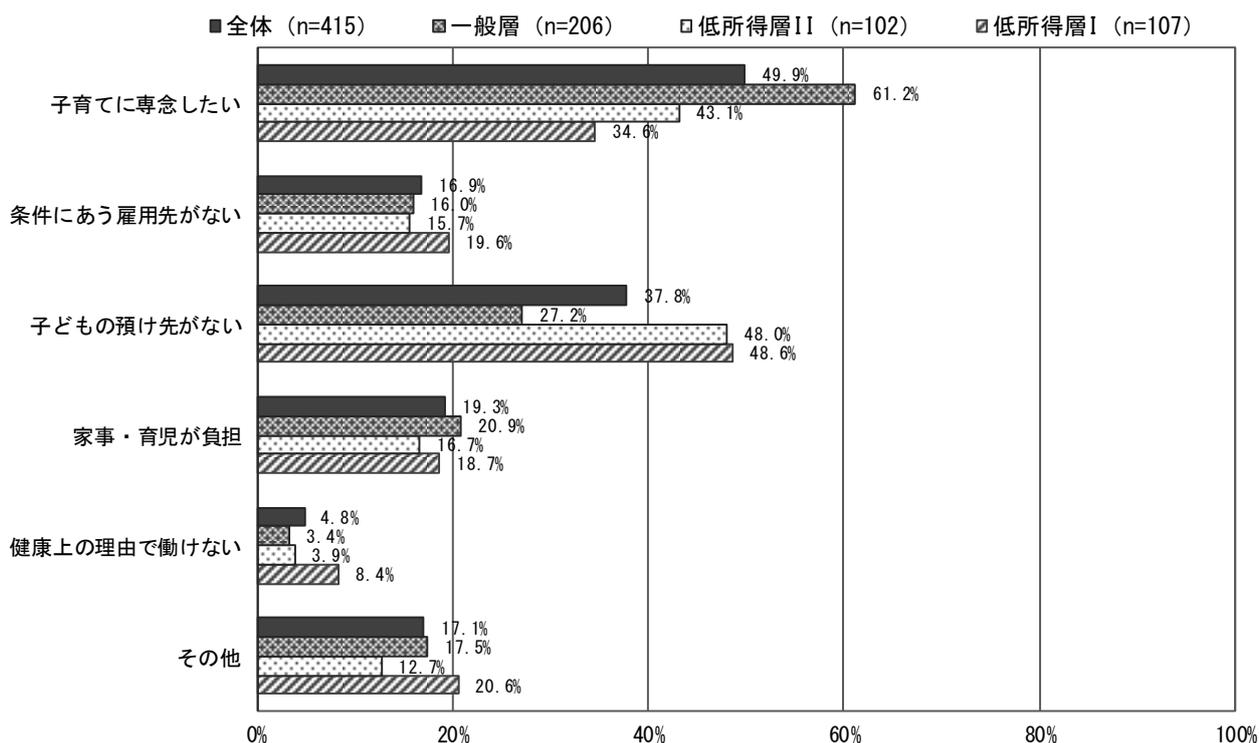
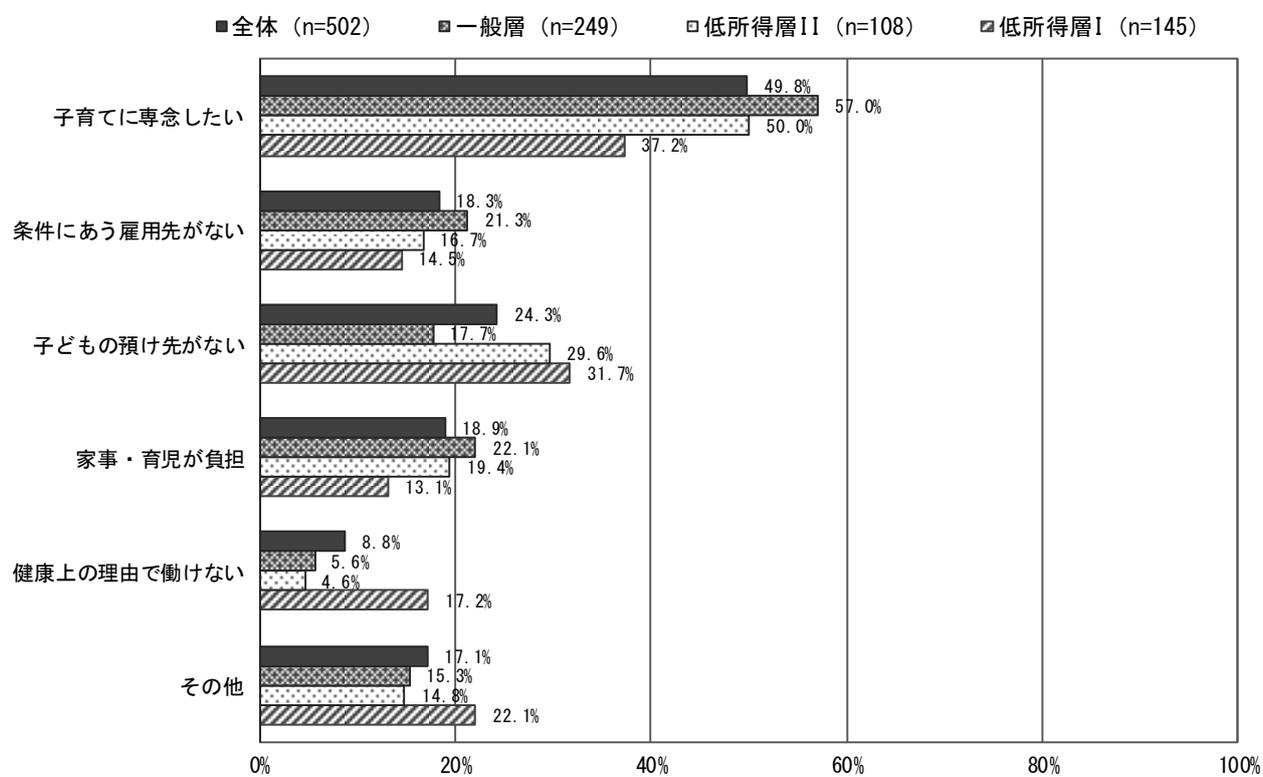


図 1-4-2 【5歳児／母親】働いていない理由を教えてください。（複数回答）



◆ 1-5 父親の就労状況

父親の就労状況を見たものが図1-5-1と図1-5-2です。全体で見ると「働いていない」父親は1歳児、5歳児ともにごくわずかに過ぎず、ほとんどの父親が就労していることがわかります。

また、どのような雇用形態で働いているかを1歳児と5歳児で全体を比較して見る（図1-5-1・図1-5-2）と、「正規の職員・従業員」（正規雇用）の割合が1歳児（76.4%）のほうが5歳児（74.0%）より若干高く、「派遣社員・契約社員・嘱託／パート・アルバイト」（非正規雇用）の割合も、1歳児（8.8%）、5歳児（7.2%）と同様な状況がうかがえました。

一方、雇用形態には、経済状況によって違いがあることもわかりました（図1-5-1・図1-5-2）。正規雇用の割合が、1歳児、5歳児とも、一般層が80%台なのに対して、低所得層Ⅱでは70%台、低所得層Ⅰでは50%台、と低くなっていました。また、非正規雇用の割合は一般層では4～5%でしたが、低所得層Ⅱでは9～12%、低所得層Ⅰでは15～18%と、高くなっていました。自営業も、非正規雇用と同じパターンで、一般層では6～9%なのに対して、低所得層Ⅱでは9～14%、低所得層Ⅰでは22～25%と高くなっていました。

図1-5-1 【1歳児】お父さんの現在のお仕事の状況を教えてください。

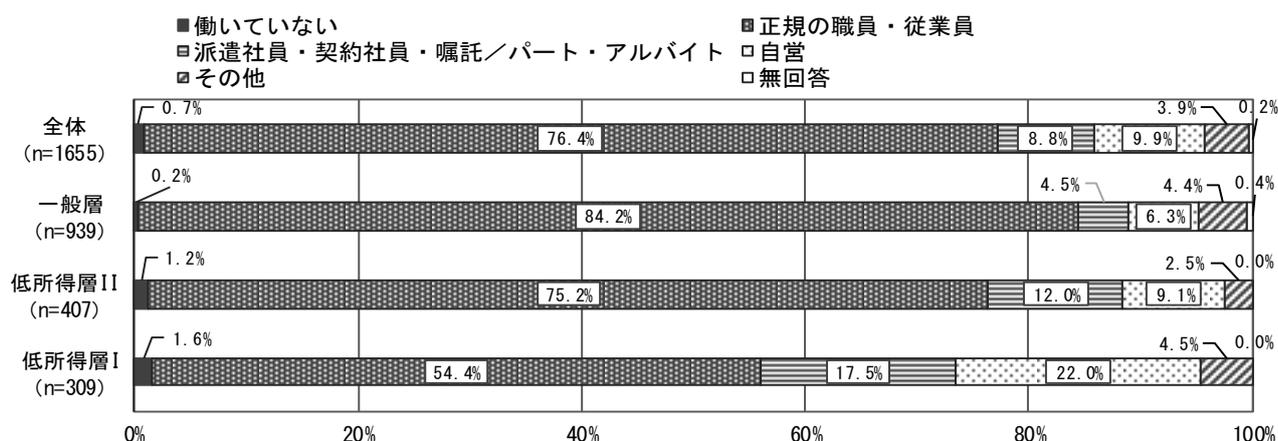
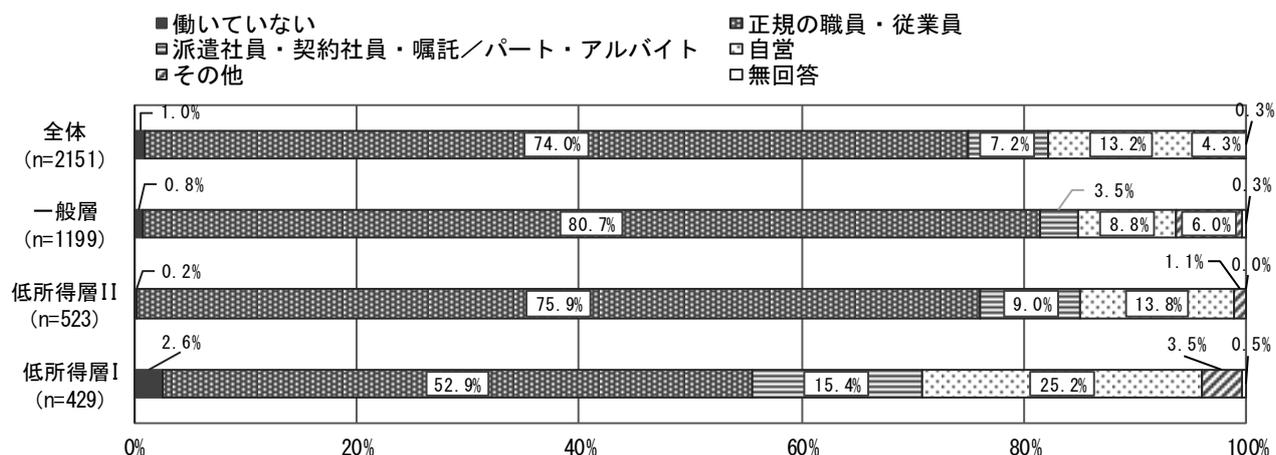


図1-5-2 【5歳児】お父さんの現在のお仕事の状況を教えてください。



◆ 1 - 6 父親の週平均労働日数と労働時間

図1-6-1と図1-6-2は、働いている父親に1週間の平均的な労働日数を尋ねた結果です。全体で見ると、4日以下という短めの日数で働く人はごく少数で、ほとんどの人が5日以上働いていることがうかがえました。また、就学前年齢の子どもにもかわらず、週6日以上働く父親の割合が1歳児で40.2%、5歳児では47.0%もいることもわかりました。

また、図からは、経済状況によって1週間の平均労働日数には違いが見えることもわかりました。一般層では、週5日間（つまり週休2日）働く割合は1歳児も5歳児も60%台ですが、低所得層Ⅰ・Ⅱではその割合は低く、特に低所得層Ⅰでは、1歳児では30%台、5歳児では20%台になっています。一方で、週6日以上働く父親の割合は、1歳児、5歳児ともに一般層に比べ低所得層Ⅰ・Ⅱでは顕著に高いことがうかがえます。1歳児では、一般層では約31%ですが、低所得層Ⅱでは約48%、低所得層Ⅰでは約59%になっています。5歳児では、一般層では約35%ですが、低所得層Ⅱでは約55%、低所得層Ⅰでは約70%になっています。1歳児に比べ5歳児で差が顕著になっていることもうかがえます。

図1-6-3と図1-6-4は、父親の1週間の平均労働時間を分析したものです。1-2で記したように、本調査では働いている日の平均的労働時間（残業時間を含む）を尋ねており、それと平均的な労働日数をかけ合わせることで計算をしました（無回答は省略）。

全体では、週50時間以上と長時間働く父親が1歳児で約51%、5歳児で約57%と半数を超えていること、さらに週60時間以上という極端な長時間働く父親が1歳児で約23%、5歳児では約24%と4分の1近くに及ぶことがわかりました。また、1歳児に比べ5歳児の方が、週40時間未満で働く父親の方の割合がやや低く（1歳児約12%、5歳児約9%）、週50時間以上働く父親の割合はやや高い（1歳児約51%、5歳児約57%）こともうかがえました。

経済状況による違いでは、母親の場合と対照的な結果が見えました。まず、40時間未満という短め働く父親の割合は、1歳児で低所得層Ⅰの割合が少し高いこと、5歳児で低所得層Ⅱの割合が少し低いことを除けば大きな違いはないと言えるでしょう。一方で、50時間以上という長時間働く割合に注目すると、1歳児では一般層では約45%ですが、低所得層Ⅱでは約58%、低所得層Ⅰでは約59%、5歳児では一般層では約53%ですが、低所得層Ⅱでは約59%、低所得層Ⅰでは約65%と、経済状況による違いが見えました。さらに、週60時間以上という極端な長時間、労働に従事する父親の割合では、1歳児では一般層（21%）に比べ、低所得層Ⅱでは約24%、低所得層Ⅰでは約25%と大きな違いはないと言えますが、5歳児では一般層・所得層Ⅱでは約23%なのに対して、低所得層Ⅰでは約29%と差が少し大きくなっていました。5歳児の低所得層Ⅰでは週60時間以上という極端な長時間、労働に従事する父親は約3割に及んでいます。

[労働日数]

図 1-6-1 【1歳児／父親】一週間の平均的な労働日数を教えてください。

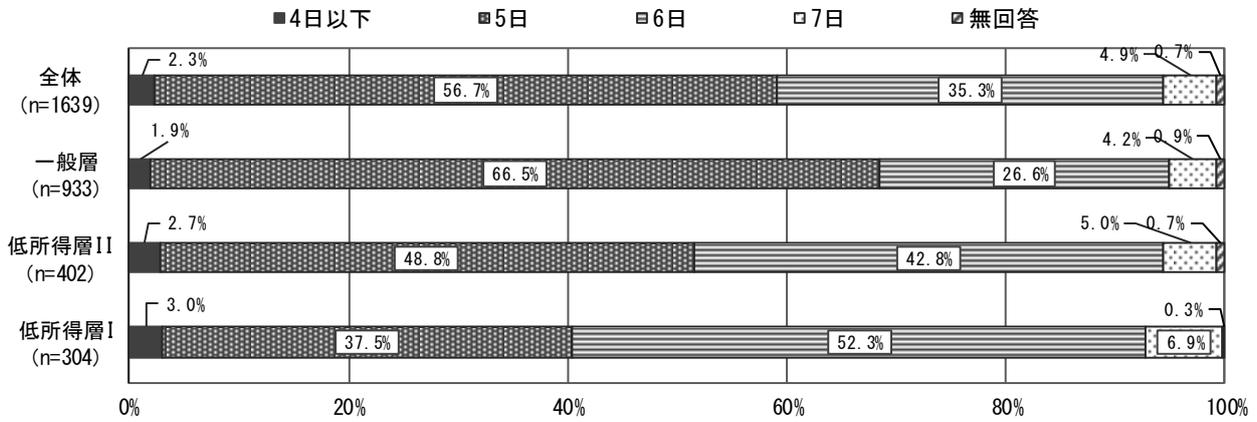
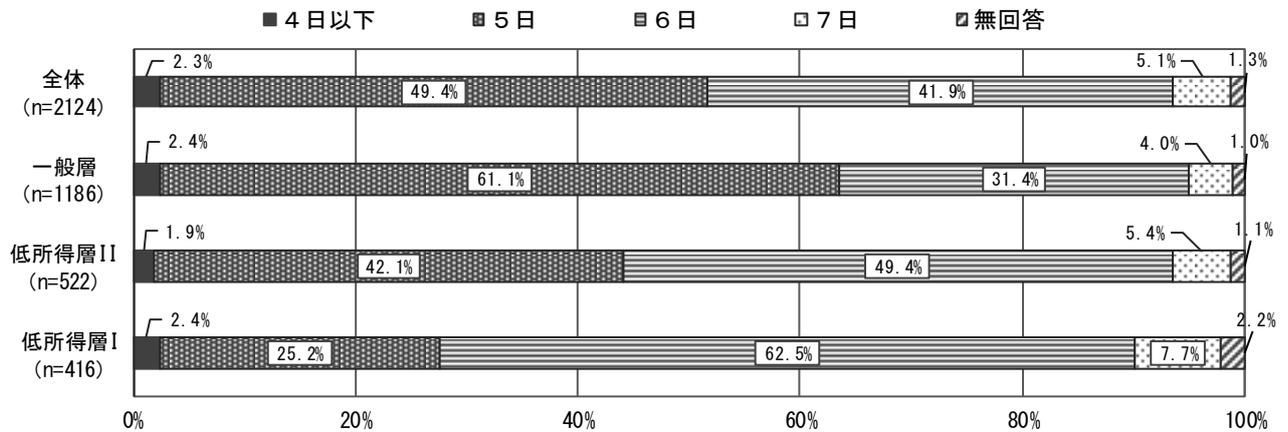


図 1-6-2 【5歳児／父親】一週間の平均的な労働日数を教えてください。



[労働時間]

図 1-6-3 【1歳児／父親】一週間の平均的な労働時間（残業時間を含む）

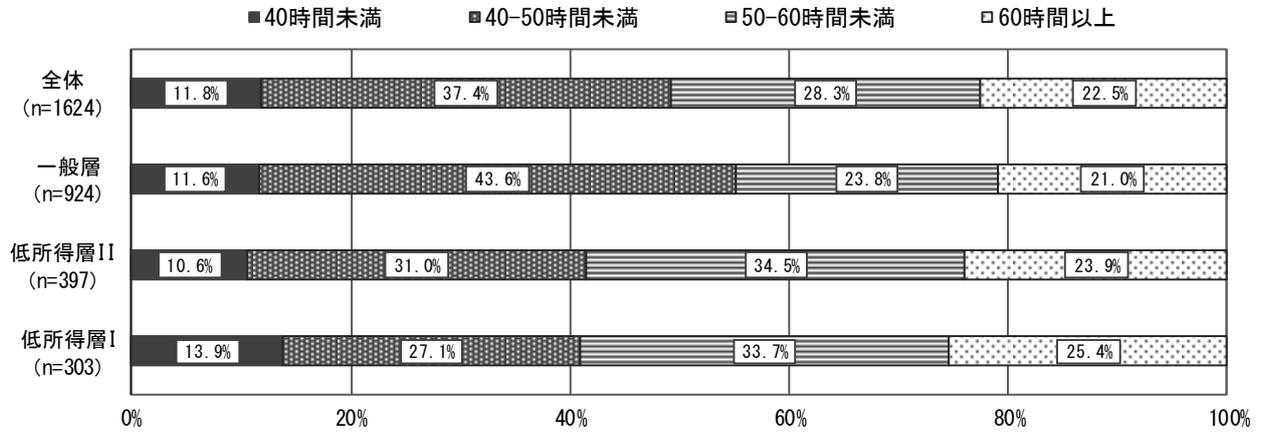
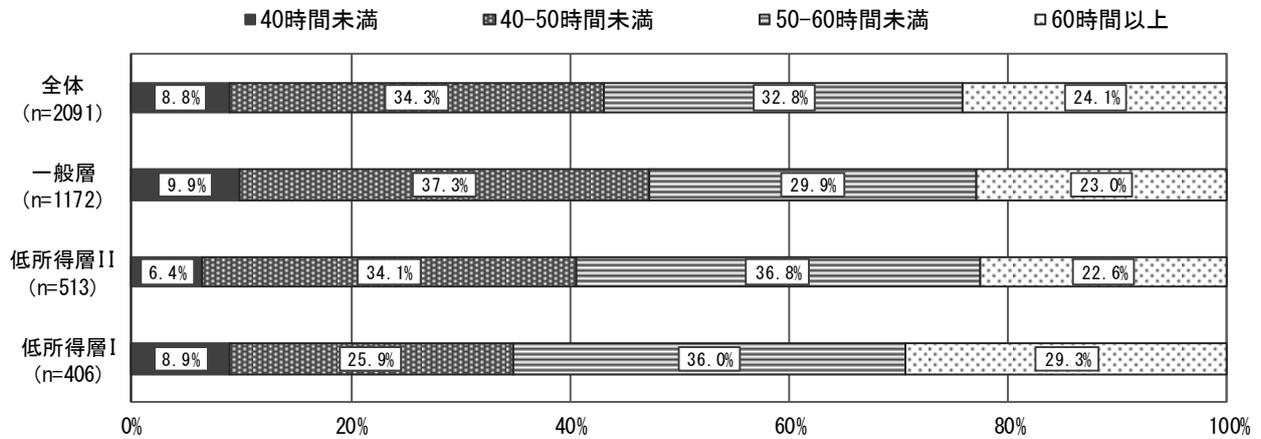


図 1-6-4 【5歳児／父親】一週間の平均的な労働時間（残業時間を含む）



◆ 1-7 父親の就労形態

図1-7-1と図1-7-2が1歳児及び5歳児の働いている父親の平日の日中以外の勤務形態（非典型労働）について尋ねたものです。全体からは就学前の年齢の子どもにもかかわらず、1歳児、5歳児を持つ父親ともに、「早朝勤務」や「夜間勤務」が約30%、「深夜勤務」が20%台、「土曜出勤」が70%台、「日曜・祝日出勤」が約60%見られることがわかります。

一方で、経済状況による違いは、1歳児と5歳児でやや異なる傾向が見えます。1歳児では、「土曜出勤」や「日曜・休日出勤」で差が見られ、一般層に比べ低所得層で高く、一般層と低所得層Iでは「土曜出勤」で約11ポイントの差が見られます。「あてはまる勤務がない」（非典型労働がない）割合も低所得層のほうが低いことが見えます。一方、5歳児では「土曜出勤」や「日曜・休日出勤」で差は見えず、「夜間勤務」・「深夜勤務」では一般層のほうが高いことが見られます。「あてはまる勤務がない」（非典型労働がない）割合は低所得層のほうが低いですが、1歳児に比べ差が小さくなっています。

[非典型労働]

図1-7-1 【1歳児／父親】お仕事には平日の日中以外の勤務もありますか。（複数回答）

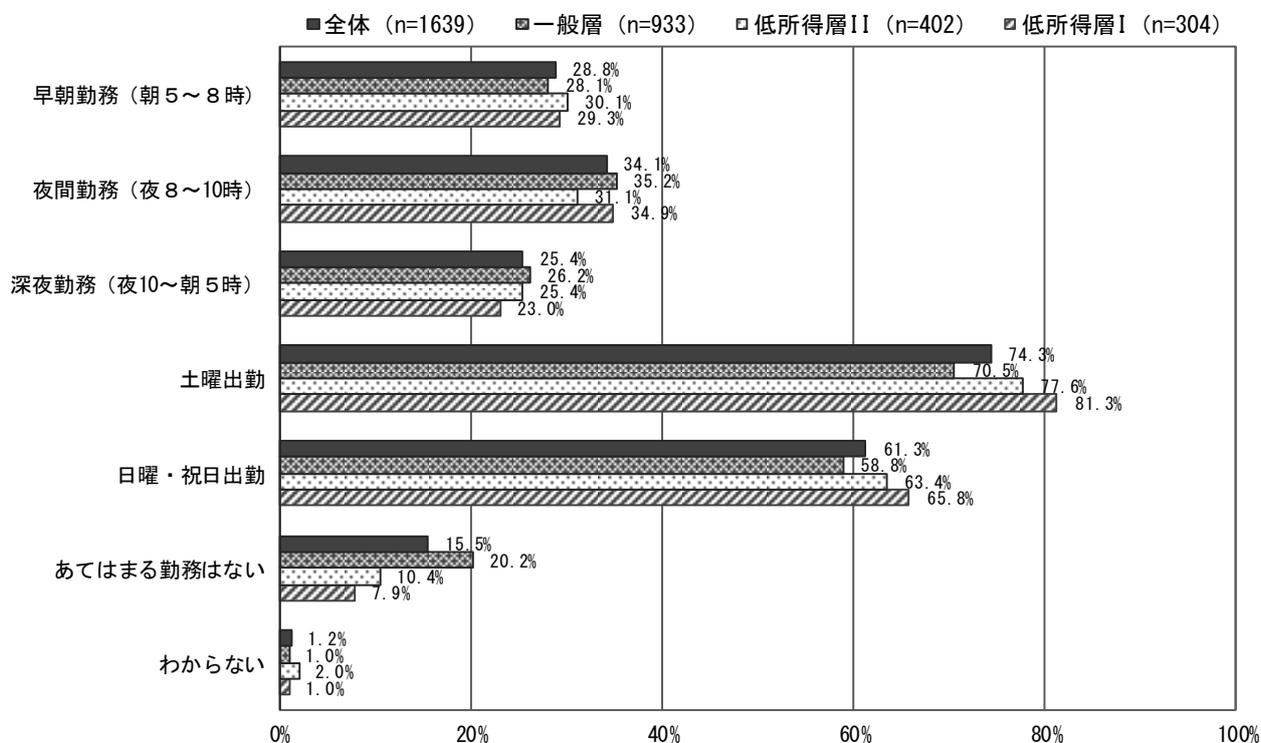
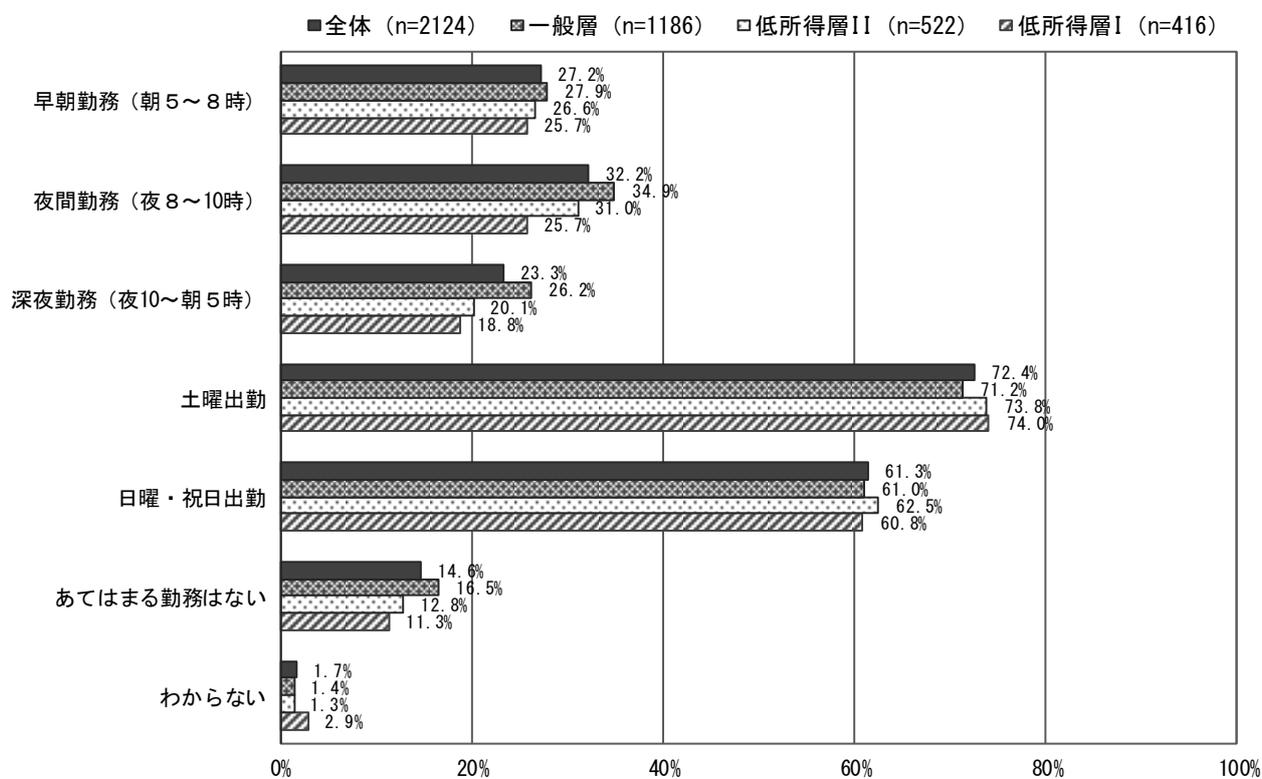


図 1-7-2 【5歳児／父親】お仕事には平日の日中以外の勤務もありますか。（複数回答）



考 察

第1章全体から見えることとして、子どもが乳幼児期の頃から共働きの割合が高く、特に父親が長時間働いていることが明らかになりました。また、これらの背景には、雇用形態の問題があることが考えられます。

まず、父親については、日本の場合ほとんど労働に従事していますが、母親については、まだ専業主婦（つまり働いていない）の方も少なからずいること、子どもの年齢ごとでその割合が異なることが指摘されています。全国のデータとして「平成28年国民生活基礎調査 1世帯票 第1巻 第083表 児童のいる世帯数、末子の母の年齢（5歳階級）・末子の母の仕事の有無・末子の年齢階級別」によれば、末子が1歳で働いている母親の割合は、約50%、2歳では約54%、5歳では約64%、6歳では約67%でした。

本調査では、末子のみを対象としているわけではないので単純に比較はできませんが、1歳児（実際の年齢は1歳または2歳）では働く母親の割合は約76%、5歳児（実際の年齢は5歳または6歳）では約79%でした。全国と比べても、母親が働いている、つまり共働きである割合が非常に高く、特に、1歳児という低年齢の場合が大きく全国と異なっていました。

さらに、父親の場合、週50時間以上と長時間働く父親が1歳児、5歳児ともに半数を超えていること、さらに週60時間以上という極端な長時間働く父親が1歳児、5歳児ともに4分の1近くに及ぶなど、長時間労働に従事している状況が見受けられました。

雇用形態については、特に父親に注目すると、正規雇用の割合が70%台に留まり、非正規雇用の割合が約7～9%となっていました。同様の質問項目があり近似の年齢（2歳と5歳）の子どものいる世帯を対象とした札幌市調査では、前者は80%台、後者は3～4%でした。

経済状況による違いについて見てみると、母親については、特にふたり親世帯に注目すると、働いていない割合は一般層に比べ低所得層Ⅰでは、1歳児・5歳児ともに約10ポイント程度低いことがうかがえました。また、こうした経済状況による違いをもたらしているのが、低所得層Ⅰ・Ⅱ世帯で保育へのアクセスが限られている可能性も見えてきました。特に、母親の就労は保育の利用可能性と関連があり、さらに共働きをすることで低所得状況を改善できる可能性ともつながるため、今後さらに分析を深めていく必要があります。

父親については、長時間労働が一般層に比べ低所得層Ⅰ・Ⅱでその割合が高く、週50時間以上働く父親の割合は、一般層と低所得層Ⅰで1歳児・5歳児ともに10ポイント以上高く、低所得層Ⅱでも6～13ポイントの差がありました。

雇用形態も（母親・父親ともに）、雇用状況について正規雇用で働く割合は一般層に比べ低所得層Ⅰ・Ⅱで低く、非正規雇用で働く割合は高くなっており、例えば、父親を例にとると、正規雇用の割合は、1歳児、5歳児ともに一般層が80%台なのに対して、低所得層Ⅰでは50%台であり、非正規雇用の割合は、一般層では一桁でしたが、低所得層Ⅰでは10%台の後半と高くなっていました。

母親や父親の働き方は、長時間労働によって保護者が身体を壊してしまうリスクを高めるという点も考えなければなりません。今回の調査対象となった就学前の子どもの場合、特に子どもと保護者が一緒に過ごす時間を減らすことで、子どもの発達面へのマイナスのリスクを高めるという面も考慮する必要があります。

また、就学前の年齢の子どもにも関わらず、いわゆる非典型労働に従事する母親や父親が少なからずいることにも注目する必要があります。1歳児、5歳児ともに、母親では早朝勤務や夜間勤務が1割程度、深夜勤務が6%程度、父親では、早朝勤務や夜間勤務が約30%、深夜勤務が20%台となっており、全国で比較できるデータの存在はありませんが、同様の質問項目があり近似の年齢の子どものいる世帯を対象とした札幌市調査の結果と同じような数値が見えました。

現在、長時間労働の解消は政策的なテーマとなっていますが、今回の分析において保護者の働き方や、経済状況との関連性が明らかとなったことから、働き方や雇用環境の改善に向けて取組を推進する必要があると考えます。

第 2 章

妊 娠・出 産 期 の 状 況

第2章 妊娠・出産期の状況

◆2-1 出産・妊娠時の状況

経済状況によって、母親の早産、低体重、多胎妊娠・出産にどれだけの差が出るかをみたものです。1歳児（図2-1-1）では、一般層と低所得層Iを比較すると早産は4.9%と7.7%で1.57倍、低体重は9.4%と13.5%で1.44倍と出現率に大きな違いが出ています。一方、5歳児（図2-1-2）についての同様の分析では、早産は5.5%と5.3%で0.96倍、低体重は11.2%と10.4%で0.93倍とほとんど差がなくなっています。

また、妊婦健診受診率（図2-1-3）では、未受診者について、1歳児と5歳児を合わせた結果、人数としては少数ですが低所得層I（0.7%）が一般層（0.1%）の7倍、不規則な受診者については、低所得層I（3.0%）が一般層（0.7%）の約4倍であり、所得の低下による不規則な受診や未受診の増加がみられます。

図2-1-1 【1歳児】お子さんを出産するとき、次のようなことがありましたか。
(複数回答)

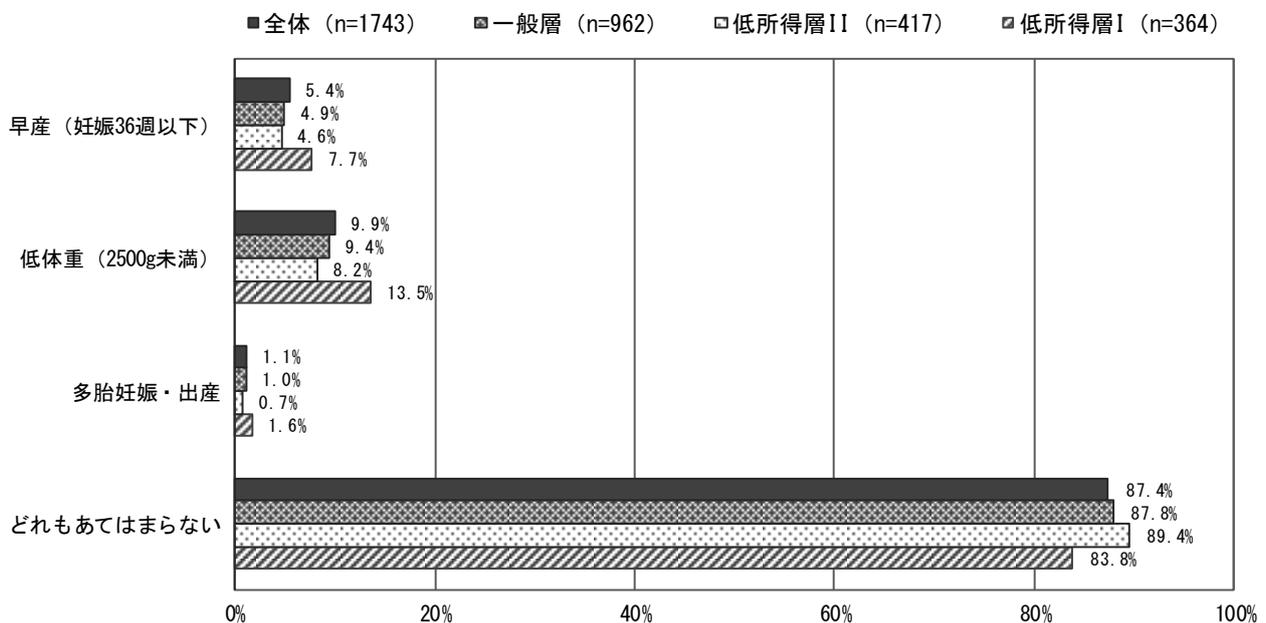


図2-1-2 【5歳児】お子さんを出産するとき、次のようなことがありましたか。
(複数回答)

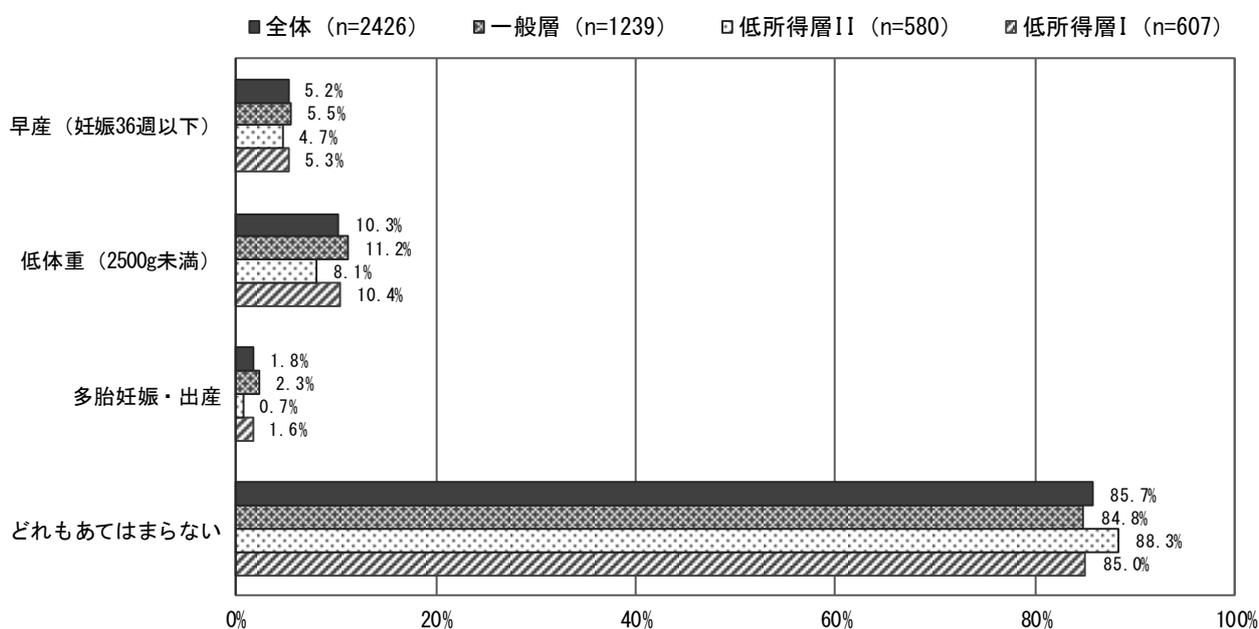
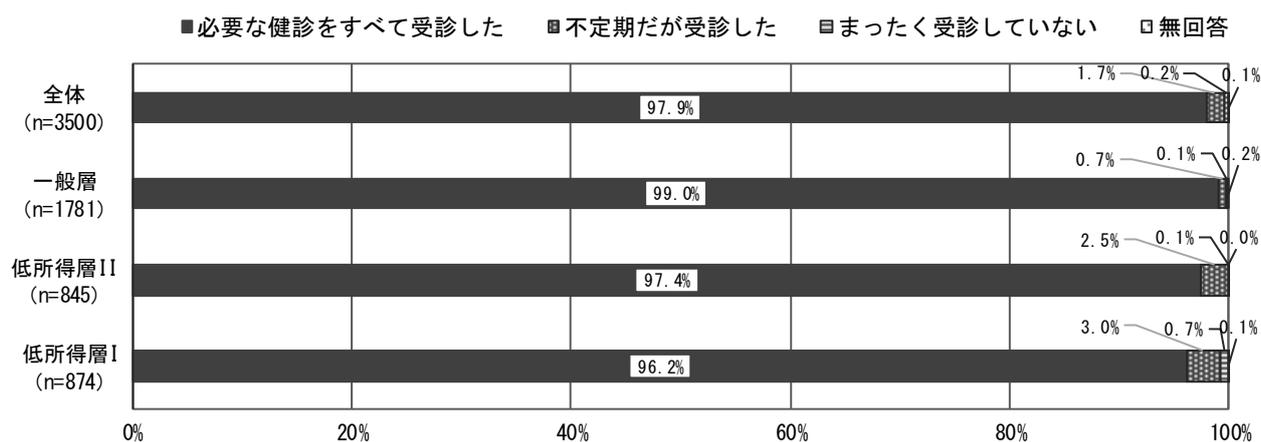


図2-1-3 【1・5歳児】妊娠期間中の妊婦健診は受診していましたか。



◆2-2 妊娠期間中の相談相手

妊娠期の相談相手について母親に尋ねたところ、1歳児（図2-2-1）では実父母（子どもから見た祖父母）との回答が75%以上で、義父母が25%前後ですが、夫となると一般層が71.7%に対して低所得層Ⅰが56%と経済状況で差が見られます。5歳児（図2-2-2）においては、一般層、低所得層Ⅱ、低所得層Ⅰの順で相談相手が減る傾向で、実父母（76.9%、75.4%、70.3%）、義父母（24.0%、20.7%、17.8%）、夫（70.1%、60.0%、45.5%）と、所得の低い層では、一般層と比べ、夫の関わりがとて低くなるのがわかります。

図2-2-1 【1歳児】 お子さんを妊娠している間、妊娠や出産・今後の育児などに関する悩みや心配なことをお母さんが相談できる方はいましたか。（複数回答）

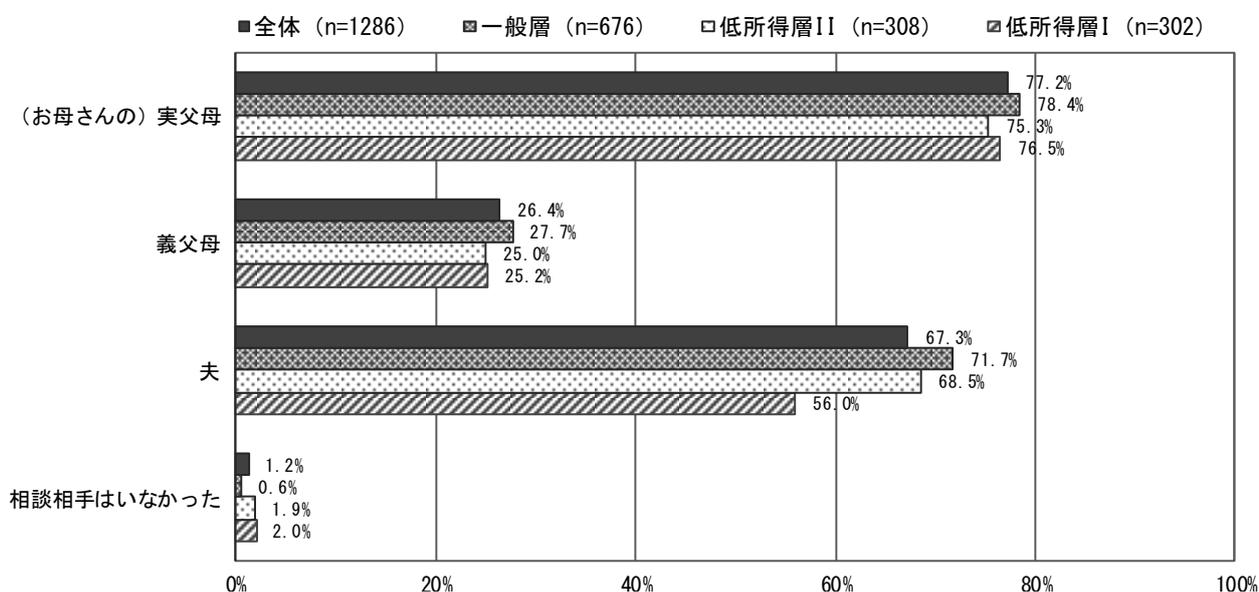
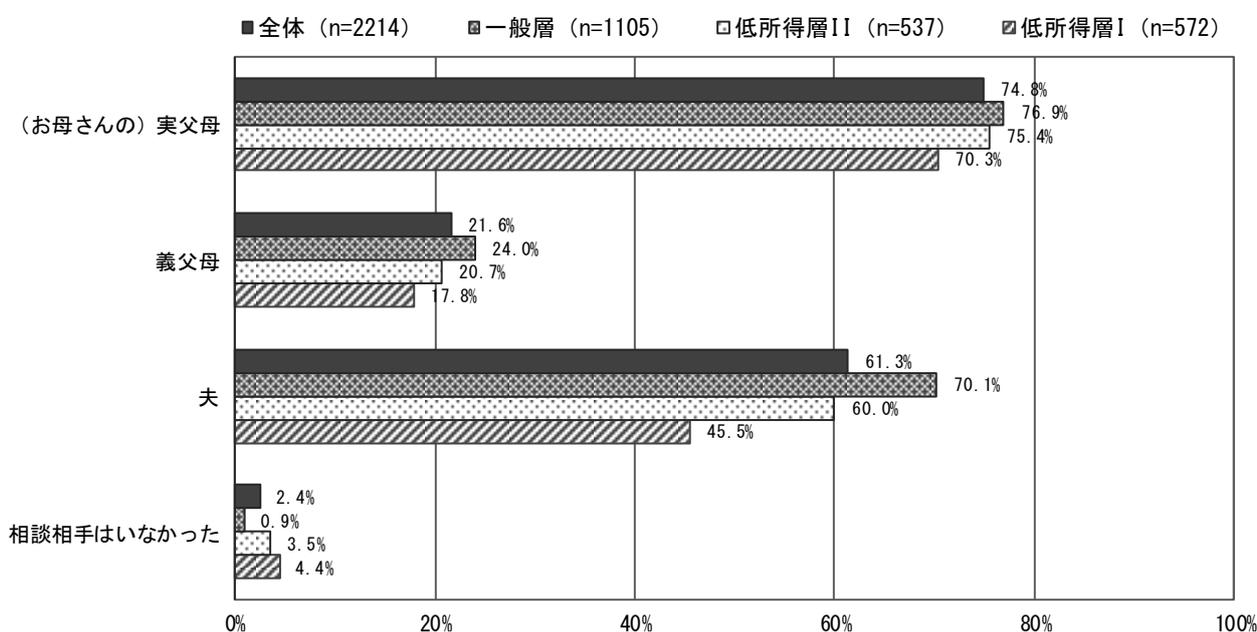


図2-2-2 【5歳児】 お子さんを妊娠している間、妊娠や出産・今後の育児などに関する悩みや心配なことをお母さんが相談できる方はいましたか。（複数回答）



◆2-3 産後の手伝い

母親に対する産後に家事や子育ての手伝いが得られたかという質問について、低所得層では、妊娠期と比べ、1歳児（図2-3-1）では実父母の関わりが低下し、義父母や夫の協力度合いがやや高くなっています。5歳児（図2-3-2）では、全体的に協力度合いが下がりますが、経済状況による差が大きくなり、一般層と低所得層Iを比較すると、実父母で14ポイント、義父母で5.2ポイント、夫では14.1ポイントの低下が見られました。「手伝いはなかった」とする低所得層Iが1歳児8.3%、5歳児13.8%と高くなっています。

図2-3-1 【1歳児】産後、家事炊事や子育てなどの手伝いをしてくれた方はいましたか。
(複数回答)

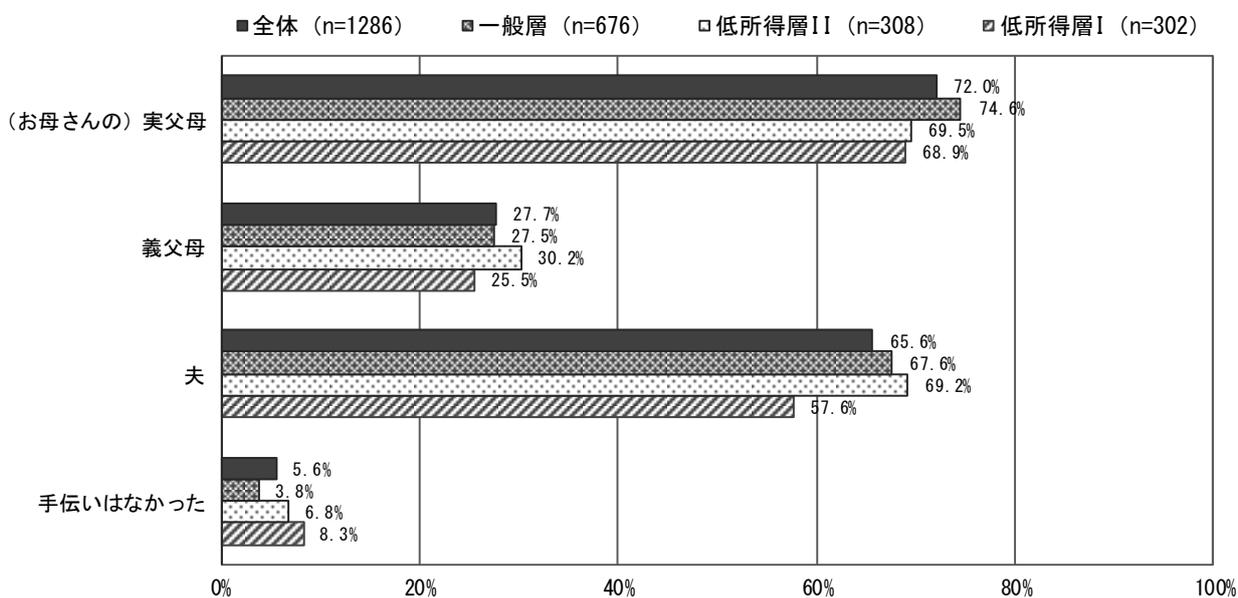
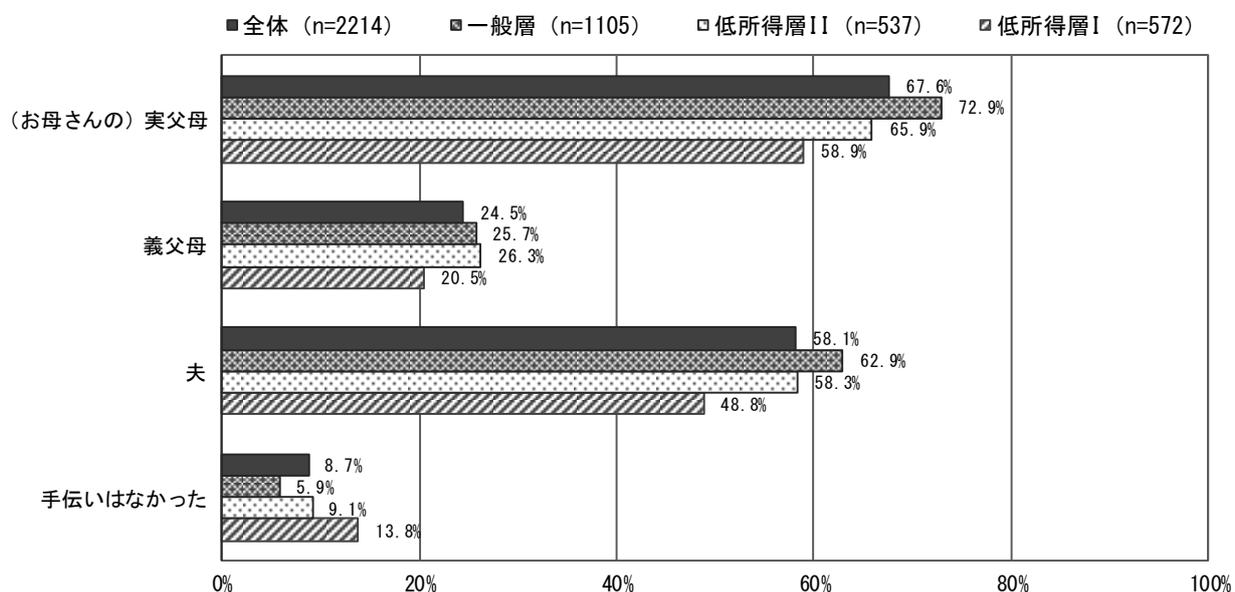


図2-3-2 【5歳児】産後、家事炊事や子育てなどの手伝いをしてくれた方はいましたか。
(複数回答)



考 察

1歳児では、一般層と低所得層Ⅰを比較すると早産で1.57倍、低体重は1.44倍と出現率に大きな違いが出ており、これは県が公表している数値（10.9%）※と比較しても大変高く、低所得層Ⅰの妊娠及び出産時のリスクが大きいという結果となりました。

5歳児についても、1歳児と同様に一般層と比較すると、早産は0.96倍、低体重は0.93倍と経済状況とはあまり関係なく出現しています。そのことについては、時間の経過とともに経済状況が変わったなどが考えられます。

妊娠期の育児などの悩みを相談する相手について、1歳児の場合、低所得層Ⅰで夫が相談相手となっている割合が低くなりますが、これはひとり親世帯が多く含まれると考えられます。5歳児では、この傾向がよりはっきりして、夫が相談相手となっているのは、一般層約70%に対して低所得層Ⅰで約45%と大きな差が生じます。出産後、時間とともに母子家庭が増え、所得が低いほど夫の相談が得られない状況となることが考えられます。

産後の手伝いでは、妊娠期と同様、低所得層Ⅰでは、1歳児、5歳児とも、一般層と比べ、夫の協力度合いが低く、逆に相談相手がいなかった割合が高くなっていました。

これらのことから、低所得層では悩みを打ち明ける相手は少なく、また、産後に家事や子育ての手伝いが得にくいことがうかがえ、低所得層には、こういった状況に対応できる保育環境の整備のほか、妊娠期から継続して相談に乗ってくれる専門家などの必要性がより高いことが考えられます。

※沖縄県保健医療部健康長寿課「低体重児出生の要因分析と保健指導」報告書、2017年3月

第 3 章

保育所・幼稚園の利用状況

第3章 保育所・幼稚園の利用状況

◆3-1 施設の利用状況

お子さんがどの施設を利用しているかを調べたのが図3-1-1と図3-1-2です。1歳児の場合は、全体で76.6%が何らかの保育施設を利用しており、「どこにも通っていない」人は23.3%でした。種別では、半分以上が「認可保育所」を利用していましたが、「認可外保育施設」を利用する場合も18.5%ありました。経済状況別にみると、一般層、低所得層Ⅱ、低所得層Ⅰの順に「どこにも通っていない」人の割合が多くなります。お子さんが5歳児の場合では、「幼稚園（預り保育あり）」を利用する割合が40.1%と最も高く、ついで「認可保育所」（25.4%）、「幼稚園（預り保育なし）」（21.8%）となっています。低所得層が幼稚園に通う割合は一般層とそれほど違いがありませんが、低所得層による「認可保育所」の利用は一般層のそれよりも比較的割合が高くなっています。なお、図3-1-2の「どこにも通っていない」はゼロだったため、図より数値表記を省略しています。図3-1-3は5歳児の保護者に昨年度の利用先を尋ねた結果です。4歳児の時点では、41.0%が「認可保育所」を利用し、その割合は低所得層がより高くなっています。なお、他の調査項目に比して「無回答」の割合が高いのは、「5歳児の保護者の方にお聞きします」という設問文だったため、6歳になったお子さんの保護者が回答しなかった結果と考えられます。

図3-1-5～7はこれらの結果を「ふたり親世帯」に限定したものです。図3-1-5は1歳児の利用施設を「ふたり親世帯」に限定した結果です。1歳児の「ふたり親世帯」の場合、低所得層で「認可保育所」の利用割合がやや低くなる一方で、「どこにも通っていない」の割合が低所得層Ⅰで若干高くなり、経済階層による保育利用の割合の差がより明確になります。また、図3-1-6をみると、5歳児では「幼稚園（預り保育なし）」がすべての階層で高くなっている一方で、「認可保育所」がすべての階層で低くなっています。なお、このグラフで「その他の施設」「どこにも通っていない」は回答者がゼロだったため、図より数値表記を省略しています。さらに図3-1-7では、「認可保育所」を利用する割合は、一般層では低くなっていますが、低所得層ではⅠ・Ⅱともに高くなっています。

図3-1-1 【1歳児】お子さんは、現在、幼稚園や保育所などの施設に通っていますか。

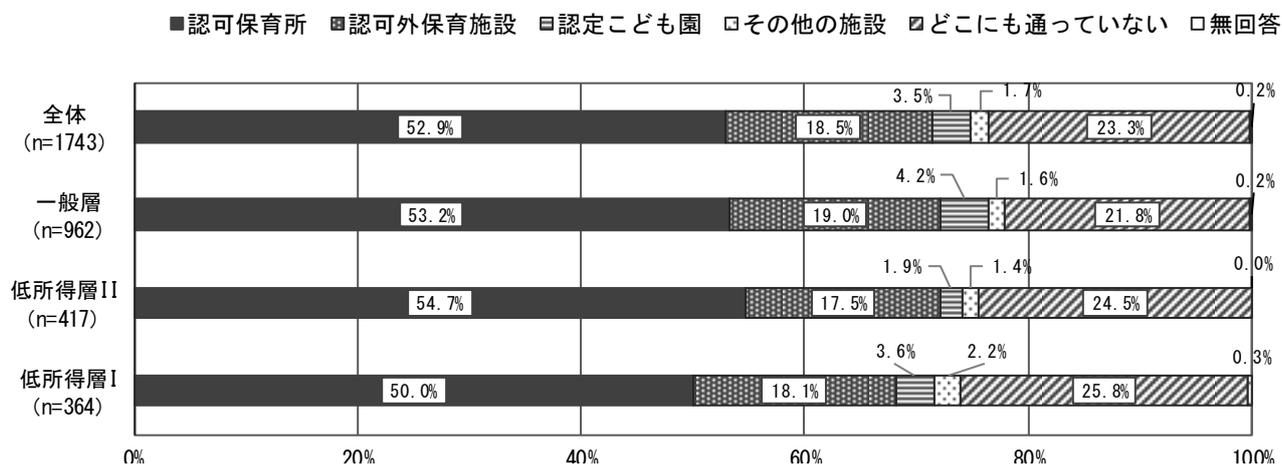


図3-1-2 【5歳児】おさんは、現在、幼稚園や保育所などの施設に通っていますか。

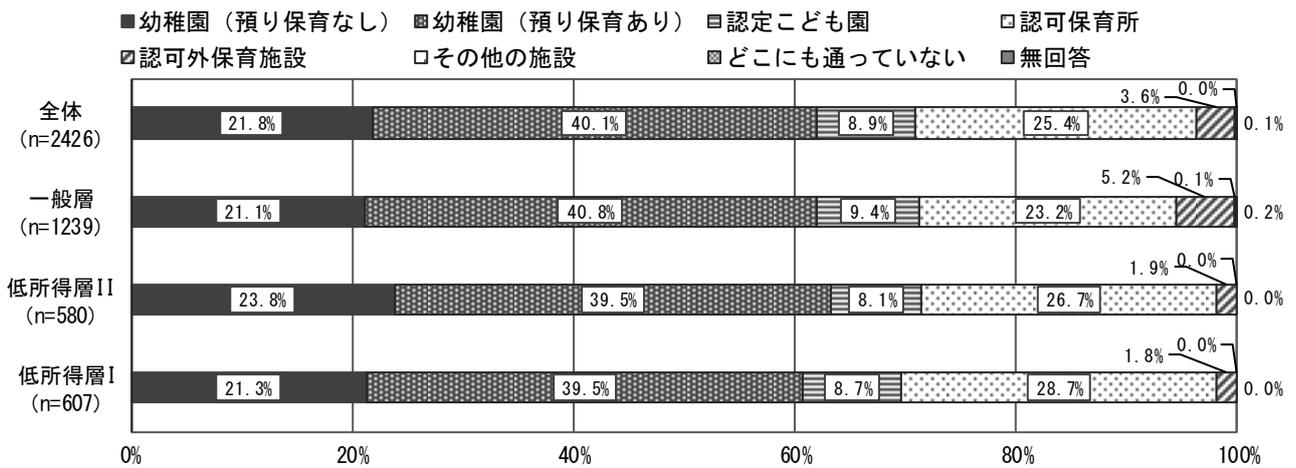


図3-1-3 【5歳児】5歳児の保護者の方にお聞きます。
おさんは昨年度（4歳児の時）、幼稚園や保育所に通っていましたか。

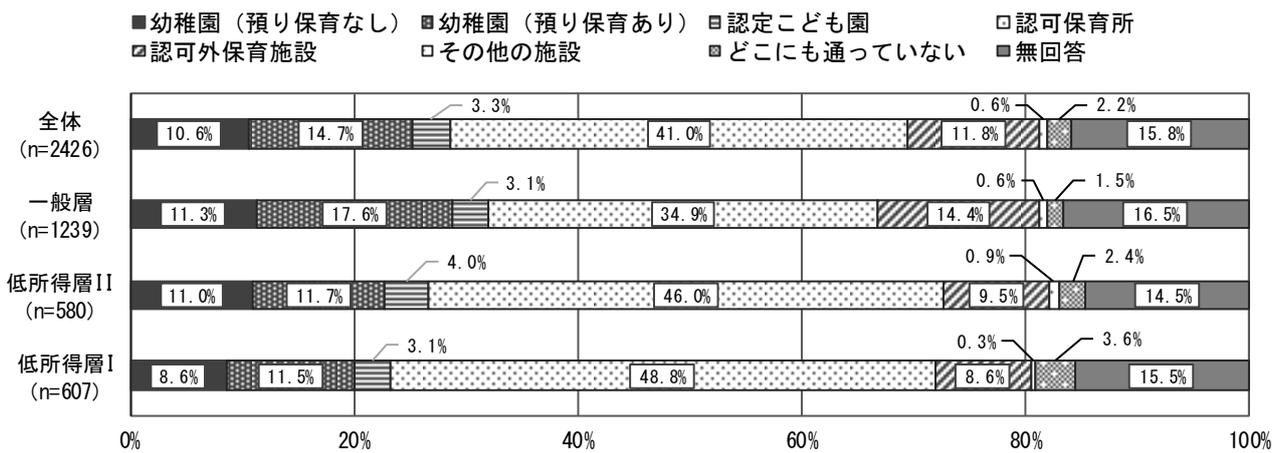
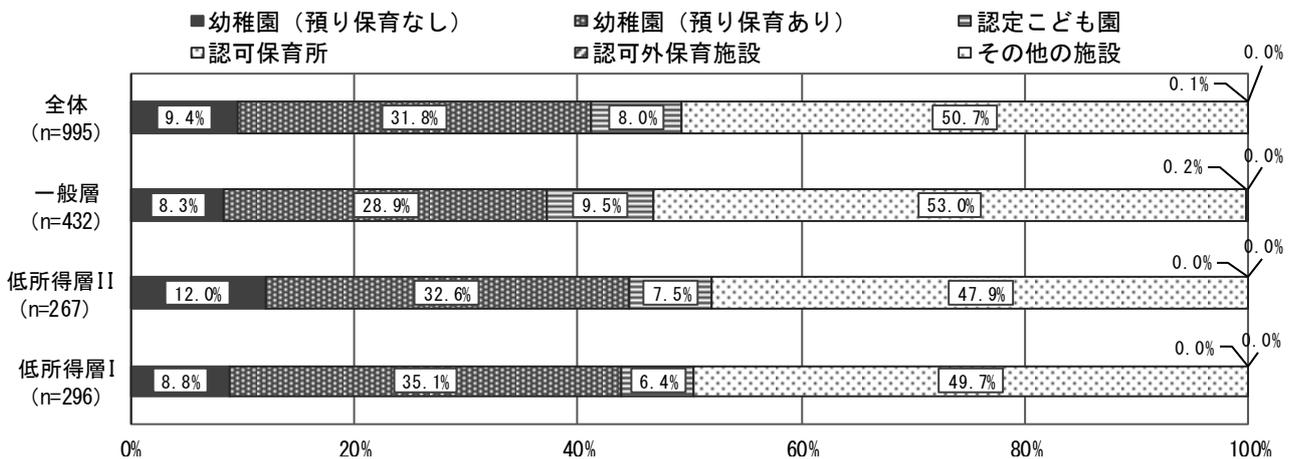


図3-1-4 【5歳児】4歳児のときに認可保育所に通っていた子が、5歳児で利用している施設



[ふたり親世帯のみ]

図 3-1-5 【1歳児】 お子さんは現在、幼稚園や保育所などの施設に通っていますか。
(ふたり親世帯のみ)

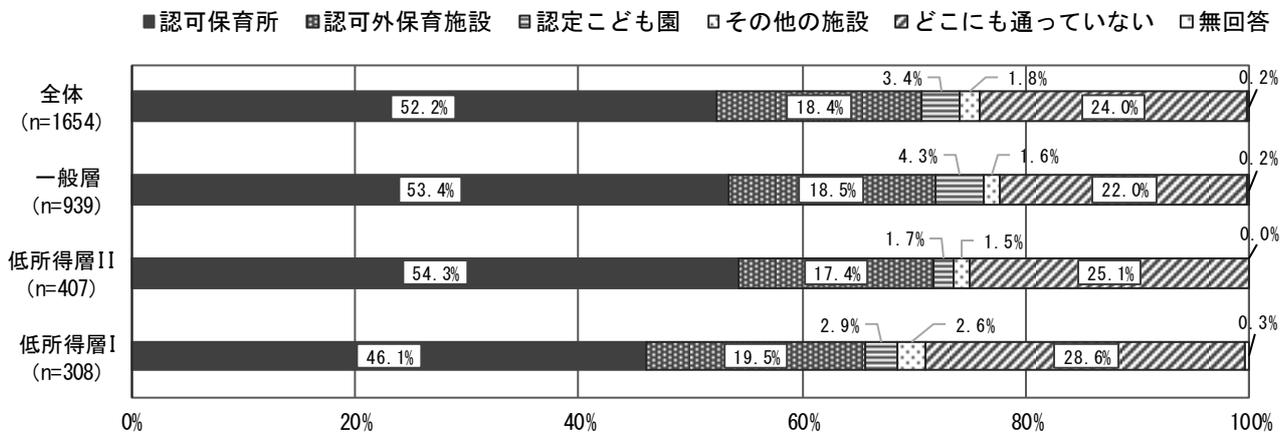


図 3-1-6 【5歳児】 お子さんは現在、幼稚園や保育所などの施設に通っていますか。
(ふたり親世帯のみ)

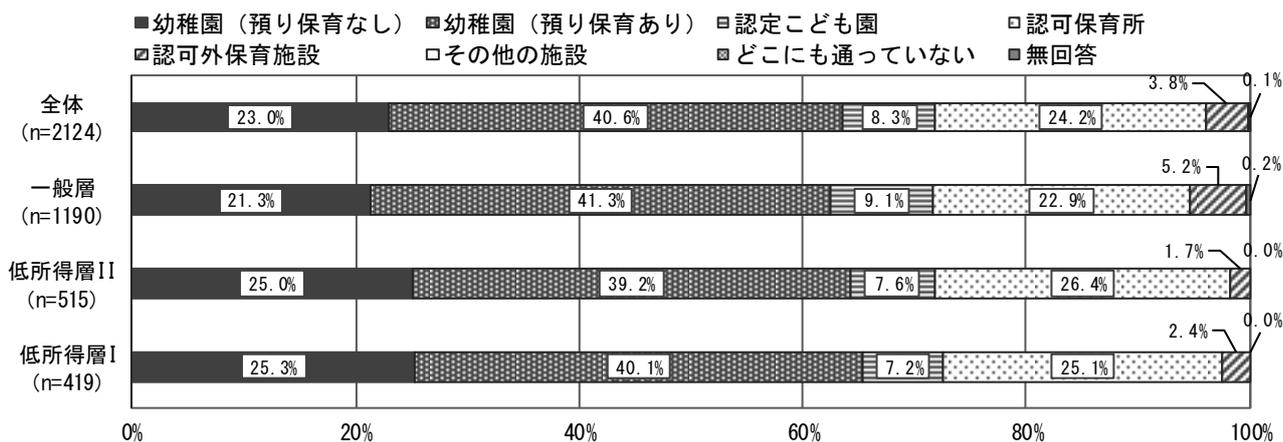
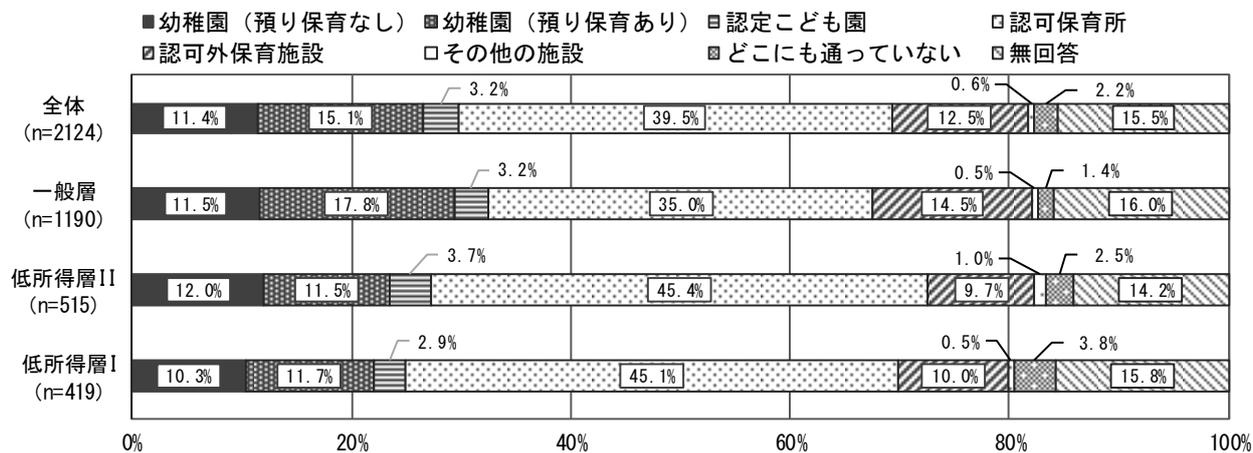


図 3-1-7 【5歳児】 5歳児の保護者の方にお聞きします。お子さんは昨年度（4歳児の時）、幼稚園や保育所に通っていましたか。（ふたり親世帯のみ）



◆3-2 利用の満足度

施設利用の満足度を尋ねた結果が図3-2-1と図3-2-2です。1歳児・5歳児どちらも8割を超える人が「どちらかという満足（安心）」と答えています。ただ、5歳児の場合、一般層よりも低所得層のほうが「どちらかという不満（不安）」と答えている割合がやや高くなっています。

不満・不安の理由を1歳児・5歳児合わせて尋ねた結果が図3-2-3～11です。高い順に、「保育料・料金が低い」（52.6%）、「保育（教育）内容に疑問がある」（46.6%）、「保育者とのコミュニケーション不足」（37.5%）、「入りたい保育所・幼稚園ではなかった」（36.7%）となっています。全項目のなかで、経済状況による違いが表れたのは、「入りたい保育所・幼稚園ではなかった」、「給食が不十分・給食がない」、「行事が多い」などでした。

なお、図3-2-3～11については、低所得層Ⅰ・Ⅱのサンプル数が少なく分析結果については留意が必要です。

図3-2-1 【1歳児】現在通っている施設の利用に関してどうお感じですか。

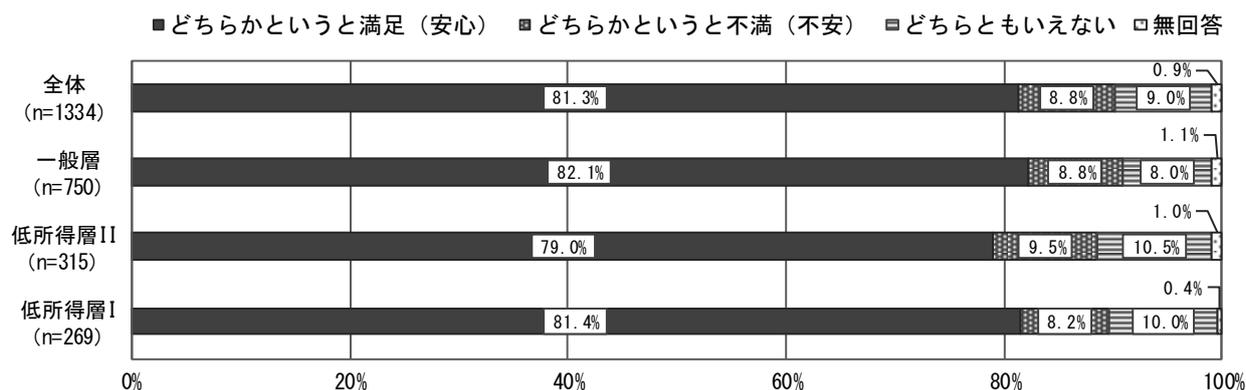
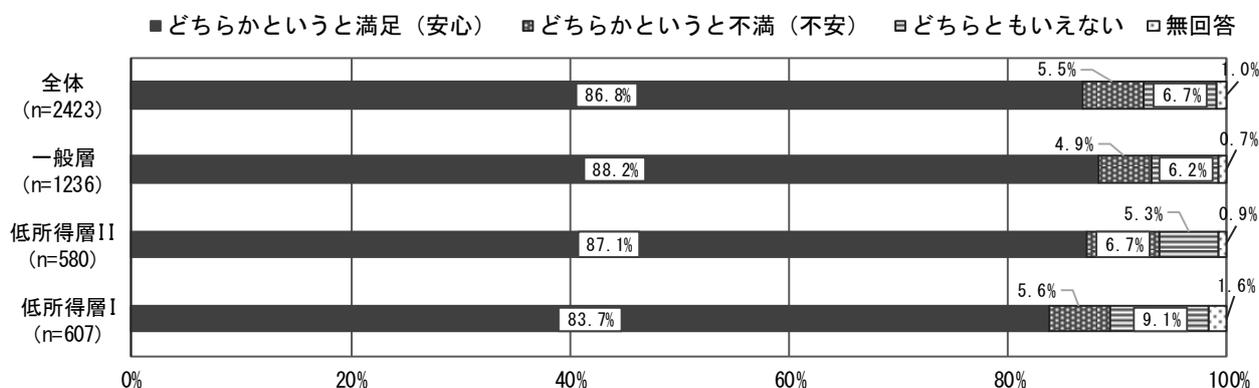


図3-2-2 【5歳児】現在通っている施設の利用に関してどうお感じですか。



[1歳児・5歳児]

図3-2-3 【1歳児・5歳児】通っている施設に対して「どちらかという不満（不安）」と答えた理由 — 1. 入りたい保育所・幼稚園等ではなかった —

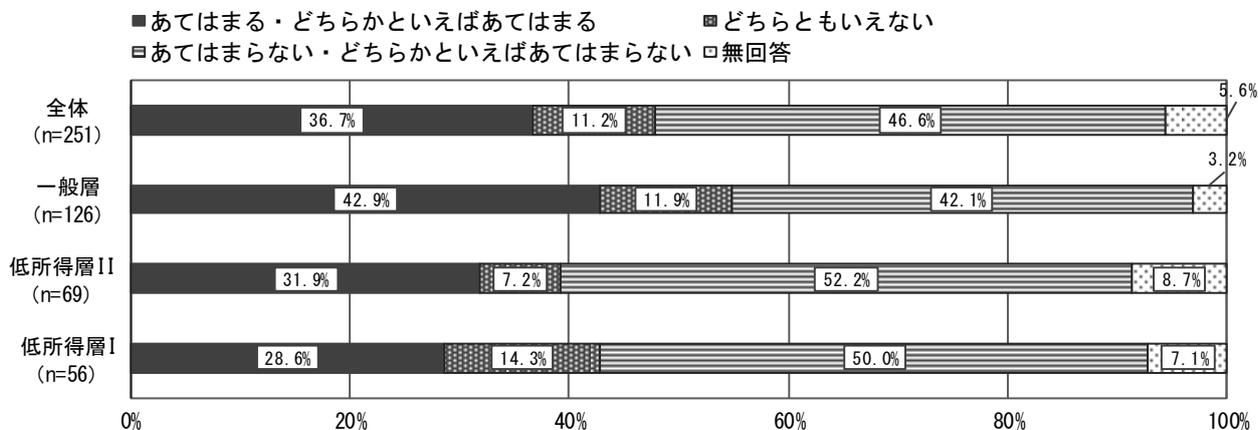


図3-2-4 【1歳児・5歳児】通っている施設に対して「どちらかという不満（不安）」と答えた理由 — 2. 保育料・料金が低い —

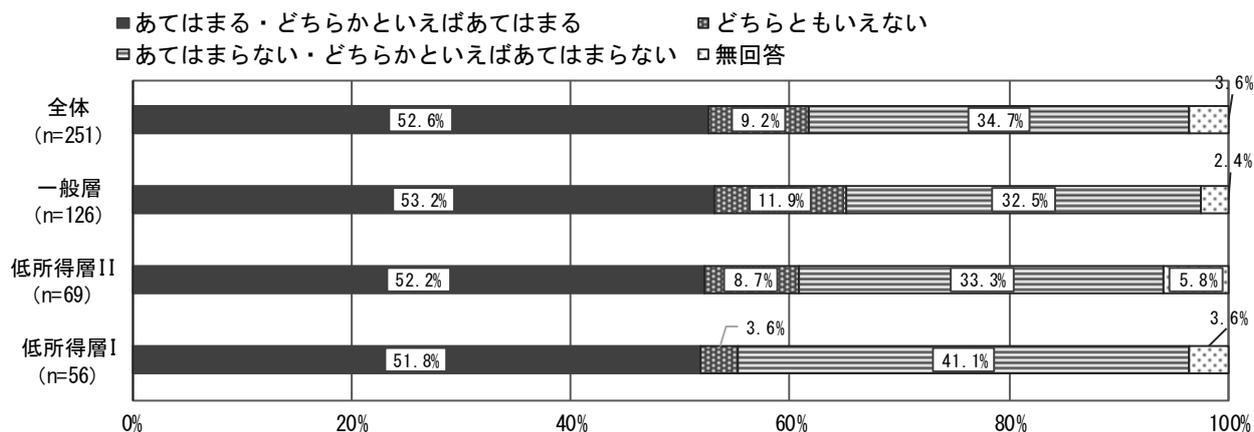


図3-2-5 【1歳児・5歳児】通っている施設に対して「どちらかという不満（不安）」と答えた理由 — 3. 自宅や職場から遠く送迎が大変 —

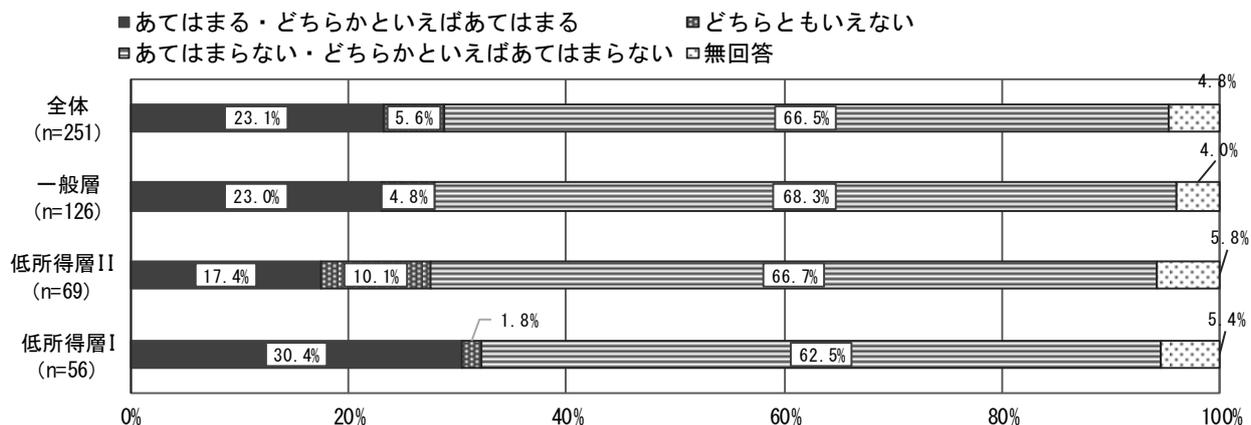


図3-2-6 【1歳児・5歳児】通っている施設に対して「どちらかという不満（不安）」と答えた理由 — 4. 保育（教育）内容に疑問がある —

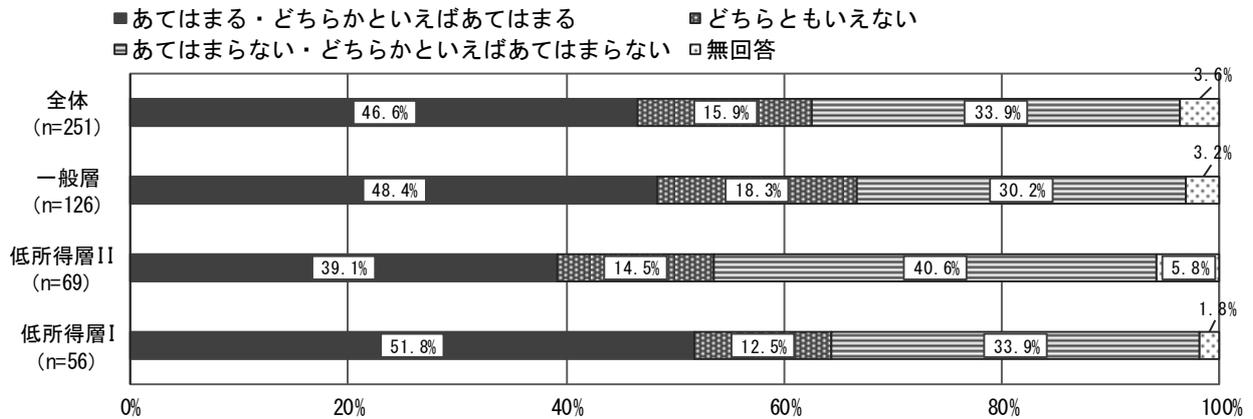


図3-2-7 【1歳児・5歳児】通っている施設に対して「どちらかという不満（不安）」と答えた理由 — 5. 給食が不十分・給食がない —

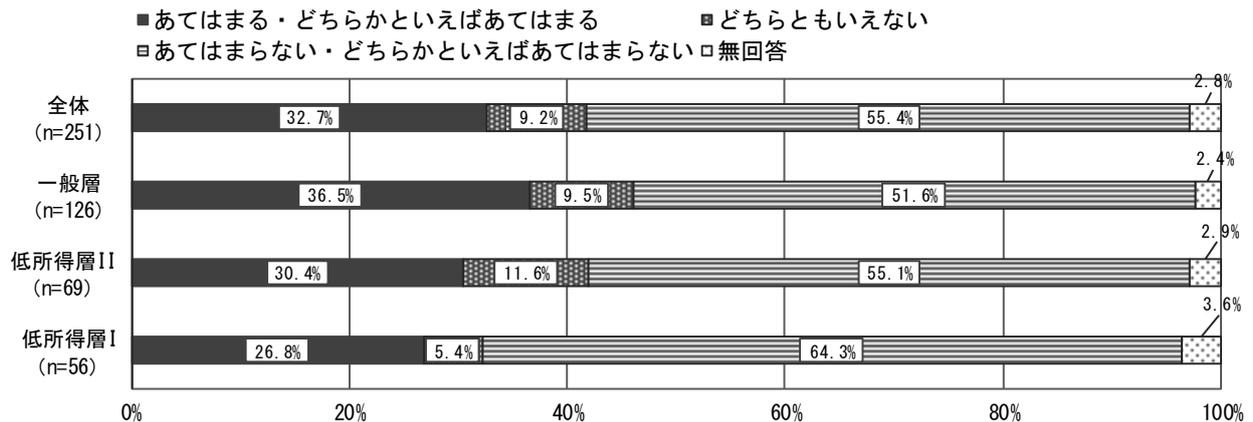


図3-2-8 【1歳児・5歳児】通っている施設に対して「どちらかという不満（不安）」と答えた理由 — 6. 預かってくれる時間が短い —

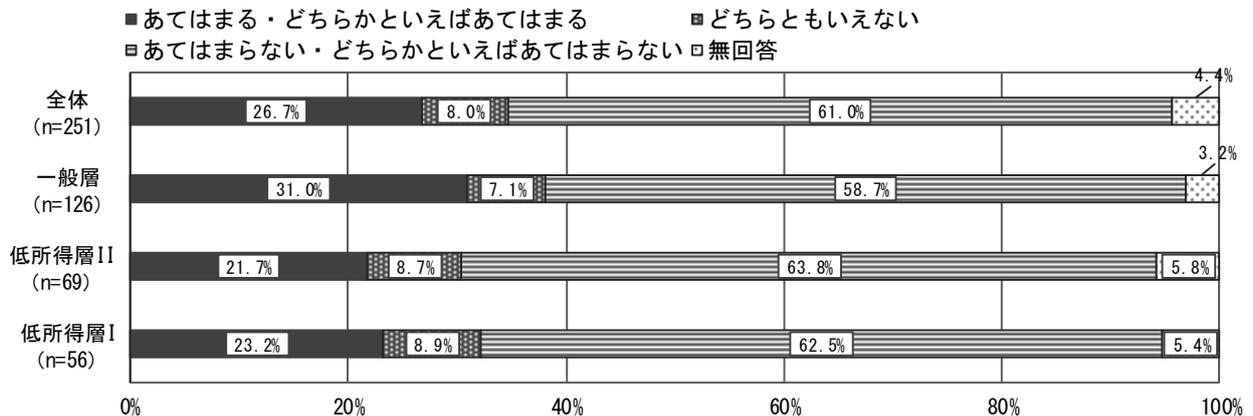


図3-2-9【1歳児・5歳児】通っている施設に対して「どちらかという不満（不安）」と答えた理由 — 7. 保育者の子どもへの関わり方に疑問がある —

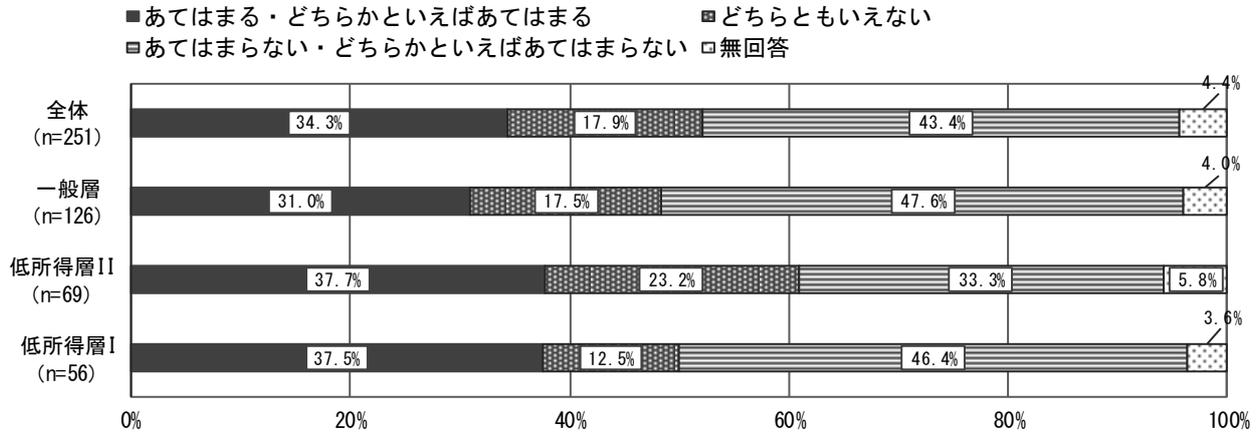


図3-2-10【1歳児・5歳児】通っている施設に対して「どちらかという不満（不安）」と答えた理由 — 8. 保育者とのコミュニケーション不足 —

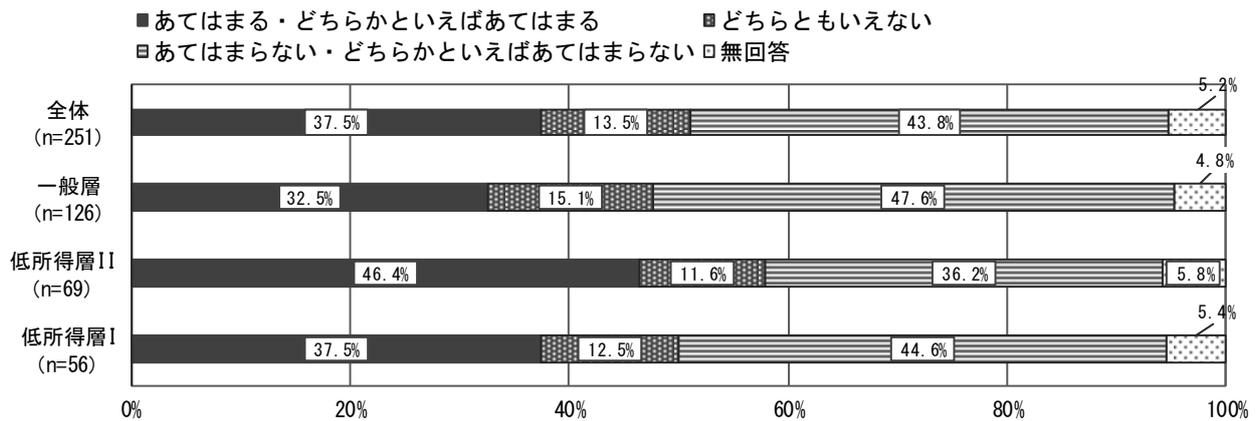
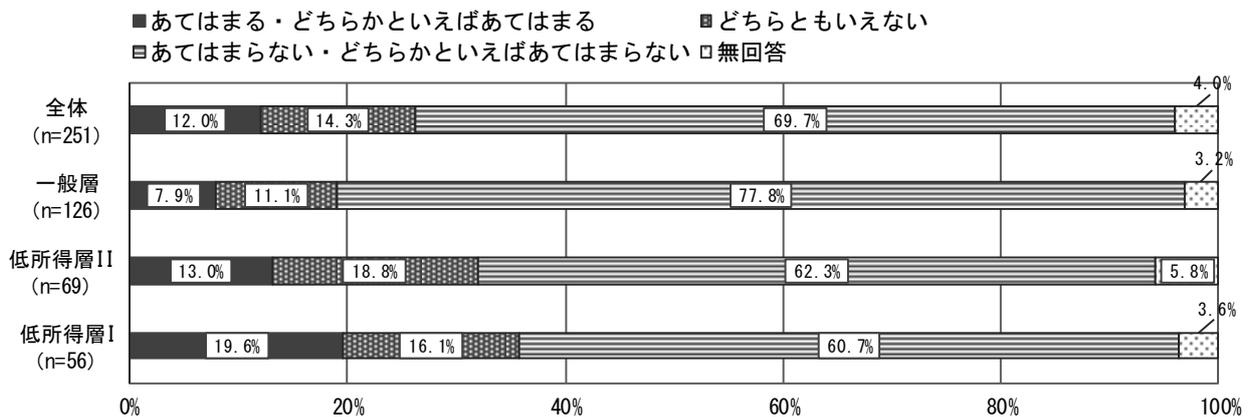


図3-2-11【1歳児・5歳児】通っている施設に対して「どちらかという不満（不安）」と答えた理由 — 9. 行事が多い —



◆3-3 どこにも通っていない理由

図3-1-1で「どこにも通っていない」と答えた人に対し、保育所などの利用を希望しているかどうか尋ねた結果が図3-3-1です。「希望しており、すぐにでも通わせたい」が全体で33.3%でしたが、特にその割合は低所得層Ⅰ（45.7%）、低所得層Ⅱ（35.3%）で高くなります。

すぐにでも通わせたい理由を尋ねた結果が図3-3-2～4です。「保護者の就労のため」が最も高く（73.3%）、ついで「子どもの成長・発達のため」（69.6%）、「子どもと離れる時間が欲しい」（12.6%）の順となっています。「保護者の就労のため」では、一般層の「あてはまる」が66.1%に比して、低所得層Ⅱで77.8%、低所得層Ⅰで79.1%と高くなります。他方、「子どもと離れる時間が欲しい」では、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせると一般層では48.2%ですが、低所得層Ⅱでは25.0%、低所得層Ⅰで23.3%にすぎません。

なお、図3-3-2～4については、低所得層Ⅰ・Ⅱのサンプル数が少なく分析結果については留意が必要です。

図3-3-1 【1歳児】現在、保育所などの利用を希望していますか。

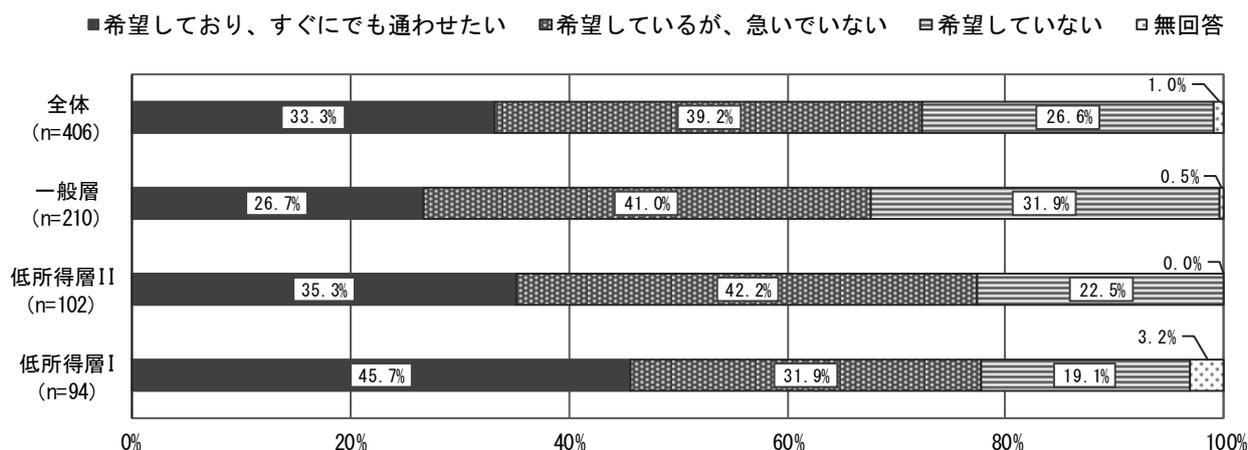


図3-3-2 【1歳児】すぐにでも通わせたい理由

— 1. 保護者の就労のため —

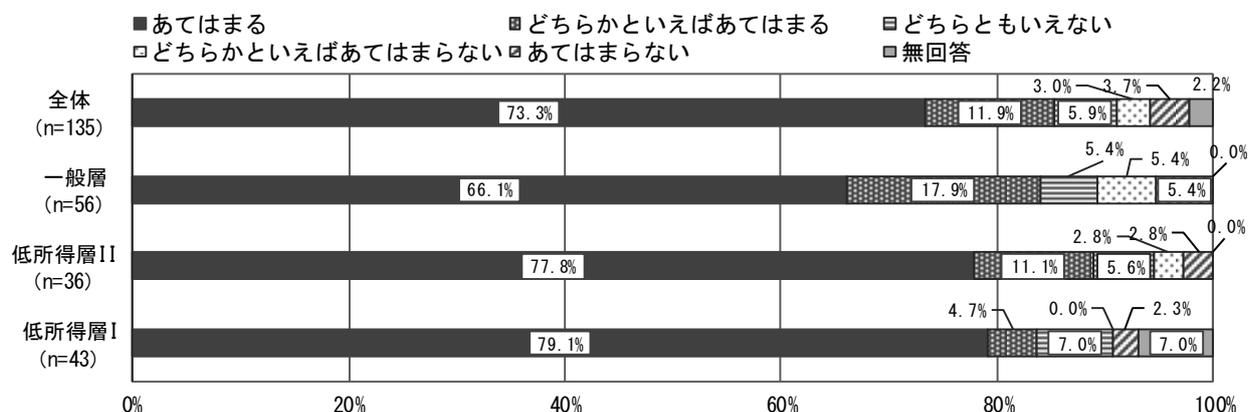


図 3-3-3 【1歳児】すぐにもでも通わせたい理由
 - 2. 子どもと離れる時間が欲しい -

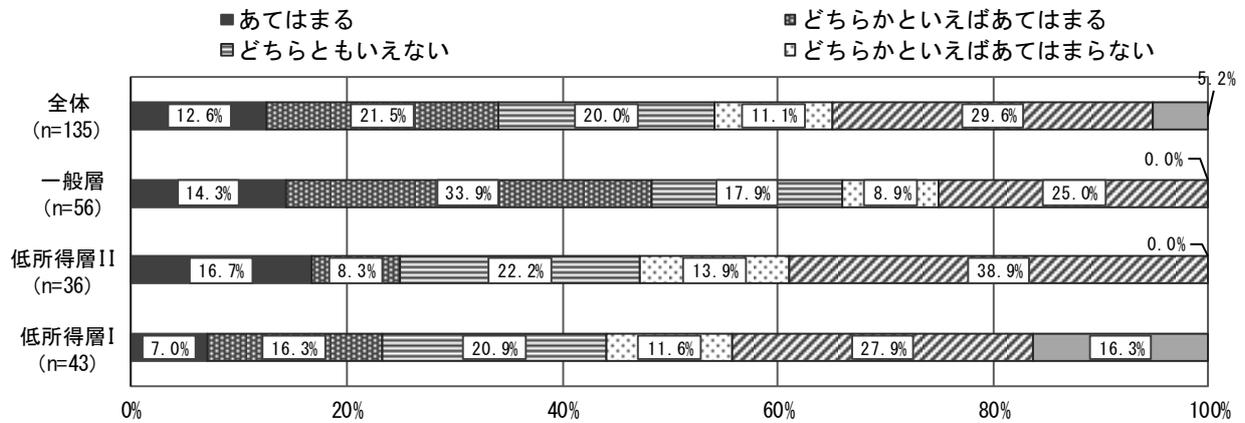
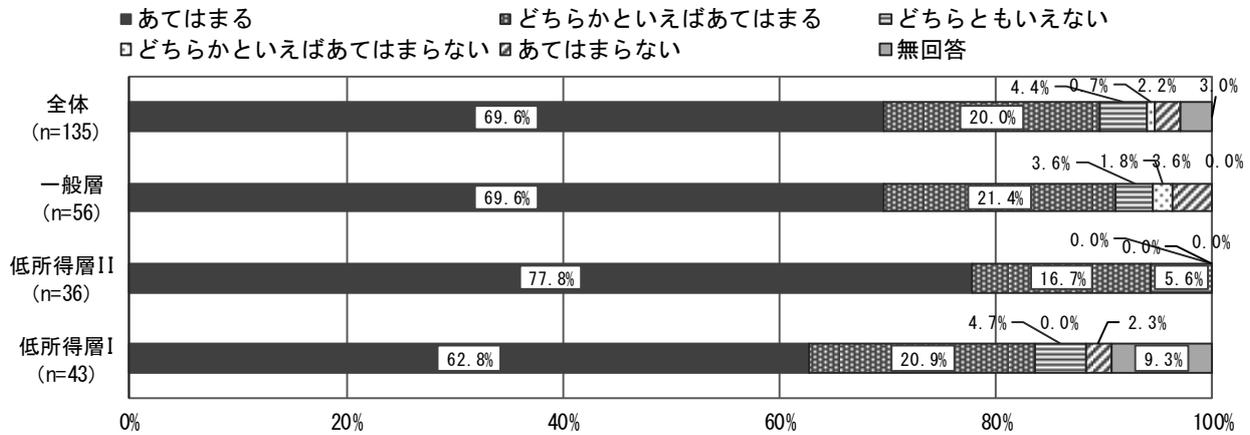


図 3-2-4 【1歳児】すぐにもでも通わせたい理由
 - 3. 子どもの成長・発達のため -



考 察

本章の分析からまず言えるのは、本県では低年齢児（1歳児）であっても保育施設を利用する割合が非常に高いという点でしょう。これは、1章で指摘された1歳児の母親の働く割合が非常に高いことと符合するものです。全国データからは、1・2歳児の認可保育所利用率は36.3%、認定こども園等が6.5%、認可外保育施設が3.8%となっており、保育施設を利用しない割合は約53%となっています（『保育白書2017』）、本県の場合は保育施設を利用しない割合は約23%しかなく、かなり低いと言えます。また、認可保育所や認定こども園に1歳の保育を利用する子どもの大半が通っており、認可保育所が低年齢児を多く受け入れていると言えます。加えて、認可外保育施設に通う割合（約19%）も全国に比べてかなり高いこともわかりました。

5歳児の保育利用からは、幼稚園を利用する割合が高いことがわかりました。全国データでは4歳以上で、幼稚園が46.0%、認可保育所が42.1%、認定こども園等が9.6%、認可外保育施設が2.3%です（『保育白書2017』）。本県では、図3-1-2から分かるように、幼稚園（預り「あり」および「なし」を含む）が約62%、認可保育所は約25%、認定こども園が約9%、認可外保育施設は約4%でした。また、図3-1-4からは4歳の時点で「認可保育所」を利用していた子の多くが5歳児になると「幼稚園（預かり保育あり）」に転園していることが見られ、低所得層Ⅰで35.1%に及ぶなど、低所得層であっても幼稚園に転園していることがわかります。なお、認可外保育施設の5歳児利用は、1歳児に比べ高い割合を占めていないため、認可外保育施設利用の高さは低年齢児に集中して見られる傾向であると考えられます。

1歳児の保育の利用状況について階層差が表れており、特に低所得層Ⅰにおいて特徴的な傾向がみとれます。図3-1-1からは認可保育所に通っている割合が一般層の53.2%に対して低所得層Ⅰは50.0%と低く、どこにも通っていない割合が一般層の21.8%に対して低所得層Ⅰは25.8%と高くなっています。この傾向は、ふたり親だけを見ると（図3-1-5）より顕著に表れており、全体に比べ、認可保育所に通っている割合が一般層の53.4%に対して低所得層Ⅰは46.1%と低く、どこにも通っていない割合が一般層の22.0%に対して低所得層Ⅰは28.6%と高くなっています。保育所などの利用希望（図3-3-1）についても、一般層での利用希望26.7%に対して低所得層Ⅰは45.7%となっており、さらに、その理由として「保護者の就労のため」が、一般層の66.1%に対して低所得層Ⅰは79.1%となっています。これら結果は、待機児童の問題とも関わっていることが考えられ、特に低所得の家庭においては、保育所の待機が深刻な状況にあることが推測されます。

このほか、1歳児・5歳児の施設に対する満足度を尋ねたところ、低所得層では「給食が不十分・給食がない」という問いに「あてはまる」と回答した割合が他の各層に比べて少なく、給食に期待していることがわかる一方で、「行事が多い」という問いに対しては「あてはまる」と回答した割合が他の各層に比べて多く、行事への参加に困難を感じていることがわかります。

低所得層にとって保育所は欠かすことのできない児童福祉施設であり社会資源のひとつです。特にひとり親世帯の場合、利用料減免制度はあるものの、比較的高い1歳児の利用料を払えないために保育所を利用しない場合もありうることから、3歳未満児保育の保育料を減額することが求められます。

（参考文献） 稲川 登史子 「1. 幼い子ども・家族の今 B 増える共働き世帯と増大する保育需要」
全国保育団体連絡会・保育研究所編『保育白書2017』ひとなる書

第 4 章

5 歳 児 の 状 況

(就学に向けて)

第4章

5歳児の状況（就学に向けて）

◆4-1 小学校入学に向けての準備

5歳児に小学校入学に向けての準備について尋ねた結果が図4-1-1～3です。まず、「学用品やランドセルの購入費用が不足しそう」かどうか尋ねると、41.9%が「あてはまらない」と答えています。経済状況別にみると一般層が56.8%と過半数を超えているのに対し、低所得層Ⅱで32.6%、低所得層Ⅰで20.4%にすぎません。低所得層Ⅰでは21.7%が「あてはまる」と明確に答えており、「どちらかといえばあてはまる」を合わせると4割を超えています。

次に「小学校での生活になじめるか心配」かどうか尋ねると、経済状況による違いが明らかになりました。「あてはまる」と答えたのが一般層では12.2%だったのに対して、低所得層Ⅱでは19.1%、低所得層Ⅰでは20.8%となっています。低所得層Ⅰでは「どちらかといえばあてはまる」を合わせると4割にのぼる方が小学校での生活になじめるか不安を抱えています。

さらに「放課後過ごす場所に不安がある」かどうか尋ねると、これも経済状況による違いが明らかになりました。「あてはまる」と答えたのが一般層では14.9%だったのに対して、低所得層Ⅱでは22.6%、低所得層Ⅰでは25.7%となっています。低所得層Ⅰでは「どちらかといえばあてはまる」を合わせると4割を超える方が放課後過ごす場所に不安を抱えています。

なお、これらの設問で無回答が多くなってしまったのは、「5歳児の保護者の方にお聞きします」とした結果、6歳のお子さんをもつ保護者が回答しなかったためと考えられます。

図4-1-1 【5歳児】4月の小学校入学に向けての準備について
— 1. 学用品やランドセルの購入費用が不足しそう —

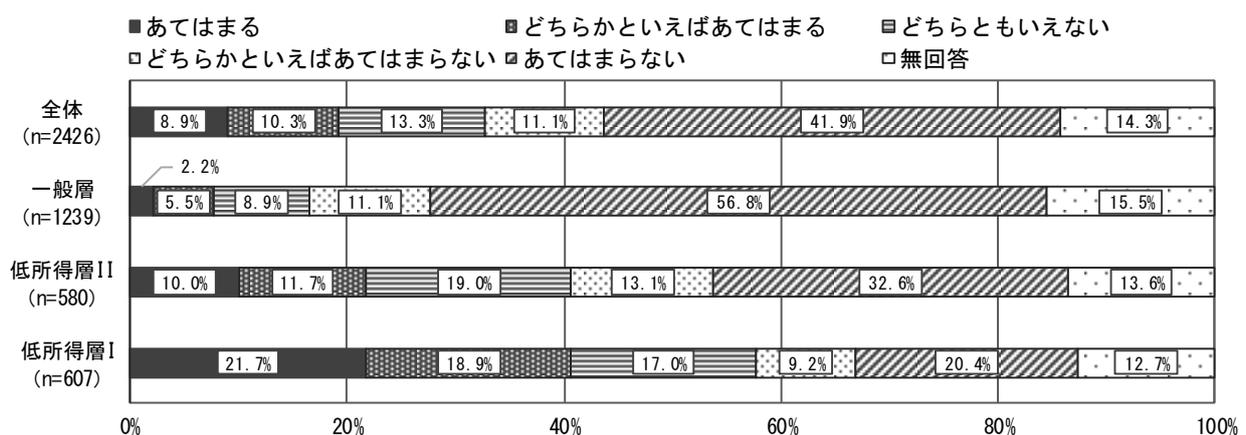


図 4-1-2 【5 歳児】 4 月の小学校入学に向けての準備について
— 2. 小学校での生活になじめるか心配 —

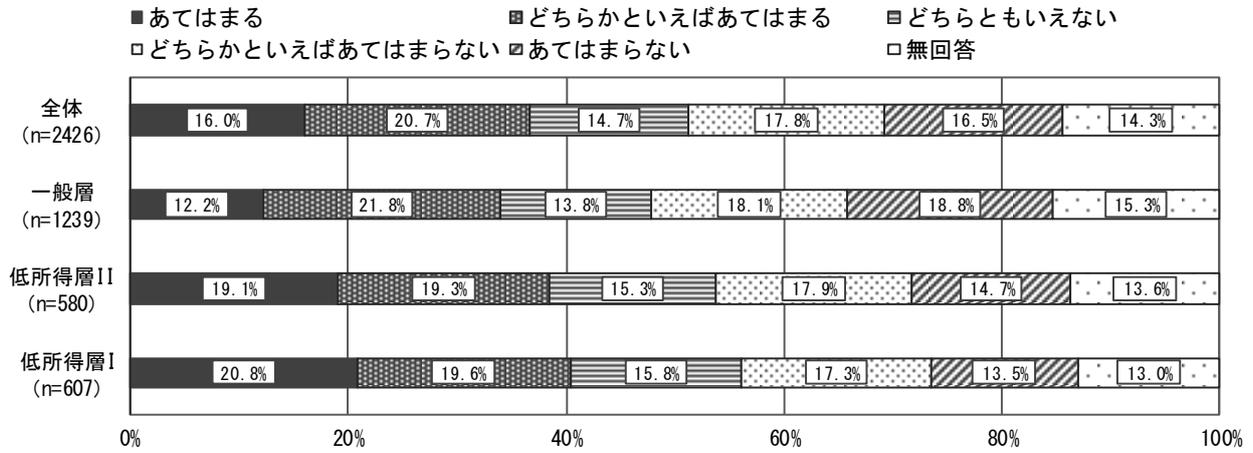
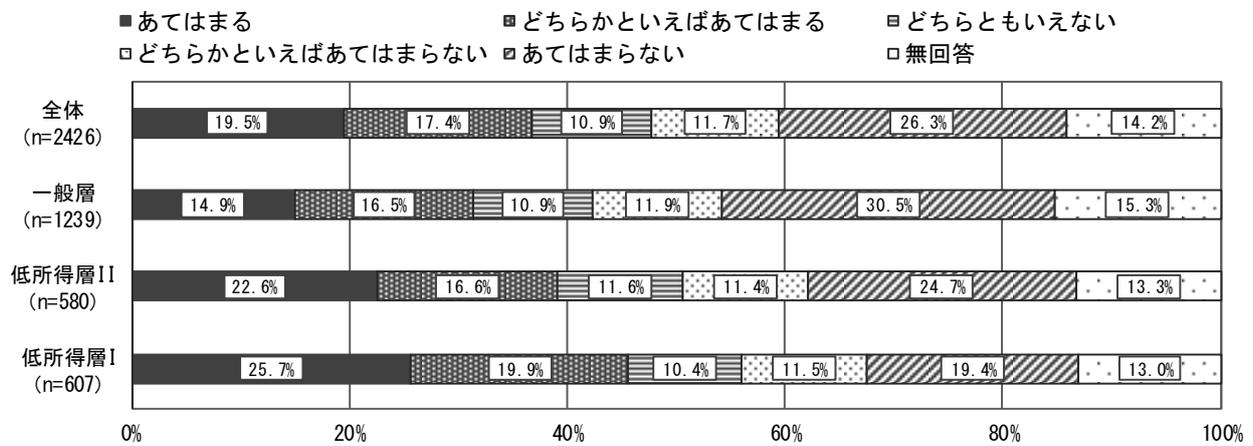


図 4-1-3 【5 歳児】 4 月の小学校入学に向けての準備について
— 3. 放課後過ごす場所に不安がある —



◆4-2 放課後児童クラブの利用について

5歳児の保護者に対し、放課後児童クラブ（学童保育）の利用予定を尋ねた結果が図4-2-1～3です。図4-2-1をみると、全体で「利用する」が35.1%、「利用したいが施設が決まらない」が7.8%、「利用について検討中」が13.3%と、利用予定が5割を超えています。これを経済状況別にみると、所得が低ければ低いほど「利用する」の回答率が低くなります。他方、「利用しない」「利用したいが施設が決まらない」「利用について検討中」をみると、一般層よりも低所得層のほうの割合が高くなっています。

次に利用予定を「ひとり親世帯」と「ふたり親世帯」に分けてみたのが図4-2-2です。「ふたり親世帯」よりも「ひとり親世帯」のほうが「利用する」「利用したいが施設が決まらない」と答えた割合が高くなっています。さらに、その「ひとり親世帯・その他世帯」に限定して経済状況別に利用予定をみたのが図4-2-3です。一般層よりも低所得層のほうが「利用する」「利用したいが施設が決まらない」「利用について検討中」と答えた割合が高くなっています。

図4-2-1 【5歳児】お子さんが小学校1年生になったら、放課後児童クラブ（学童保育）を利用する予定はありますか。

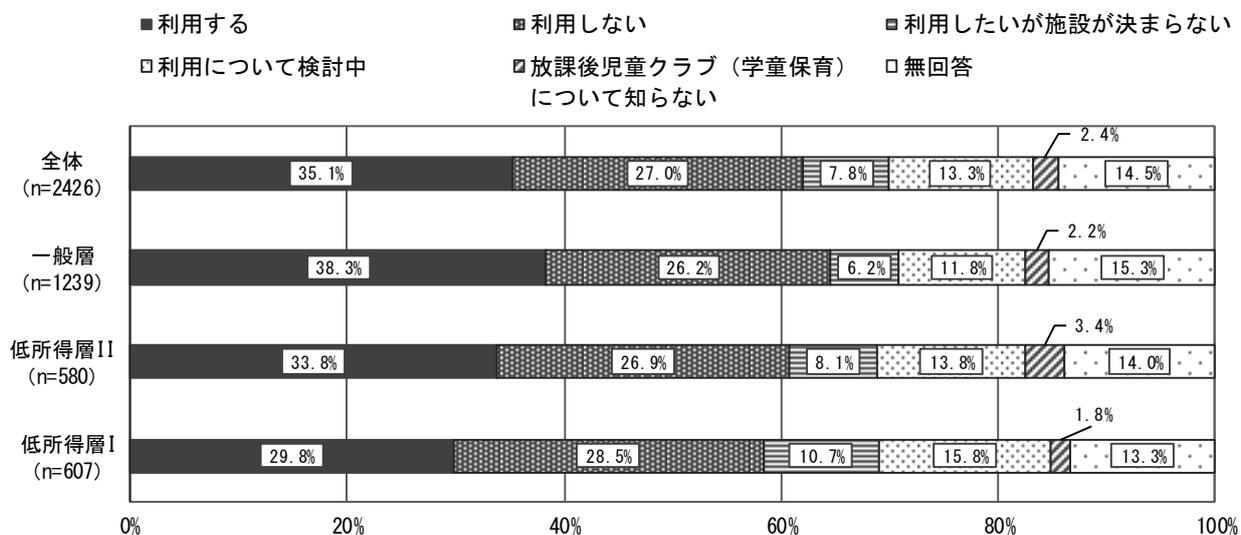


図 4-2-2 【5歳児】お子さんが小学校1年生になったら、放課後児童クラブ（学童保育）を利用する予定はありますか。（世帯類型別）

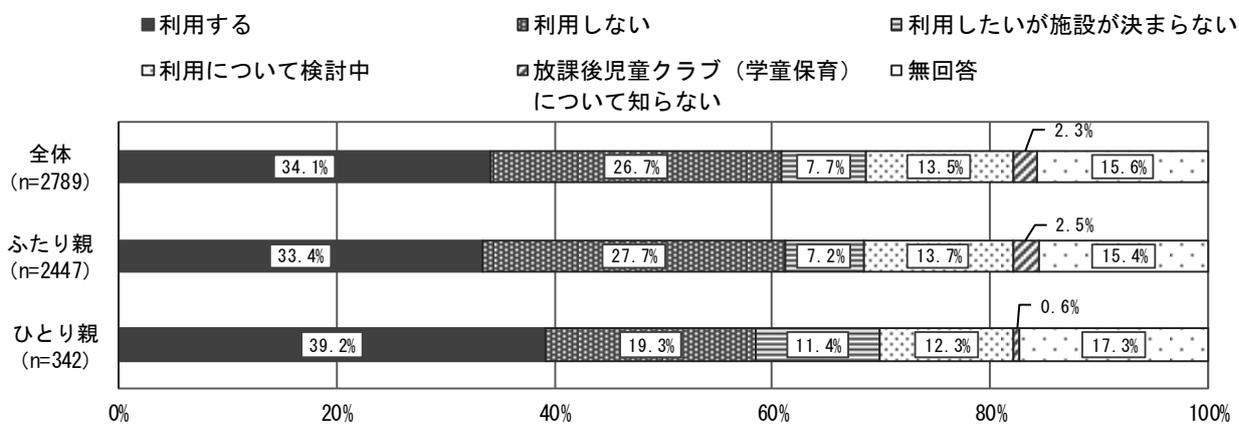
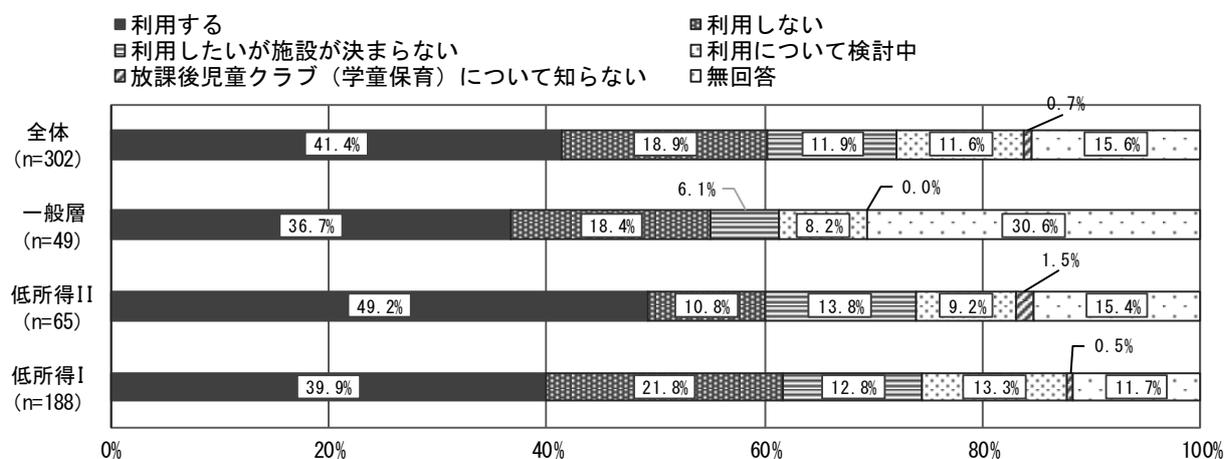


図 4-2-3 【5歳児】お子さんが小学校1年生になったら、放課後児童クラブ（学童保育）を利用する予定はありますか。（ひとり親・その他世帯のみ）



考 察

小学校入学に向けての準備について、「学用品やランドセルなどの購入費用」のみならず、「小学校での生活」や「放課後過ごす場所」にわたって不安を感じているなど、費用負担だけでなく、多くの面で不安を抱えている状況が見受けられました。

また、放課後児童クラブ（学童保育）の利用にあたって、「ひとり親世帯」では、利用したいが何らかの理由で施設が決まらない、などと答えている割合が「ふたり親世帯」より高くなっています。今回の調査ではそれらの理由までは尋ねていませんが、「利用しない」と答えたなかには、利用料が払えないなどの理由で「利用しない」と決めた可能性も考えられます。「ひとり親世帯」の場合、学童保育ニーズが高くなるのは当然のことであり、低所得層の「利用したいが施設が決まらない」「利用について検討中」の回答率が、一般層のそれより高いということは、負担する利用料が重荷となって決まらなかったり、検討中であったりする可能性も考えられます。

加えて、直面する利用料の問題だけでなく、経済的な問題から派生するさまざまな生活・発達上で起こりうる諸問題に対する支援も講じる必要があります。

第 5 章

保護者とのかかわり・子育てサークル等の利用

第5章

保護者とのかかわり・子育てサークル等の利用

◆5-1 保護者とのかかわり

父親・母親の子どもへの関わりを平日、休日で、「よく遊ぶ」、「ときどき遊ぶ」、「まったく遊ばない」の3つから選択してもらっています。なお、母親がいない場合、父親がいない場合はそれぞれ分析から抜いています。

全体を見ると、1歳児の母親の場合、平日に「よく遊ぶ」が66.1%と3分の2となり、「まったく遊ばない」は1.7%と非常に少ないことがわかりました。休日は「よく遊ぶ」が82.3%と大半を占め、「まったく遊ばない」は0.4%とほとんどいない状態でした。5歳児の場合、平日は「よく遊ぶ」が40.8%と1歳児に比べ減り、「まったく遊ばない」が5.4%と増えていました。休日は「よく遊ぶ」が62.1%とやはり1歳児時に比べ減少していましたが、「まったく遊ばない」は0.8%と大きな差異はありませんでした。

一方で、父親は母親と比べ関わりが全体的に少ないことがわかりました。特に平日では、1歳児の父親の場合、「よく遊ぶ」が37.2%と母親より30ポイントも少なく、「ときどき遊ぶ」(55.4%)の割合が高い状況でした。また、「まったく遊ばない」も6.9%と母親より高いことがうかがえました。休日は、「よく遊ぶ」が73.2%と平日に比べ高かったですが、母親に比べ9ポイントほど少ない状況でした。5歳児の場合、平日は「よく遊ぶ」は23.9%と少数となり母親より17ポイントほど低く、「ときどき遊ぶ」が約6割を占める状態でした。一方で、「まったく遊ばない」が15.3%と増えていました。休日は「よく遊ぶ」が57.6%とやはり母親に比べ低い割合でしたが、その差は5ポイント未満と減っていました。

経済状況による違いを見ると、母親の場合はそれほどの差がありませんが、父親の場合、特に休日で違い見られることがわかりました。

1歳児の母親の平日、休日を見ると、ともに「よく遊ぶ」の割合が最も高いのは低所得層Ⅱで、一般層、低所得層Ⅰは平日で4～6ポイント低く、休日で2～3ポイントの差が見られましたが、差は大きいとは言えないでしょう。また、「まったく遊ばない」はどの層もほとんど見られず差はない状態です。5歳児の場合、さらに差は小さく、1歳児で若干見られた低所得層Ⅱと、一般層、低所得層における差もほとんどありませんでした。一方、父親も平日に関しては大きな差があるとは言えない状態です。5歳児で一般層に比べ低所得層ⅠやⅡで「よく遊ぶ」の割合が少し高く、「まったく遊ばない」の割合が少し低い傾向が見えるぐらいです。1歳児にはほとんど差がありません。

ところが、父親の休日には差が明確に見られます。まず、1歳児では「よく遊ぶ」は、一般層(76.1%)に比べ低所得層Ⅰ(66.0%)と低く、「ときどき遊ぶ」が低所得層Ⅰで高くなっています。「まったく遊ばない」も少ないとは言え、他の層は1%ほどですが、低所得層Ⅰでは約3%になっています。5歳児でも同様で、「よく遊ぶ」は、一般層(60.7%)に比べ低所得層Ⅰ(51.1%)と低くなっており、「まったく遊ばない」は一般層では2%程度なのに低所得層Ⅰは約6%となっています。

[1歳児／母親]

図5-1-1 【1歳児】お子さんは、保護者や家族の方とどれくらい一緒に遊びますか。
— 平日／母親 —

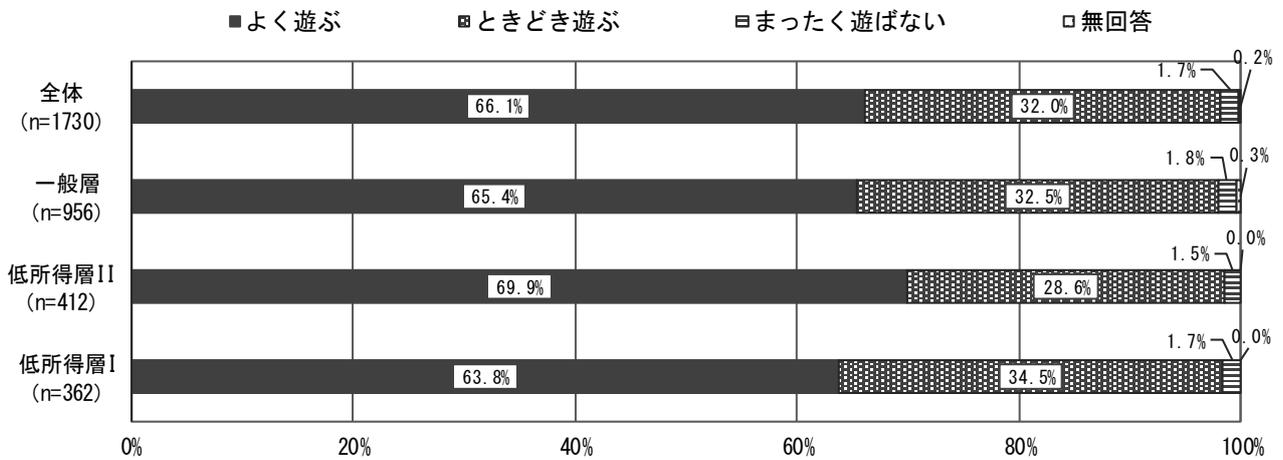
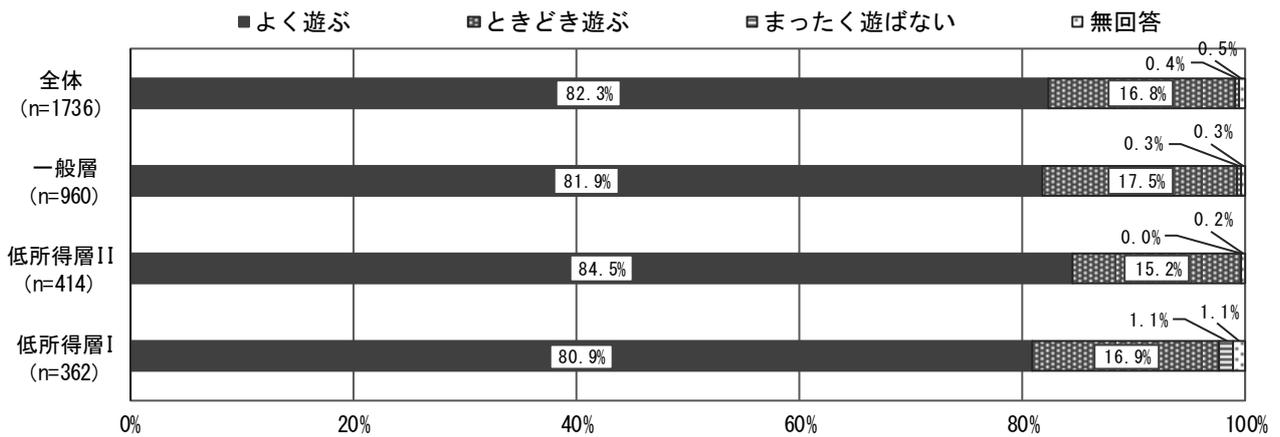


図5-1-2 【1歳児】お子さんは、保護者や家族の方とどれくらい一緒に遊びますか。
— 休日／母親 —



[5歳児／母親]

図5-1-3 【5歳児】お子さんは、保護者や家族の方とどれくらい一緒に遊びますか。
— 平日／母親 —

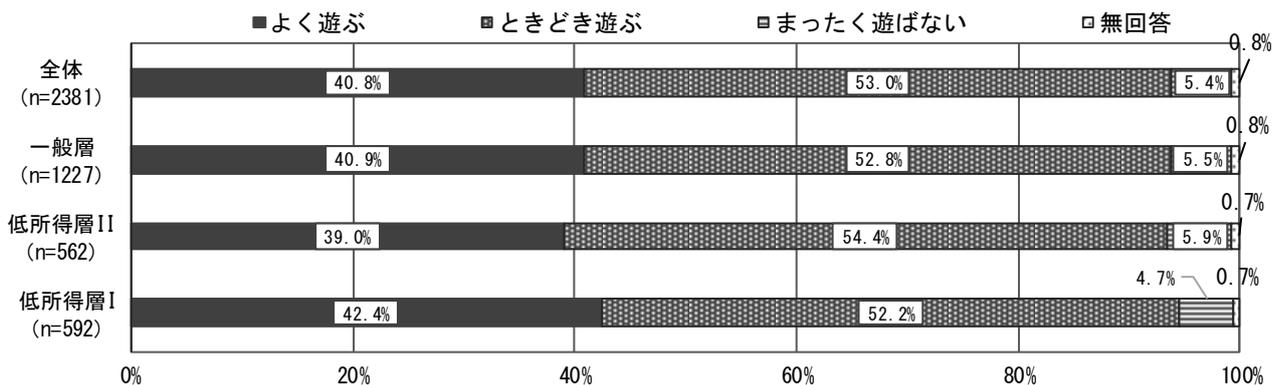
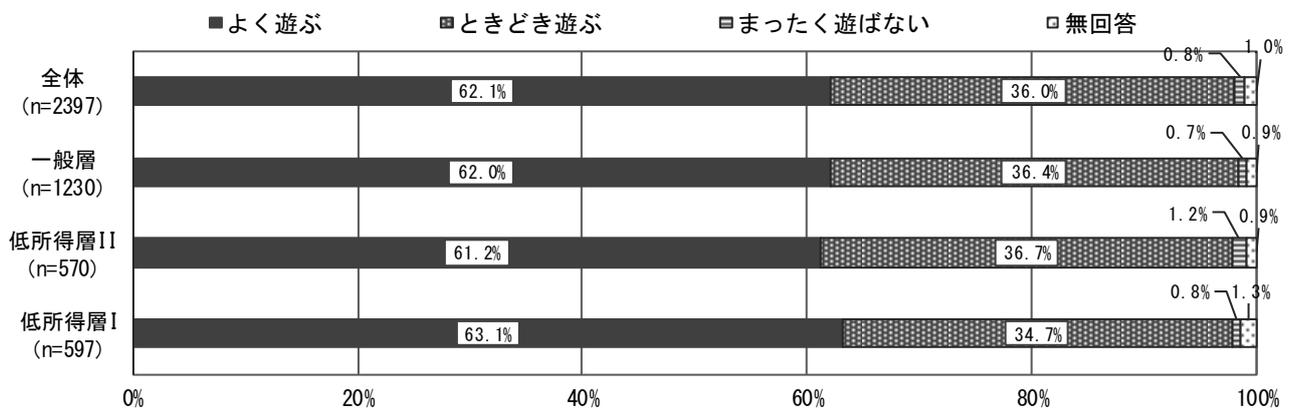


図5-1-4 【5歳児】お子さんは、保護者や家族の方とどれくらい一緒に遊びますか。
— 休日／母親 —



[1歳児／父親]

図5-1-5 【1歳児】お子さんは、保護者や家族の方とどれくらい一緒に遊びますか。
— 平日／父親 —

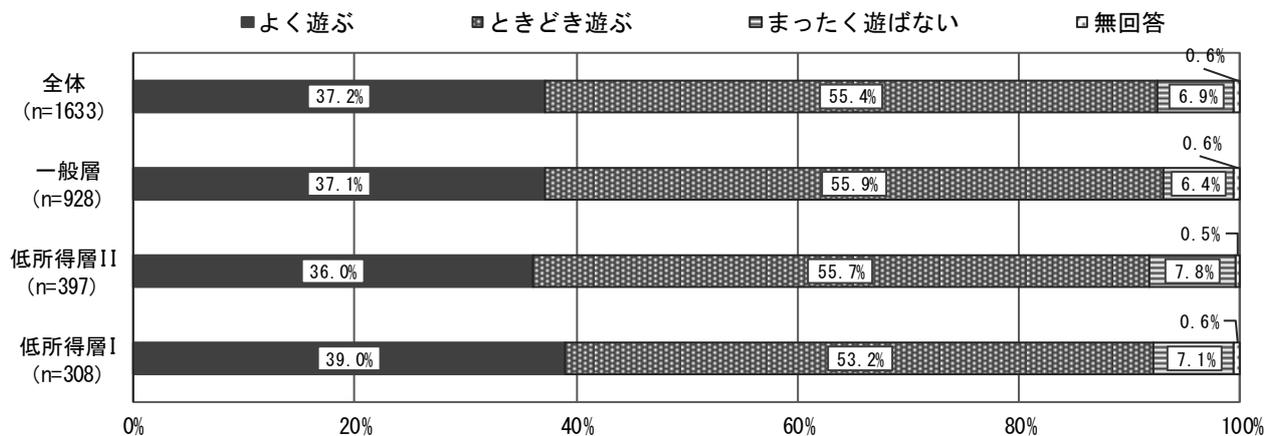
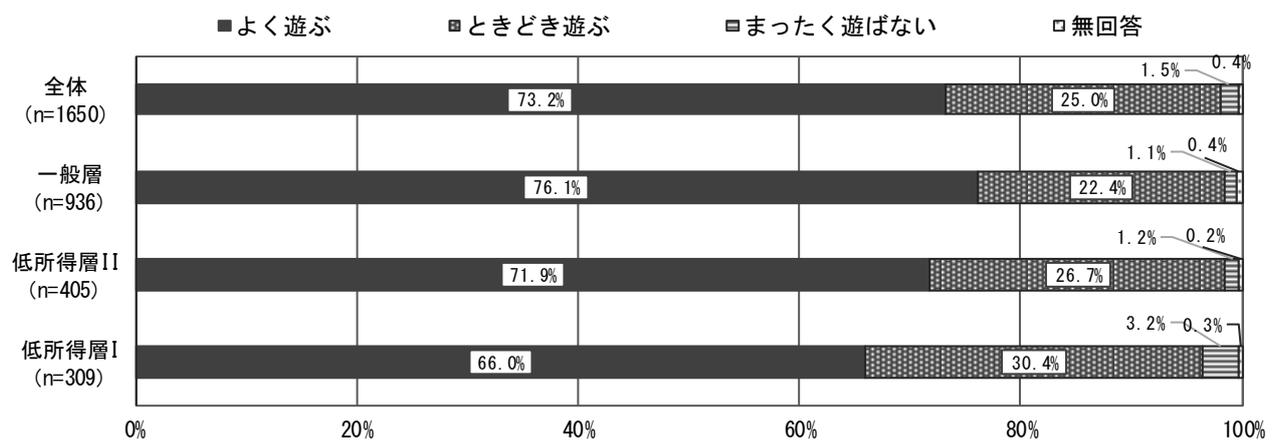


図5-1-6 【1歳児】お子さんは、保護者や家族の方とどれくらい一緒に遊びますか。
— 休日／父親 —



[5歳児／父親]

図5-1-7 【5歳児】お子さんは、保護者や家族の方とどれくらい一緒に遊びますか。
— 平日／父親 —

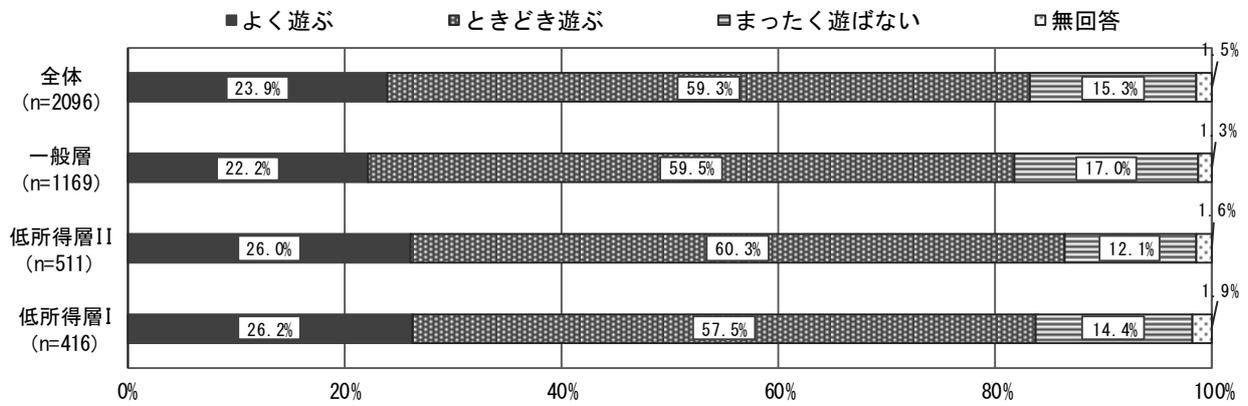
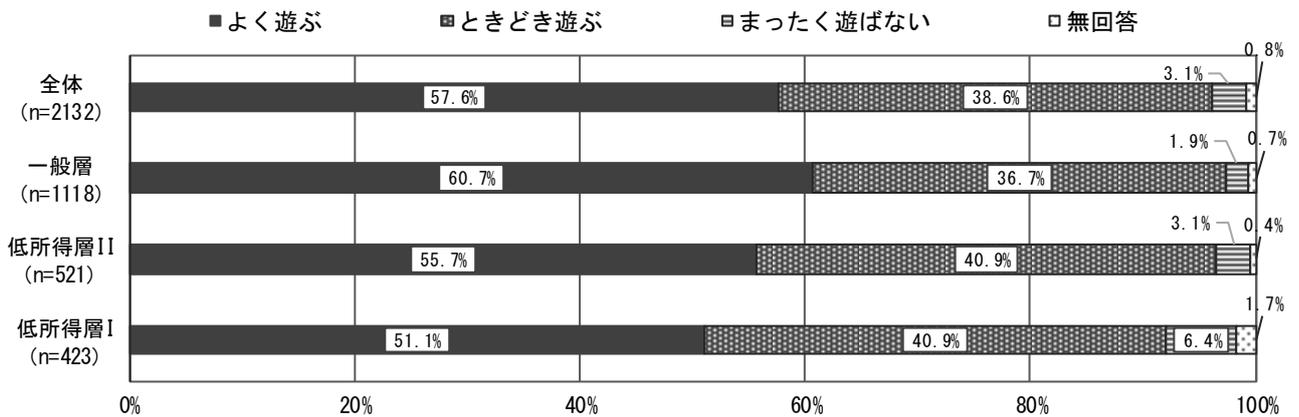


図5-1-8 【5歳児】お子さんは、保護者や家族の方とどれくらい一緒に遊びますか。
— 休日／父親 —



◆ 5-2 子育てサークル等の利用

図5-2-1と図5-2-2は、自宅近くに子育てサークルや子育てひろばなどがあるか尋ねた結果です。1歳児では、62.3%が「ある」と答え、「わからない」と答えた方が28.2%となっています。一方、5歳児では「ある」と答えた方が46.6%と減っており、「わからない」方が35.9%と増えています。

また、この二つの回答（「ある」および「わからない」）には経済状況で差があることも図からはわかります。ここでは、特に「わからない」方に注目してみます。すると、1歳児では一般層において、25.3%が「わからない」と答えているのに対して、低所得Ⅱでは31.4%、低所得Ⅰでは32.1%と高くなっています。5歳児でも同様に、一般層の34.1%や低所得層Ⅱの35.3%に対して、低所得Ⅰでは39.9%と高くなっています。

次に、自宅近くに子育てサークルや子育てひろばなどが「ある」と答えた人に対して、参加のしやすさを尋ねたところ(図5-2-3と図5-2-4)、全体で1歳児では約59%が「参加しにくい」または「参加したことがない」と答え、5歳児ではその割合は約70%になっていました。

1歳児には、この点について経済状況による差はないようですが、5歳児については、一般層(約71%)、低所得層Ⅱ(約66%)に対して、低所得Ⅰでは約73%と少し高く、特に低所得層Ⅱとの差が見られました。

この「参加しにくい」または「参加したことがない」理由を尋ねた結果が、図5-2-5と図5-2-6になります。

すると、全体では1歳児、5歳児ともに、「時間がない」の割合が一番高く(どちらも40%台)、次に「必要がない」が高い(どちらも30%台)ことがわかりました。1歳児については、「ほかの親子との関わりが面倒」というものも約24%あり高いこともうかがえました。

一方で、「時間がない」「必要がない」を選んだ方の割合には経済状況による差が見えました。「時間がない」については、1歳児では低所得層Ⅱ(34.7%)では他の層と比べ低いことがわかり、特に一般層(43.0%)との差(約8ポイント)が大きいことがうかがえました。5歳児でも同様の傾向が見えましたが他の層との差(3~4%)は小さくなっていました。また、「必要がない」については、1歳児、5歳児ともに一般層や低所得層Ⅱに比べ、低所得層Ⅰの1歳児で約10ポイント、5歳児では約13~14ポイントと低くなっていました。

図5-2-1 【1歳児】おうちの近所にお子さんと一緒に通える子育てサークルや子育てひろば(子育て支援センター)などの場はありますか。

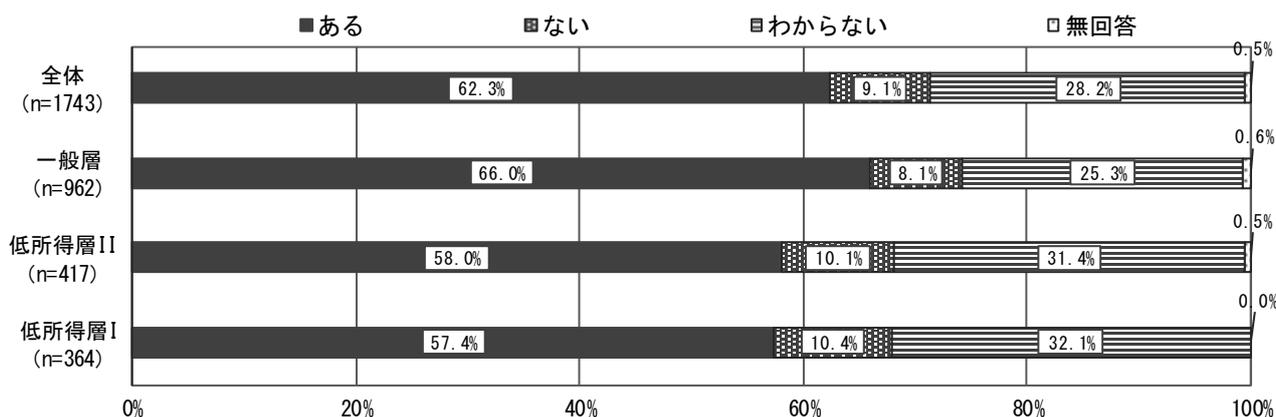


図5-2-2 【5歳児】おうちの近所にお子さんと一緒に通える子育てサークルや子育てひろば（子育て支援センター）などの場はありますか。

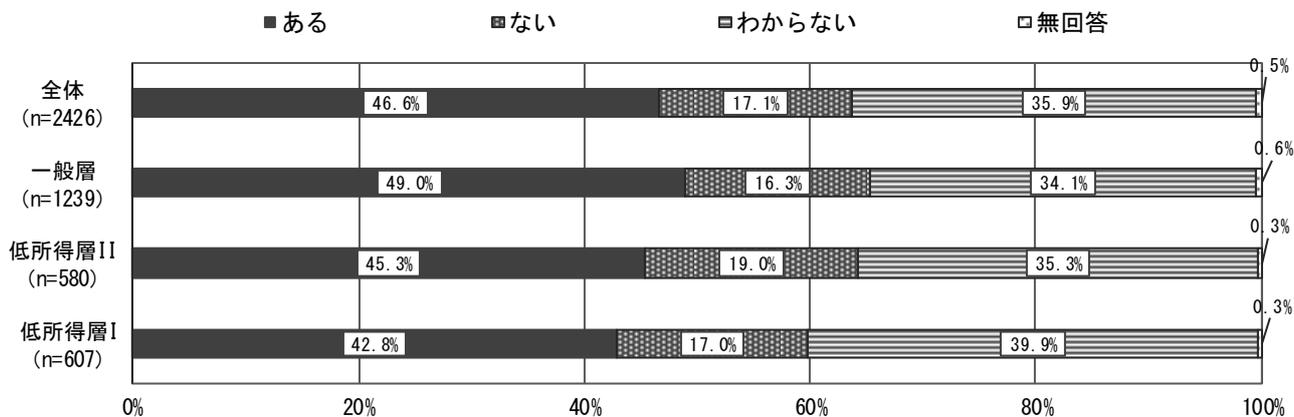


図5-2-3 【1歳児】その場は参加しやすいですか。

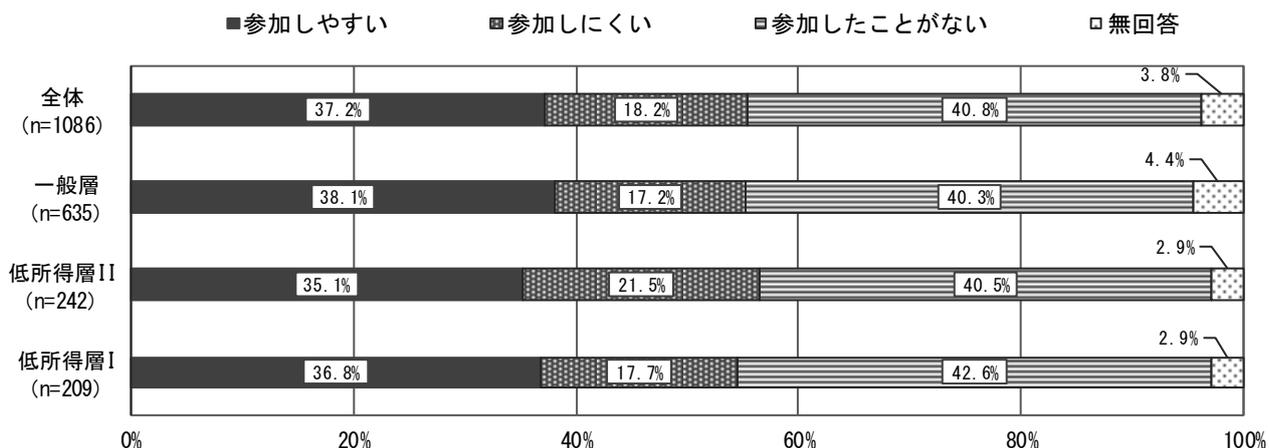


図5-2-4 【5歳児】その場は参加しやすいですか。

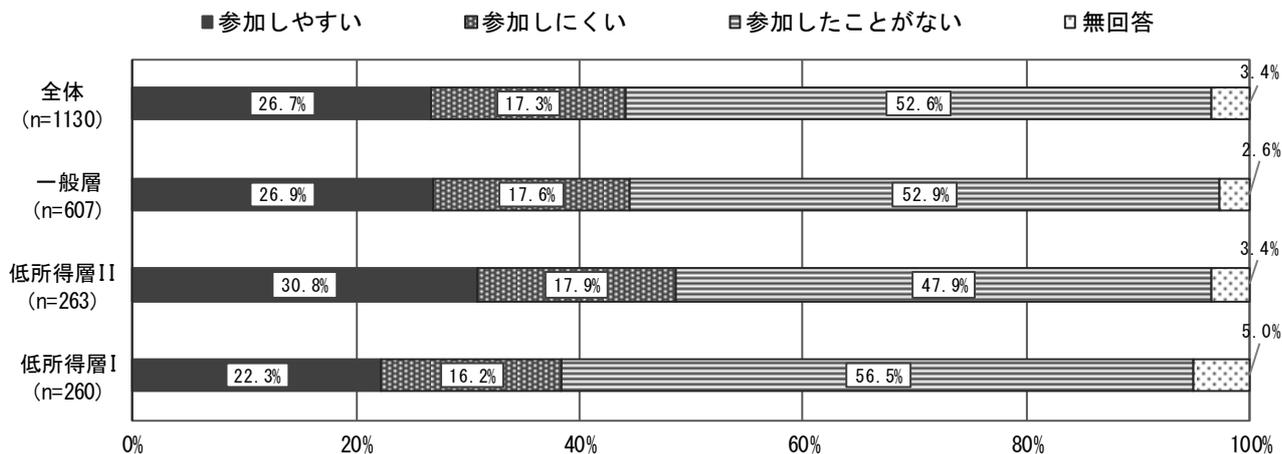


図5-2-5 【1歳児】「参加しにくい」「参加したことがない」と答えた方にお聞きします。
その理由を教えてください。（複数回答）

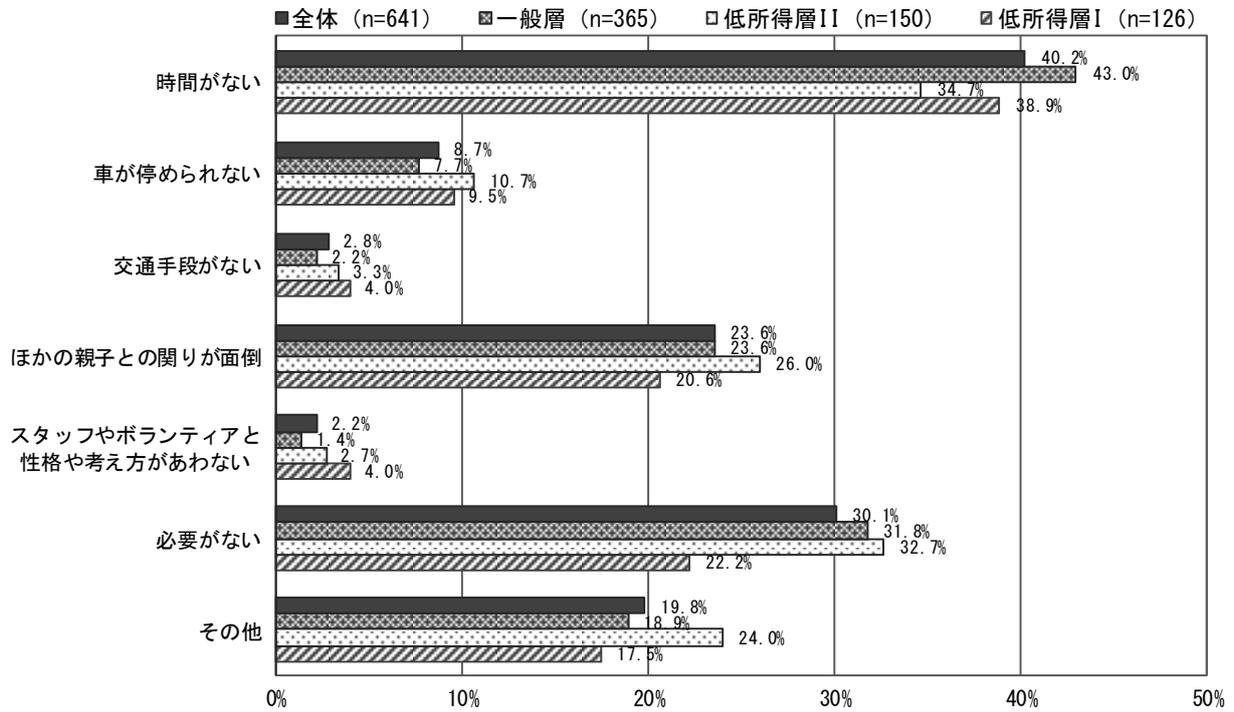
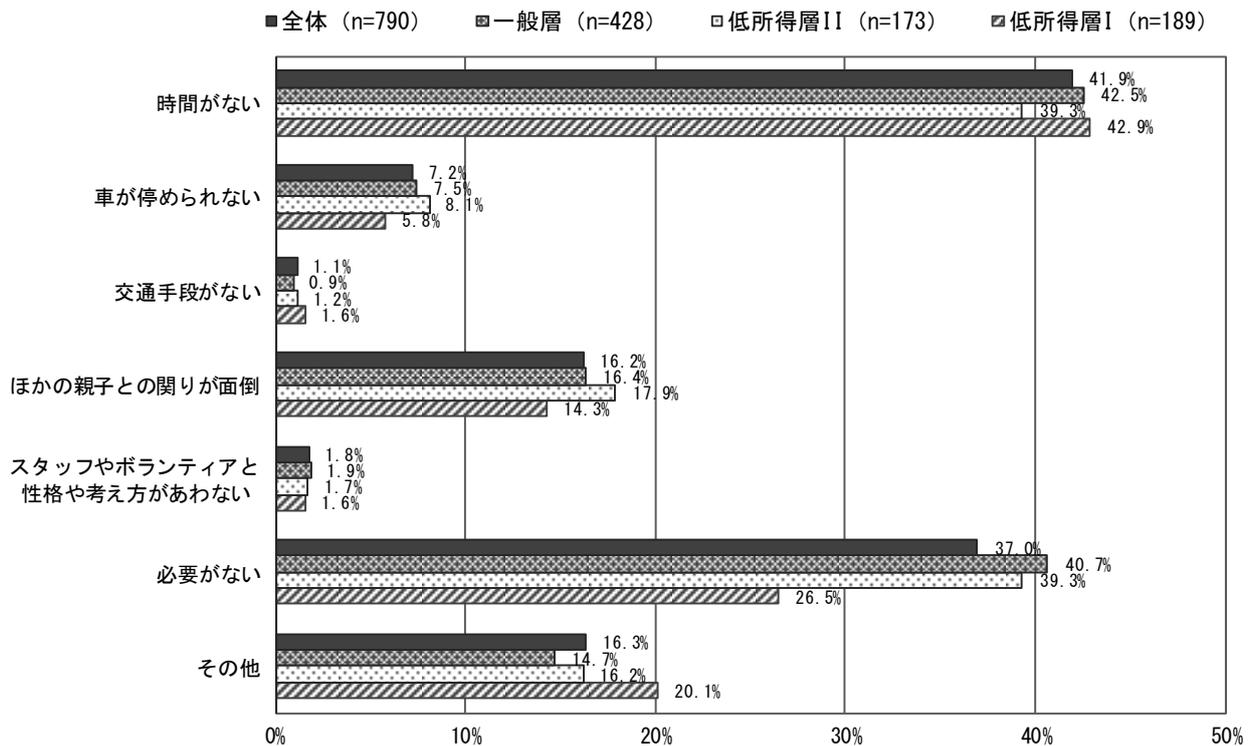


図5-2-6 【5歳児】「参加しにくい」「参加したことがない」と答えた方にお聞きします。
その理由を教えてください。（複数回答）



考 察

保護者の子どもへの関わりを見た図5-1-1から図5-1-8では、保護者が子どもとよく遊び関わりを持っていることがうかがえました。保護者が子どもとよく関わりを持てる休日に絞って見ると、1歳児の母親は全体で約82%の方が「よく遊ぶ」と答えており、「まったく遊ばない」方は1%未満です。1歳児の父親も全体で約73%が「よく遊ぶ」と答え、「まったく遊ばない」は約2%と少数です。休日の5歳児も母親は約62%が「よく遊ぶ」、「まったく遊ばない」は1%未満、父親も約58%が「よく遊ぶ」、約3%が「まったく遊ばない」です。休日に関しては、特に父親と母親の差が少なくなっており、父親が子どもと関わりを持っている状況がうかがえる数値でした。

一方で、特に平日に関しては、父母間でいわゆるジェンダー格差が顕著に見られました。平日の「よく遊ぶ」のみに注目してみると、1歳児全体の平日では、母親は約66%ですが、父親は約37%、5歳児平日では、母親は約41%、父親は約24%と大きな差があります。こうしたジェンダーギャップの傾向は全国的に見られるものですが、特に本県の場合、第1章で見たように、経済的な深刻さが影響をしていると考えられ、父親が長時間労働に従事しており、子どもに関われていないことが考えられます。

父親の休日に子どもへの関わりについては、ジェンダーギャップに加え、経済状況による差が見られ、低所得層ほど「よく遊ぶ」割合が減り、「まったく遊ばない」割合が増えていました。第1章で見られるように、本県では父親の1週間の労働日数や労働時間には経済状況による差があり、一般層に比べ低所得層は長い日数、長い時間の労働に従事する傾向が目立ちました。そのため、平日は経済状況に差はあまり見られないものの、休日になると差が見られるようになっているのではないのでしょうか。

育児に積極的に関わる父親のことをイクメンと指しており、そうした父親像が社会で求められています。一方でイクメン的な関わりができるのは、経済的に安定している層になりがちで、長時間労働に従事せざるを得ない低所得層の父親は、育児に関わることができにくい状況を生み出しているようです。母親の状況を含め、経済的にひっ迫している親たちに、子どもに対する育児時間を十分に保障できる社会づくりが求められているのでしょう。

本章後半では、子育てサークル等の状況についてうかがっています。

これらの分析からは、子育てサークルや子育てひろばがあるか「わからない」と答える割合には、経済状況に差が見られ、低所得層ではその割合が高くなる傾向が見えました。このことは、ひとつには低所得層は一般層に比較して、子育てサークル等についての情報が少ない点が影響しているのかもしれませんが。

また、子育てサークルへの参加のしやすさを尋ねた質問では、「参加しにくい」または「参加したことがない」と答えた割合が、5歳児の低所得層Iで少し高い傾向が見えましたが、その理由は、図5-2-6からは、見て取ることができないように思われます。図5-2-6からわかるように「その他」の割合も高く、今回の分析の選択肢では把握が困難な理由があるように見受けられます。ただ、低所得層Iの方がこうした場を必要としていることはうかがうことができ、そうした点も含め今後の調査等で明らかにしていく必要があります。

第 6 章

地 域・社 会 と の つ な が り

第6章 地域・社会とのつながり

◆6-1 地域行事への参加

祭りや清掃活動など、地域行事への参加度を経済状況別に比べてみたところ、1歳児（図6-1-1）では、「よく参加している」「時々参加している」の合計となる参加率が何れの所得層も32.8～35%と有意差はなく、「あまり参加していない」「参加していない」という不参加率も同様の結果となりました。

5歳児（図6-1-2）では低所得層Ⅱの参加率が46.8%と高いほか、全体でも45.5%となるなど全所得層で1歳児を10ポイントほど上回っています。「参加していない」とする人も全体で12.2ポイントも減少しています。

図6-1-1 【1歳児】地域の行事（祭りや清掃活動など）に参加していますか。

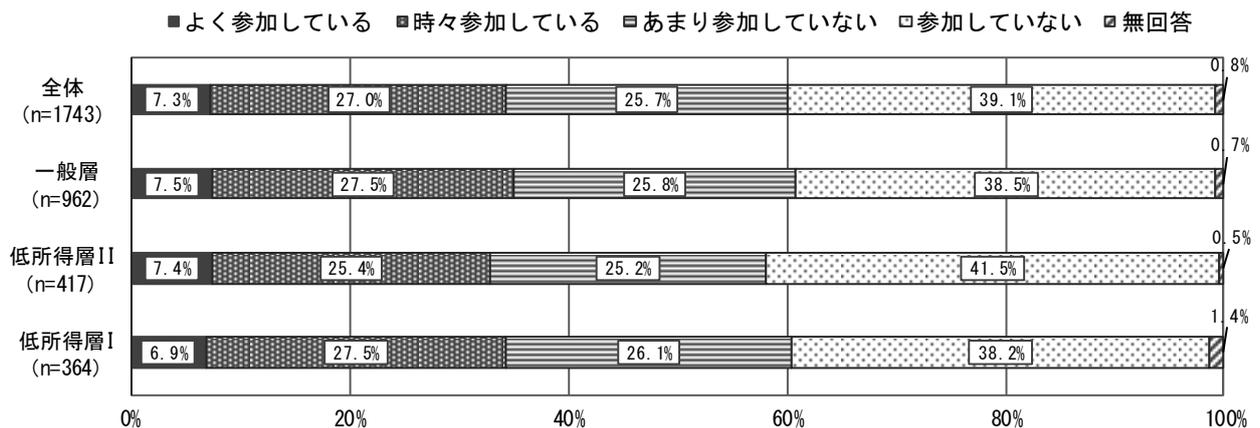
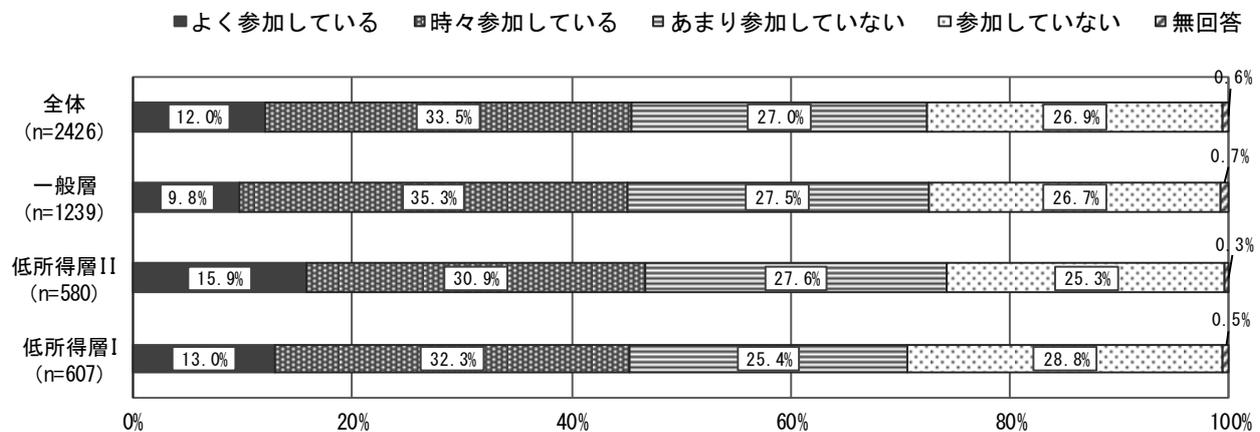


図6-1-2 【5歳児】地域の行事（祭りや清掃活動など）に参加していますか。



◆6-2 相談相手の有無・孤立感

子育ての悩みを相談する友人・知人の数を所得層別にみると、1歳児（図6-2-1）では「たくさんいる」「ある程度いる」が一般層83.6%、低所得層Ⅱ81.3%、低所得層Ⅰ75.6%と徐々に下がっています。逆に、「あまりいない」「まったくいない」が15.4%、18.2%、22.8%と増えています。5歳児（図6-2-2）では「たくさんいる」が19%あまりで所得差がありませんが、「ある程度いる」とした回答は徐々に下がり、「あまりいない」「まったくいない」が増えています。5歳児にまったく頼れる友人・知人がいないと回答した人が低所得層Ⅰで4.1%となりました。さらに、これを過去に沖縄県で実施した小中学生調査、高校生調査と比べると、未就学児から小中学生において低所得層（＝困窮層）層（＝低所得層Ⅰ）が小学1年生を除き、概ね20%前後で、非困窮層より5%ほど高いことがわかります（図6-2-3）。

子育てで感じる孤独感については、1歳児（図6-2-4）で「よくある」「時々ある」が一般層23.0%、低所得層Ⅰ34.9%、5歳児（図6-2-5）では同様に25.4%、33.1%、「あまりない」「まったくない」が一般層73.6%、低所得層Ⅰ66.4%とそれぞれ増減しています。孤独感がよくあるとの回答が低所得層Ⅰの1歳児に8.0%、5歳児に8.6%となりました。

図6-2-1 【1歳児】子育てについての悩みを相談したり頼ったりできる友人・知人はいますか。

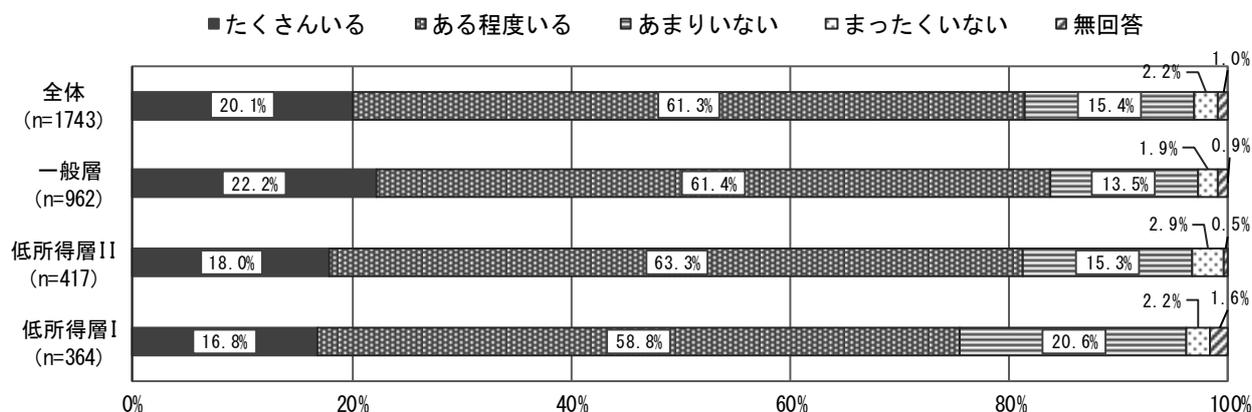


図6-2-2 【5歳児】子育てについての悩みを相談したり頼ったりできる友人・知人はいますか。

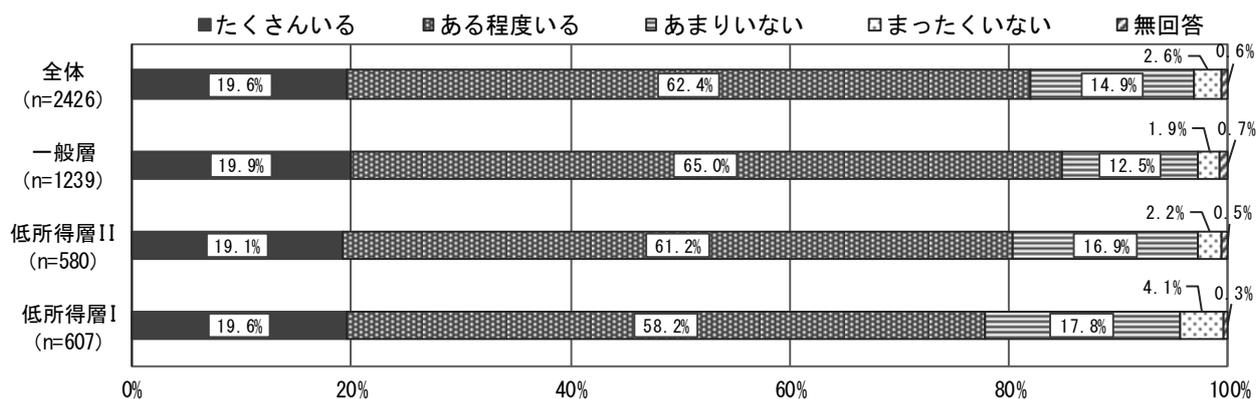
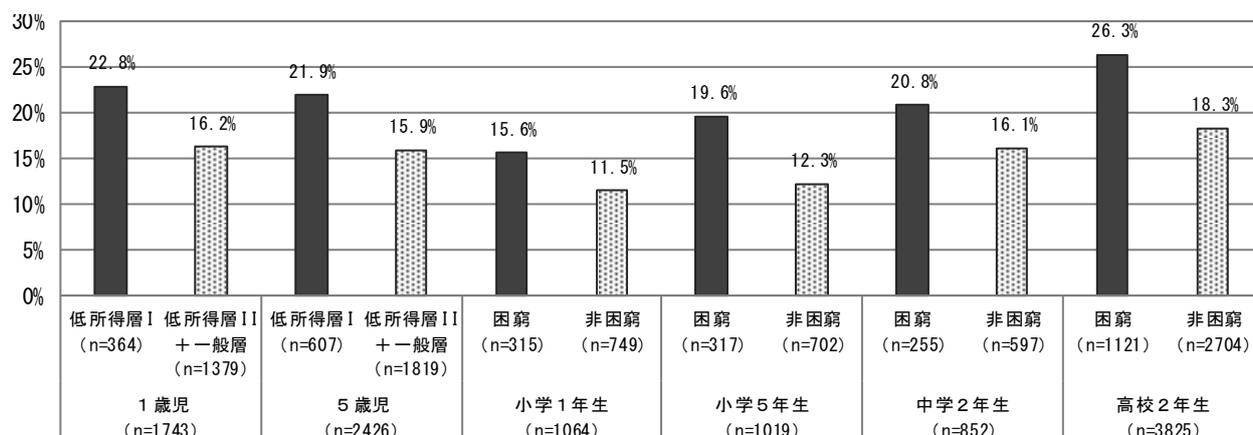


図6-2-3 子育てについての悩みを相談したり頼ったりできる友人・知人はいますか。
—「あまりいない」「まったくいない」の割合—



※ 小中学生、高校生調査では、「子育てや教育についての悩みを相談したり頼ったりできる友人・知人はいますか」となっており、未就学児調査の質問内容と若干異なる。

図6-2-4 【1歳児】子育ての中で、自分一人で育てているという孤独感を感じることはありませんか。

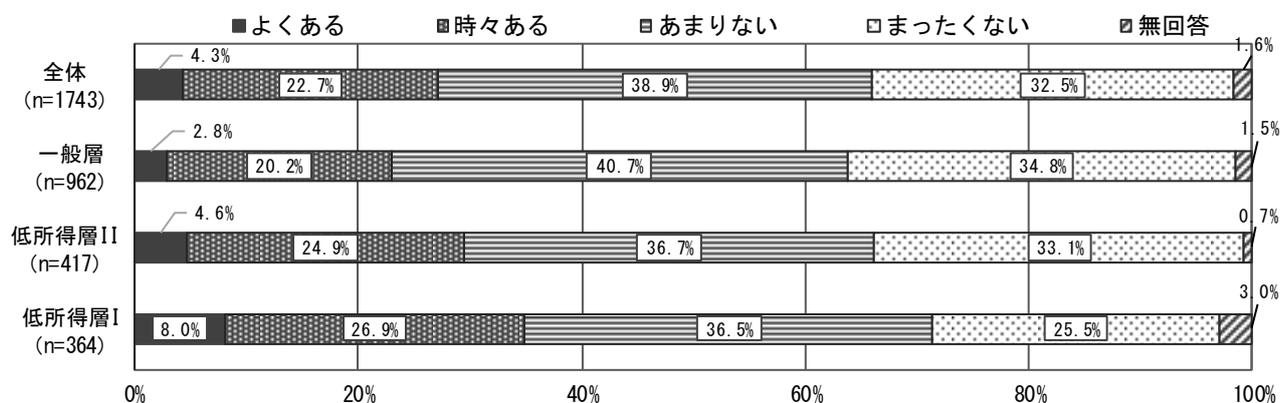
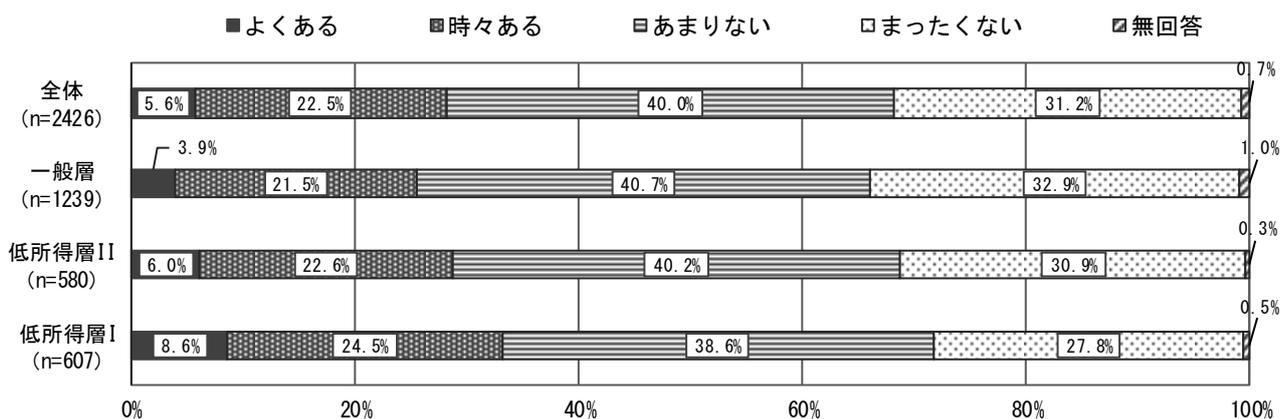


図6-2-5 【5歳児】子育ての中で、自分一人で育てているという孤独感を感じる事はありませんか。



◆6-3 緊急時に子どもの面倒を見てくれる人

事故や病気の時、代わりに子どもの面倒を見てくれる人について尋ねると、1歳児（図6-3-1）では、どの所得層でも子どもの「祖父母」が8割を超えて頼られていて、約1割が「面倒を見てくれる人がいない」ことがわかります。5歳児（図6-3-2）では低所得層Iで「祖父母」が約75%に下がり、「おじ・おば」と「面倒を見てくれる人がいない」が増加しています。

図6-3-1 【1歳児】もしも事故や病気などで入院するなどの緊急事態において、お子さん（きょうだい含む）の面倒をみられなくなった場合に、代わって子どもの面倒を見てくれる人はいますか。

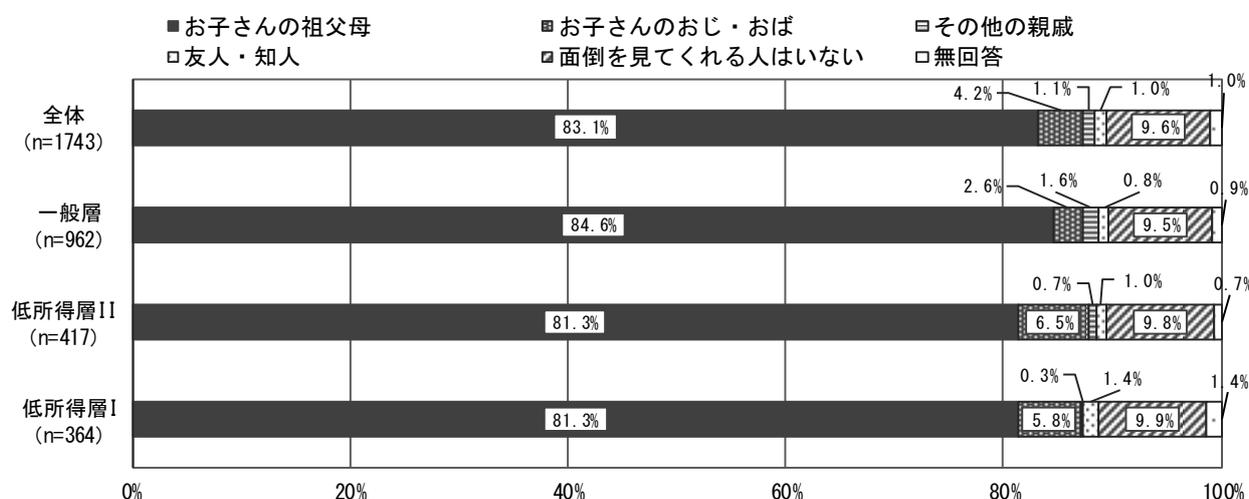
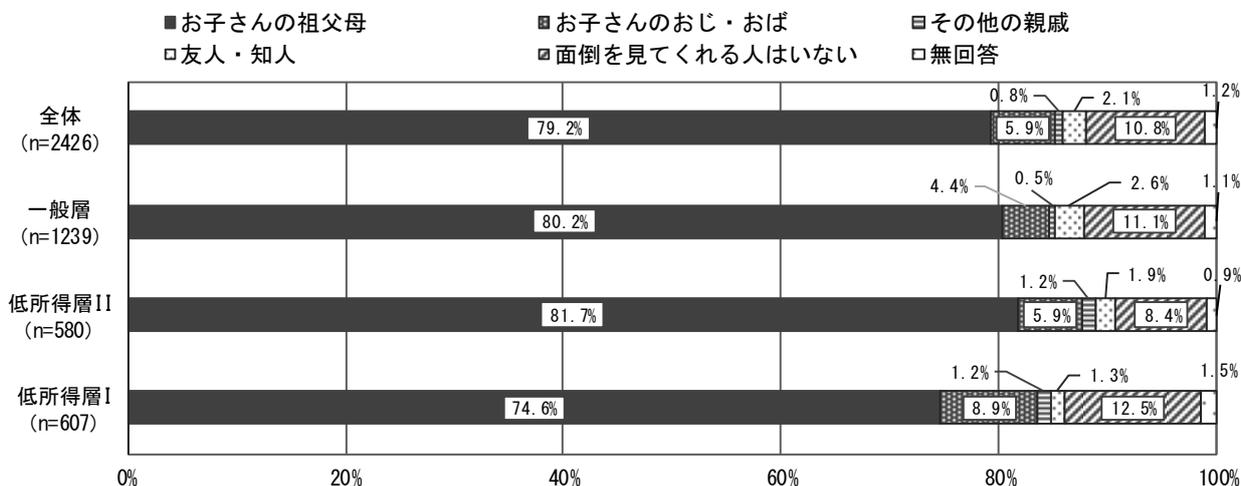


図6-3-2 【5歳児】もしも事故や病気などで入院するなどの緊急事態において、お子さん（きょうだい含む）の面倒をみられなくなった場合に、代わって子どもの面倒を見てくれる人はいますか。



考 察

祭りや清掃活動など、地域行事への参加度については、経済状況による差はみられません。生活を送る上で人付き合いが重視され、そのため、地域行事の優先度が高く、所得の差に関係なく参加が求められることが背景にあると考えられます。5歳児では1歳児よりも全体的に10ポイントほど高い参加率となっていますが、この世代は第2子第3子が生まれている可能性があり、保育所や幼稚園を通じた親の間のつながり、習い事や児童館など地域資源を通じた行事などの参加が増えることが背景にあると考えられます。

子育ての悩みを相談する友人・知人について、1歳児では「たくさんいる」と答えた人は所得が下がるにつれ減り、「あまりいない」と答えた人が増えていました。その背景としては、低所得者層において、就労環境の厳しさや子どもを通じた付き合いの少なさなどがあると考えられます。

一方、5歳児では「たくさんいる」と答えた人は一定で所得差がありませんが、「ある程度いる」とした回答は徐々に下がり、「あまりいない」「まったくいない」が増える傾向には1歳児と同様な背景があると考えられます。5歳児に頼れる友人・知人がまったくいないと回答した人が低所得層Ⅰで4.1%いたという点は重要で、一人で悩み、孤立を深めて、ネグレクトに直結するハイリスクな家庭として捉える必要があると考えられます。

また、子育ての悩みを相談する相手の有無を小学1年生、5年生、中学2年生、高校2年生と比べると、困窮層（＝低所得層Ⅰ）でも、小学校入学時には、PTAといった人間関係が増えるためか、一旦改善していますが、その後、所得による差が開いています。学校を通じた親同士の関係は子どもが大きくなると低下しますが、低所得層では付き合い（親の参加）が減り、その差が現れていると考えられます。

所得層Ⅰでは、子育てで感じる孤独感についても、1歳児で「よくある」「ときどきある」が34.9%に上り、5歳児でも33.1%と3人に1人が感じていることとなります。背景は「子育ての悩みを相談できる友人・知人」と同様な理由であると考えられますが、そもそも、どのように悩みを訴えてよいのかがわからない親たちの存在もであると想定されます。孤独感がよくあるとの回答が低所得層Ⅰの1歳児に8.0%、5歳児に8.6%あるという点を深刻に受け止め、しっかり寄り添って、支援していく必要があります。

事故や病気の時、代わりに子どもの面倒を見てくれる人は、1歳児では、経済状況に関係なく、「祖父母」が8割を超えています。約1割が「面倒を見てくれる人がいない」とあり、安心して子育てするには不安があるという人が1割もいるということになります。5歳児では低所得層Ⅰで「祖父母」が減り、「おじ、おば」と「面倒を見てくれる人がいない」が増加しているのは、離婚などによる親族関係の変化だと考えられます。多子となると一時的でも預かり先を確保することが難しくなり、不安がさらに増える可能性があります。

全体的には地域との関係を保っている家庭が多いという印象でしたが、孤独感がよくある親や自分の代わりに面倒を見てくれる人がいないとする親が一定程度いることから、乳児家庭全戸訪問事業や保健師による家庭訪問指導では拾えていないであろう、こうしたリスクを抱えている親に対するサポート体制を今一度考えなければなりません。

親の相談相手の必要度は、子どもの年齢が上がるとさらに高まることから、妊娠期から出産・子育て期に渡り出てくる様々なニーズに対し、相談や支援など総合的に対応する母子健康包括支援センター※等を中心とした体制の整備が望まれます。

※ 保健師等の専門職を配置し、妊娠期から子育て期にわたり切れ目のない支援を総合的にワンストップで受けられるシステム。

第 7 章

健 康

第7章 健康

◆7-1 保護者の健康状況

図7-1-1と図7-1-2は、保護者の健康状況を尋ねた結果を示すものです。全体で見ると、「健康である」と答えた割合は、1歳児・5歳児の保護者とも8割程度でしたが、定期的に通院している割合は、1歳児（約10%）に比べ5歳児の保護者（約13%）で若干高くなっています。

図7-1-3と図7-1-4は、「過去1か月の間に健康上の問題で寝込んだり仕事や家事ができなかった経験」の割合を示すものです。全体では1歳児、5歳児ともに約18%でそうした経験があると答えています。

経済状況による「健康である」と答えた割合の違いは、1歳児と5歳児の保護者で少し異なります。1歳児では、低所得層Ⅰと一般層・低所得層Ⅱで7ポイントほどの差がありますが、5歳児では低所得層Ⅰ・Ⅱと一般層で3ポイントと差が小さくなっていました。しかし、1歳児においても低所得層Ⅰと一般層における差はそれほど大きいとは言えず、経済状況と「健康である」と答えた割合の関連性はそれほど高いとは言えないでしょう。

「定期的に通院している病気がある」や「通院していないが体調が悪い」なども、1歳児の保護者において若干低所得層Ⅰで高い傾向がありますが、5歳児では経済状況による差は見られませんでした。「過去一か月の間に健康上の問題で寝込んだり、仕事や家事ができなかった経験」については、1歳児の保護者では一般層（約16%）と低所得層Ⅰ（約23%）と7ポイントの差がありますが、5歳児ではその差は3ポイントと小さくなっていました。

図7-1-1 【1歳児】あなたの現在の健康状態などを教えてください。（複数回答）

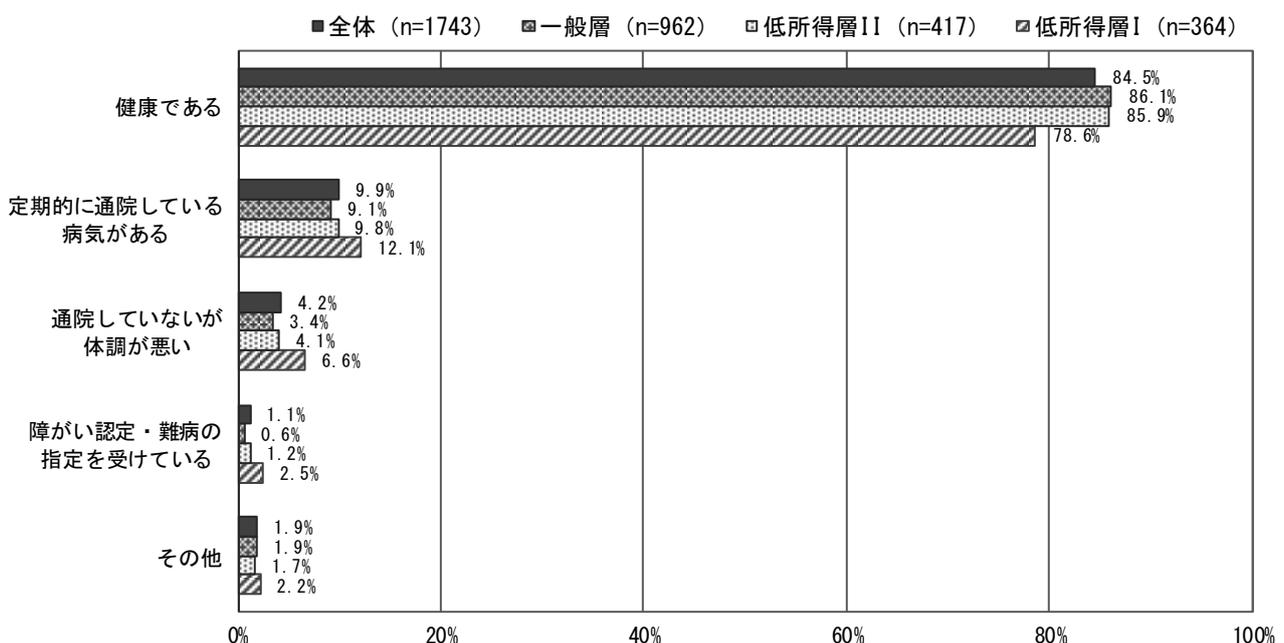


図7-1-2 【5歳児】あなたの現在の健康状態などを教えてください。（複数回答）

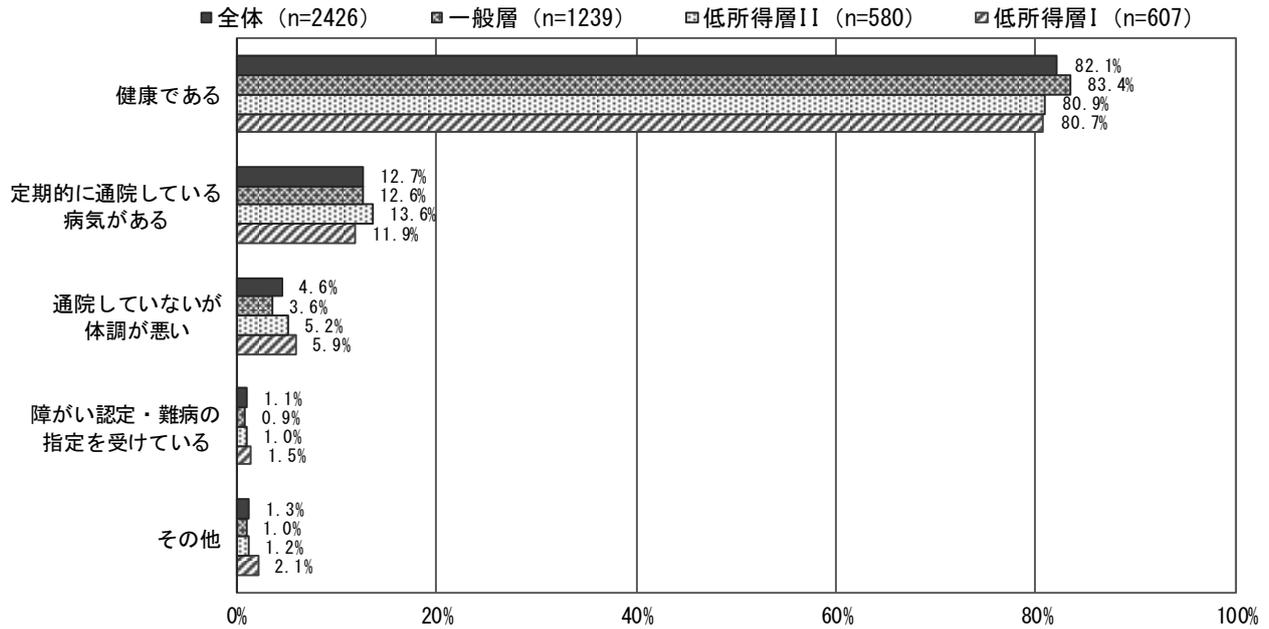


図7-1-3 【1歳児】過去一か月の間に、健康上の問題で寝込んだり、普段の活動ができなかった（仕事や家事などができなかった）日はありますか。

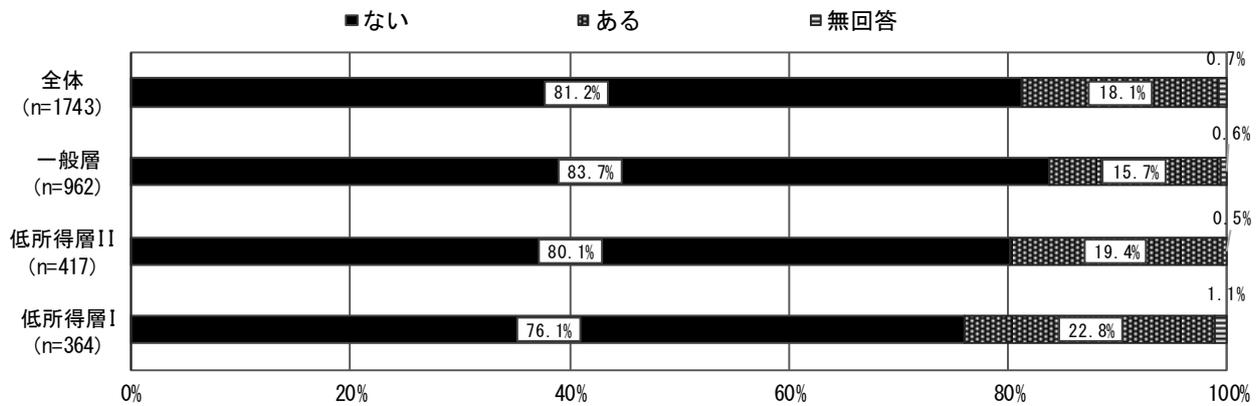
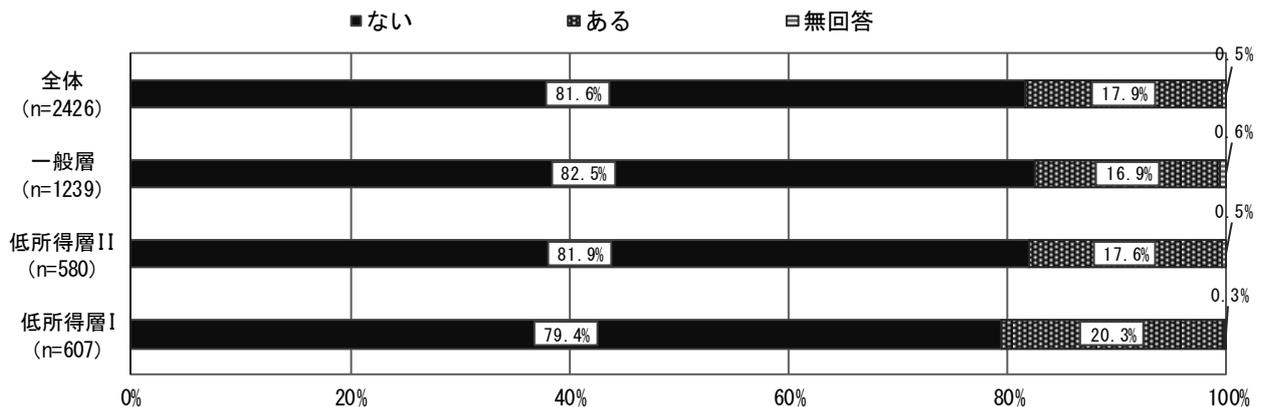


図7-1-4 【5歳児】過去一か月の間に、健康上の問題で寝込んだり、普段の活動ができなかった（仕事や家事などができなかった）日はありますか。



◆7-2 抑うつ指標

本調査では、K6 という指標を活用して保護者の抑うつ傾向を見えています。K6 指標は、国民生活基礎調査でも用いられているもので、一般の方の抑うつ傾向を測定する代表的なツールのひとつです。最近では、災害後における一般住民のメンタルヘルスの状況把握に活用されることが提案されています。K6 は、過去 30 日間での心の状況を 6 つの質問で尋ね（それぞれ 5 段階での選択肢）、点数の合計点を算出します（ひとつの質問ごとに 0 点から 4 点。合計は 0 点から 24 点になる。高くなるほど抑うつ状態が強いことを示す。なお、ひとつの質問でも無回答の場合は分析から外している）。また、K6 にはいくつかの基準点が提案されていますが、川上・高野(2015)（※95 ページ参照）では、5 点以上を「心理的ストレス反応相当」、9 点および 10 点以上を「気分・不安障害相当」、13 点以上を「重症精神障害相当」（社会機能障害がおきる気分・不安・物質使用障害相当）が一般集団に対する基準点として提示されています（ただし、「それぞれの基準点につけられた呼び方は、その得点を超えると回答者がその状態にあることを必ずしも意味していない」（川上・高野(2015)）とされ、一般的な傾向と考えるべきであろう）。

なお、この分析における「保護者」（調査票の回答者）には母親が多いことも留意するべきかもしれません（回答者については、7 ページ参照）。

ここでは、それぞれの基準点以上にある保護者の割合を図 7-2-1 以下で示しています。全体では、1 歳児で 27.7%が「心理的ストレス反応相当」に、12.0%が「気分・不安障害相当」（9 点以上）、9.0%が「気分・不安障害相当」（10 点以上）、4.6%が「重症精神障害相当」という結果になっています。5 歳児全体では、「心理的ストレス反応相当」が 30.3%、「気分・不安障害相当」（9 点以上）が 13.2%、「気分・不安障害相当」（10 点以上）が 11.0%、「重症精神障害相当」が 5.4%となっています。

経済状況によって抑うつ傾向には違いが見られ（図 7-2-1、図 7-2-2）、どの基準点でも、一般層と比較して低所得層 I では該当する割合が高くなっています。1 歳児、5 歳児の低所得層 I では、「心理的ストレス反応相当」が 36~37%、「気分・不安障害相当」（9 点以上）19~21%、「気分・不安障害相当」（10 点以上）が 13~17%、「重症精神障害相当」が 8~9%となっています。

また、世帯状況によっても違いが見られ（図 7-2-3、図 7-2-4）（1 歳児では、サンプル数の制限があり、ふたり親全体とひとり親全体での比較を行っていますが、5 歳児ではそれに加え、2 世代世帯のふたり親世帯とひとり親世帯の数値を掲載）、どの基準点でも、ふたり親世帯全体と比較してひとり親世帯全体では割合が高くなっています。ひとり親世帯全体では、「心理的ストレス反応相当」が 40~44%、「気分・不安障害相当」（9 点以上）が 20~26%、「気分・不安障害相当」（10 点以上）が 16~22%、「重症精神障害相当」が約 12%となっています。特に、5 歳児のデータからは、「気分・不安障害相当」や「重症精神障害相当」という抑うつ状態がより深刻な方の割合にふたり親との間で差が特に広がっていることが見えます。また、こうした状況は 5 歳児の 2 世代を分析するとより深刻な状況であることがうかがえます。2 世代のひとり親世帯の数値は、2 世代のひとり親がかかえる精神的な状況の厳しさを反映している結果であると言え、またこれらの数値の高さから経済状況以上に世帯による違いは大きいと推察されます。

図7-2-1 【1歳児】 保護者の抑うつ傾向

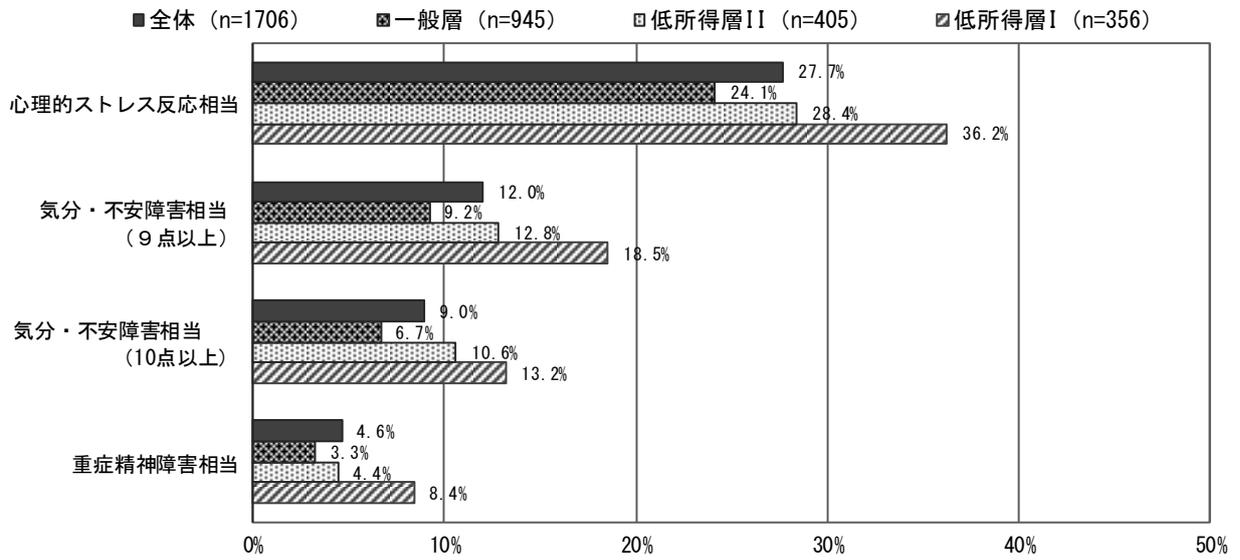


図7-2-2 【5歳児】 保護者の抑うつ傾向

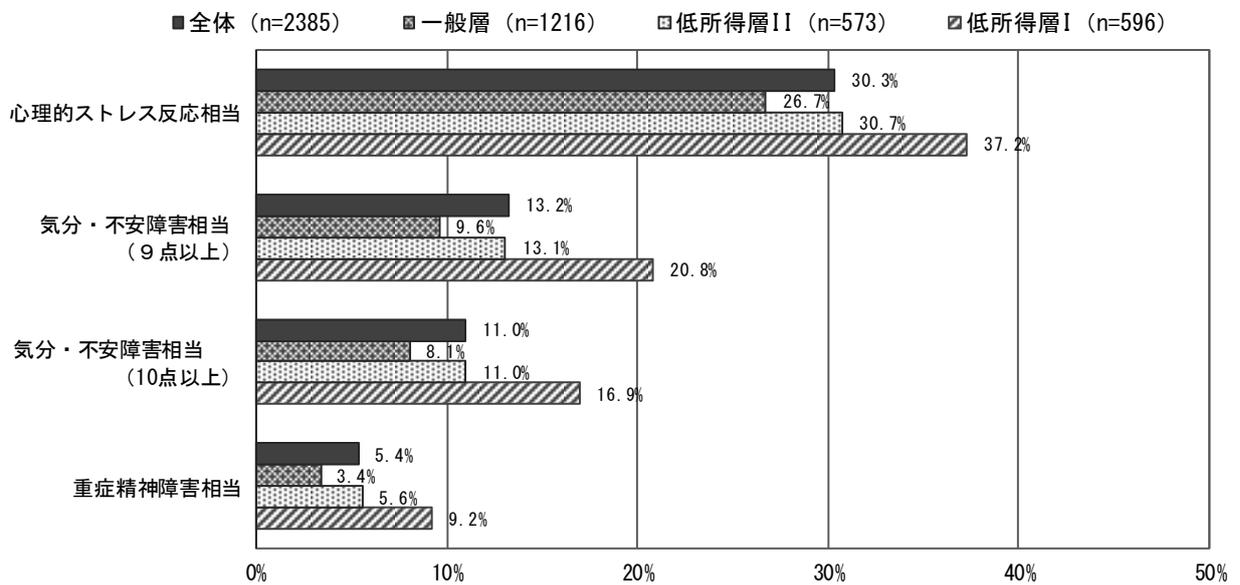


図7-2-3 【1歳児】保護者の抑うつ傾向（世帯類型別）

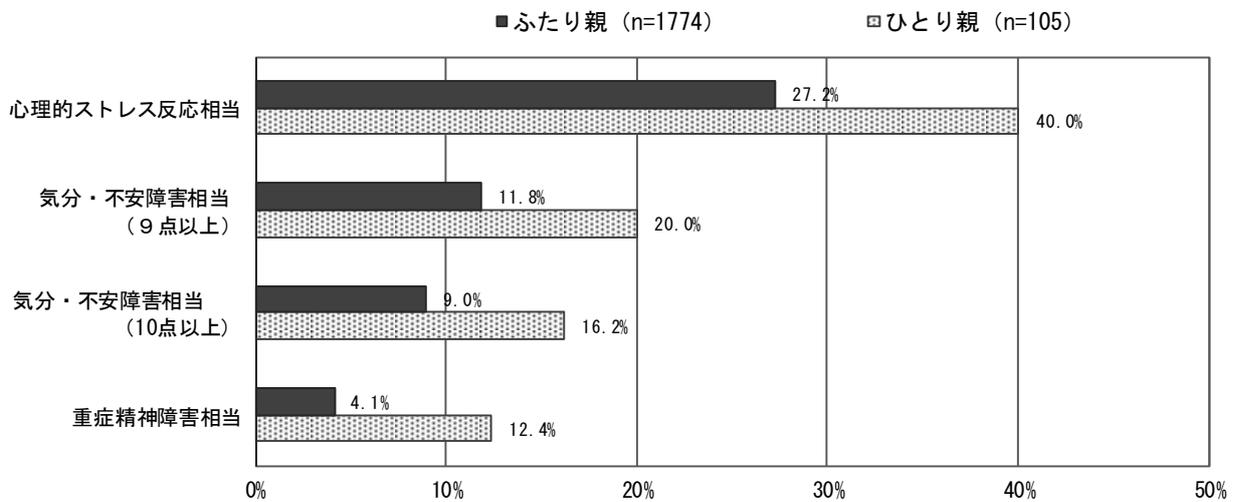
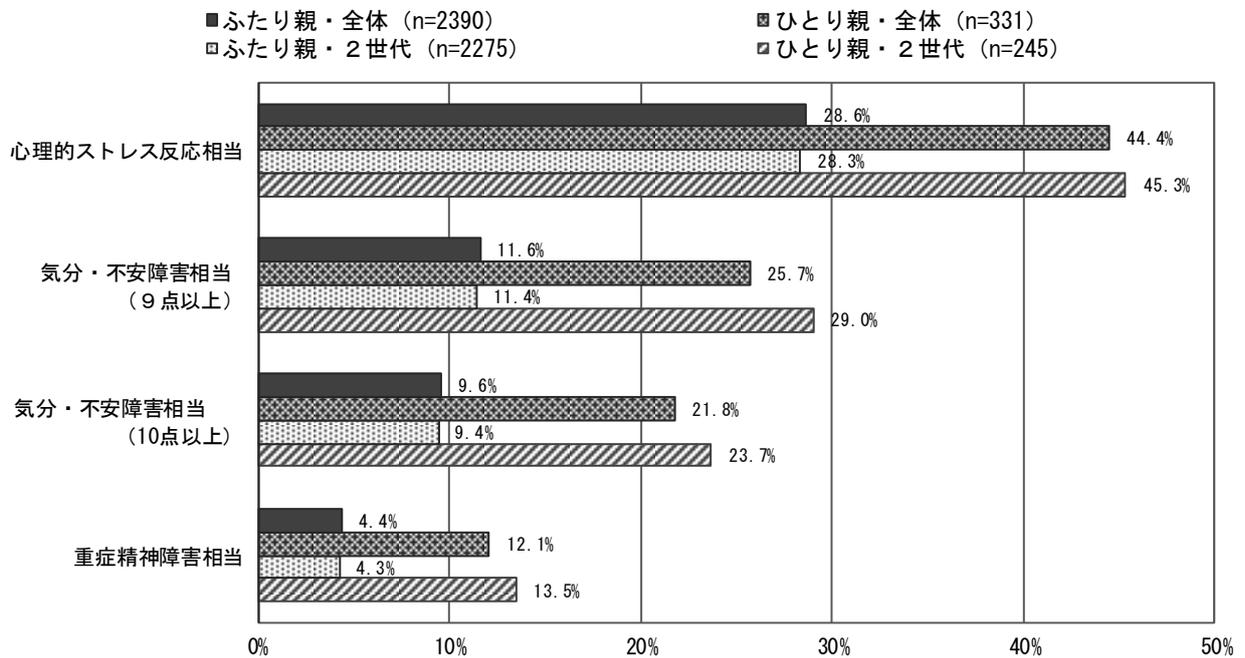


図7-2-4 【5歳児】保護者の抑うつ傾向（世帯類型別）



◆7-3 子ども（きょうだいを含む）の健康状況

対象となる子どもの健康状況は、全体的には1歳児も5歳児も約9割が「健康である」と答えており、ほとんどの子どもが健康に過ごしていることがわかります。一方で、「定期的に通院している病気がある」と答えている割合は全体で8～9%存在することもうかがえます。

経済状況による子どもの健康状況の違いは1歳児も5歳児もほとんど見られません。健康である割合も、病気や障がいの割合にも大きな差はないと言えます。

ほかの子ども（きょうだい）については、全体で1歳児、5歳児ともに、きょうだいが「みんな健康である」と答える割合は80%台に及んでいます。「定期的に通院している子がいる」割合は9～10%となっています。

経済状況によるきょうだいの健康状況の違いは、非常に小さなものですが、対象となる子どもの場合と比べ、「みんな健康である」割合は、一般層に比べ低所得層Ⅰでは1歳児の場合で3ポイント、5歳児の場合で4ポイントの差があります。「定期的に通院している子がいる」割合も一般層に比べ低所得層Ⅰでは1歳児で2ポイントの差があり5歳児の場合も4ポイントの差があります。

「発達に遅れのある子がいる」割合にも同様に若干差が見られます。ただし、全体的に一般層と低所得層における差は大きいとは言えず、経済状況ときょうだいの健康状況の関連性はそれほど高いとは言えないでしょう。

図7-3-1 【1歳児】お子さんの健康状態などを教えてください。（複数回答）

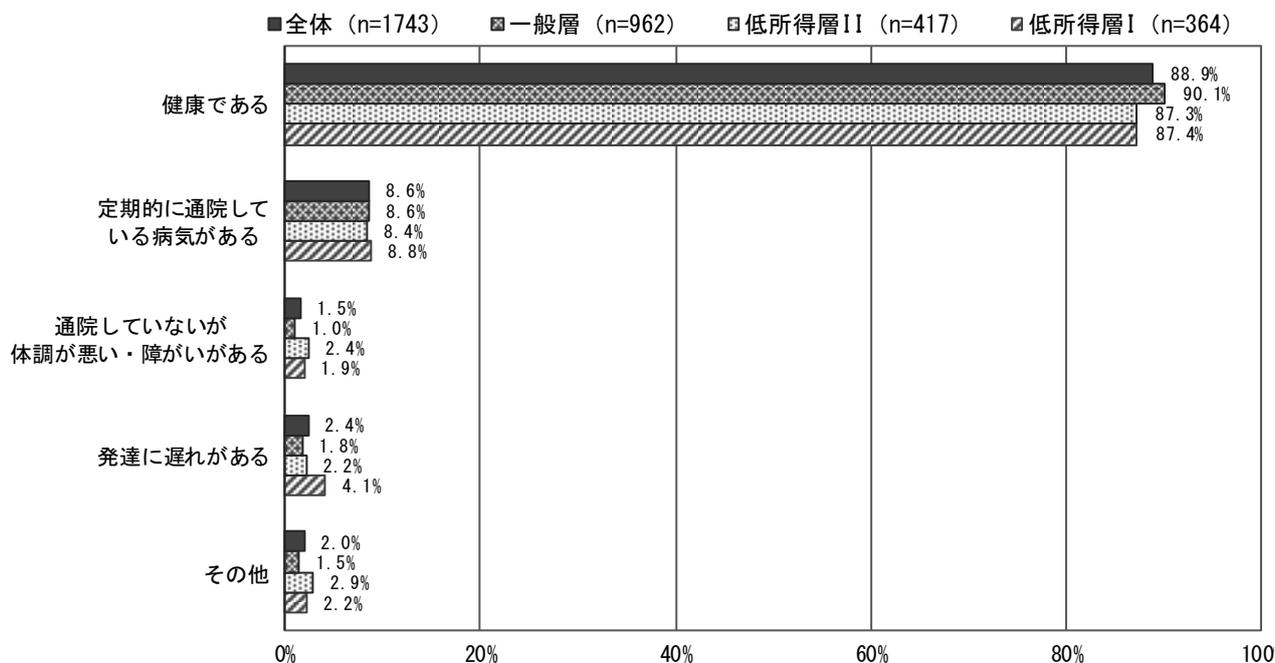


図7-3-2 【5歳児】お子さんの健康状態などを教えてください。（複数回答）

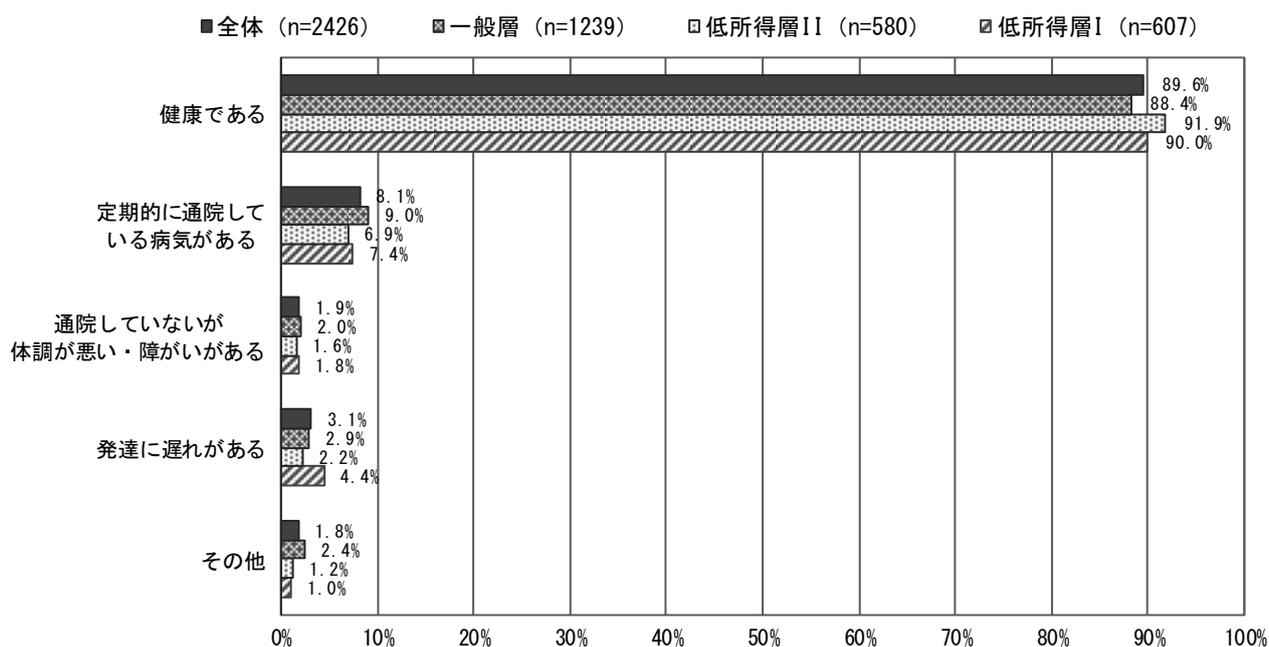


図7-3-3 【1歳児】ほかのお子さん（きょうだい）の健康状態などを教えてください。（複数回答）

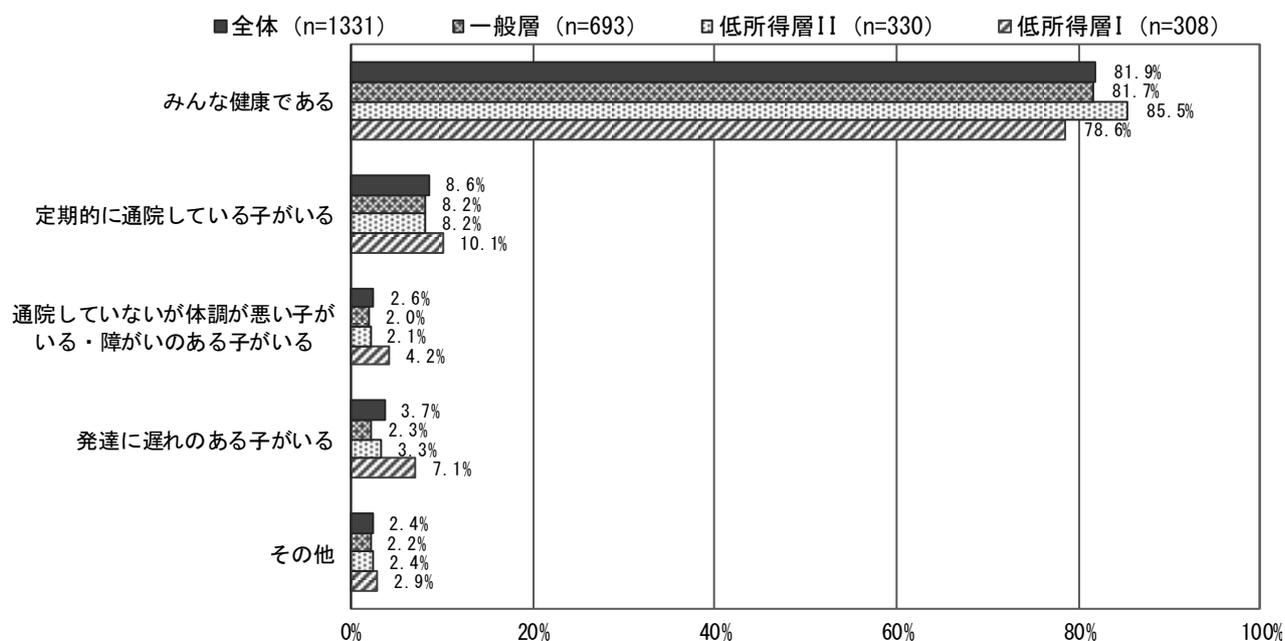
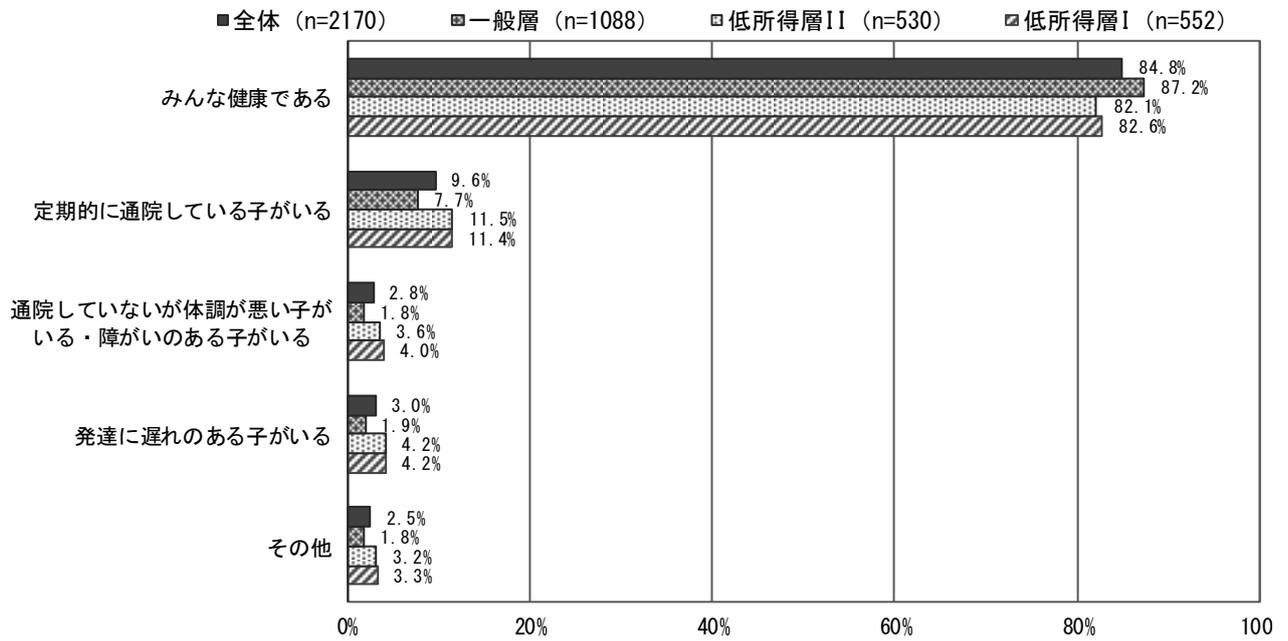


図 7-3-4 【5歳児】ほかのお子さん（きょうだい）の健康状態などを教えてください。
 (複数回答)



◆7-4 子どもを受診させられなかった経験（受診抑制）①

過去一年間に、子ども（きょうだいを含む）を病院や歯医者を受診させられなかった経験（受診抑制）について尋ねた結果が図7-4-1と図7-4-2になります。全体では、1歳児で13.4%、5歳児では20.2%がそうした経験があったと答えています。

また、こうした受診抑制の経験には、経済状況による差が見られました（図7-4-1、図7-4-2）。1歳児では、一般層では10.0%でしたが、低所得層Ⅱでは16.8%、低所得層Ⅰでは18.7%と高くなっていました。5歳児では、一般層では15.5%でしたが、低所得層Ⅱでは22.2%、低所得層Ⅰでは27.7%と高くなっていて、1歳児に比べても一般層と低所得層Ⅰの差が広がっていました。

さらに、図7-4-3、図7-4-4では世帯状況による違いを見ています（1歳児の状況を見ている図7-4-3では、ひとり親世帯の3世代世帯（祖父母等の同居）はサンプル数が少なかったことからひとり親世帯とふた親世帯のみでの分析を行っている）。すると、1歳児では、ふたり親世帯に比べひとり親世帯では若干受診抑制の割合が高いことがうかがえました（2.5ポイントの差）が大きな違いとは言えないものでした。一方、5歳児では祖父母等の同居のない2世代のひとり親世帯では、他の世帯類型と比べ受診抑制の割合に大きな違いがあることがわかりました。他の3つの類型と8～10ポイントの差がありました。

図7-4-5は、過去に沖縄県が実施した小中学生調査と高校生調査と比較したものです。質問内容が若干異なるため単純に比較はできませんが、受診させなかった経験が「あった」と答えた割合は、「低所得層Ⅰ／困窮」においては5歳児が27.7%と最も高く、1歳児も小学5年生の20.5%に次いで18.7%と高くなっています。

図7-4-1 【1歳児】過去一年間に、お子さん（きょうだいを含む）を病院や歯医者で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか。

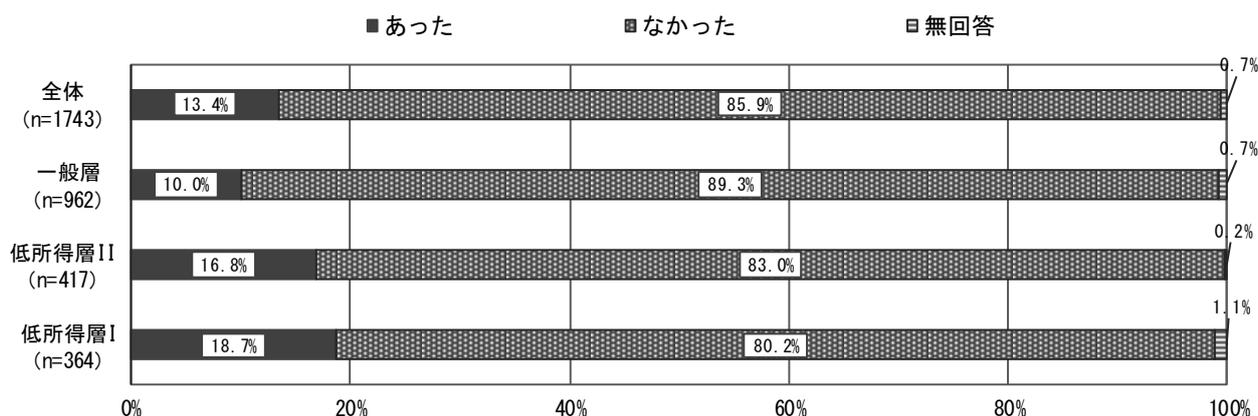


図 7-4-2 【5歳児】過去一年間に、お子さん（きょうだいを含む）を病院や歯医者で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか。

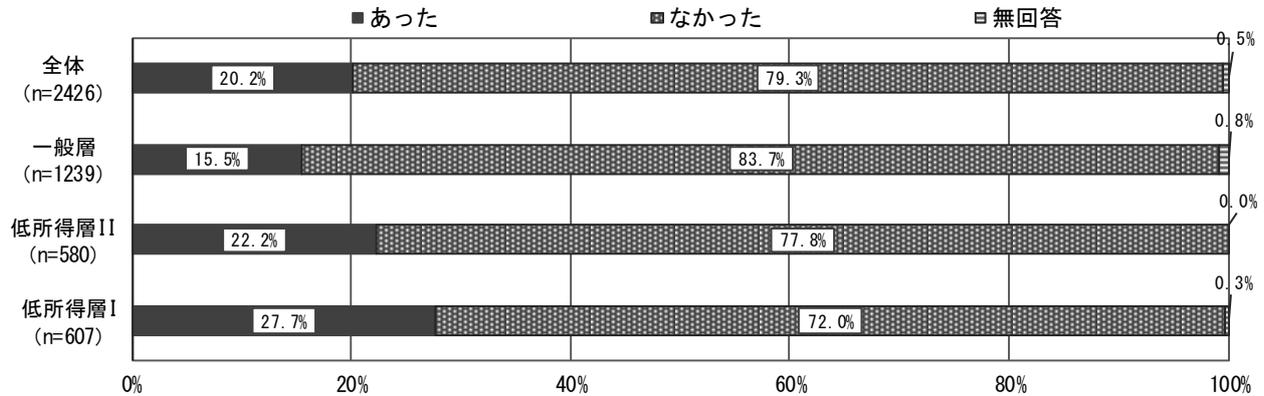


図 7-4-3 【1歳児】過去一年間に、お子さん（きょうだいを含む）を病院や歯医者で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか。
(世帯類型別)

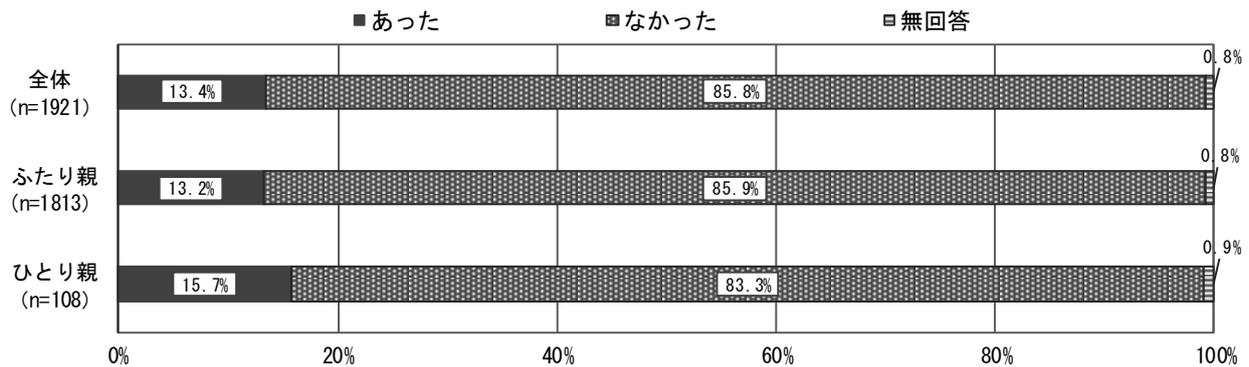


図 7-4-4 【5歳児】過去一年間に、お子さん（きょうだいを含む）を病院や歯医者で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか。
(世帯類型別)

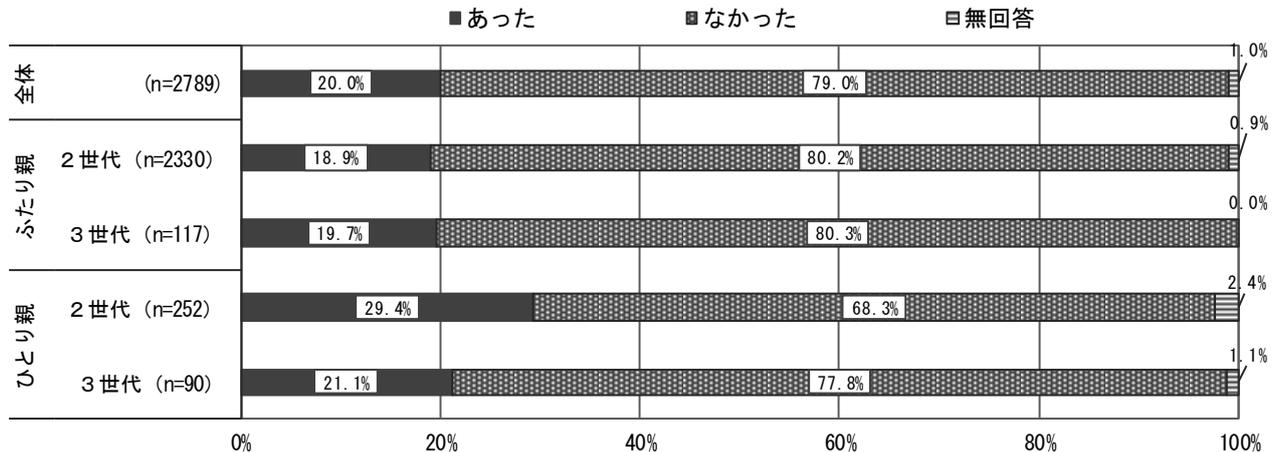
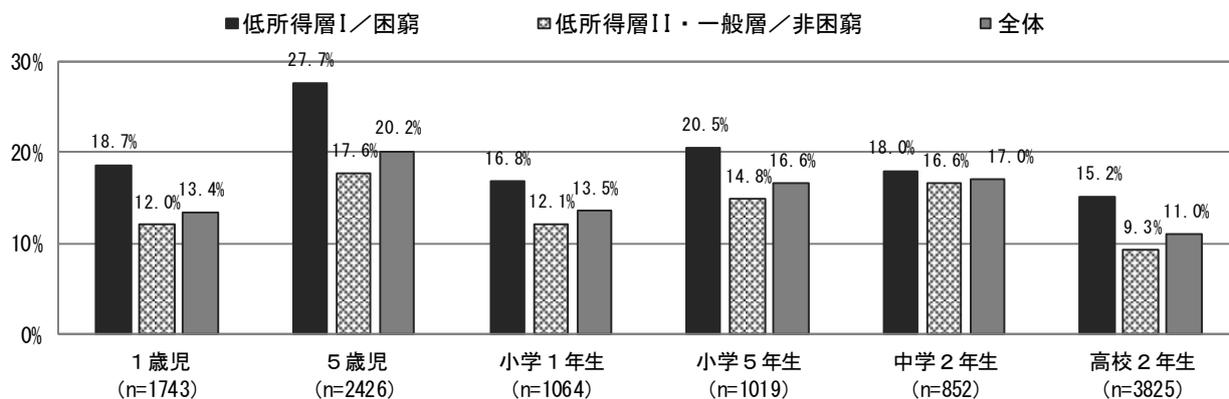


図7-4-5 過去一年間に、お子さん（きょうだいを含む）を病院や歯医者で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことが「あった」割合（※）



※ 小中、高校生調査では、「過去一年間に、医療機関でお子さんを受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか」と尋ねており、未就学児調査と設問内容が異なる。

◆7-5 子どもを受診させられなかった経験（受診抑制）②

過去一年間に、子ども（きょうだいを含む）を病院や歯医者を受診させられなかった経験（受診抑制）について、その理由を表したものが図7-5-1と図7-5-2になります。

全体で見ると、1歳児も5歳児も「仕事で連れていく時間がなかった」と答えた割合が約6割に及んでいます。「家計が苦しかった」とする方も1歳児も5歳児も約3割いました。

しかし、このふたつの理由に該当するとした保護者の割合には、経済状況で差がありました。例えば、1歳児では、一般層で「仕事で連れていく時間がなかった」と答えた方が約7割でしたが、低所得層Ⅰでは約4割であり、「家計が苦しかった」とする方は、一般層では6%ほどですが、低所得層Ⅰでは約6割に及んでいます。また、低所得層Ⅱにおいても「家計が苦しかった」と答える割合が、1歳児で約2割、5歳児で約4割いました。また、5歳児でも1歳児と同様な傾向が見えました。

なお、数は少ないのですが、「保険証がなかった」とする方が存在することにも留意を払う必要があります。

図7-5-3～6は、受診抑制の理由として「仕事で連れていく時間がなかった」と答えた方の割合を雇用形態別に分析したものです（その他はサンプル数が少なく省略）。1歳児と5歳児の父母別で見ると、母親では、1歳児でも5歳児でも正規の職員・従業員と派遣社員・契約社員・嘱託（ともに70%台）に比べパート・アルバイト（50%台）の割合が低くなることがわかりました。一方、父親の場合は自営業も含め、雇用形態による違いがあまり見られませんでした。

図7-5-1 【1歳児】過去一年間に、お子さん（きょうだいを含む）を病院や歯医者で受診させなかった理由（複数回答）

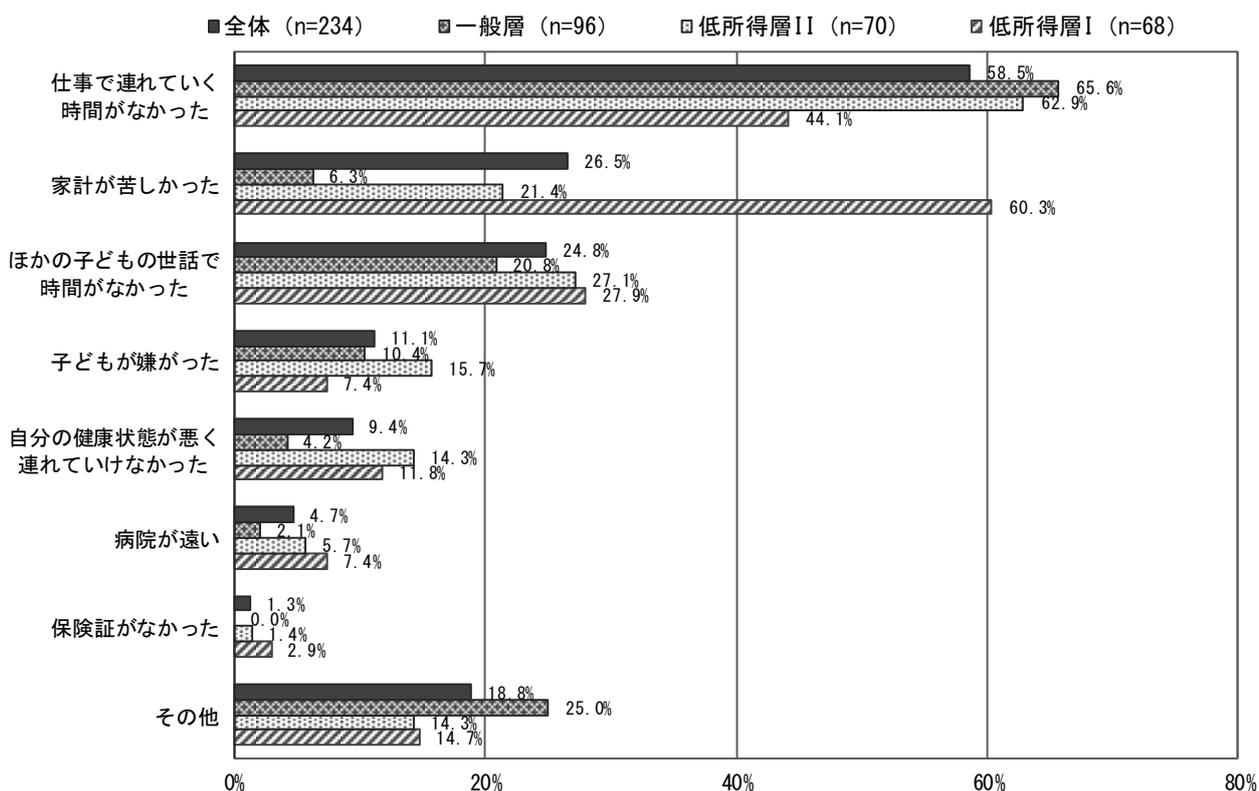


図 7-5-2 【5歳児】過去一年間に、お子さん（きょうだいを含む）を病院や歯医者で受診させなかった理由（複数回答）

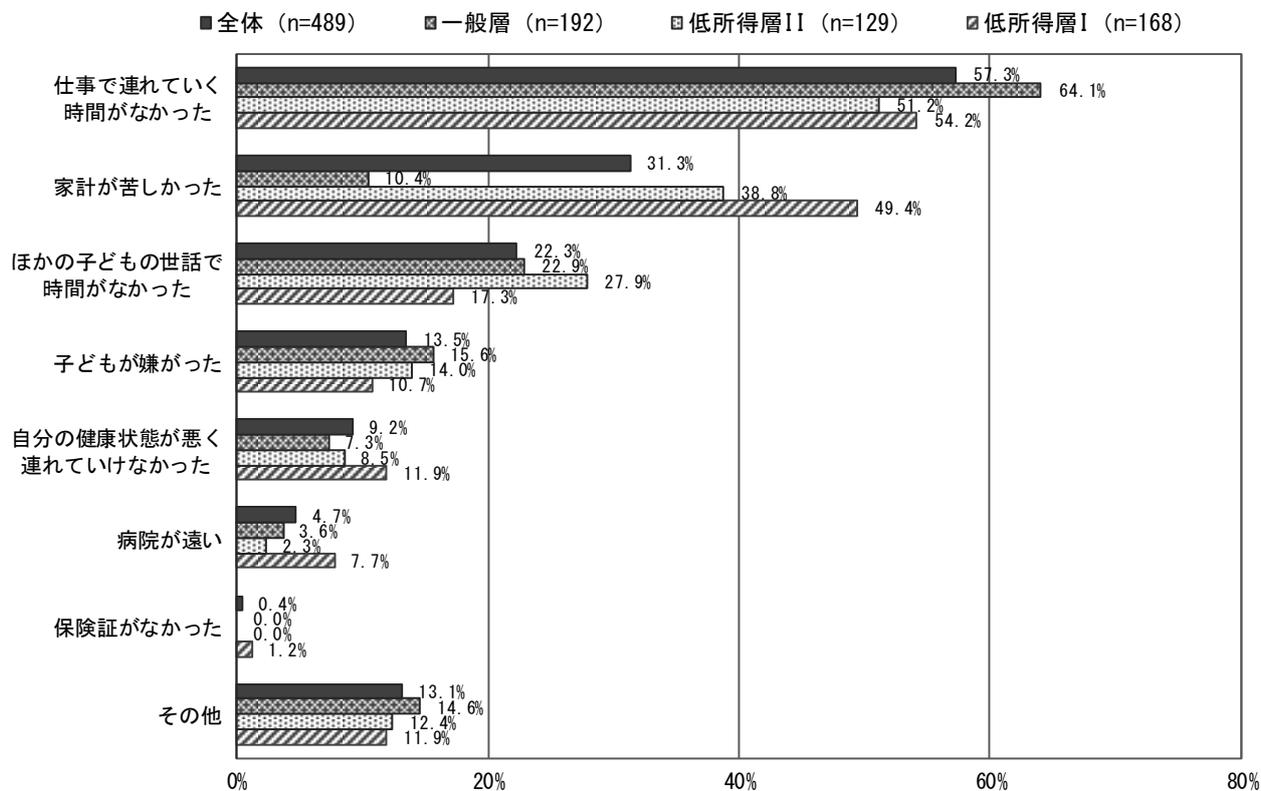


図 7-5-3 【1歳児／母親】子どもを病院や歯医者で受診させなかった理由

— 仕事で連れて行く時間がなかった × 雇用形態 —

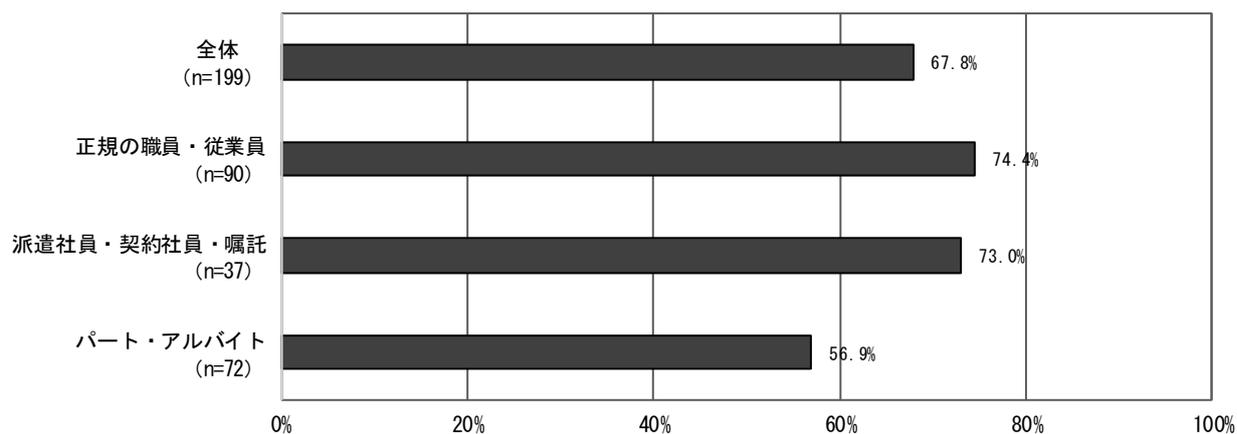


図 7-5-4 【5歳児／母親】子どもを病院や歯医者で受診させなかった理由
 — 仕事で連れて行く時間がなかった × 雇用形態 —

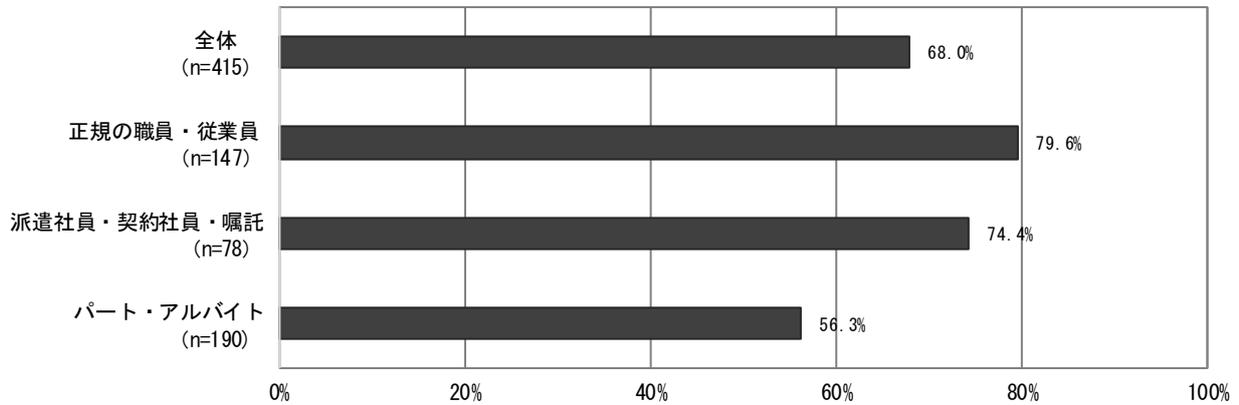


図 7-5-5 【1歳児／父親】子どもを病院や歯医者で受診させなかった理由
 — 仕事で連れて行く時間がなかった × 雇用形態 —

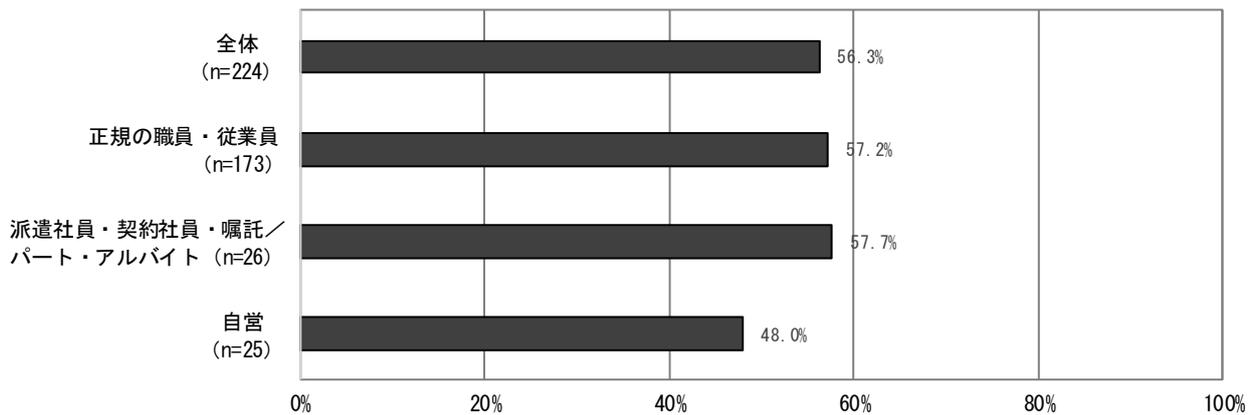
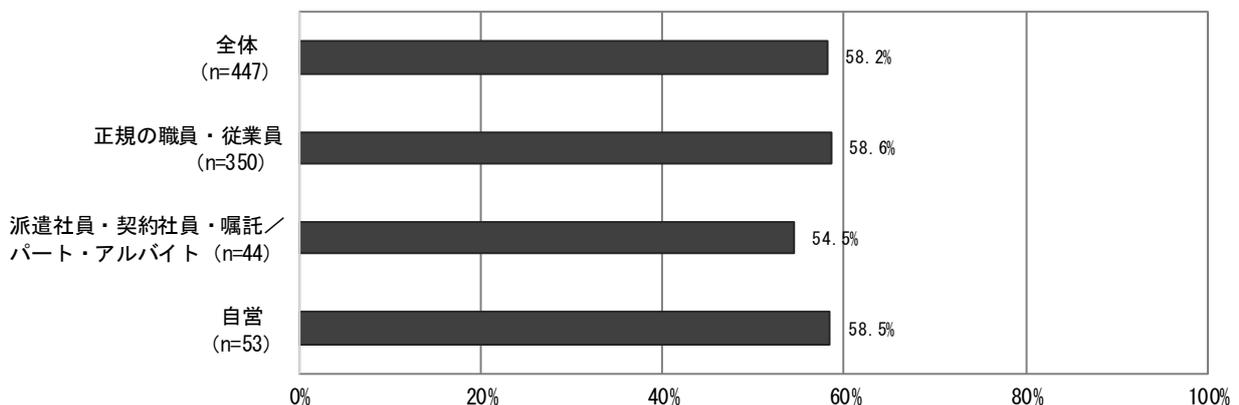


図 7-5-6 【5歳児／父親】子どもを病院や歯医者で受診させなかった理由
 — 仕事で連れて行く時間がなかった × 雇用形態 —



◆7-6 保護者が受診できなかった経験（受診抑制）

図7-6-1と図7-6-2は保護者自らが過去一年の間に病院や歯医者に通えなかった経験（受診抑制）について尋ねた結果です。全体で見ると、1歳児の保護者で43.3%、5歳児の保護者で41.8%と多くの方がそうした経験があったとしています。子どもの場合と比べても高い割合であり深刻な状況がうかがえます。数は少ないのですが、「保険証がなかった」とする方が子どもの場合以上に存在することもわかりました。

また、こうした保護者自らの受診抑制には子ども場合と同様に経済状況による差が見られ、1歳児では一般層と低所得層Ⅰでは約8ポイント、5歳児では同じく約9ポイントの差が見られました。

こうした受診抑制の理由を尋ねた結果（図7-6-3と図7-6-4）からは、全体としては、1歳児の保護者では「子どもの世話で時間がなかった」（約6割）と「仕事で時間がなかった」（約5割）、5歳児の保護者では「仕事で時間がなかった」（約6割）と「子どもの世話で時間がなかった」（約5割）の割合が高いことがうかがえましたが、「家計が苦しかった」も1歳児（約2割）、5歳児（約3割）見られました。

受診抑制の理由には経済状況で差があり、「仕事で時間がなかった」と「子どもの世話で時間がなかった」の場合、一般層に比べ、低所得層Ⅰではその割合が低く、「家計が苦しかった」の場合、一般層に比べ、低所得層Ⅰの割合かなり高く、1歳児、5歳児ともに50%を超えていました。

図7-6-1 【1歳児】過去一年間に、あなたが病院や歯医者に行きたいのに行けなかったことがありましたか。

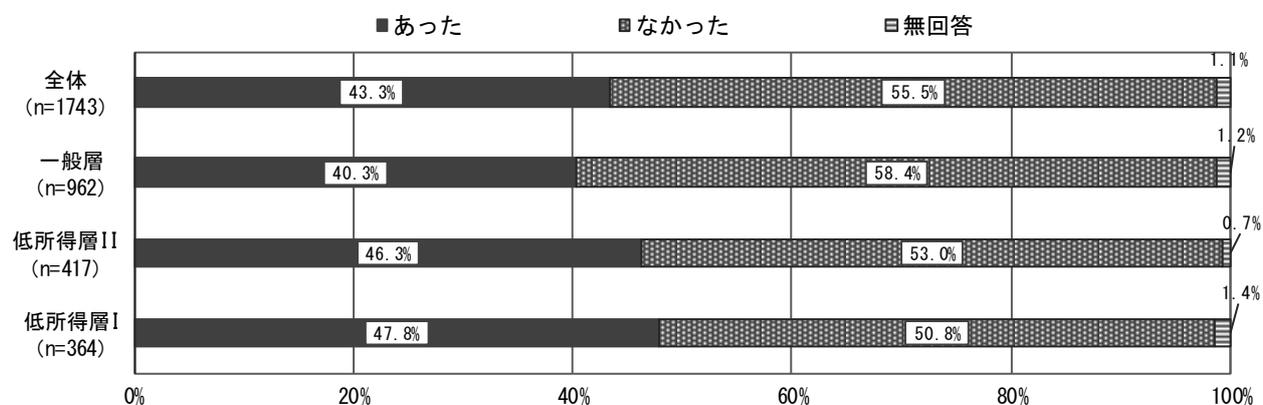


図7-6-2 【5歳児】過去一年間に、あなたが病院や歯医者に行きたいのに行けなかったことがありましたか。

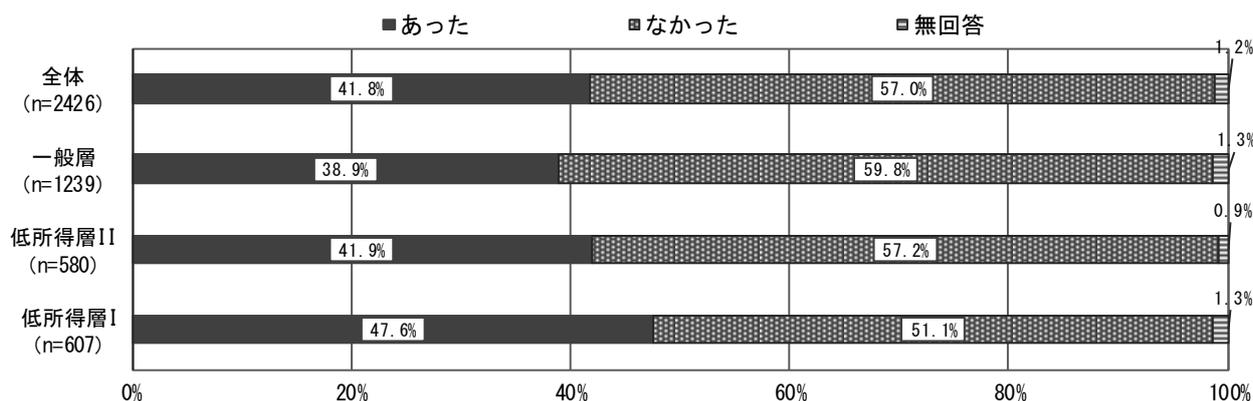


図 7-6-3 【1歳児】過去一年間に、あなたが病院や歯医者で受診できなかった理由
(複数回答)

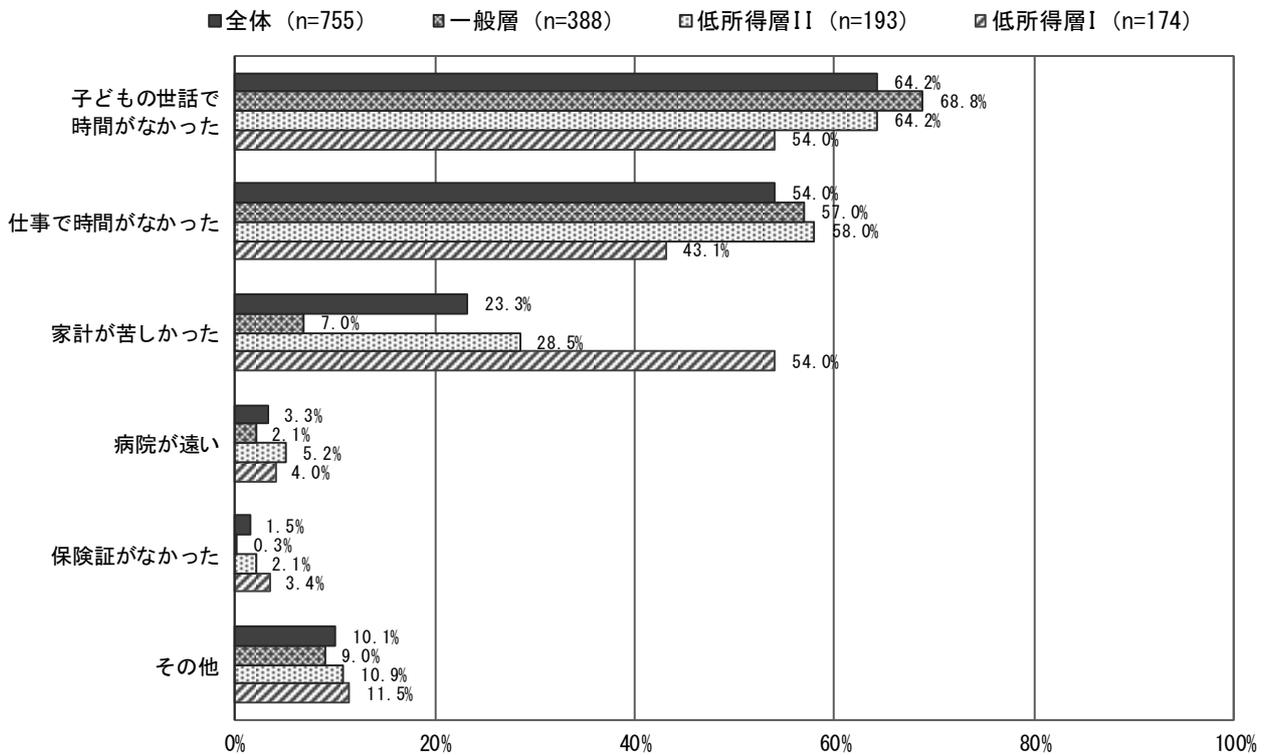
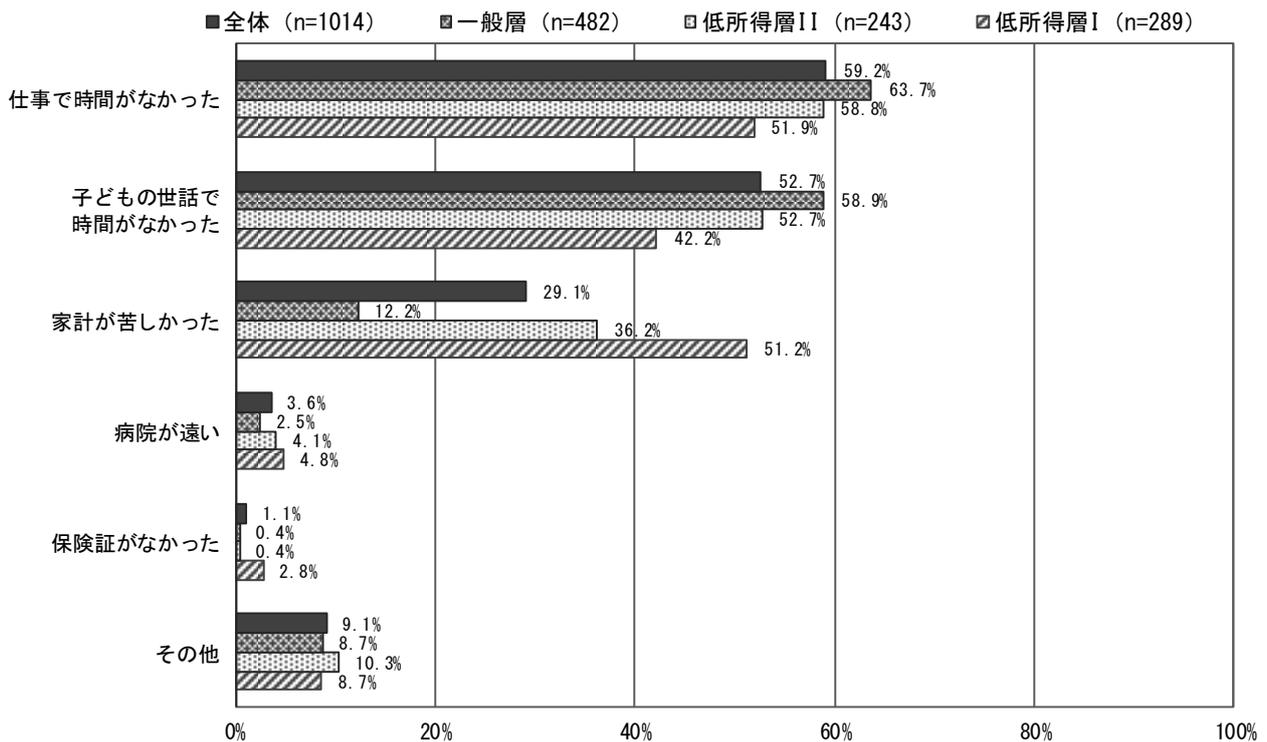


図 7-6-4 【5歳児】過去一年間に、あなたが病院や歯医者で受診できなかった理由
(複数回答)



◆7-7 保護者の健康状況の影響①

図7-7-1～4は、保護者の健康状況（特に不健康であること）が、どのように保護者や子どもの生活に影響を及ぼしているかについて経済状況を絡めて分析を試みているものです。ここでは、母親の働き方（特に働いていない状態）や子どもや保護者の受診抑制に影響を及ぼしているか、その影響のあり方は経済状況によってどのように異なるかを分析しています。

7-1で分析したように、1歳児、5歳児ともに自らを健康であると答えた保護者（ここでは「健康である」方とする）は8割ほどでした。一方、自らを健康であると言えない保護者（ここでは「健康ではない」ものとする）は、1歳児、5歳児ともに約2割に及んでいました。

図7-7-1と図7-7-2は、健康である母親と健康ではない母親によって、雇用形態に違いがあるかを見たものです（父親はほとんどの方が就労しており分析に難点があるため、ここでは母親のみに限定して分析を行っています）。すると、特に働いていない方について差が大きくなっており、1歳児では約10ポイント、5歳児では約9ポイントの差がありました。

図7-7-3と図7-7-4は、働いていない方(母親)のみに焦点をあて、健康であるかないかの影響が経済状況によって異なるかを分析したものです（無回答を欠損値処理）。すると、全体でも「健康ではない」ことが働いていない割合を高めており、1歳児では「健康である」と「健康ではない」の差が約9ポイント、5歳児では約7ポイントありました。また、一般層や低所得層Ⅱと比べ、低所得Ⅰでは「健康である」ことと「健康ではない」ことによる差が1歳児では約21ポイント、5歳児では15ポイントと顕著に広がっていました。

図7-7-1 【1歳児／母親】健康状況と雇用形態の関連性

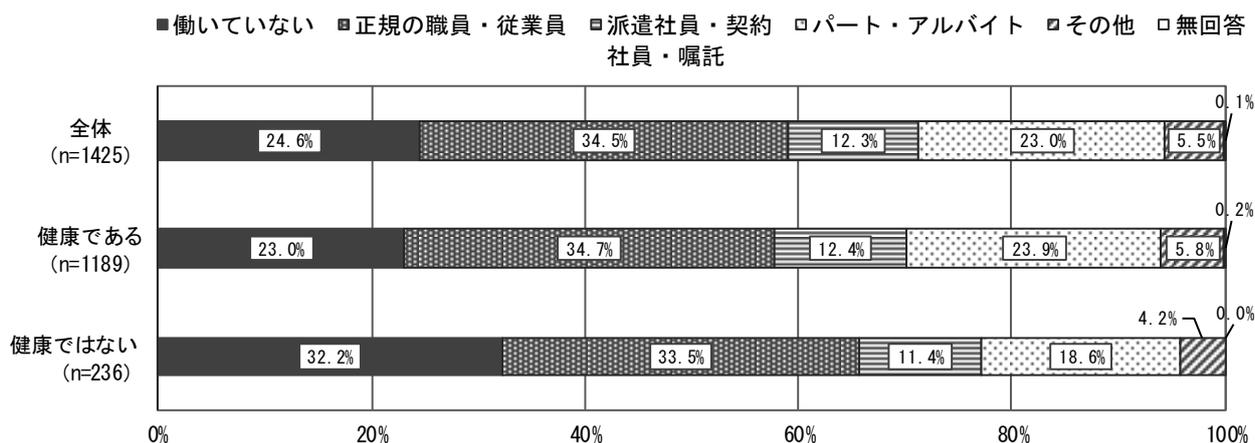


図7-7-2 【5歳児／母親】健康状況と雇用形態の関連性

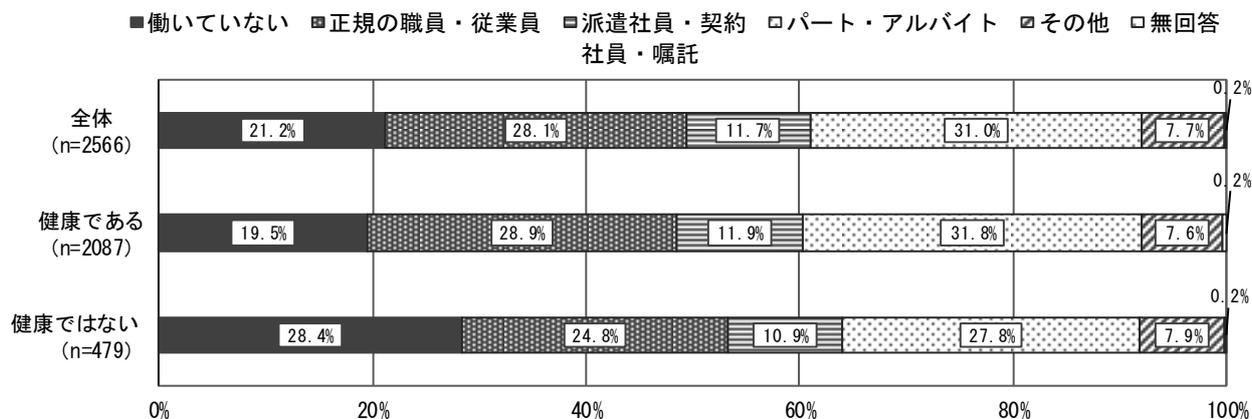


図7-7-3 【1歳児／母親】働いていない人の割合（健康状況×経済状況）

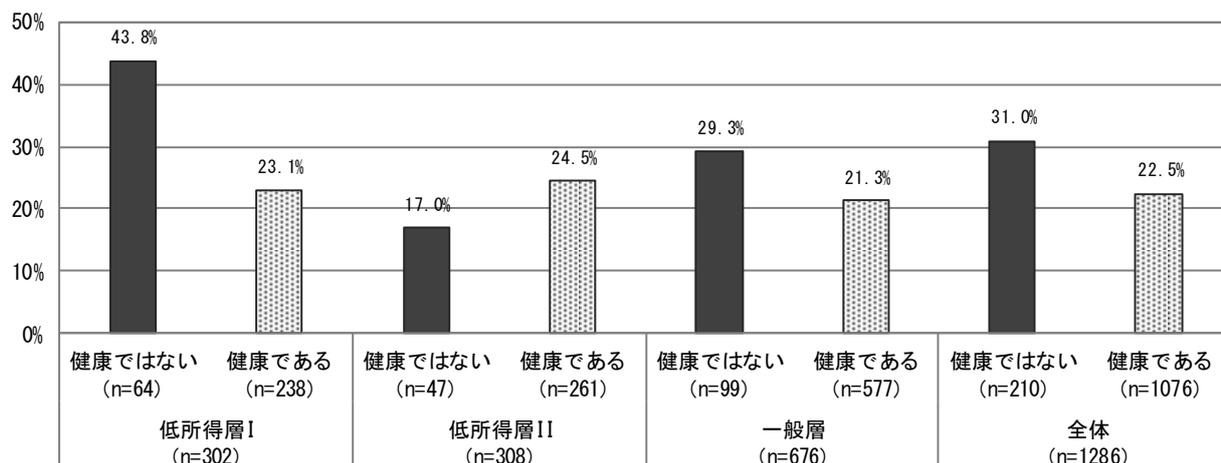
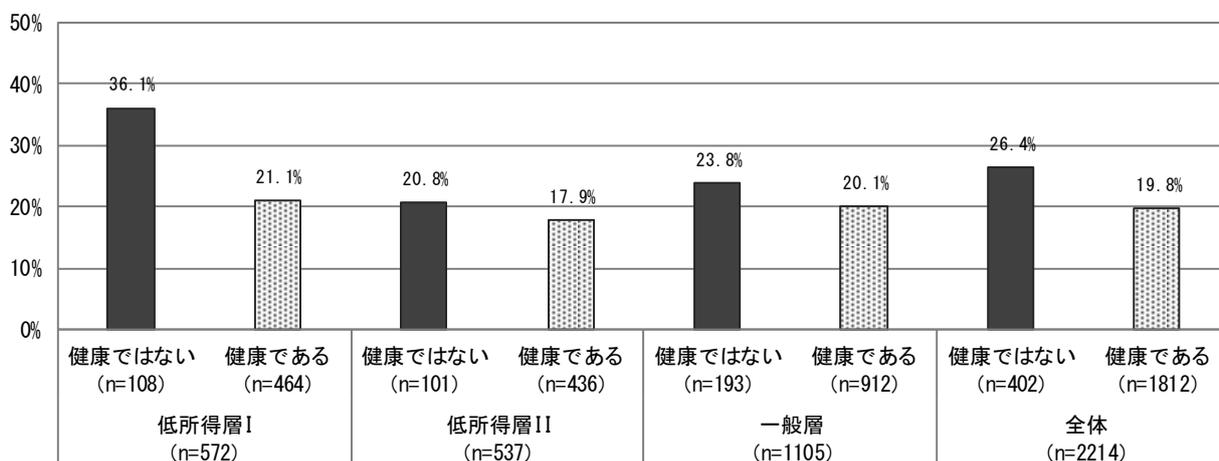


図7-7-4 【5歳児／母親】働いていない人の割合（健康状況×経済状況）



◆7-8 保護者の健康状況の影響②

図7-8-1と図7-8-2は、回答をしていただいた保護者（ここでは父親等も含む）の健康状況が子どもを受診させられなかった経験（受診抑制）にどのように影響をしているかを経済状況ごとに分析したものです。すると、全体では「健康ではない」ことが子どもの受診抑制を高めており、1歳児では、「健康である」と「健康ではない」との差が約9ポイント、5歳児では約10ポイントありました。一方、一般層では「健康である」と「健康でない」ことの影響はそれほど大きくはないと言えますが、低所得層Ⅱや低所得層Ⅰでは「健康である」と「健康ではない」の差は低所得Ⅱでは、1歳児、5歳児とも16ポイント、低所得Ⅰではそれぞれ約12ポイントと影響が大きくなっていました。特に、今回の調査による受診抑制が、図7-4-1、図7-4-2で見たように1歳児で13.4%、5歳児で20.2%であることを考えると、低所得層ⅠやⅡで保護者が健康でない場合の1歳児で約3割、5歳児で約4割に及ぶ数値は留意が必要です。

図7-8-3と図7-8-4は、保護者自身の受診抑制を分析したものです。図7-6-1、図7-6-2でみたように保護者の受診抑制は子どもの場合に比べ高いものでしたが、「健康ではない」ことは受診抑制のリスクを高めており、全体では健康である場合とない場合は1歳児で16ポイント、5歳児で15ポイントの差がありました。健康でないにも関わらず、受診できない保護者がかなりの割合でいることを示しています。ここでは、特に1歳児の保護者で一般層と低所得層Ⅰで健康面の違いによる差は大きくは変わらず、経済状況がその差に及ぼす影響はあまりないと言えますが、5歳児の保護者では経済状況によってやや差が見られ、一般層に比べ低所得層Ⅰ・Ⅱでは健康面の違いによる差が広がっています。また、保護者の受診抑制そのものに経済状況が影響しているために、低所得層Ⅰで「健康ではない」場合、1歳児、5歳児ともに6割以上の方がそうした経験があると答えており、かなり高い数値になっています。

図7-8-1 【1歳児】 子どもを受診させられなかった経験（保護者の健康状況×経済状況）

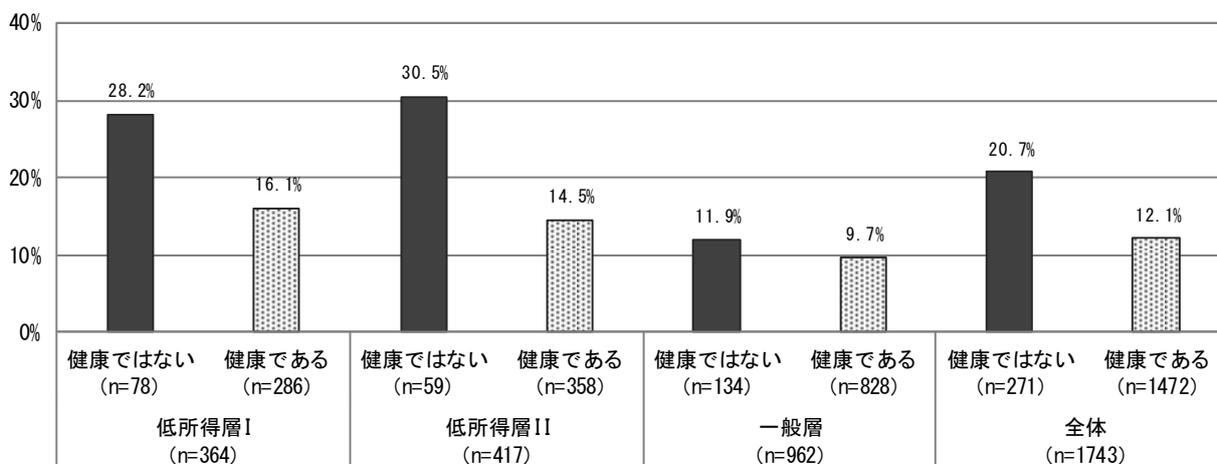


図 7-8-2 【5歳児】 子どもを受診させられなかった経験（保護者の健康状況×経済状況）

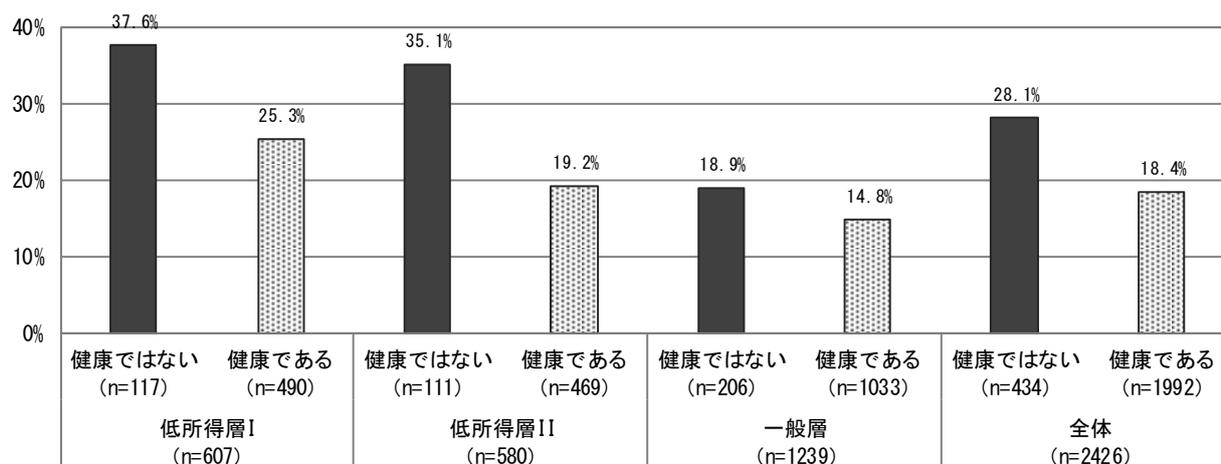


図 7-8-3 【1歳児】 保護者が受診できなかった経験（健康状況×経済状況）

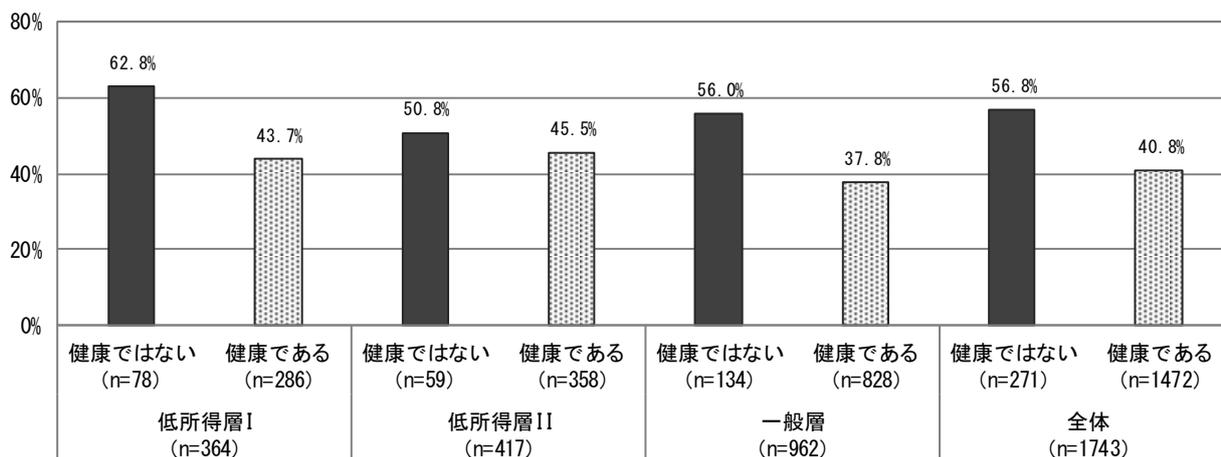
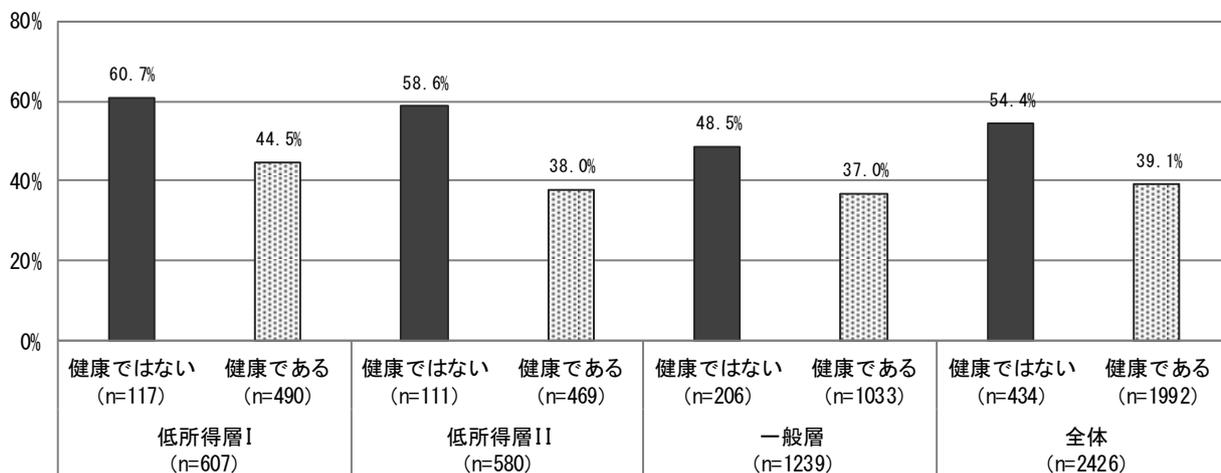


図 7-8-4 【5歳児】 保護者が受診できなかった経験（健康状況×経済状況）



考 察

健康面では、保護者、子どもともに全体では80%台で健康であると回答しており、札幌市調査の保護者、子どもともに近似の数値でした。また、全体的に見れば、こうした面での経済状況による違いは大きくは見られなかったと言えるでしょう。乳幼児という低年齢である子どもであり、保護者もまだ若い年齢であるためにこうした差が見えなかったのかもしれませんが。

一方で、K6指標による保護者の抑うつ状況には経済状況による違いが顕著に見られ、低所得層の保護者のメンタルヘルスの問題は深刻な状況にあることが予想される結果でした。特に、ひとり親の場合は抑うつ状況がより深刻で、例えば5歳児の全体では、K6指標で9点または10点以上の「気分・不安障害」はそれぞれ約13%、11%ですが、2世代のひとり親世帯では、約29%、24%となっていて2倍以上の差が見られました。

受診抑制については、子どもの場合は、5歳児に比べ1歳児の割合は低くなっていますが、きょうだいを含む数値とは言え1歳児は低年齢児であることを考えあわせると、健康面への配慮の必要性は5歳以上に高いと考えられ、13%の子どもが受診させなかった経験があることについては留意が必要です。保護者の場合は、子どもの場合と比べ、1歳児で3倍以上、5歳児で2倍以上の高い割合で受診抑制の経験があると回答しており、保護者が子どもの養育や働くことを優先して自らの健康については後回しにして無理をしている姿が見える結果でした。子どもの場合も保護者の場合も、受診抑制には経済状況が影響しており、低所得層でより厳しい状況が見えました。なお、こうした傾向は全体として札幌市調査と近似のものでした。

先に記した通り、経済状況による保護者と子どもの健康面への違いは、保護者の抑うつ傾向を除くと今回の調査からはあまり見えませんでした。保護者の健康状況が他の生活状況にどう影響しているのか、その場合に経済状況はどう影響をしているかを今回は分析に加えています。

すると、母親に限定して働いている割合を見た場合、一般層や低所得層Ⅱと比べ、低所得層Ⅰでは健康ではないことは働いていない割合を顕著に高めていました。このことは、ひとつには母親が健康でないことが働けない状況を生み、低所得になる可能性を深めていることを示していると言えるでしょう。

また、受診抑制に関しては、まず子どもの場合、低所得層Ⅱや低所得層Ⅰでは健康でないことの影響が一般層に比べ大きくなっていました（本分析は父親・母親ともに含む）。低所得層では、保護者が健康でないことが、子どもの受診という養育状況にまで影響を及ぼすことを示唆しています。このことは、今回の調査全体から見えてくる、保護者の孤立や働く時間の長さ、さらには抑うつなどの問題とも関連しているとも言えるでしょう。一般層では、健康でなくても、他の養育者や親族などの支援が得られたり、労働時間が低所得層に比べ短いことで、子どもの受診の可能性を高め、逆に低所得層では、他の養育者や親族などの支援が得られなかったり、長時間労働者や抑うつである割合が高く、子どもを受診させにくい状況を生み出しているのかもしれませんが。今回の分析では健康であるか健康でないかのみを分析していますが、低所得層では不健康の状況がより深刻であり、子どもの受診をより抑制してしまうのかもしれませんが。

保護者の場合は、健康でない人の方が健康である人よりも受診ができない経験が高かったという矛盾した結果が出ています。一方で、子ども場合と異なり、特に1歳児の場合、健康面の違いによる保護者の受診抑制の差は、経済状況によって影響をあまり受けていない結果となっていました。5歳

児では経済状況による影響がやや見えました。これについては、1歳児の場合、低所得層と同様に一般層であっても、子どもの養育に手を取られそちらを優先せざるをえないため、自らが健康でなくても受診を控える結果となってしまうと解釈でき、5歳児になると一般層で健康でないことの影響が少し減るのは養育に余裕が生まれるためと推察されます。しかし、一般層であっても、保護者の受診抑制は保護者の健康を阻害すると言え、結果として働けない割合を増やしたり、子どもの養育状況に影響を与えるかもしれません。また、低所得層Ⅰでは、健康でない場合、1歳児、5歳児ともに6割以上の方が受診できない経験があると答えており異常に高い数値でした。先述した通り、今回の調査では保護者がまだ若い年齢であるためか健康状況に差はあまり見られませんでした。特に大人の健康格差は一般的にも指摘されることであり、こうした受診抑制の高さが低所得世帯の保護者の健康を悪化させてしまい、将来の健康格差を生む要因のひとつと考えられ、そのことは子どもにも影響を与える恐れがあります。こうした面からも、乳幼児を持つ保護者の健康面へのなんらかの配慮が必要であると考えられます。

(参考文献)

川上憲人・高野 歩(2015)「一般住民におけるトラウマ被害の精神影響の調査手法」『厚生労働科学研究費補助金 被災地における精神障害等の情報把握と介入効果の検証及び介入手法の向上に資する研究 平成26年度 分担研究報告書』

第 8 章

人 生 經 驗

第8章 人生経験

◆8-1 お母さん・お父さんの学歴

子どもの母親の最終学歴（図8-1-1、図8-1-2）について、「中学校」に注目してみると、1歳児の母親では一般層は1.2%とわずかな値ですが、低所得層Ⅰは7.7%、低所得層Ⅱは7.4%となっています。5歳児の母親でも同様の傾向であり、低所得層Ⅰの「中学校」は14.5%とさらに高くなっています。一方で「大学・大学院」は、1歳児については、一般層では41.5%に上りますが、低所得層Ⅰでは16.2%、低所得層Ⅱでは19.4%にとどまっています。5歳児の「大学・大学院」についても、一般層では35.6%、低所得層Ⅰでは7.7%、低所得層Ⅱでは13.3%と、同じく所得格差がみられます。

子どもの父親の最終学歴（図8-1-3、図8-1-4）についても同様の傾向がみられます。1歳児の父親も5歳児の父親も「中学校」は低所得層で高く、「大学・大学院」は一般層で高くなっています。

母親の最終学歴と雇用形態の関係（図8-1-5、図8-1-6）については、1歳児・5歳児ともに、最終学歴「中学校」の方の「働いていない」「パート・アルバイト」の割合が高くなっている一方で「正規の職員・従業員」は低く、「大学・大学院」の方とは大きな差が生じています。

父親の最終学歴と雇用形態（図8-1-7、図8-1-8）についても同様の傾向で、最終学歴が大卒・大学院卒になるにつれ、「正規の職員・従業員」の割合が増え、「働いていない」「派遣社員・契約社員・嘱託／パート・アルバイト」が減っています。

図8-1-1 【1歳児】お母さんの最終学歴

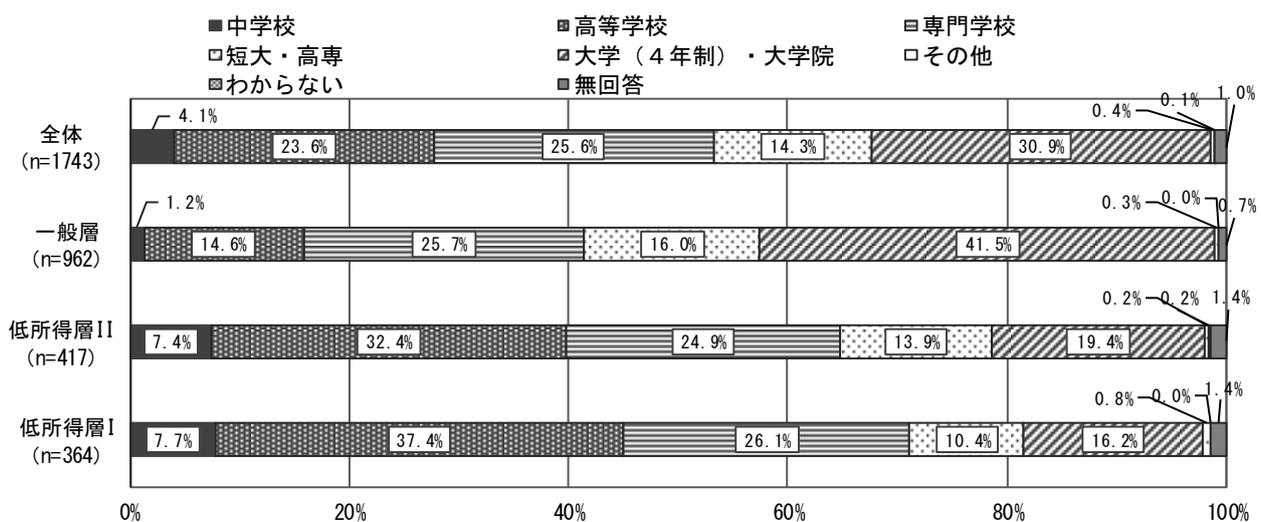


図 8-1-2 【5歳児】お母さんの最終学歴

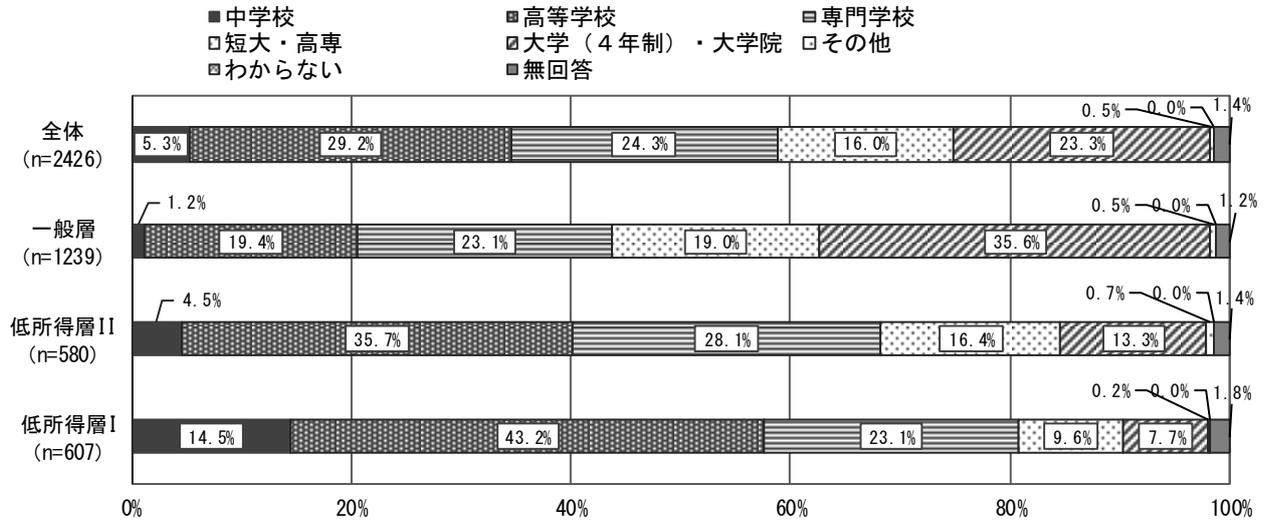


図 8-1-3 【1歳児】お父さんの最終学歴

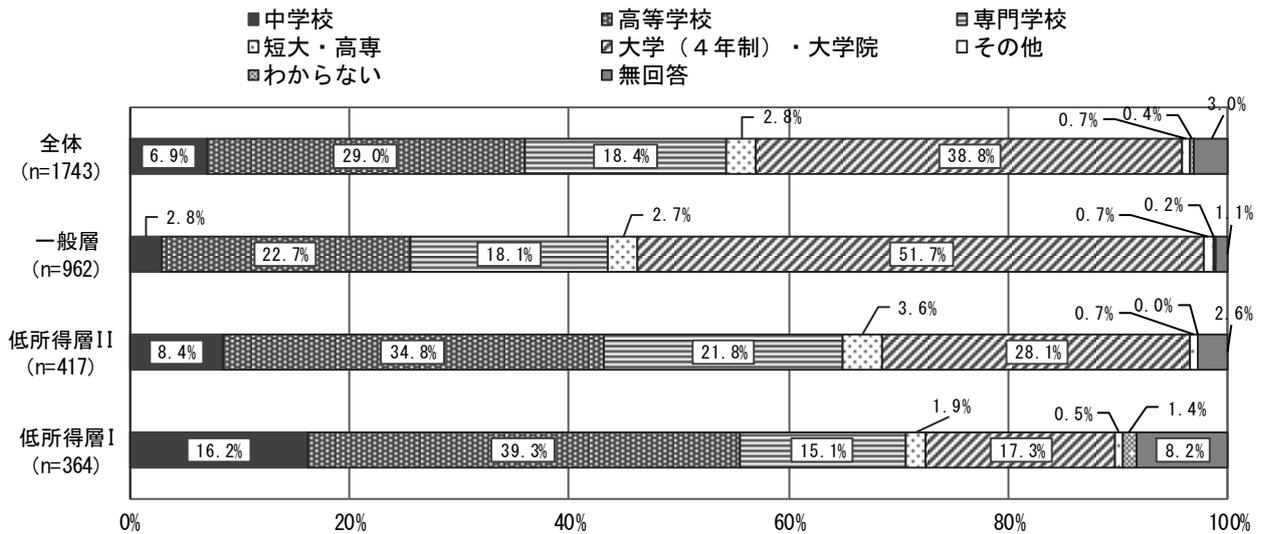


図 8-1-4 【5歳児】お父さんの最終学歴

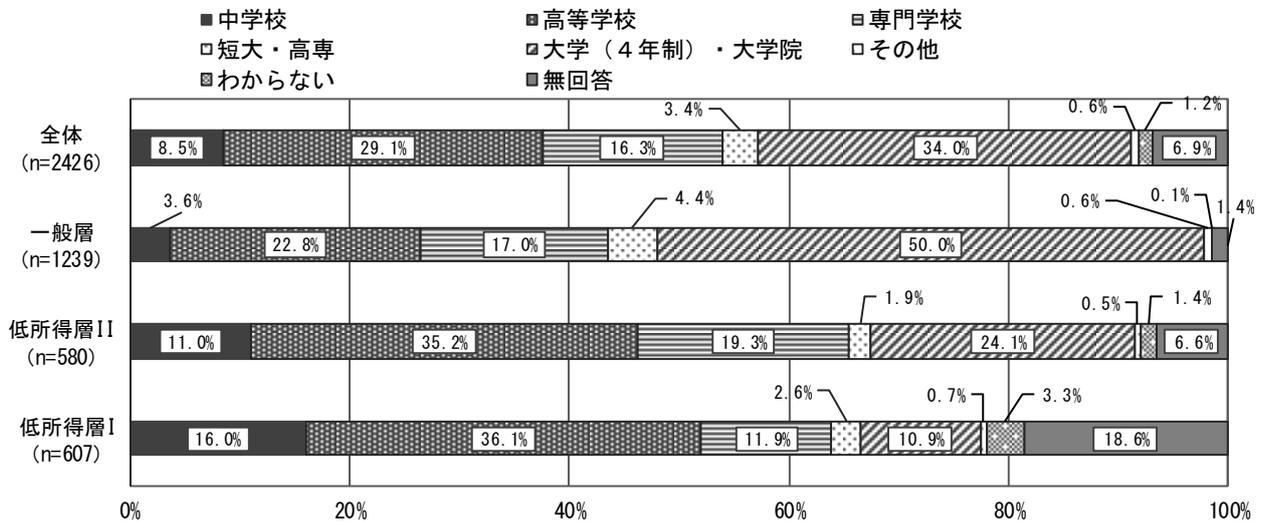


図 8-1-5 【1歳児】お母さんの最終学歴×雇用形態別

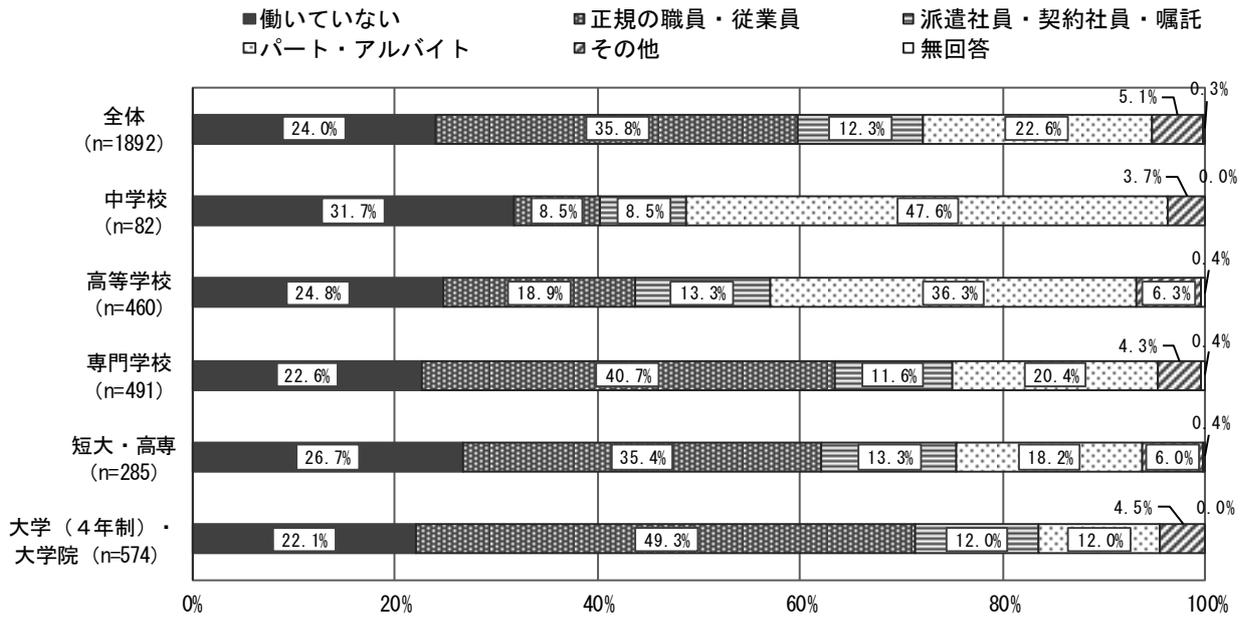


図 8-1-6 【5歳児】お母さんの最終学歴×雇用形態別

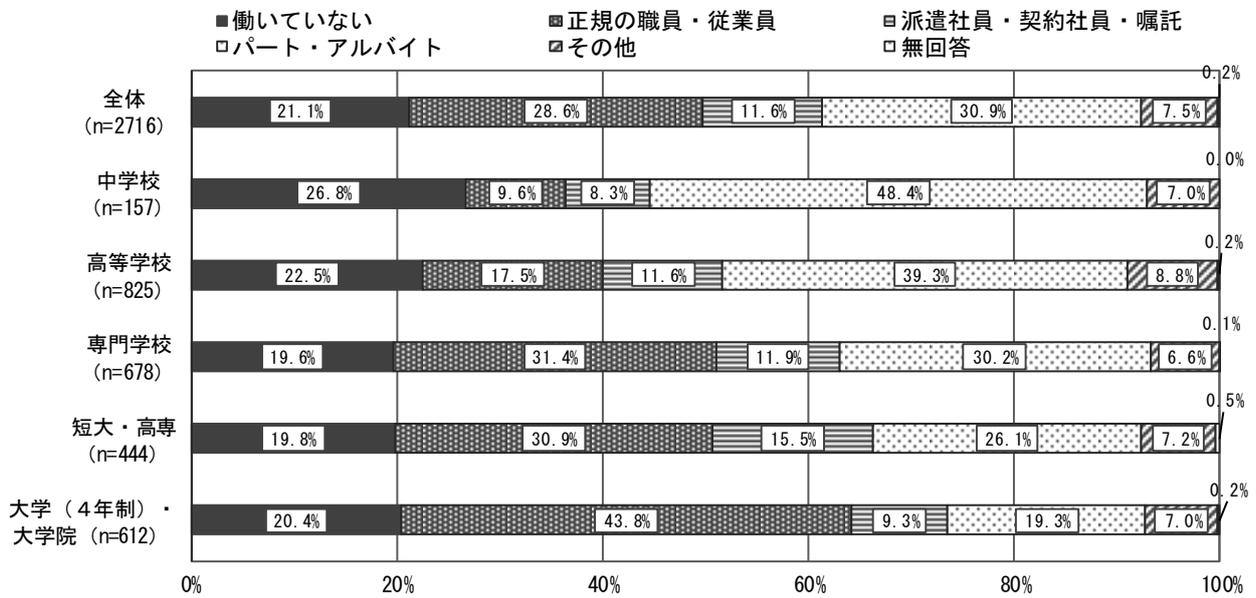


図8-1-7 【1歳児】お父さんの最終学歴×雇用形態別

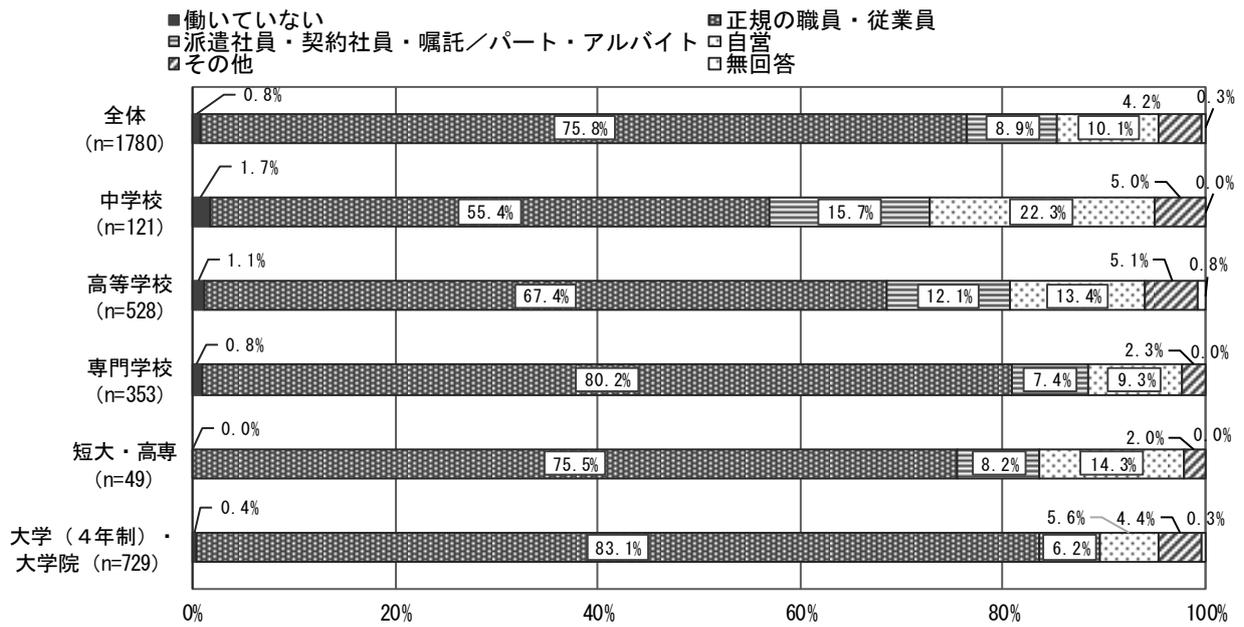
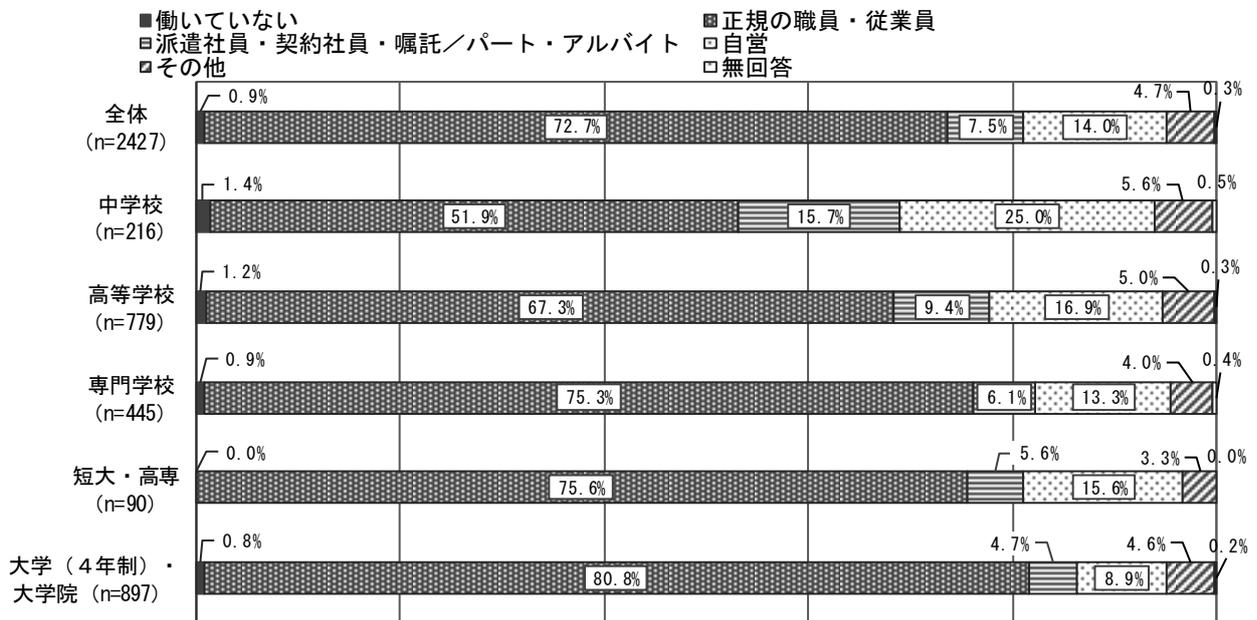


図8-1-8 【5歳児】お父さんの最終学歴×雇用形態別



◆8-2 お母さん・お父さんの15歳の頃の暮らし向き

保護者自身の15歳の頃の暮らし向きについて尋ねました。いわゆる「世代間連鎖」について検討する項目です。母親の回答では、1歳児でも5歳児でも、現在の収入が低くなるにしたがい「大変苦しい」「やや苦しい」という割合が増え、「普通」「ややゆとりがある」が減っています（図8-2-1、図8-2-2）。

父親の回答では、1歳児については母親と同様、現在の収入が低くなるほど「大変苦しい」「やや苦しい」の割合が高くなっています。5歳児については、特に低所得層Iで無回答が多いためか、若干異なる傾向です。ただし、ここでも「大変苦しい」という回答は収入が低くなるにしたがって多くなっています（図8-2-3、図8-2-4）。

図8-2-1 【1歳児】「お母さんご自身が15歳の頃」のご家庭の暮らし向き

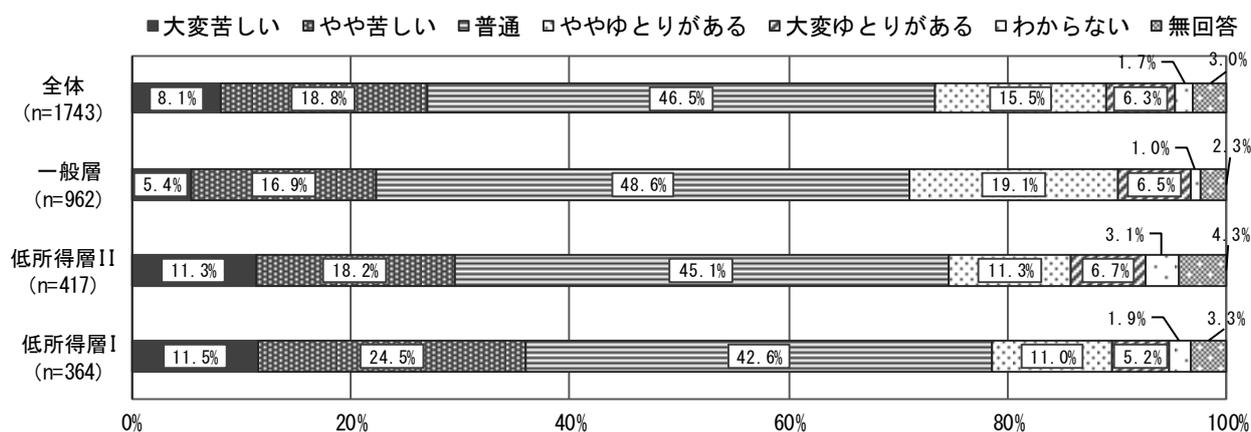


図8-2-2 【5歳児】「お母さんご自身が15歳の頃」のご家庭の暮らし向き

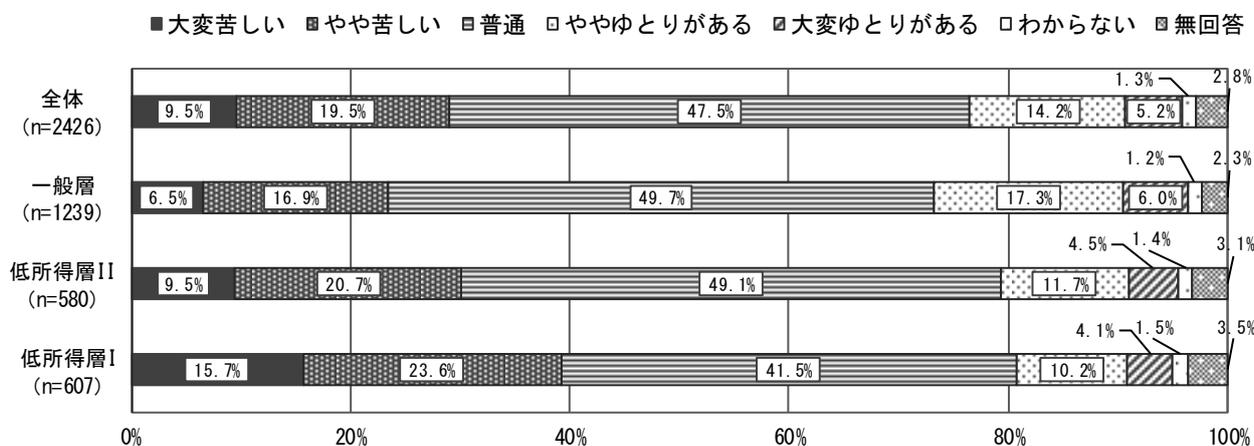


図 8-2-3 【1 歳児】「お父さんご自身が15歳の頃」のご家庭の暮らし向き

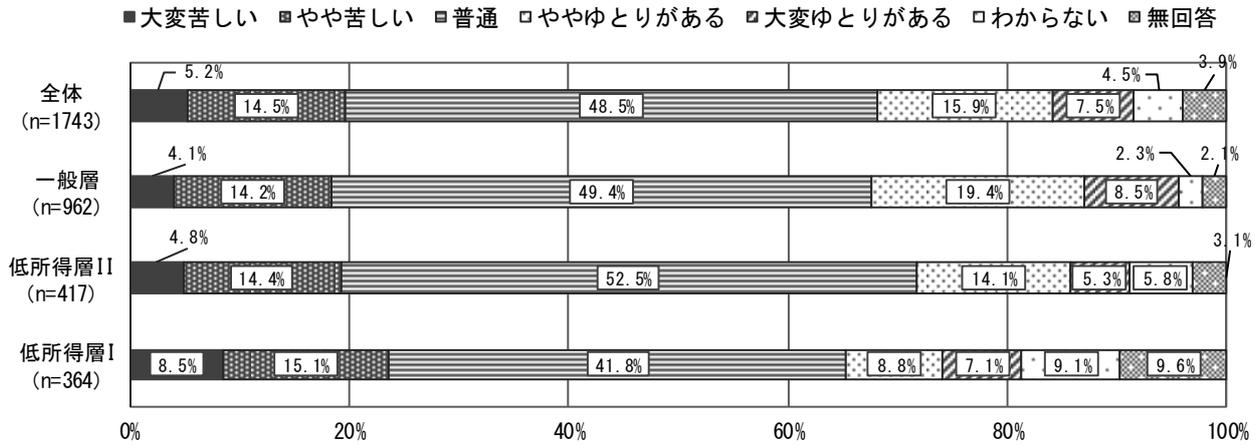
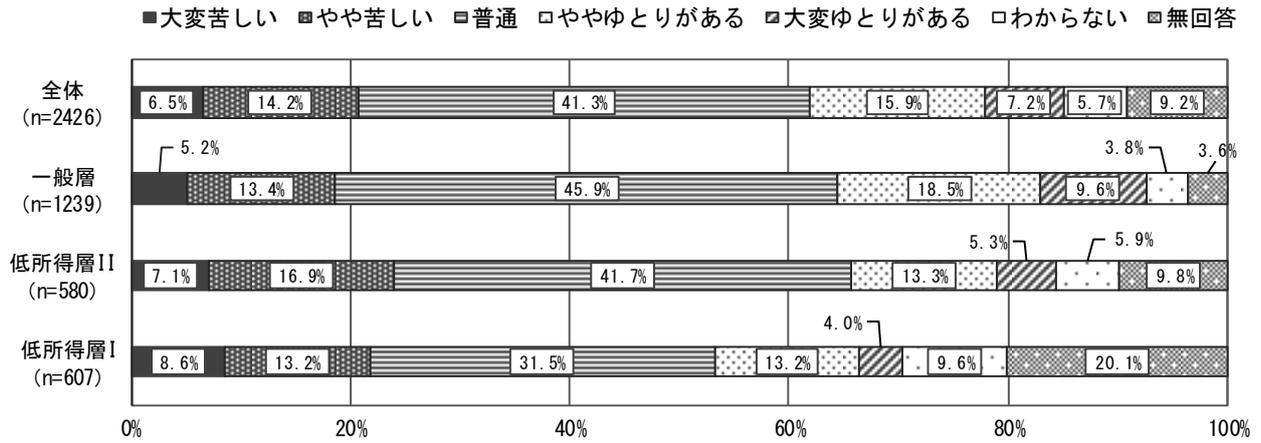


図 8-2-4 【5 歳児】「お父さんご自身が15歳の頃」のご家庭の暮らし向き



◆8-3 初めて親になった年齢

回答者（子どもの保護者）が「初めて親になった年齢」を尋ねました。いずれの場合でも、所得が低くなるにつれて、「10代」「20～24歳」の割合が増える傾向がみられます。特に5歳児の母親の低所得層Ⅰでは、「10代」「20～24歳」を合わせると48.7%と半数近くにもなります

（図8-3-2）。早くから親になることと現在の低所得に関連があることを示唆しています。なお、母親について、1歳児では45～49歳、50歳以上の回答が、5歳児では50歳以上の回答がゼロだったため図の数値表記を省略しています。

また、「初めて親になった年齢」と現在の雇用形態については、母親でも父親でも、初めて親になった年齢が低くなるにつれて母親では「パート・アルバイト」、父親では「派遣社員・契約社員・嘱託／パート・アルバイト」の割合が増え、「正規の職員・従業員」が減る傾向にあります（図8-3-5、図8-3-6）。早くから親になることと現在の雇用形態に関連があると推測されます。

図8-3-1 【1歳児／母親】初めて親になった年齢はいくつですか。

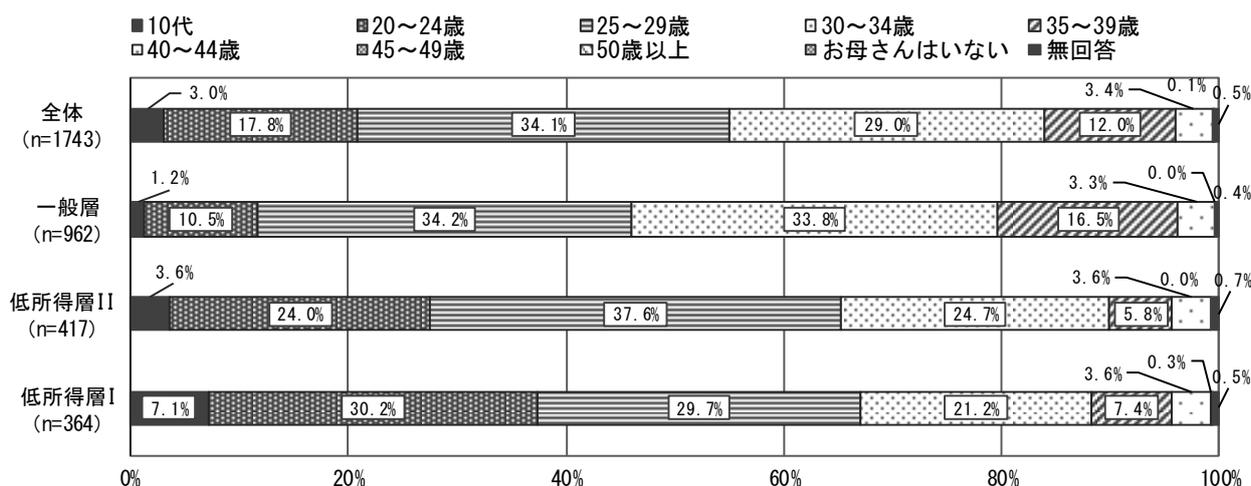


図8-3-2 【5歳児／母親】初めて親になった年齢はいくつですか。

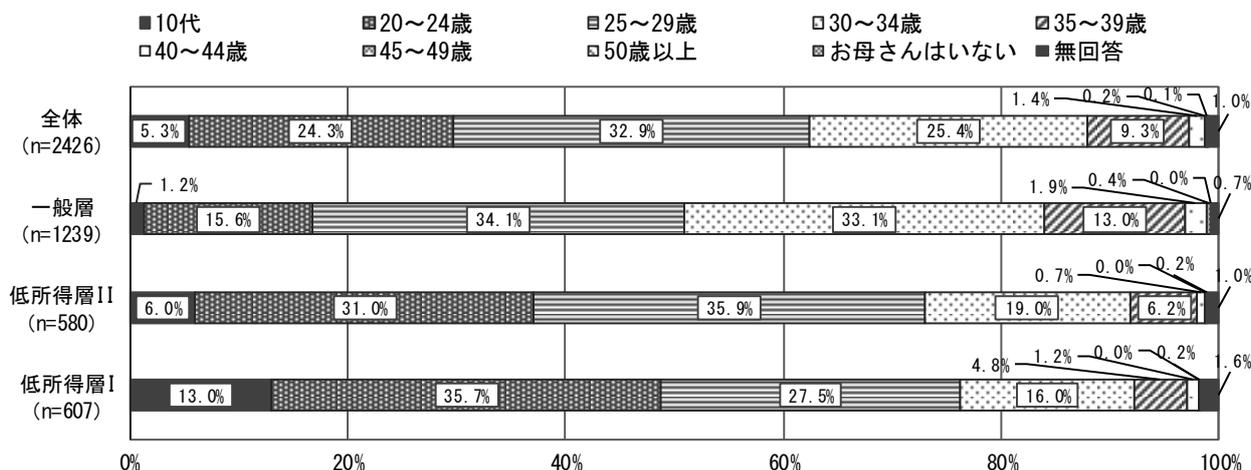


図 8-3-3 【1歳児／父親】初めて親になった年齢はいくつですか。

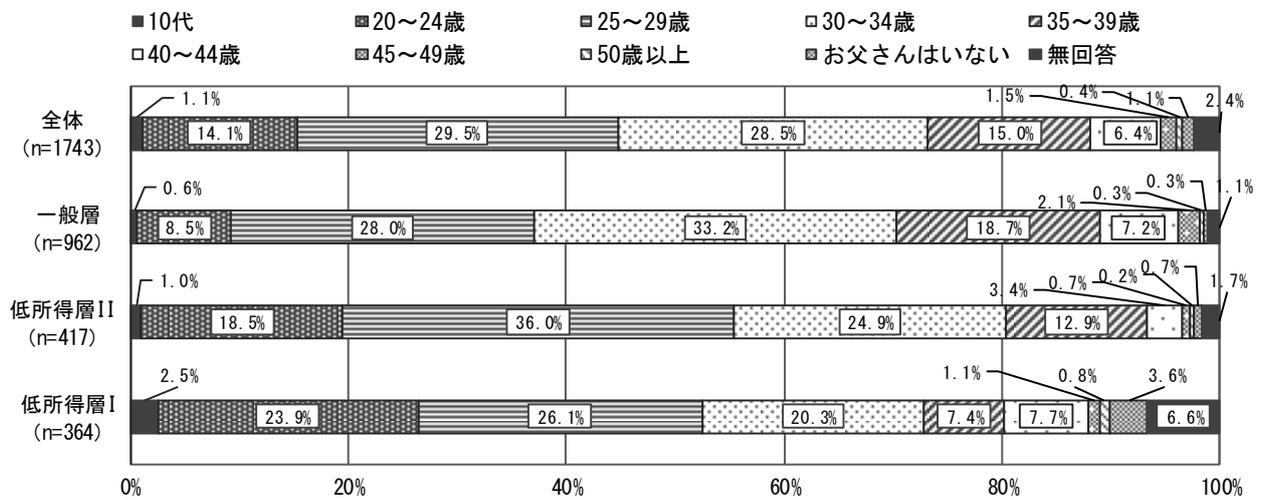
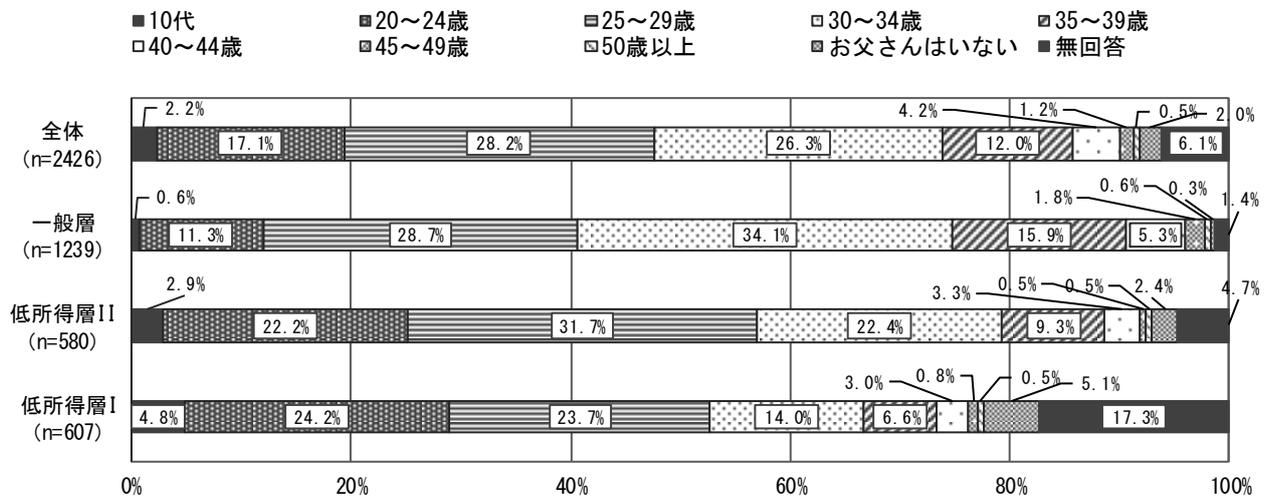


図 8-3-4 【5歳児／父親】初めて親になった年齢はいくつですか。



【 1 歳児 ・ 5 歳児 】

図 8-3-5 【 1 ・ 5 歳児 / 母親 】 初めて親になった年齢 × 雇用形態

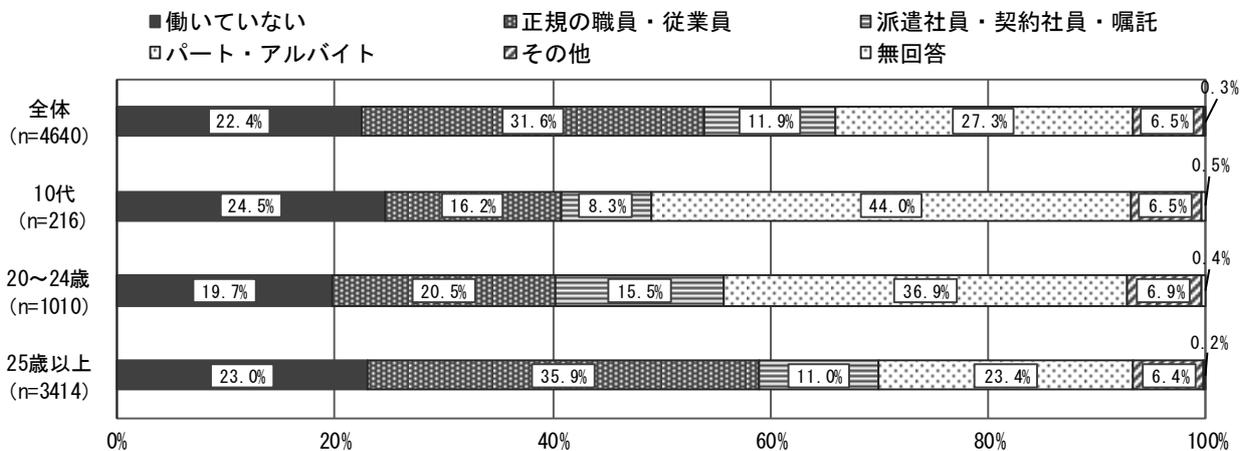
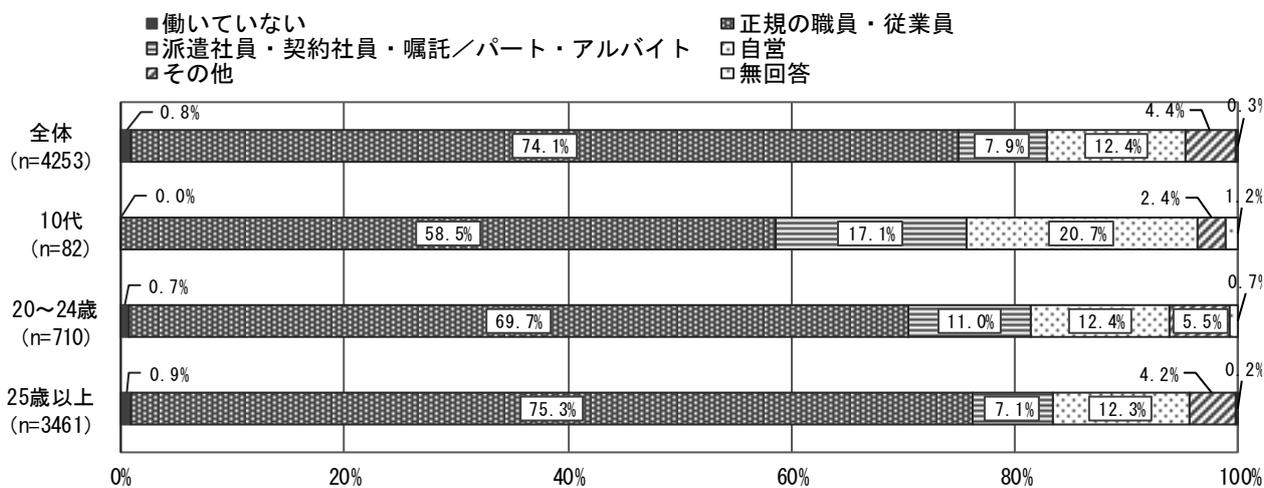


図 8-3-6 【 1 歳児 ・ 5 歳児 / 父親 】 初めて親になった年齢 × 雇用形態



考 察

本章では、現在の状況を深く考察するために、親のこれまでの「人生経験」（過去のできごと）をもとに検討を行いました。親の学歴（教育）や出産が現在の状況と関係していることが示唆されました。

まず、親の学歴について注目したところ、第一に、親の最終学歴と現在の所得には関連があることがわかりました。低所得層Ⅰの約5割が中学校卒・高校卒でした。第二に、親の最終学歴と現在の雇用形態についても関連があることがわかりました。大学卒になるほど雇用形態が正規である割合が高くなり、中学校卒・高校卒だと非正規の割合が高くなりました。このように、親の学歴と現在の経済状況や雇用形態は関係しており、学歴が一定の影響をもつことが示唆されました。

次に、親の「15歳の頃の暮らし向き」との関連で検討を行いました。子ども時代に低所得で十分な機会をもてなかったことが現在の低所得につながっているのではないかという、いわゆる「世代間連鎖」についての把握を目的としています。検討した結果、「連鎖」の傾向が確認されました。15歳の頃、「大変苦しい」・「やや苦しい」と答えた方が、現在の低所得層Ⅰ・Ⅱに多くみられました。

最後に、子どもの親が「初めて親になった年齢」との関連で検討を行いました。いわゆる「若年出産」の影響の把握を試みました。その結果、母親でも父親でも、現在が低所得になるほど「10代」「20～24歳」の割合が増える傾向がみられます。言い換えると、早くに親になるほど（若年出産であるほど）、その後、低所得になる可能性があることが示唆されました。特に5歳児の母親の低所得層Ⅰでは、「10代」「20～24歳」の出産が5割近くに上り、若年出産と低所得の強固な結びつきがみられました。

また、母親でも父親でも、「初めて親になった年齢」が低くなるにつれて、母親では「パート・アルバイト」、父親では「派遣社員・契約社員・嘱託／パート・アルバイト」の割合が増え、「正規の職員・従業員」が減る傾向にありました。早くから親になることと現在の雇用形態に関連があることがわかります。

以上の結果から、現在の経済状況のきっかけは親の子ども時代にあるという可能性が示唆されました。特に、「中学校卒」や「若年出産」は厳しい状況につながる大きな要因となっていると考えられ、高校に進学しない場合や高校中退の場合、早期の妊娠などに対して十分なサポートが必要であると考えられます。

第 9 章

現在の暮らし

第9章 現在の暮らし

◆ 9-1 現在の暮らしについて

現在の暮らしについて尋ねたところ、低所得層の生活の苦しさが顕著にみられる結果となっています。図9-1-1、2をみると、低所得層Ⅰでは、「大変苦しい」「やや苦しい」を合わせると、1歳児では71.7%、5歳児では66.6%と、非常に高くなっています。低所得層Ⅱでも、1歳児で51.3%、5歳児で48.7%と約半数が「苦しい」と答えています。低所得層でみると、いずれも1歳児の方がやや高い結果となっており、より厳しい生活状況であることがうかがえます。

家計の状況についても、低所得層の厳しさがみえてきます。図9-1-3と図9-1-4で、低所得層Ⅰに注目してみると、「赤字であり、借金をしている」が26~27%、「赤字であり、貯蓄を取り崩している」が19~23%となっています。約半数が赤字で、そのうち4分の1の世帯は借金でやりくりしているという厳しい現実があります。こちらも1歳児の方が高い割合となっています。

図9-1-5は、家計の状況について、過去に県が実施した小中学生調査と高校生調査において「赤字」と回答した家庭を比較したグラフになります。小中学生、高校生調査と設問が若干ことなるため単純に比較はできませんが、「赤字であり借金をしている／赤字であり借金をして生活している」（前者は1・5歳児、後者は小中学生調査、高校生調査）をみると、5歳児は小学1年生の12.7%よりも高い13.9%で、小学5年生と同じ割合となっていることがわかります。

将来の貯蓄については、「貯蓄をしたいができない」が低所得層Ⅰでは1歳児でも5歳児でも5割を超え、低所得層Ⅱでも同じく3割を超えます。

図9-1-1 【1歳児】ご家庭の現在の暮らしをどのように感じていますか。

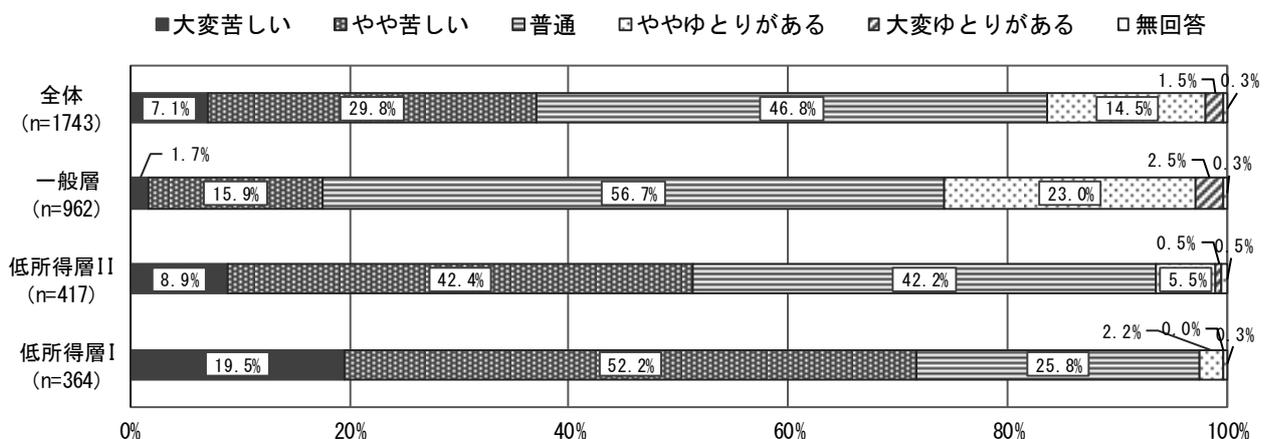


図9-1-2 【5歳児】ご家庭の現在の暮らしをどのように感じていますか。

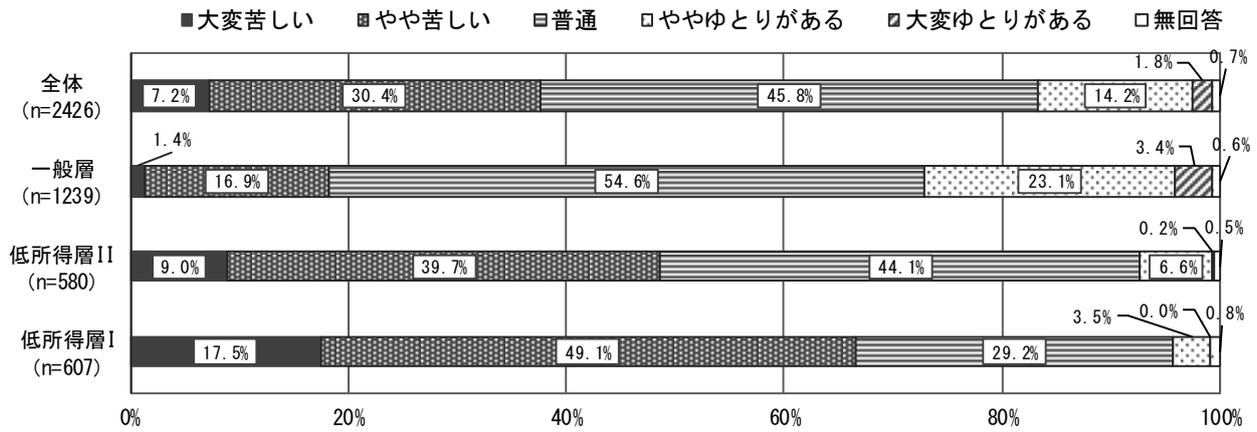


図9-1-3 【1歳児】ご家庭の家計について教えてください。

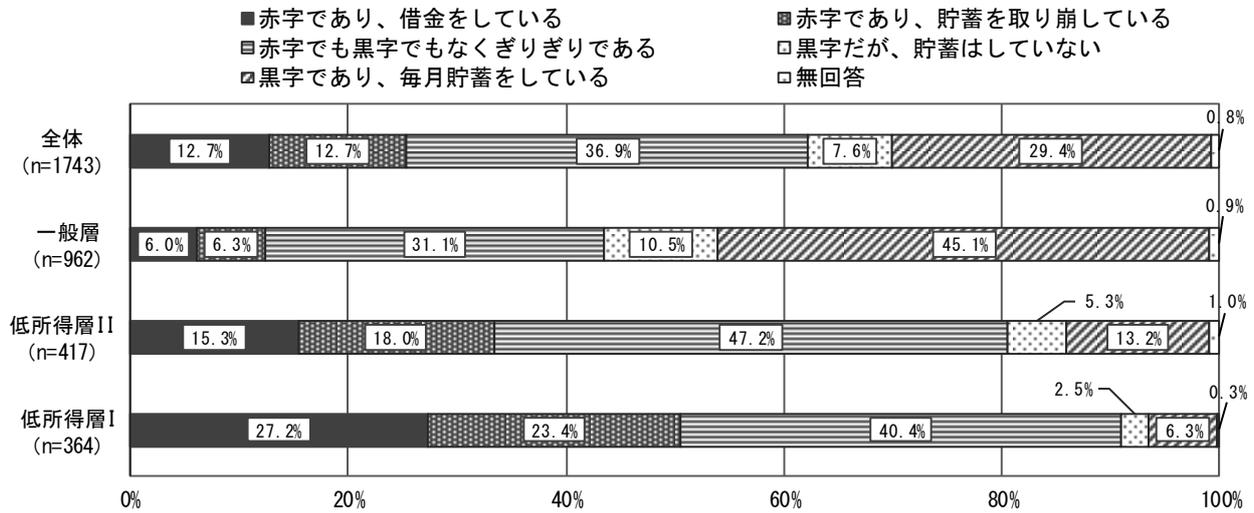


図9-1-4 【5歳児】ご家庭の家計について教えてください。

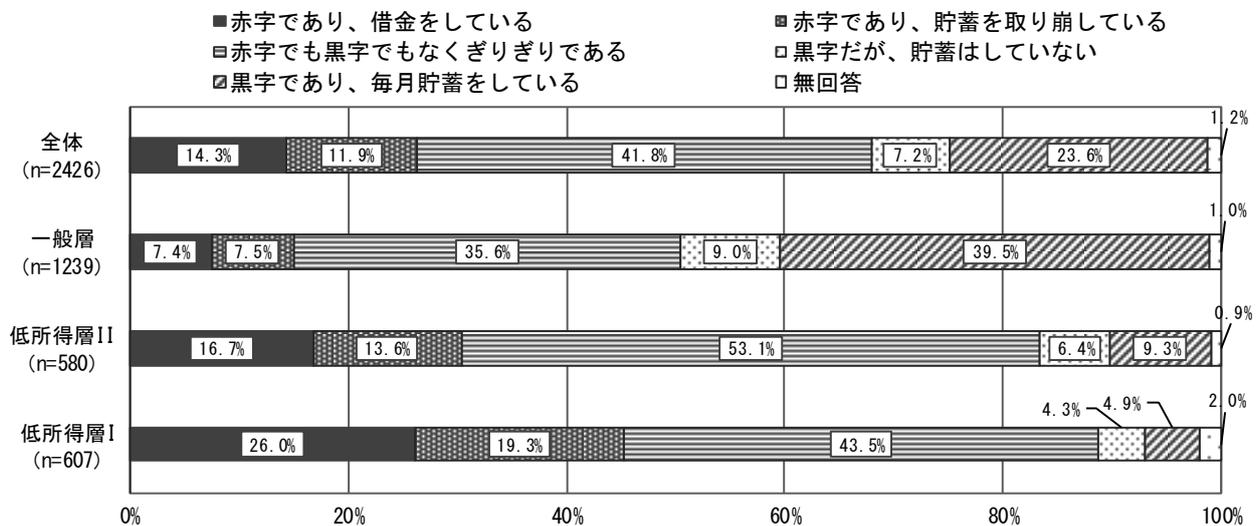
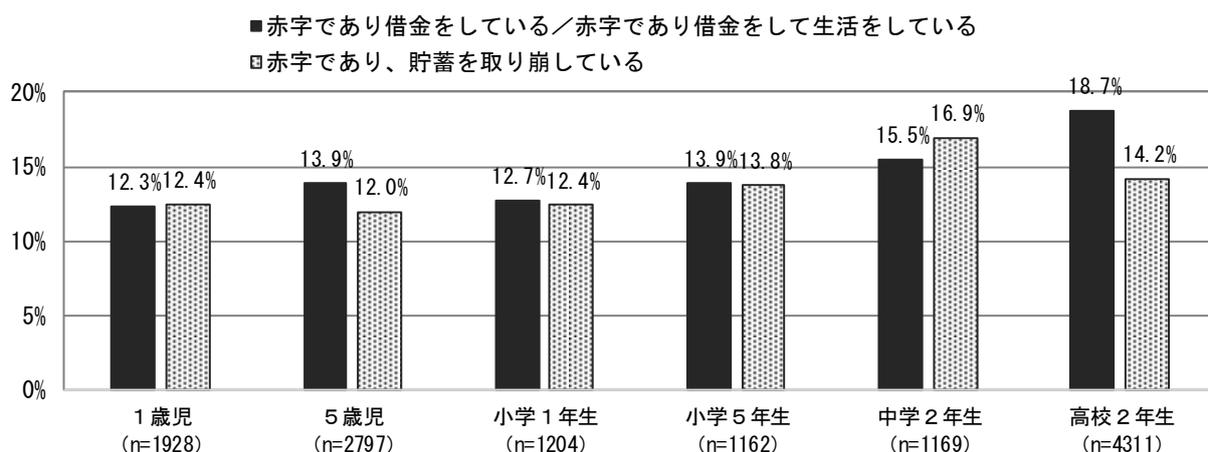


図 9-1-5 家庭の家計の状況



注) 小中/高校生調査と未就学児調査では設問の内容が少し異なる。

小中/高校生調査: 「あなたのご家庭の通常の家計の状況について、もっとも近いものに○をしてください」

—赤字であり、借金をして生活している/赤字であり、貯蓄を取り崩している/赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである/黒字であり、余裕がある/黒字であり、毎月貯蓄をしている

図 9-1-6 【1 歳児】お子さんの将来のための貯蓄 (学資保険などを含む) をしていますか。

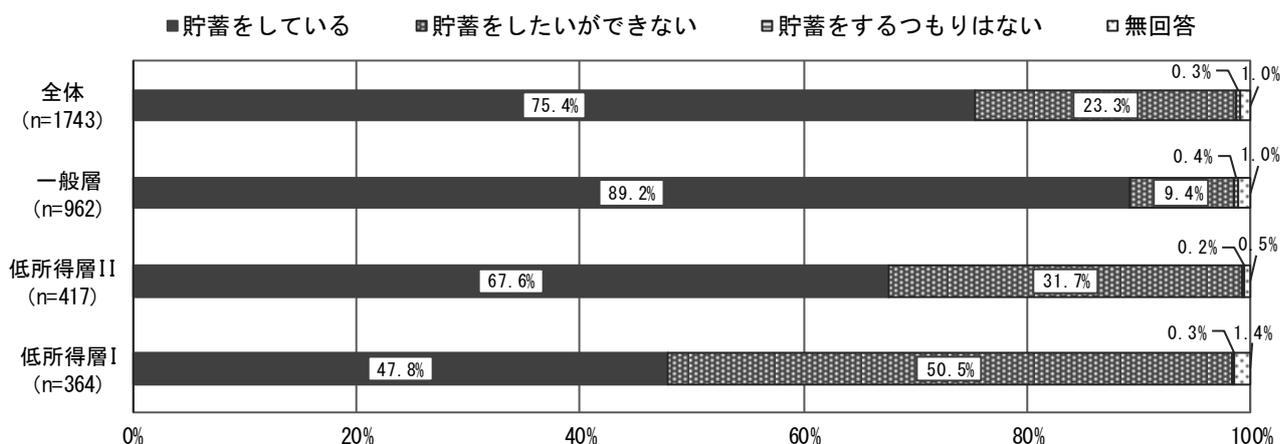
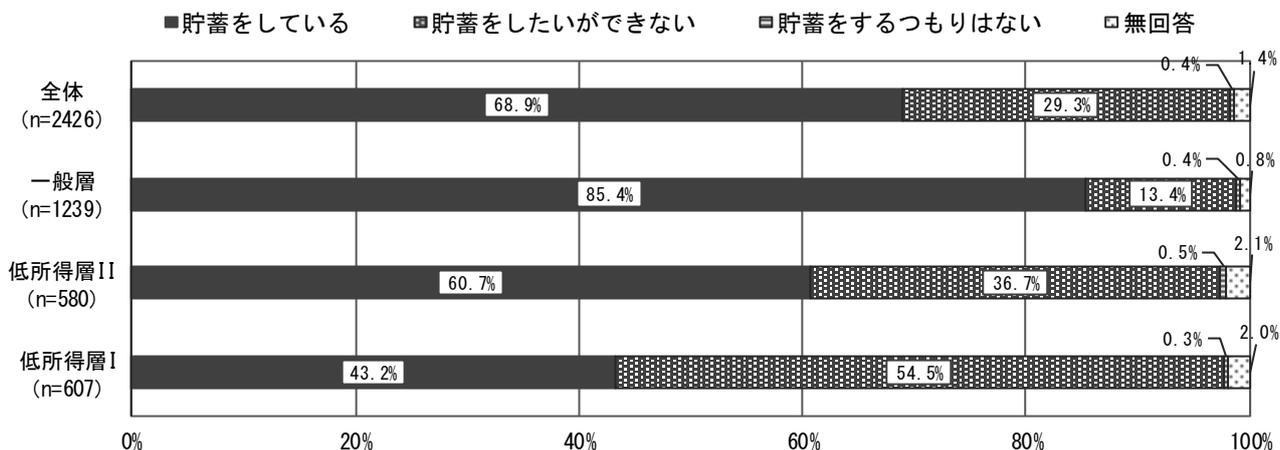


図 9-1-7 【5 歳児】お子さんの将来のための貯蓄 (学資保険などを含む) をしていますか。



◆ 9-2 食料・衣料が買えなかった経験

「過去一年間に、お金が足りなくて家族が必要とする食料や衣料が買えないことがありましたか」と尋ねました。いずれも所得が低くなるにつれて「よくあった」「ときどきあった」が高い割合を示しています。

食料が買えなかった経験（図9-2-1、2）について、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた回答は、1歳児の低所得層Iで38.2%、5歳児の低所得層Iでは42.1%にのびります。

また、図9-2-3は、食料が買えなかった経験について、過去に県が実施した小中学生調査と高校生調査と比較してみると、子どもの年齢が上がるほど、食料が買えなかった割合が高くなっています。「よくあった」に注目すると、各年齢・学年ともに2～3%前後となっており、最も高い高校2年生の3.3%に次いで、5歳児と小学5年生が3.0%となっています。

衣料が買えなかった経験について、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた回答は、1歳児の低所得層Iで48.6%、5歳の低所得層Iでは52.2%です。

買えなかった経験は、食料より衣料の方が高い割合になっています。また、1歳児よりも5歳児のほうが買えなかった傾向にあります。

図9-2-1 【1歳児】食料が買えなかった経験

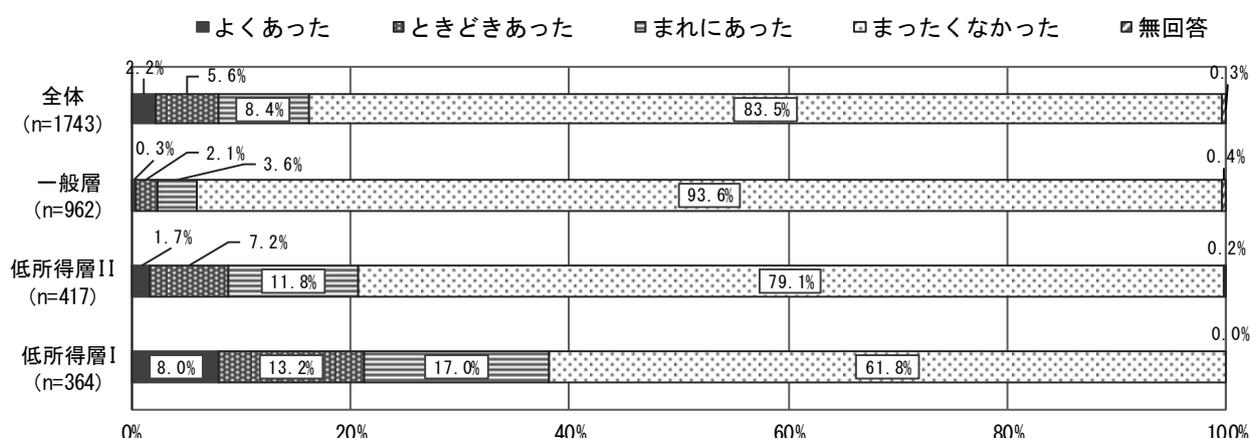


図9-2-2 【5歳児】食料が買えなかった経験

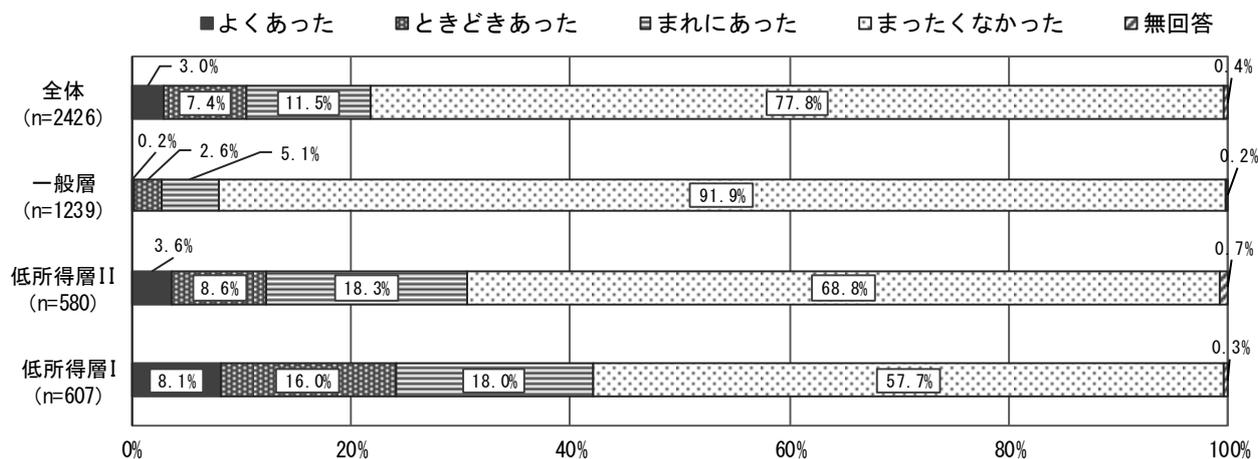


図9-2-3 食料が買えなかった経験

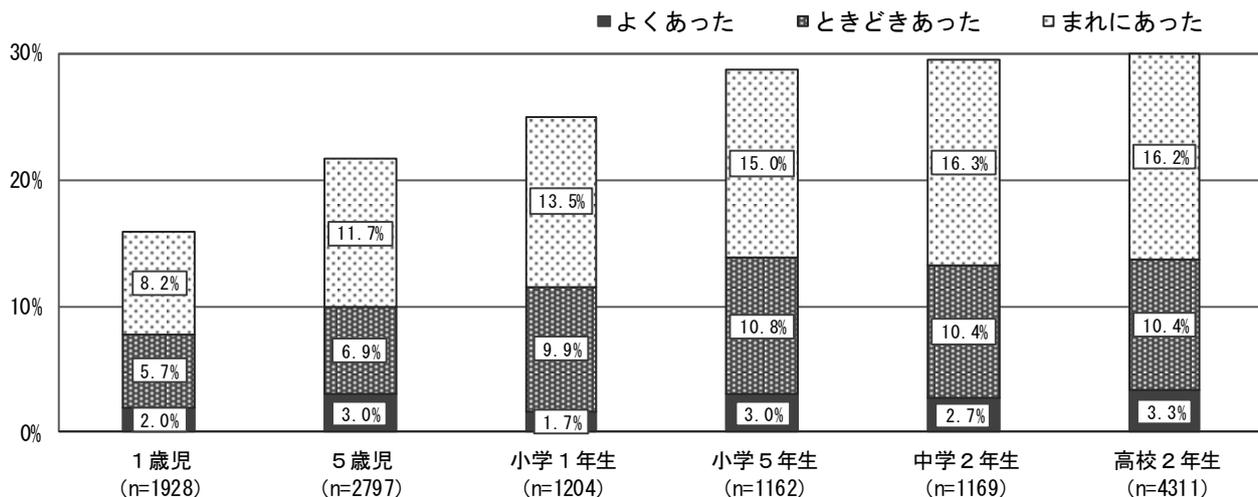


図9-2-4 【1歳児】衣料が買えなかった経験

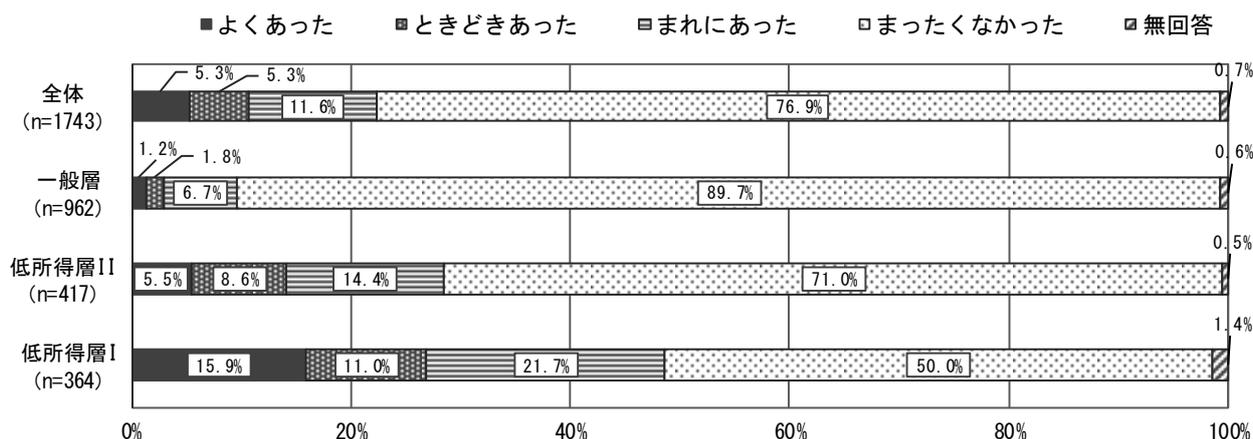
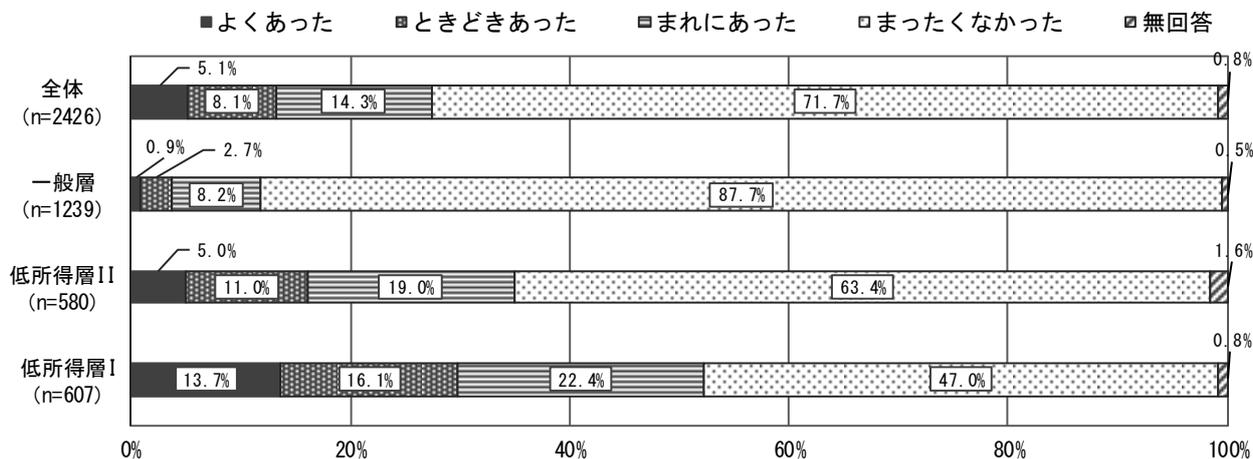


図9-2-5 【5歳児】衣料が買えなかった経験



◆ 9-3 滞納経験

過去一年間の滞納経験を尋ねた結果が、図9-3-1と図9-3-2です。1歳児・5歳児、すべての経済状況に共通してもっとも多かったのは、「カードや借金の支払い」の滞納です。低所得層Ⅰでは、1歳児で32.1%、5歳児で32.6%、低所得層Ⅱでも1歳児で20.9%、5歳児で19.7%と、他の項目より高くなっています。次いで高かったのは、1歳児では「電気代またはガス料金」、「公的年金」、「電話料金」などです。5歳児では、「電気代またはガス料金」、「電話料金」、「公的年金」などが続いています。

図9-3-1 【1歳児】過去一年間に、経済的な理由で月々の料金の支払いができなかったり遅れたりしたことがありましたか。

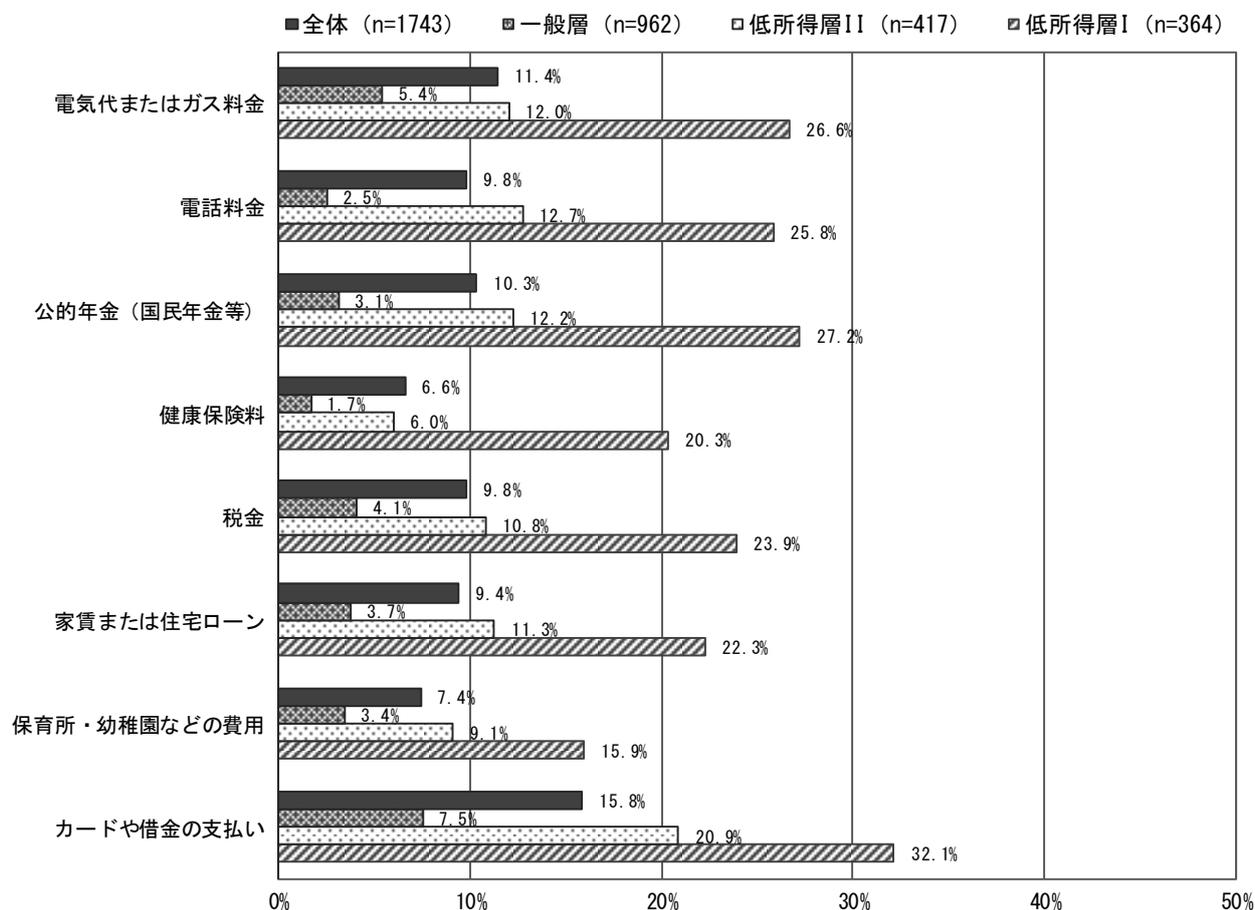
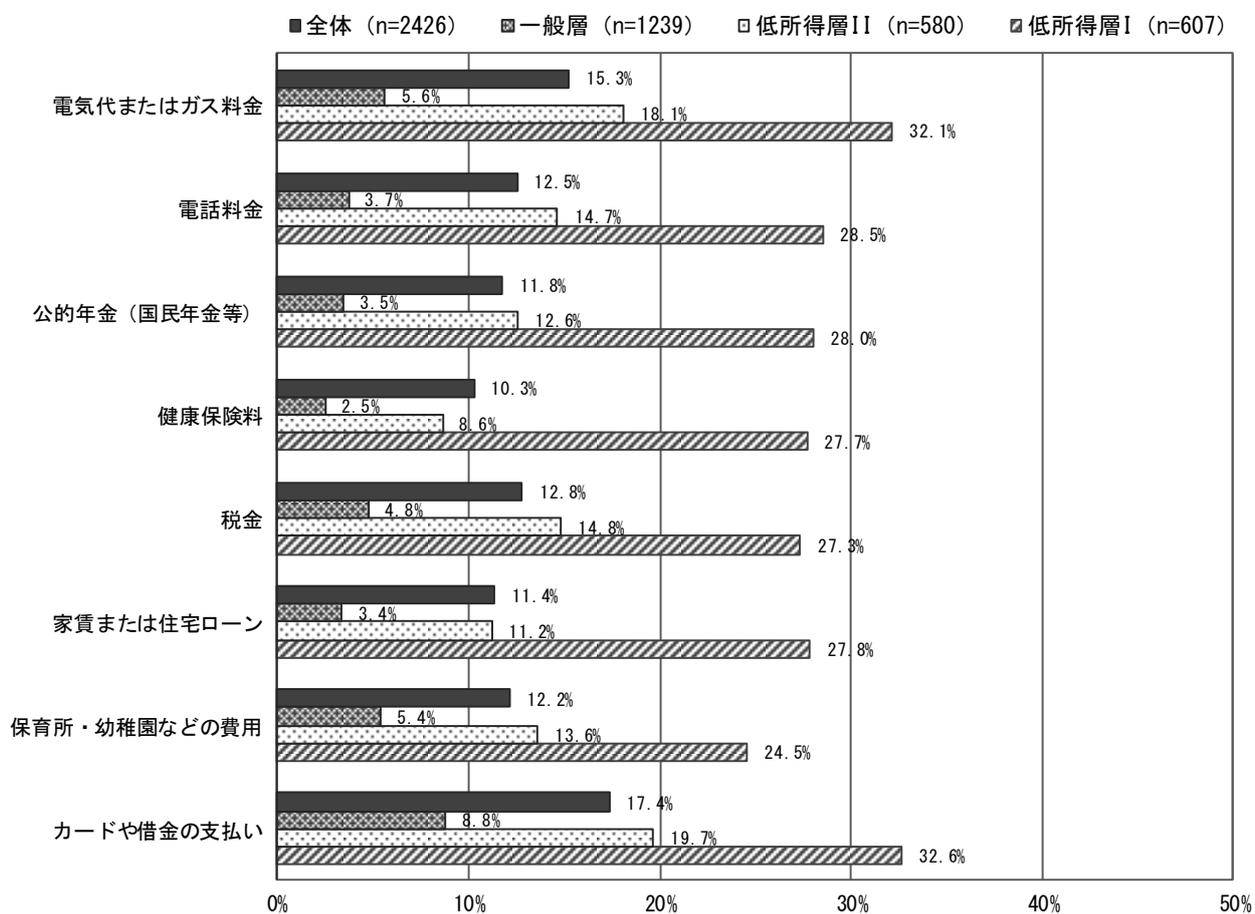


図9-3-2 【5歳児】過去一年間に、経済的な理由で月々の料金の支払いができなかったり遅れたりしたことがありますか。



◆ 9 - 4 制度利用

「児童扶養手当」「生活保護」「生活福祉資金貸付金」「母子父子寡婦福祉資金貸付金」の利用に関して尋ねました。「利用したことがない」の中でも、「利用の仕方がわからなかった」と「制度やサービスについてまったく知らなかった」に注目して分析しました。

お尋ねしたすべての制度、また1歳児・5歳児いずれにおいても、低所得になるほど「利用の仕方がわからなかった」「制度やサービスについてまったく知らなかった」が高くなっています。制度・サービスへのアクセスに明確な所得格差があることがわかります。

また、「児童扶養手当」と「生活保護」に比べて「生活福祉資金貸付金」や「母子父子寡婦福祉資金貸付金」の認知度はやや低いことがわかります。

図 9-4-1 【1歳児】これまで以下の制度を利用したことがありますか。
— 1. 児童扶養手当 —

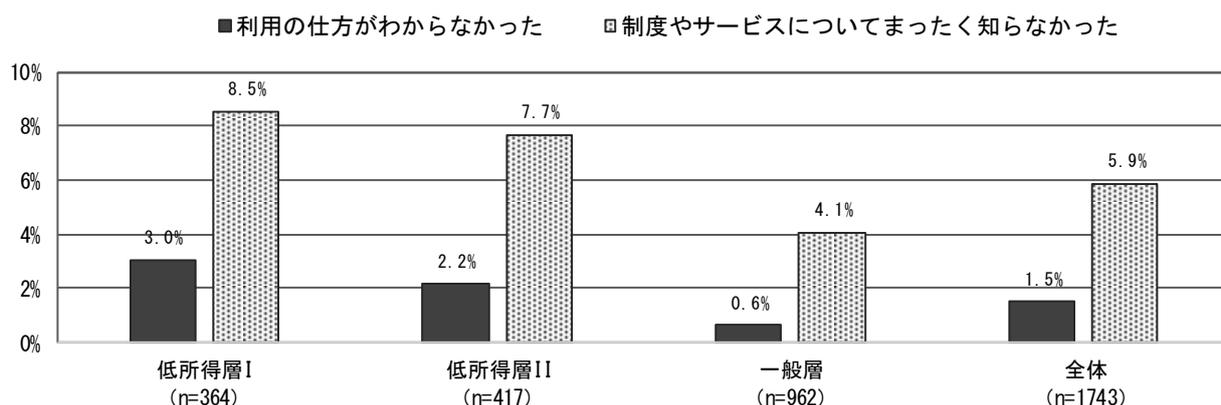


図 9-4-2 【5歳児】これまで以下の制度を利用したことがありますか。
— 1. 児童扶養手当 —

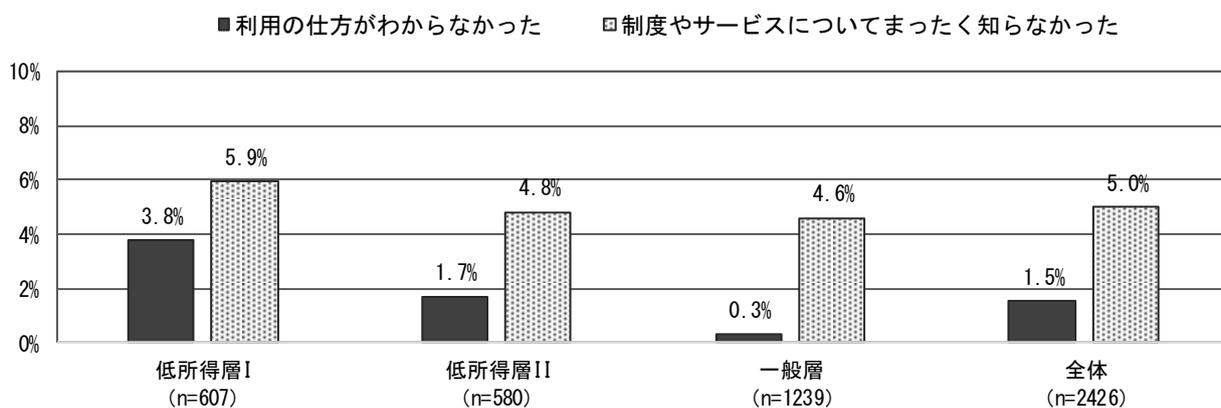


図9-4-3 【1歳児】これまで以下の制度を利用したことがありますか。
— 2. 生活保護 —

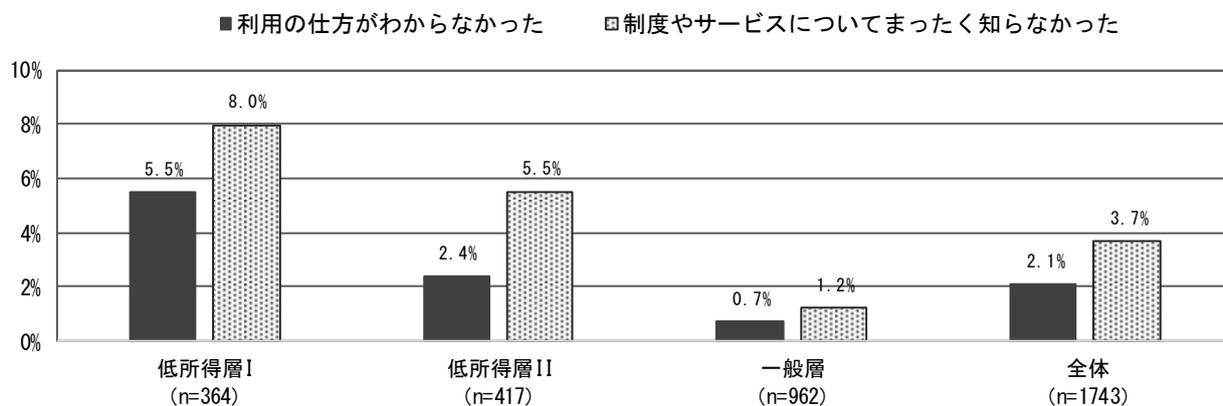


図9-4-4 【5歳児】これまで以下の制度を利用したことがありますか。
— 2. 生活保護 —

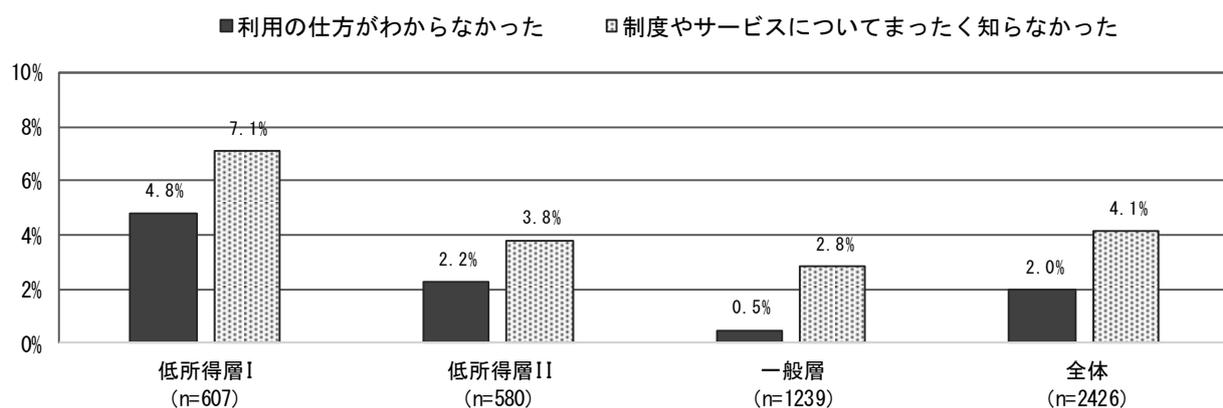


図9-4-5 【1歳児】これまで以下の制度を利用したことがありますか。
— 3. 生活福祉資金貸付金 —

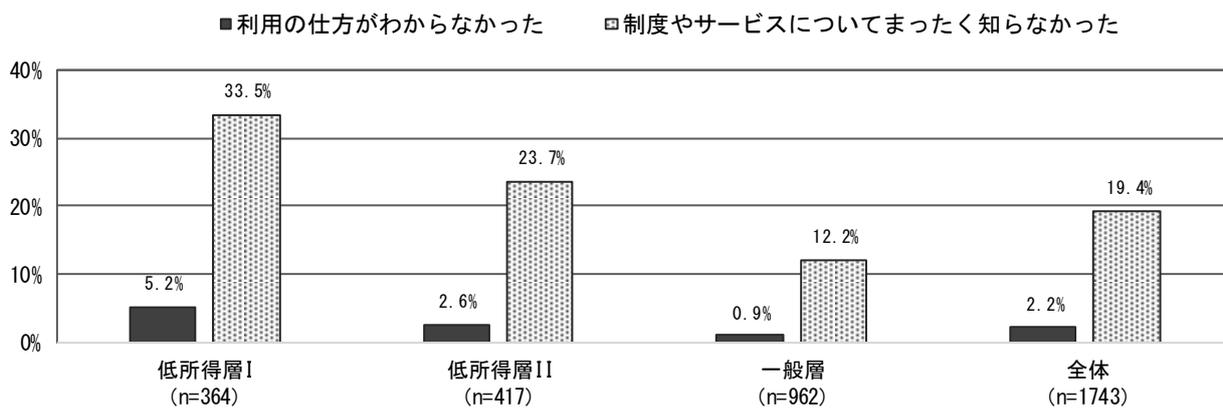


図9-4-6 【5歳児】これまで以下の制度を利用したことがありますか。
— 3. 生活福祉資金貸付金 —

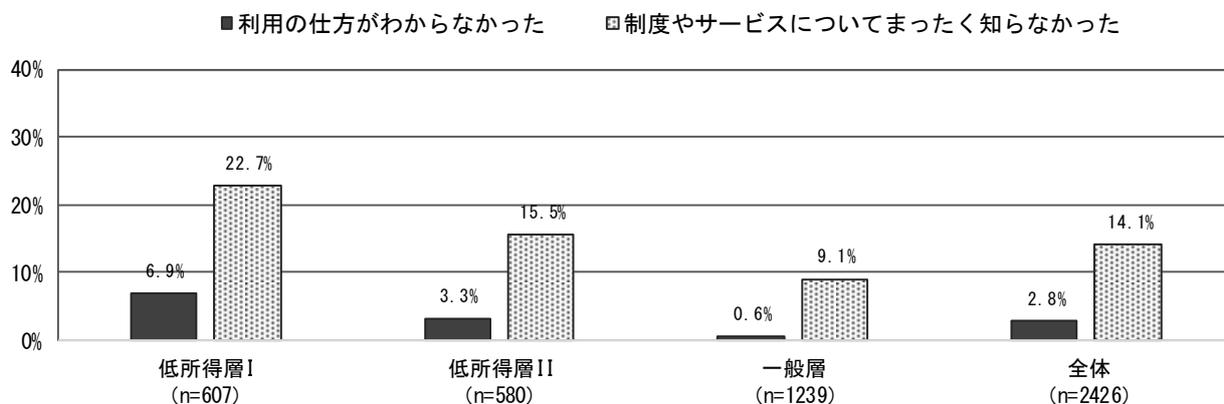


図9-4-7 【1歳児】これまで以下の制度を利用したことがありますか。
— 4. 母子父子寡婦福祉資金貸付金 —

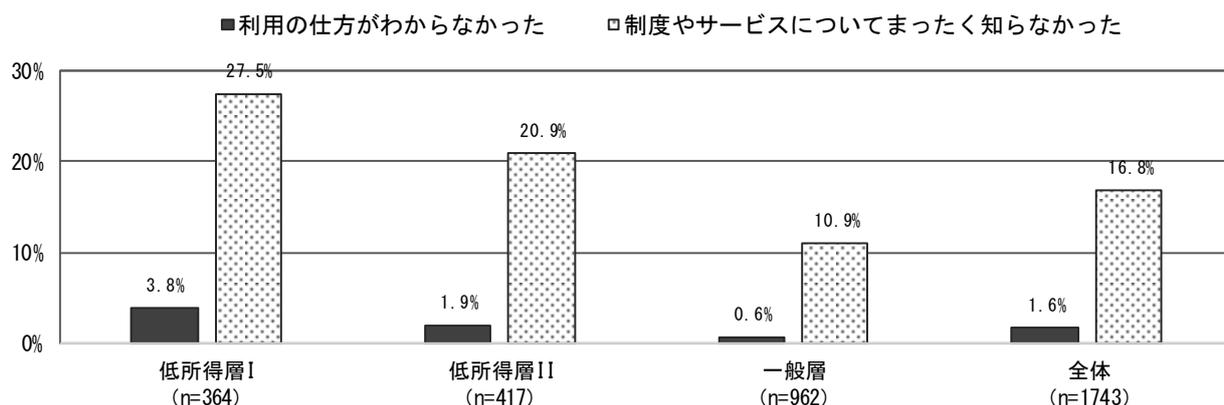
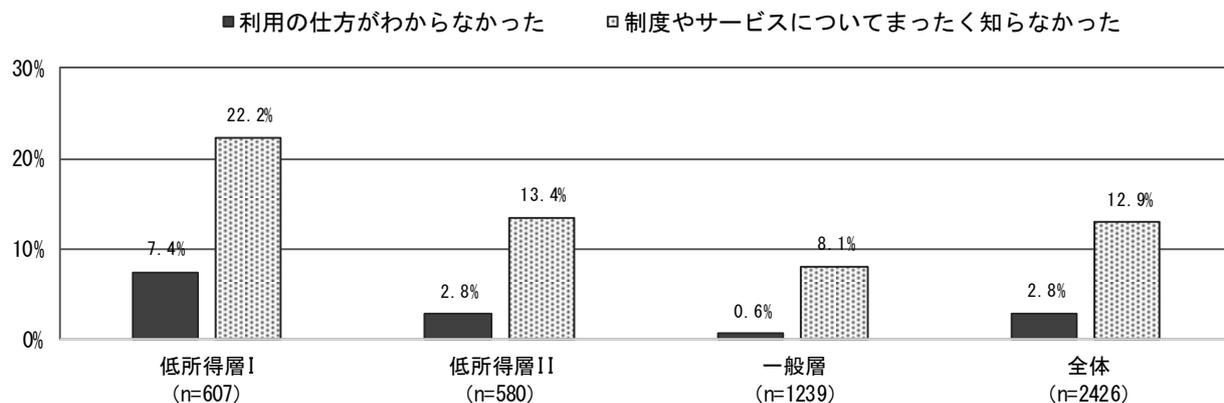


図9-4-8 【5歳児】これまで以下の制度を利用したことがありますか。
— 4. 母子父子寡婦福祉資金貸付金 —



考 察

「現在の暮らし」「食料・衣料が買えなかった経験」「滞納経験」「制度利用」について検討しました。いずれからも乳幼児を育てる家族の厳しい現実が浮かんできました。現在の暮らしについて尋ねたところ、低所得層の生活の苦しさが顕著にみられる結果となっています。

低所得層Ⅰの状況についてまとめてみると、現在の暮らしが「大変苦しい」「やや苦しい」という割合が6～7割、家計状況が「赤字」が約5割（そのうち「借金をしている」が26～27%、「貯蓄を取り崩している」が19～23%）、「食料が買えなかった」は3～4割、「衣料が買えなかった」は約5割、「カードや借金の支払い」の滞納経験ありが約3割になります。厳しい雇用環境の中、収入は低く、借金せざるを得ない状況にあり、また食料や衣料が買えないことがあるくらい厳しく、借金の支払いも滞ってしまうほどの状況にあると言えそうです。

こうした中、福祉制度にアクセスできるかどうかはひとつの鍵となってきますが、制度・サービスへのニーズが最も高いと思われる低所得層Ⅰで、「わからなかった」「知らなかった」の割合が最も高いという結果となりました。支援が必要な人々が、制度・サービスを利用できない現状については、改善していく必要があります。

ま と め

ま と め

今回、1歳児と5歳児の保護者を対象として行いました「沖縄子ども調査」は、平成27年度に小中学校の生徒及びその保護者を対象として行いました「沖縄子ども調査」、平成28年度に高校生を対象に行いました「沖縄県高校生調査」に続く3度目の調査となります。

いずれも、「子どもの貧困対策法」に基づいて、都道府県が策定する子どもの貧困対策計画の基礎資料を作成することが目的であります。平成27年の「沖縄県子供の貧困率調査」で子どもの貧困率が29.9%であることが示されましたように、今回も貧困世帯の生活状況がどのようなものなのかに関心が集まっております。

沖縄県では、平成28年3月に「沖縄県子どもの貧困対策推進基金」を設置し、就学援助の拡大と周知、放課後児童クラブの利用料負担の軽減といった事業費を市町村に交付し、平成28年度からは内閣府が市町村に対し、子供の貧困対策支援員の配置と子供の居場所の運営支援にかかる経費を全額補助する異例ともいえる対応をしました。

今回の調査は、対象が1歳児と5歳児の保護者ということもあり、それらの施策の直接的な影響は少ないと思われませんが、子どもの貧困状況を伝える数々の新聞報道や就学援助のテレビCM、ラジオキャンペーンが繰り返されたこと、さらに、保育所不足の解消に市町村が取り組んだことなどもあり、それらが調査に与える影響も気になるところであります。

さて、未就学児期に絞った今回の調査では、幼い子どもを育てる環境がまずは気になるところであります。保育所への入所を希望しており、すぐにでも通わせたいと考えている親の割合は、所得が低い層ほど高くなることが明確に表れました。また、遊び場としてショッピングセンターや商店街と答える親が半数ほどおり、5歳児でも友達の家で過ごすことは少ないとの結果が今回の調査でわかりました。

働き続けながら子育てをしている家庭では、放課後児童クラブの利用が検討されることが多いと思われませんが、今回の調査で所得の低い層ほど利用希望が減る傾向が見られました。利用料が県外と比べ高額であることや放課後児童クラブの受け入れ児童数に限りがあることなどが利用抑制に繋がっているのではないかと危惧されます。県外において学校施設を使い、グラウンドを利用しながら活動できる放課後児童クラブが多くあることを考えると、「学校プラットホーム化」を急ぐ必要があるのではないかと思います。

また、親の精神的な余裕も気になります。所得が低い層ほど父親が子どもと過ごす時間は減り、子育てサークル等に関する知識も少ないです。自分のことは後回しにして子どもの医療費負担を気にする姿や5歳児の学用品の購入など、小学校入学準備についての不安の大きさも経済状況との関連性がみられました。これは妊娠中や子育て中の相談相手の有無に関しても同様であり、そこでは貧困の連鎖が想像されます。

言うまでもなく、乳幼児を育てる環境を整えることが、子育て中だけでなく、その前段階である結婚や出産への不安を軽減していきます。調査の結果からすると保育所の整備や各種の負担軽減策はもちろん、妊娠期や子育て時の不安に即応できる人的体制と場づくりがこの先さらに重要になることは確かです。子育て支援センターの敷居を下げ、気軽なカフェに行く感覚で気持ちを解放できる場所が必要ではないでしょうか。平成29年度に沖縄県が「妊娠期からつながる仕組み」検討事業を開始し、平成30年度から3市が事業を実施することになったことは朗報であり、今後の全県展開に大いに期待したいです。

「人類は、児童に対し、最善のものを与える義務を負うものである」という児童の権利宣言に依拠するならば、わが国の施策は「最善」といえる状況ではなく、次々に生じた社会問題に対処してきた「結果」です。その上で、さらに戦後の米軍統治下の歴史に曝された本県は、多くの困難を抱えています。

本県で育つ子どもたちが、幸福であること、その人らしい人生を歩めることを目指して、この調査の結果を「沖縄県しかなし得ない施策」に結びつけて行けるよう私たちも努力を重ねて参りたいです。そのために沖縄県には将来を長期的に見据えた実践的かつ具体的な計画を策定して頂きたいと願います。

終わりに、本調査にご協力頂いた未就学児の保護者の方々、調査票配布にご協力頂いた保育施設や幼稚園関係者の皆様に心より感謝を申し上げ、今後のなお一層のご発展を祈念いたします。

平成30年6月

沖縄県子ども調査事業共同体

島村 聡

単 純 集 計

【問1】 このアンケートにお答えいただいている方は、お子さんから見てどなたにあたりますか。
(○は1つ)

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
1. お母さん	1425	73.9%	2566	91.6%
2. お父さん	482	25.0%	214	7.6%
3. 祖母	7	0.4%	7	0.3%
4. 祖父	10	0.5%	1	0.0%
5. おじ・おばなどの親戚	0	0.0%	2	0.1%
6. 施設職員（里親）	1	0.1%	3	0.1%
7. その他の方	0	0.0%	1	0.0%
無回答	4	0.2%	6	0.2%
総計	1929	100.1%	2800	99.9%

* 「その他の方」 5歳児：兄弟

【問2】 あなたが日常生活でよく使う言葉はどれですか。(○は1つ)

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
1. 日本語	1913	99.2%	2770	99.0%
2. 日本語以外	10	0.5%	18	0.6%
無回答	5	0.3%	9	0.3%
総計	1928	100.0%	2797	99.9%

【問3】 お子さんの父母の年齢を教えてください。(それぞれ○は1つ)

	1歳児（母）		1歳児（父）		5歳児（母）		5歳児（父）	
	n	%	n	%	n	%	n	%
1. 10代	2	0.1%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%
2. 20～24歳	64	3.3%	28	1.5%	19	0.7%	6	0.2%
3. 25～29歳	251	13.0%	169	8.8%	213	7.6%	102	3.6%
4. 30～34歳	615	31.9%	512	26.6%	625	22.3%	401	14.3%
5. 35～39歳	641	33.2%	518	26.9%	910	32.5%	709	25.3%
6. 40～44歳	309	16.0%	391	20.3%	761	27.2%	725	25.9%
7. 45～49歳	34	1.8%	109	5.7%	222	7.9%	323	11.5%
8. 50歳以上	2	0.1%	40	2.1%	18	0.6%	137	4.9%
9. お母さん／お父さんはいない	0	0.0%	54	2.8%	9	0.3%	140	5.0%
無回答	10	0.5%	106	5.5%	20	0.7%	254	9.1%
総計	1928	99.9%	1928	100.3%	2797	99.8%	2797	99.8%

【問4】お子さんと同居している家族（※）の人数を教えてください（あなたとお子さんも含む）。（枠内に数字で記入してください）

※「家族」とは、同居か別居かに関わらず、生計（家計）が同じである人をさします。

単身赴任中や一人暮らしのお子さんも、生計（家計）が同じであれば「家族」に含まれます。

※2世帯住宅の場合、生計（家計）が別であれば、家族の人数として数えないでください。

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
2人	31	1.6%	77	2.8%
3人	515	26.7%	334	11.9%
4人	703	36.5%	976	34.9%
5人	449	23.3%	902	32.2%
6人	156	8.1%	361	12.9%
7人	40	2.1%	98	3.5%
8人	19	1.0%	27	1.0%
9人	6	0.3%	12	0.4%
10人	1	0.1%	2	0.1%
11人	2	0.1%	1	0.0%
12人	0	0.0%	2	0.1%
無回答	6	0.3%	5	0.2%
総計	1928	100.1%	2797	100.0%

【問5】お子さんと同居している家族の方は、どなたですか。それぞれ人数も教えてください。お子さんから見た続柄でお答えください。（あてはまるものすべてに○、人数はカッコの中に数字で記入してください）

*問4の補足となる問の為、集計は省略

【問6】お母さんの現在のお仕事の状況を教えてください。（○は1つ）

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
1. 働いていない	467	24.2%	583	20.8%
2. 正規の職員・従業員	686	35.6%	794	28.4%
3. 派遣社員・契約社員・嘱託	236	12.2%	322	11.5%
4. パート・アルバイト	434	22.5%	847	30.3%
5. 会社・団体等の役員	9	0.5%	19	0.7%
6. 自営	70	3.6%	154	5.5%
7. 内職	3	0.2%	5	0.2%
8. その他	15	0.8%	35	1.3%
無回答	8	0.4%	38	1.4%
総計	1928	100.0%	2797	100.1%

【問6-1】問6で「1.働いていない」と答えた方にお聞きします。働いていない理由を教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

	1歳児 (N=467)		5歳児 (N=583)	
	n	%	n	%
1. 子育てに専念したい	223	47.8%	288	49.4%
2. 条件にあう雇用先がない	80	17.1%	110	18.9%
3. 子どもの預け先がない	174	37.3%	151	25.9%
4. 家事・育児が負担	89	19.1%	108	18.5%
5. 健康上の理由で働けない	23	4.9%	57	9.8%
6. その他	86	18.4%	94	16.1%

【問6-2】問6で2～8と答えた方にお聞きします。

①一週間の平均的な労働日数を教えてください。(○は1つ)

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
1. 1日	3	0.2%	10	0.5%
2. 2日	12	0.8%	18	0.8%
3. 3日	44	3.0%	69	3.2%
4. 4日	124	8.5%	217	10.0%
5. 5日	1051	72.3%	1461	67.1%
6. 6日	186	12.8%	345	15.9%
7. 7日	11	0.8%	20	0.9%
無回答	22	1.5%	36	1.7%
総計	1453	99.9%	2176	100.1%

②働いている日の平均的な労働時間(残業時間を含む)を教えてください。(○は1つ)

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
1. 2時間未満	7	0.5%	11	0.5%
2. 2～4時間未満	36	2.5%	70	3.2%
3. 4～6時間未満	244	16.8%	470	21.6%
4. 6～8時間未満	565	38.9%	807	37.1%
5. 8～10時間未満	551	37.9%	726	33.4%
6. 10～12時間未満	36	2.5%	68	3.1%
7. 12時間以上	6	0.4%	17	0.8%
無回答	8	0.6%	7	0.3%
総計	1453	100.1%	2176	100.0%

③お仕事には平日の日中以外の勤務もありますか。(あてはまるものすべてに○)

	1歳児 (N=1453)		5歳児 (N=2176)	
	n	%	n	%
1. 早朝勤務(朝5～8時)	152	10.5%	216	9.9%
2. 夜勤勤務(夜8～10時)	131	9.0%	193	8.9%
3. 深夜勤務(夜10～朝5時)	82	5.6%	126	5.8%
4. 土曜出勤	814	56.0%	1173	53.9%
5. 日曜・祝日出勤	471	32.4%	736	33.8%
6. 1から5にあてはまる勤務はない	496	34.1%	712	32.7%
7. わからない	20	1.4%	28	1.3%

【問7】お父さんの現在のお仕事の状況を教えてください。(〇は1つ)

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
1. 働いていない	15	0.8%	26	0.9%
2. 正規の職員・従業員	1391	72.1%	1821	65.1%
3. 派遣社員・契約社員・嘱託	132	6.8%	144	5.1%
4. パート・アルバイト	29	1.5%	47	1.7%
5. 会社・団体等の役員	61	3.2%	97	3.5%
6. 自営	189	9.8%	353	12.6%
7. 内職	0	0.0%	0	0.0%
8. その他	16	0.8%	18	0.6%
無回答	95	4.9%	291	10.4%
総計	1928	99.9%	2797	99.9%

【問7-1】問7で「1. 働いていない」と答えた方にお聞きします。働いていない理由を教えてください。(あてはまるものすべてに〇)

	1歳児 (N=15)		5歳児 (N=26)	
	n	%	n	%
1. 子育てに専念したい	1	6.7%	2	7.7%
2. 条件にあう雇用先がない	4	26.7%	1	3.8%
3. 子どもの預け先がない	0	0.0%	1	3.8%
4. 家事・育児が負担	0	0.0%	3	11.5%
5. 健康上の理由で働けない	6	40.0%	10	38.5%
6. その他	8	53.3%	11	42.3%

【問7-2】問7で2～8と答えた方にお聞きします。

①一週間の平均的な労働日数を教えてください。(〇は1つ)

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
1. 1日	3	0.2%	2	0.1%
2. 2日	3	0.2%	6	0.2%
3. 3日	14	0.8%	13	0.5%
4. 4日	22	1.2%	32	1.3%
5. 5日	1027	56.5%	1208	48.7%
6. 6日	637	35.0%	1045	42.1%
7. 7日	92	5.1%	131	5.3%
無回答	20	1.1%	43	1.7%
総計	1818	100.1%	2480	99.9%

②働いている日の平均的な労働時間（残業時間を含む）を教えてください。（〇は1つ）

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
1. 2時間未満	8	0.4%	6	0.2%
2. 2～4時間未満	5	0.3%	9	0.4%
3. 4～6時間未満	14	0.8%	20	0.8%
4. 6～8時間未満	228	12.5%	284	11.5%
5. 8～10時間未満	974	53.6%	1288	51.9%
6. 10～12時間未満	386	21.2%	571	23.0%
7. 12時間以上	186	10.2%	274	11.0%
無回答	17	0.9%	28	1.1%
総計	1818	99.9%	2480	99.9%

③お仕事には平日の日中以外の勤務もありますか。（あてはまるものすべてに〇）

	1歳児 (N=1818)		5歳児 (N=2480)	
	n	%	n	%
1. 早朝勤務(朝5～8時)	511	28.1%	671	27.1%
2. 夜勤勤務(夜8～10時)	610	33.6%	782	31.5%
3. 深夜勤務(夜10～朝5時)	452	24.9%	556	22.4%
4. 土曜出勤	1333	73.3%	1784	71.9%
5. 日曜・祝日出勤	1104	60.7%	1508	60.8%
6. 1から5にあてはまる勤務はない	286	15.7%	350	14.1%
7. わからない	23	1.3%	49	2.0%

【問8】この調査の対象となっているお子さんの現在の年齢(月齢を含む)と性別を教えてください。
(それぞれ〇は1つ)

年齢

		1歳	2歳	5歳	6歳	無回答	総計
1歳児	n	301	1597	-	-	30	1928
	%	15.6%	82.8%	-	-	1.6%	100.0%
5歳児	n	-	-	531	2261	5	2797
	%	-	-	19.0%	80.8%	0.2%	100.0%

性別

		1. 女	2. 男	無回答	総計
1歳児	n	856	933	139	1928
	%	44.4%	48.4%	7.2%	100.0%
5歳児	n	1268	1273	256	2797
	%	45.3%	45.5%	9.2%	100.0%

【問9】 お子さんを出産するとき、次のようなことがありましたか。(あてはまるものすべてに○)

	1歳 (N=1928)		5歳児 (N=2797)	
	n	%	n	%
1. 早産 (妊娠 36 週以下)	111	5.8%	147	5.3%
2. 低体重 (2500g 未満)	187	9.7%	275	9.8%
3. 多胎妊娠・出産	20	1.0%	47	1.7%
4. どれもあてはまらない	1680	87.1%	2407	86.1%

【問10】 妊娠期間中の妊婦健診は受診していましたか。(○は1つ)

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
1. 必要な健診をすべて受診した	1780	92.3%	2657	95.0%
2. 不定期だが受診した	27	1.4%	57	2.0%
3. まったく受診していない	3	0.2%	7	0.3%
無回答	118	6.1%	76	2.7%
総計	1928	100.0%	2797	100.0%

【問10-1】 問10で「3. まったく受診していない」と答えた方にお聞きします。妊婦健診を受けなかった(受けられなかった)理由を教えてください。

【1歳児】 海外での出産のため (1件)

【5歳児】 6ヶ月まで気付かなかった (1件)、経済的に (2件)、気にしていなかった (1件)、金銭面に余裕がなかったため (1件)、忙しい (1件)、免許もなく上の子もいてあまり行けてなかった (1件)

【問11】 お子さんを妊娠している間、妊娠や出産・今後の育児などに関する悩みや心配なことをお母さんが相談できる方はいましたか。相談したことがある相手を教えてください。

(あてはまるものすべてに○)

	1歳児 (N=1928)		5歳児 (N=2797)	
	n	%	n	%
1. (お母さんの)実父母	1404	72.8%	2016	72.1%
2. 義父母	486	25.2%	572	20.5%
3. 夫	1216	63.1%	1669	59.7%
4. きょうだい	721	37.4%	1077	38.5%
5. その他の親戚	177	9.2%	238	8.5%
6. 友人・知人	1116	57.9%	1572	56.2%
7. 病院の助産師や看護師	710	36.8%	822	29.4%
8. 保健師	112	5.8%	151	5.4%
9. その他	43	2.2%	53	1.9%
10. 相談相手はいなかった	25	1.3%	62	2.2%

【問12】 出産後、退院してから一か月ほどの期間の暮らしについて教えてください。産後、家事炊事や子育てなどの手伝いをしてくれた方はいましたか。(あてはまるものすべてに○)

	1歳児(N=1928)		5歳児(N=2797)	
	n	%	n	%
1. (お母さんの)実父母	1286	66.7%	1826	65.3%
2. 義父母	518	26.9%	671	24.0%
3. 夫	1212	62.9%	1599	57.2%
4. きょうだい	355	18.4%	473	16.9%
5. その他の親戚	67	3.5%	80	2.9%
6. 友人・知人	35	1.8%	45	1.6%
7. お子さんの兄・姉	160	8.3%	210	7.5%
8. ヘルパー	11	0.6%	21	0.8%
9. 保健師	5	0.3%	2	0.1%
10. その他	3	0.2%	8	0.3%
11. 手伝いはなかった	93	4.8%	228	8.2%

*その他

【1歳児】 助産師、宅配食

【5歳児】 元夫、助産師、生後1ヶ月は子どもが入院していました、入院していた。低体重、病院の看護師

【問13】 お子さんは現在、幼稚園や保育所などの施設に通っていますか。おもなもののひとつに○をつけてください。(○は1つ)

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
1. 幼稚園(預り保育なし)	5	0.3%	618	22.1%
2. 幼稚園(預り保育あり)	13	0.7%	1125	40.2%
3. 認定こども園	67	3.5%	250	8.9%
4. 認可保育所	1027	53.3%	696	24.9%
5. 認可外保育施設	347	18.0%	99	3.5%
6. その他の施設	14	0.7%	2	0.1%
7. どこにも通っていない	450	23.3%	0	0.0%
無回答	5	0.3%	7	0.3%
総計	1928	100.1%	2797	100.0%

*「6. その他の施設」の記述

	1歳児	5歳児
インターナショナルスクール	1	1
児童デイサービス・療育支援センター等	10	-
基地内	1	-

【問 13-1】問 13 で 1～6 と答えた方にお聞きします。

①現在通っている施設の一か月の利用料を教えてください。(〇は1つ)

	1 歳児		5 歳児	
	n	%	n	%
1. 5000 円未満	213	14.5%	460	16.5%
2. 5000～1 万円未満	102	6.9%	644	23.1%
3. 1～2 万円未満	245	16.6%	650	23.3%
4. 2～3 万円未満	332	22.5%	620	22.2%
5. 3～4 万円未満	415	28.2%	284	10.2%
6. 4～5 万円未満	109	7.4%	37	1.3%
7. 5～6 万円未満	20	1.4%	16	0.6%
8. 6～7 万円未満	4	0.3%	12	0.4%
9. 7 万円以上	2	0.1%	19	0.7%
無回答	31	2.1%	48	1.7%
総計	1473	100.0%	2790	100.0%

②現在通っている施設の利用に関してどうお感じですか。(〇は1つ)

	1 歳児		5 歳児	
	n	%	n	%
1. どちらかという満足(安心)	1203	81.7%	2418	86.7%
2. どちらかという不満(不安)	130	8.8%	151	5.4%
3. どちらともいえない	127	8.6%	193	6.9%
無回答	13	0.9%	28	1.0%
総計	1473	100.0%	2790	100.0%

②-1 ②で「2.どちらかという不満(不安)」と答えた方にお聞きします。
その理由について、以下、それぞれお答えください。(それぞれ○は1つ)

上段：n、下段%

		あてはまる	どちらかとい えば あてはまる	どちらとも いえない	どちらかとい えばあて はまらない	あてはまら ない	無回答	総計
1. 入りたい保育所・幼稚園等ではなかった	1歳児	52 40.0%	21 16.2%	13 10.0%	9 6.9%	33 25.4%	2 1.5%	130 100.0%
	5歳児	6 4.0%	23 15.2%	20 13.2%	9 6.0%	79 52.3%	14 9.3%	151 100.0%
2. 保育料・料金が 高い	1歳児	67 51.5%	20 15.4%	8 6.2%	9 6.9%	24 18.5%	2 1.5%	130 100.0%
	5歳児	42 27.8%	18 11.9%	20 13.2%	11 7.3%	53 35.1%	7 4.6%	151 99.9%
3. 自宅や職場から 遠く送迎が大変	1歳児	25 19.2%	14 10.8%	8 6.2%	12 9.2%	69 53.1%	2 1.5%	130 100.0%
	5歳児	16 10.6%	9 6.0%	8 5.3%	13 8.6%	93 61.6%	12 7.9%	151 100.0%
4. 保育(教育) 内容に疑問がある	1歳児	31 23.8%	33 25.4%	22 16.9%	19 14.6%	24 18.5%	1 0.8%	130 100.0%
	5歳児	34 22.5%	36 23.8%	21 13.9%	9 6.0%	41 27.2%	10 6.6%	151 100.0%
5. 給食が不十分・ 給食がない	1歳児	15 11.5%	12 9.2%	15 11.5%	11 8.5%	74 56.9%	3 2.3%	130 99.9%
	5歳児	41 27.2%	19 12.6%	13 8.6%	16 10.6%	56 37.1%	6 4.0%	151 100.1%
6. 預かってくれる 時間が短い	1歳児	17 13.1%	14 10.8%	7 5.4%	13 10.0%	75 57.7%	4 3.1%	130 100.1%
	5歳児	25 16.6%	17 11.3%	19 12.6%	13 8.6%	68 45.0%	9 6.0%	151 100.1%
7. 保育者の子ども への関わり方に疑 問がある	1歳児	16 12.3%	24 18.5%	22 16.9%	13 10.0%	52 40.0%	3 2.3%	130 100.0%
	5歳児	28 18.5%	30 19.9%	30 19.9%	12 7.9%	41 27.2%	10 6.6%	151 100.0%
8. 保育者とのコミュ ニケーション不 足	1歳児	10 7.7%	31 23.8%	17 13.1%	16 12.3%	53 40.8%	3 2.3%	130 100.0%
	5歳児	34 22.5%	30 19.9%	24 15.9%	7 4.6%	44 29.1%	12 7.9%	151 99.9%
9. 行事が多い	1歳児	2 1.5%	1 0.8%	20 15.4%	19 14.6%	85 65.4%	3 2.3%	130 100.0%
	5歳児	11 7.3%	18 11.9%	23 15.2%	24 15.9%	67 44.4%	8 5.3%	151 100.0%

【問 14】 問 13 で「7. どこにも通っていない」と答えた方にお聞きします。現在、保育所などの利用を希望していますか。(○は1つ)

* 5 歳児は施設配布での調査だったため、集計省略

	1 歳児	
	n	%
1. 希望しており、すぐにでも通わせたい	156	34.7%
2. 希望しているが、急いでいない	171	38.0%
3. 希望していない	119	26.4%
無回答	4	0.9%
総計	450	100.0%

【問 14-1】 問 14 で「1. 希望しており、すぐにでも通わせたい」と答えた方にお聞きします。その理由を教えてください。(それぞれ○は1つ)

* 5 歳児は施設配布での調査だったため、集計省略

	n	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらともいえない	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	無回答	総計
1. 保護者の就労のため	n	112	17	9	4	7	7	156
	%	71.8%	10.9%	5.8%	2.6%	4.5%	4.5%	100.1%
2. 子どもと離れる時間が欲しい	n	17	34	28	17	48	12	156
	%	10.9%	21.8%	17.9%	10.9%	30.8%	7.7%	100.0%
3. 子どもの成長・発達のため	n	105	32	6	1	4	8	156
	%	67.3%	20.5%	3.8%	0.6%	2.6%	5.1%	99.9%

「4. その他」10 件

- ・ 2 人の育児が大変で家事ができない
- ・ たまにリラックスするためマッサージや美容室へ行きたい
- ・ 家計費のため
- ・ 実母にずっとみてもらうわけにはいかない
- ・ 先天性心疾患があるため
- ・ 多くの人と接してほしい
- ・ 第二子出産が近い
- ・ 妊娠、出産のため
- ・ 認可は入れないし認可外は保育料が高くて働けない
- ・ 母親が 2 月末～3 月上旬にかけて 2 人目を出産予定

【問 15】 保護者や家族の方といっしょのとき、お子さんはどこで遊ぶことが多いですか。多いものを(選択肢)から 3 つ選んでください。

	1 歳児 (N=1928)		5 歳児 (N=2797)	
	n	%	n	%
1. 自宅 (屋内)	1840	95.4%	2626	93.9%
2. 自宅の庭やベランダ・バルコニー	446	23.1%	713	25.5%
3. 友だちの家	90	4.7%	220	7.9%
4. 近所の路地や道路	146	7.6%	312	11.2%
5. 近所の空き地や公園	1390	72.1%	1889	67.5%
6. 幼稚園や保育所などの園庭	108	5.6%	294	10.5%
7. 児童館	56	2.9%	51	1.8%
8. 公民館	15	0.8%	49	1.8%
9. ショッピングセンターや商店街	1022	53.0%	1306	46.7%
10. 子育てひろば (子育て支援センター)	122	6.3%	18	0.6%
11. 子育てサークル	6	0.3%	6	0.2%
12. その他	333	17.3%	574	20.5%
13. わからない	5	0.3%	7	0.3%

【問16】お子さんは、保護者や家族の方とどれくらい一緒に遊びますか。平日、休日それぞれについて教えてください。(それぞれ○は1つ)

【平日】お母さん

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
よく遊ぶ	1276	66.2%	1118	40.0%
ときどき遊ぶ	596	30.9%	1451	51.9%
まったく遊ばない	32	1.7%	148	5.3%
あてはまらない	12	0.6%	25	0.9%
無回答	12	0.6%	55	2.0%
総計	1928	100.0%	2797	100.1%

【平日】お父さん

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
よく遊ぶ	676	35.1%	574	20.5%
ときどき遊ぶ	983	51.0%	1457	52.1%
まったく遊ばない	130	6.7%	382	13.7%
あてはまらない	57	3.0%	135	4.8%
無回答	82	4.3%	249	8.9%
総計	1928	100.1%	2797	100.0%

【平日】その他の家族

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
よく遊ぶ	768	39.8%	1148	41.0%
ときどき遊ぶ	633	32.8%	850	30.4%
まったく遊ばない	97	5.0%	135	4.8%
あてはまらない	169	8.8%	224	8.0%
無回答	261	13.5%	440	15.7%
総計	1928	99.9%	2797	99.9%

【休日】お母さん

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
よく遊ぶ	1583	82.1%	1703	60.9%
ときどき遊ぶ	317	16.4%	1003	35.9%
まったく遊ばない	7	0.4%	23	0.8%
あてはまらない	4	0.2%	5	0.2%
無回答	17	0.9%	63	2.3%
総計	1928	100.0%	2797	100.1%

【休日】お父さん

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
よく遊ぶ	1329	68.9%	1397	49.9%
ときどき遊ぶ	456	23.7%	980	35.0%
まったく遊ばない	31	1.6%	93	3.3%
あてはまらない	35	1.8%	92	3.3%
無回答	77	4.0%	235	8.4%
総計	1928	100.0%	2797	99.9%

【休日】その他の家族

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
よく遊ぶ	900	46.7%	1335	47.7%
ときどき遊ぶ	628	32.6%	808	28.9%
まったく遊ばない	30	1.6%	64	2.3%
あてはまらない	112	5.8%	165	5.9%
無回答	258	13.4%	425	15.2%
総計	1928	100.1%	2797	100.0%

【問 17】 おうちの近所にお子さんと一緒に通える子育てサークルや子育てひろば（子育て支援センター）などの場はありますか。（○は1つ）

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
1. ある	1190	61.7%	1282	45.8%
2. ない	178	9.2%	485	17.3%
3. わからない	547	28.4%	1008	36.0%
無回答	13	0.7%	22	0.8%
総計	1928	100.0%	2797	99.9%

【問 17-1】 問 17 で「1. ある」と答えた方にお聞きします。その場は参加しやすいですか。（○は1つ）

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
1. 参加しやすい	438	36.8%	340	26.5%
2. 参加しにくい	213	17.9%	221	17.2%
3. 参加したことがない	496	41.7%	680	53.0%
無回答	43	3.6%	41	3.2%
総計	1190	100.0%	1282	99.9%

【問 17-2】 問 17-1 で「2. 参加しにくい」「3. 参加したことがない」と答えた方にお聞きします。その理由を教えてください。（あてはまるものすべて○）

	1歳児 (N=709)		5歳児 (N=901)	
	n	%	n	%
1. 時間がない	282	39.8%	370	41.1%
2. 車が止められない	62	8.7%	70	7.8%
3. 交通手段がない	18	2.5%	10	1.1%
4. ほかの親子との関わりが面倒	168	23.7%	160	17.8%
5. スタッフやボランティアと性格や考え方があわない	15	2.1%	16	1.8%
6. 必要がない	211	29.8%	330	36.6%
7. その他	142	20.0%	141	15.6%

【問 18】 5 歳児の保護者の方にお聞きします。お子さんは昨年度（4 歳児の時）、幼稚園や保育所に通っていましたか。おもなものひとつに○をつけてください。（○は1つ）

	5 歳児	
	n	%
1. 幼稚園（預り保育なし）	299	10.7%
2. 幼稚園（預り保育あり）	397	14.2%
3. 認定こども園	95	3.4%
4. 認可保育所	1128	40.3%
5. 認可外保育施設	331	11.8%
6. その他の施設	15	0.5%
7. どこにも通っていない	61	2.2%
無回答	471	16.8%
総計	2797	99.9%

「6. その他の施設」記述

	n
アメリカの幼稚園	1
インターナショナル保育園	1
私立インターナショナルスクール	1
私立幼稚園在園	1
児童デイサービス	1
幼児園	2
無回答	8
総計	15

【問 18-1】 問 18 で 1～6 と答えた方にお聞きします。

4 歳児の時に通っていた施設の一か月の利用料を教えてください。（○は1つ）

	5 歳児	
	n	%
1. 5,000 円未満	313	13.8%
2. 5,000～1 万円未満	358	15.8%
3. 1～2 万円未満	411	18.1%
4. 2～3 万円未満	700	30.9%
5. 3～4 万円未満	342	15.1%
6. 4～5 万円未満	55	2.4%
7. 5～6 万円未満	19	0.8%
8. 6～7 万円未満	4	0.2%
9. 7 万円以上	9	0.4%
無回答	54	2.4%
総計	2265	99.9%

【問 19】 5 歳児の保護者の方にお聞きします。4 月の小学校入学に向けての準備についてお聞きします。以下、それぞれお答えください。(それぞれ○は1つ)

		あてはまる	どちらか といえば あてはまる	どちらと もいえない	どちらか といえば あてはま らない	あてはま らない	無回答	総計
1：学用品やランドセルの 購入費用が不足しそう	n	243	286	368	311	1155	434	2797
	%	8.7%	10.2%	13.2%	11.1%	41.3%	15.5%	100.0%
2：小学校での生活になじ めるか心配	n	452	574	409	487	445	430	2797
	%	16.2%	20.5%	14.6%	17.4%	15.9%	15.4%	100.0%
3：放課後過ごす場所に不 安がある	n	544	484	307	322	710	430	2797
	%	19.4%	17.3%	11.0%	11.5%	25.4%	15.4%	100.0%

【問 20】 5 歳児の保護者の方にお聞きします。お子さんが小学校 1 年生になったら、放課後児童クラブ（学童保育）を利用する予定はありますか。（○は1つ）

	5 歳児	
	n	%
1. 利用する	955	34.1%
2. 利用しない	746	26.7%
3. 利用したいが施設が決まらない	216	7.7%
4. 利用について検討中	378	13.5%
5. 放課後児童クラブ（学童保育）について知らない	63	2.3%
無回答	439	15.7%
総計	2797	100.0%

【問 21】 次のことはあなたにどれくらいあてはまりますか。

①地域の行事（祭りや清掃活動など）に参加していますか。（○は1つ）

	1 歳児		5 歳児	
	n	%	n	%
1. よく参加している	143	7.4%	337	12.0%
2. 時々参加している	509	26.4%	938	33.5%
3. あまり参加していない	505	26.2%	732	26.2%
4. 参加していない	755	39.2%	763	27.3%
無回答	16	0.8%	27	1.0%
総計	1928	100.0%	2797	100.0%

②子育てについての悩みを相談したり頼ったりできる友人・知人はいますか。（○は1つ）

	1 歳児		5 歳児	
	n	%	n	%
1. たくさんいる	389	20.2%	540	19.3%
2. ある程度いる	1180	61.2%	1744	62.4%
3. あまりいない	295	15.3%	413	14.8%
4. まったくない	45	2.3%	75	2.7%
無回答	19	1.0%	25	0.9%
総計	1928	100.0%	2797	100.1%

③子育ての中で、自分一人で育てているという孤独感を感じることがありますか。(○は1つ)

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
1. よくある	81	4.2%	159	5.7%
2. 時々ある	438	22.7%	633	22.6%
3. あまりない	752	39.0%	1112	39.8%
4. まったくない	626	32.5%	863	30.9%
無回答	31	1.6%	30	1.1%
総計	1928	100.0%	2797	100.1%

④もしも事故や病気などで入院するなどの緊急事態において、お子さん(きょうだい含む)の面倒をみられなくなった場合に、代わって子どもの面倒を見てくれる人はいますか。おもな人に○をつけてください。(○は1つ)

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
1. お子さんの祖父母	1597	82.8%	2206	78.9%
2. お子さんのおじ・おば	84	4.4%	163	5.8%
3. その他の親戚	19	1.0%	26	0.9%
4. 友人・知人	18	0.9%	56	2.0%
5. 面倒を見てくれる人はいない	188	9.8%	300	10.7%
無回答	22	1.1%	46	1.6%
総計	1928	100.0%	2797	99.9%

【問22】あなたの現在の健康状態などを教えてください。(あてはまるものすべてに○)

	1歳児 (N=1928)		5歳児 (N=2797)	
	n	%	n	%
1. 健康である	1627	84.4%	2281	81.6%
2. 定期的に通院している病気がある	199	10.3%	349	12.5%
3. 入院している	3	0.2%	1	0.0%
4. 通院していないが体調が悪い	77	4.0%	138	4.9%
5. 障がい認定を受けている(難病を除く)	15	0.8%	21	0.8%
6. 難病の指定を受けている	7	0.4%	12	0.4%
7. その他	32	1.7%	39	1.4%

【問23】過去一か月の間に、健康上の問題で寝込んだり、普段の活動ができなかった(仕事や家事などができなかった)日はありますか。ある場合はあわせて何日くらいでしたか。(○は1つ)

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
1. ない	1568	81.3%	2270	81.2%
2. ある	343	17.8%	501	17.9%
無回答	17	0.9%	26	0.9%
総計	1928	100.0%	2797	100.0%

		5日未満	5日以上15日未満	15日以上	無回答	総計
1歳児	n	246	72	22	3	343
	%	71.7%	21.0%	6.4%	0.9%	100.0%
5歳児	n	350	99	36	16	501
	%	69.9%	19.8%	7.2%	3.2%	100.1%

【問24】 あなたの心の状態についてお聞きします。過去30日の間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか。1～6について教えてください。（それぞれ○は1つ）

*過去30日間での心の状況を6つの質問で尋ね（5段階での選択肢）、点数の合計点を算出した（ひとつの質問ごとに0点から4点合計は0点から24点になる。高くなるほど抑うつ状態が強いことを示す。なお、ひとつの質問でも無回答の場合は除外している）。

	1歳児		5歳児	
	n	%	n	%
0～4点	1358	72.1%	1897	69.5%
5点～8点	295	15.7%	469	17.2%
9点	55	2.9%	61	2.2%
10～12点	90	4.8%	156	5.7%
13点以上	86	4.6%	146	5.3%
総計	1884	100.0%	2729	99.9%

【問25】 お子さんの健康状態などを教えてください。（あてはまるものすべてに○）

	1歳児 (N=1928)		5歳児 (N=2797)	
	n	%	n	%
1. 健康である	1714	88.9%	2499	89.3%
2. 定期的に通院している病気がある	165	8.6%	224	8.0%
3. 入院している	1	0.1%	1	0.0%
4. 通院していないが体調が悪い	15	0.8%	5	0.2%
5. 障がいがある	16	0.8%	50	1.8%
6. 発達に遅れがある	49	2.5%	92	3.3%
7. 小児慢性特定疾病の認定を受けている	14	0.7%	17	0.6%
8. その他	23	1.2%	32	1.1%

【問26】 ほかのお子さん（きょうだい）の健康状態などを教えてください。（あてはまるものすべてに○）

	1歳児 (N=1928)		5歳児 (N=2797)	
	n	%	n	%
1. きょうだいはいない	463	24.0%	293	10.5%
2. みんな健康である	1193	61.9%	2110	75.4%
3. 定期的に通院している子がいる	120	6.2%	240	8.6%
4. 入院している子がいる	2	0.1%	2	0.1%
5. 通院していないが体調が悪い子がいる	12	0.6%	21	0.8%
6. 障がいのある子がいる	27	1.4%	55	2.0%
7. 発達に遅れのある子がいる	57	3.0%	78	2.8%
8. 小児慢性特定疾病の認定を受けている	11	0.6%	31	1.1%
9. その他	19	1.0%	28	1.0%

【問 27】 過去一年間に、お子さん（きょうだいを含む）を病院や歯医者で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありますか。（○は1つ）

	1 歳児		5 歳児	
	n	%	n	%
1. あった	258	13.4%	557	19.9%
2. なかった	1653	85.7%	2212	79.1%
無回答	17	0.9%	28	1.0%
総計	1928	100.0%	2797	100.0%

【問 27-1】 問 27 で「1. あった」と答えた方にお聞きします。その理由を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

	1 歳児 (N=258)		5 歳児 (N=557)	
	n	%	n	%
1. 家計が苦しかった	68	26.4%	172	30.9%
2. 保険証がなかった	4	1.6%	3	0.5%
3. 仕事で連れていく時間がなかった	145	56.2%	326	58.5%
4. ほかに子どもの世話で時間がなかった	64	24.8%	123	22.1%
5. 自分の健康状態が悪く連れていけなかった	24	9.3%	50	9.0%
6. 病院が遠い	12	4.7%	25	4.5%
7. 子どもが嫌がった	29	11.2%	73	13.1%
8. その他	51	19.8%	73	13.1%

【問 28】 過去一年間に、あなたが病院や歯医者に行きたいのに行けなかったことがありますか。（○は1つ）

	1 歳児		5 歳児	
	n	%	n	%
1. あった	831	43.1%	1176	42.0%
2. なかった	1073	55.7%	1575	56.3%
無回答	24	1.2%	46	1.6%
総計	1928	100.0%	2797	99.9%

【問 28-1】 問 28 で「1. あった」と答えた方にお聞きします。その理由を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

	1 歳児 (N=831)		5 歳 (N=1176)	
	n	%	n	%
1. 家計が苦しかった	195	23.5%	342	29.1%
2. 保険証がなかった	13	1.6%	13	1.1%
3. 仕事で時間がなかった	444	53.4%	690	58.7%
4. 子どもの世話で時間がなかった	533	64.1%	623	53.0%
5. 病院が遠い	27	3.2%	40	3.4%
6. その他	82	9.9%	107	9.1%

【問 29、問 30】お子さんのお母さん／お父さんの人生経験について教えてください。
(それぞれ○は1つ)

1. お母さん／お父さんの最終学歴

	1歳児 (母)		1歳児 (父)		5歳児 (母)		5歳児 (父)	
	n	%	n	%	n	%	n	%
1. 中学校	83	4.3%	131	6.8%	161	5.8%	236	8.4%
2. 高等学校	461	23.9%	549	28.5%	826	29.5%	827	29.6%
3. 専門学校	493	25.6%	358	18.6%	678	24.2%	462	16.5%
4. 短大・高専	285	14.8%	51	2.6%	444	15.9%	92	3.3%
5. 大学(4年制)・大学院	577	29.9%	746	38.7%	618	22.1%	915	32.7%
6. その他	7	0.4%	14	0.7%	13	0.5%	18	0.6%
7. わからない	1	0.1%	8	0.4%	0	0.0%	30	1.1%
無回答	21	1.1%	71	3.7%	57	2.0%	217	7.8%
総計	1928	100.1%	1928	100.0%	2797	100.0%	2797	100.0%

2. 「お母さん／お父さん ご自身が15歳児の頃」のご家庭の暮らし向き

	1歳児 (母)		1歳児 (父)		5歳児 (母)		5歳児 (父)	
	n	%	n	%	n	%	n	%
1. 大変苦しい	155	8.0%	98	5.1%	263	9.4%	174	6.2%
2. やや苦しい	357	18.5%	275	14.3%	544	19.4%	388	13.9%
3. 普通	902	46.8%	925	48.0%	1323	47.3%	1150	41.1%
4. ややゆとりがある	295	15.3%	299	15.5%	384	13.7%	434	15.5%
5. 大変ゆとりがある	123	6.4%	146	7.6%	148	5.3%	206	7.4%
6. わからない	37	1.9%	90	4.7%	39	1.4%	168	6.0%
無回答	59	3.1%	95	4.9%	96	3.4%	277	9.9%
総計	1928	100.0%	1928	100.1%	2797	99.9%	2797	100.0%

【問 31】初めて親になった年齢はいくつですか。(それぞれ○は1つ)

1. お母さん／お父さん

	1歳児 (母)		1歳児 (父)		5歳児 (母)		5歳児 (父)	
	n	%	n	%	n	%	n	%
1. 10代	61	3.2%	20	1.0%	158	5.6%	68	2.4%
2. 20～24歳	344	17.8%	272	14.1%	672	24.0%	486	17.4%
3. 25～29歳	651	33.8%	559	29.0%	916	32.7%	784	28.0%
4. 30～34歳	561	29.1%	552	28.6%	695	24.8%	716	25.6%
5. 35～39歳	227	11.8%	291	15.1%	262	9.4%	331	11.8%
6. 40～44歳	70	3.6%	117	6.1%	39	1.4%	122	4.4%
7. 45～49歳	0	0.0%	32	1.7%	6	0.2%	34	1.2%
8. 50歳以上	0	0.0%	7	0.4%	0	0.0%	14	0.5%
9. お母さん／お父さんはいない	1	0.1%	22	1.1%	3	0.1%	52	1.9%
無回答	13	0.7%	56	2.9%	46	1.6%	190	6.8%
総計	1928	100.1%	1928	100.0%	2797	99.8%	2797	100.0%

【問 32】 ご家庭の現在の暮らしをどのように感じていますか。(○は1つ)

	1 歳児		5 歳児	
	n	%	n	%
1. 大変苦しい	132	6.8%	202	7.2%
2. やや苦しい	566	29.4%	843	30.1%
3. 普通	918	47.6%	1294	46.3%
4. ややゆとりがある	268	13.9%	376	13.4%
5. 大変ゆとりがある	30	1.6%	46	1.6%
無回答	14	0.7%	36	1.3%
総計	1928	100.0%	2797	99.9%

【問 33】 ご家庭の家計について教えてください。(○は1つ)

	1 歳児		5 歳児	
	n	%	n	%
1. 赤字であり、借金をしている	238	12.3%	388	13.9%
2. 赤字であり、貯蓄を取り崩している	240	12.4%	335	12.0%
3. 赤字でも黒字でもなくぎりぎりであ	719	37.3%	1174	42.0%
4. 黒字だが、貯蓄はしていない	152	7.9%	200	7.2%
5. 黒字であり、毎月貯蓄をしている	548	28.4%	626	22.4%
無回答	31	1.6%	74	2.6%
総計	1928	99.9%	2797	100.1%

【問 34】 過去一年間に、お金が足りなくて家族が必要とする食料や衣料が買えないことがありましたか。(それぞれ○は1つ)

		1. よく あった	2. ときどき あった	3. まれに あった	4. まったく なかった	無回答	総計	
1. 食料が 買えなかった経験	1 歳児	n	39	110	158	1610	11	1928
		%	2.0%	5.7%	8.2%	83.5%	0.6%	100.0%
	5 歳児	n	83	194	327	2154	39	2797
		%	3.0%	6.9%	11.7%	77.0%	1.4%	100.0%
2. 衣料が 買えなかった経験	1 歳児	n	99	101	229	1478	21	1928
		%	5.1%	5.2%	11.9%	76.7%	1.1%	100.0%
	5 歳児	n	145	225	393	1982	52	2797
		%	5.2%	8.0%	14.1%	70.9%	1.9%	100.1%

【問 35】過去一年間に、経済的な理由で月々の料金の支払いができなかったり遅れたりしたことがありますか。1～8のそれぞれについて教えてください。(それぞれ○は1つ)

上段：n、下段：%

		あった	なかった	払う必要がない	無回答	総計
1. 電気代またはガス料金	1 歳児	216	1653	37	22	1928
		11.2%	85.7%	1.9%	1.1%	99.9%
	5 歳児	425	2272	45	55	2797
		15.2%	81.2%	1.6%	2.0%	100.0%
2. 電話料金	1 歳児	186	1696	21	25	1928
		9.6%	88.0%	1.1%	1.3%	100.0%
	5 歳児	340	2377	30	50	2797
		12.2%	85.0%	1.1%	1.8%	100.1%
3. 公的年金（国民年金等）	1 歳児	194	1584	115	35	1928
		10.1%	82.2%	6.0%	1.8%	100.1%
	5 歳児	326	2235	171	65	2797
		11.7%	79.9%	6.1%	2.3%	100.0%
4. 健康保険料	1 歳児	123	1724	53	28	1928
		6.4%	89.4%	2.7%	1.5%	100.0%
	5 歳児	279	2398	58	62	2797
		10.0%	85.7%	2.1%	2.2%	100.0%
5. 税金	1 歳児	179	1668	46	35	1928
		9.3%	86.5%	2.4%	1.8%	100.0%
	5 歳児	354	2300	80	63	2797
		12.7%	82.2%	2.9%	2.3%	100.1%
6. 家賃または住宅ローン	1 歳児	173	1598	126	31	1928
		9.0%	82.9%	6.5%	1.6%	100.0%
	5 歳児	305	2210	209	73	2797
		10.9%	79.0%	7.5%	2.6%	100.0%
7. 保育所・幼稚園などの費用	1 歳児	137	1578	176	37	1928
		7.1%	81.8%	9.1%	1.9%	99.9%
	5 歳児	343	2364	36	54	2797
		12.3%	84.5%	1.3%	1.9%	100.0%
8. カードや借金の支払い	1 歳児	293	1472	132	31	1928
		15.2%	76.3%	6.8%	1.6%	99.9%
	5 歳児	469	2041	229	58	2797
		16.8%	73.0%	8.2%	2.1%	100.1%

【問 36】お子さんと生計(家計)を共にしている方全員の収入を合わせた昨年の「世帯の年間手取り収入(ボーナスや手当を含む)」を教えてください。世帯の収入から、税金や社会保険料の額を差し引いた後の額でお答えください。(○は1つ)

	1 歳児		5 歳児	
	n	%	n	%
1. 50万円未満	25	1.3%	63	2.3%
2. 50～100万円未満	44	2.3%	64	2.3%
3. 100～150万円未満	69	3.6%	142	5.1%
4. 150～200万円未満	101	5.2%	145	5.2%
5. 200～250万円未満	135	7.0%	185	6.6%
6. 250～300万円未満	206	10.7%	235	8.4%
7. 300～350万円未満	202	10.5%	254	9.1%
8. 350～400万円未満	162	8.4%	248	8.9%
9. 400～500万円未満	271	14.1%	345	12.3%
10. 500～600万円未満	226	11.7%	281	10.0%
11. 600～700万円未満	126	6.5%	159	5.7%
12. 700～800万円未満	82	4.3%	117	4.2%
13. 800～900万円未満	39	2.0%	57	2.0%
14. 900～1000万円未満	26	1.3%	45	1.6%
15. 1000万円以上	34	1.8%	88	3.1%
無回答	180	9.3%	369	13.2%
総計	1928	100.0%	2797	100.0%

【問 36-1、36-2】問 36 の世帯の手取り収入のうち、お子さんのお母さん／お父さんのおおよその年間収入を教えてください。(○は1つ)

	1 歳児 (母)		1 歳児 (父)		5 歳児 (母)		5 歳児 (父)	
	n	%	n	%	n	%	n	%
1. 50万円未満	175	9.1%	27	1.4%	243	8.7%	28	1.0%
2. 50～100万円未満	294	15.2%	51	2.6%	518	18.5%	61	2.2%
3. 100～150万円未満	300	15.6%	98	5.1%	474	16.9%	153	5.5%
4. 150～200万円未満	186	9.6%	188	9.8%	241	8.6%	242	8.7%
5. 200～250万円未満	128	6.6%	300	15.6%	170	6.1%	330	11.8%
6. 250～300万円未満	115	6.0%	252	13.1%	118	4.2%	301	10.8%
7. 300～350万円未満	101	5.2%	234	12.1%	104	3.7%	273	9.8%
8. 350～400万円未満	57	3.0%	170	8.8%	76	2.7%	225	8.0%
9. 400～500万円未満	40	2.1%	201	10.4%	63	2.3%	256	9.2%
10. 500～600万円未満	13	0.7%	103	5.3%	35	1.3%	154	5.5%
11. 600～700万円未満	2	0.1%	32	1.7%	16	0.6%	77	2.8%
12. 700万円以上	6	0.3%	53	2.7%	17	0.6%	132	4.7%
13. 収入はない	397	20.6%	10	0.5%	453	16.2%	16	0.6%
14. わからない	10	0.5%	29	1.5%	33	1.2%	64	2.3%
15. お母さん／お父さんはいない	4	0.2%	53	2.7%	13	0.5%	137	4.9%
無回答	100	5.2%	127	6.6%	223	8.0%	348	12.4%
総計	1928	100.0%	1928	99.9%	2797	100.1%	2797	100.2%

【問 37】 これまでに以下の制度を利用したことがありますか。また、利用したことがない場合はその理由にもっとも近いものを教えてください。(それぞれ○は一つ)

上段：n、下段：%

		利用している	利用したことがない						無回答	総計
			利用する必要がなかった・制度の対象外だった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用手続きなどが面倒だった	利用するのに抵抗があった	利用の仕方がわからなかった	制度やサービスについてまったく知らなかった		
1. 児童扶養手当	1 歳児	907	733	17	1	2	27	113	128	1928
		47.0%	38.0%	0.9%	0.1%	0.1%	1.4%	5.9%	6.6%	100.0%
	5 歳児	1214	1112	45	2	3	42	137	242	2797
		43.4%	39.8%	1.6%	0.1%	0.1%	1.5%	4.9%	8.7%	100.1%
2. 生活保護	1 歳児	11	1592	22	0	31	40	72	160	1928
		0.6%	82.6%	1.1%	0.0%	1.6%	2.1%	3.7%	8.3%	100.0%
	5 歳児	28	2177	51	8	46	54	116	317	2797
		1.0%	77.8%	1.8%	0.3%	1.6%	1.9%	4.1%	11.3%	99.8%
3：生活福祉資金貸付金	1 歳児	19	1313	12	1	7	40	358	178	1928
		1.0%	68.1%	0.6%	0.1%	0.4%	2.1%	18.6%	9.2%	100.1%
	5 歳児	41	1894	37	7	18	82	387	331	2797
		1.5%	67.7%	1.3%	0.3%	0.6%	2.9%	13.8%	11.8%	99.9%
4. 母子父子寡婦福祉資金貸付金	1 歳児	22	1364	13	4	7	30	312	176	1928
		1.1%	70.7%	0.7%	0.2%	0.4%	1.6%	16.2%	9.1%	100.0%
	5 歳児	46	1943	35	10	10	78	354	321	2797
		1.6%	69.5%	1.3%	0.4%	0.4%	2.8%	12.7%	11.5%	100.2%

【問 38】 お子さんの将来のための貯蓄(学資保険などを含む)をしていますか。(○は一つ)

	1 歳児		5 歳児	
	n	%	n	%
1. 貯蓄をしている	1452	75.3%	1878	67.1%
2. 貯蓄をしたいができない	440	22.8%	818	29.2%
3. 貯蓄をするつもりはない	6	0.3%	12	0.4%
無回答	30	1.6%	89	3.2%
総計	1928	100.0%	2797	99.9%

自由記述

おもな意見（抜粋）

◆教育費・保育料等について

（1歳児）

- 将来的な課題として、子どもに学習を積み重ねていくのにかかる費用が日本は高すぎる。県だけの課題ではないが、国や地方公共団体等の負担を増やし、一人一人が金銭面で進学できないことがないように世の中になってほしいと願っています（高校、大学、院等への進学に係る費用）。
- たいへん！！だけど子育ては楽しい！だから！！学費の金額を安くしてほしいです。
- 保育料金の無償化は反対だが、兄弟が多いと小学生以上の兄弟にも学童費で出費がある為、保育料の減額の制度が無いのが辛い。第二子、第三子以上の保育料減額を学童利用児にも対象に入れて欲しい。学童以外でも習い事で保護者不在の時間をつないでいる家庭もある。放課後の小学生の安全も確保してほしい。フルタイムで両親が働くには厳しい環境と思われる。
- 子どもの将来は親の収入の差できまってはならない。医療費は高校生まで無料化（現物給付）が望ましく、教育費に関しても、高校までは無償化にしてほしい。他県との貧困の格差が広がらないよう頑張ってください。よろしくお願いします。

（5歳児）

- 子供が自由に将来の夢をもっていける制度が欲しい。お金の余裕がある人だけ学べる状況を変えて欲しい。（例）医者、弁護士等
- 保育料や給食費などの無償化を実現してほしい。小学校などの雑費が、地味に高いのでこれも家庭の負担にならないでいどにしてほしい。それから中学校など入学する時、制服代など高いのでこれも県から支給などした方がいいと思います。
- 子供等にかかる費用（幼稚園代金、保育園料、給食費、小中高、大学までの間）は、無料化にすべきだと思います。
- 保育料をもっと安くしてほしいです。パートをしています、保育料でだいたい収入がなくなります。家計のために働く意味がないです。子どもを育てながらの職探しも大変です。なかなか採用されず、パートなどで精一杯です。保育料が下がればたすかります・・・。
- いざとなった時のファミリーサポートセンターも所得に応じ助成金がある様ですが、それも使えず、何のためにファミリーサポートセンターを運営しているかが分からない。
- 我が家は母子家庭です。母子家庭になった当初は児童扶養手当や保育料も0円（収入が少なかったため）のため、収入が少なくてもなんとかやっていけていました。でも、子どものために収入を増やして貯蓄や習い事等させてあげたいと思い、収入が安定している仕事に転職することができました。しかし、収入が上がったら児童扶養手当は切れ、保育料も2万円程あがりました。両親がそろっている家庭と同じ収入だとしても”母子家庭”ということのを考慮して欲しいです。保育料や税金が上がったせいで収入は増えていますが、手取りは毎年減っています。母子家庭は無条件に手当支給、保育料無償にしてほしいです。

◆医療費について

(1歳児)

- 児童扶養手当の受給を4ヵ月に1回から2ヵ月に1回への検討をしていると聞いています。できるだけ早めに進めてほしい。医療費なども窓口で支払うのではなく完全無料化してほしい。手持ちがないと受診へ行けない。
- 医療費は、やはり小学生でも無料にするべきだと思います。今回対象の子は、アレルギーもちで日帰り入院など体調不良など病院へ行く事が多いです。今は無料でも今後が不安です。アレルギーはすぐには治らないし病院とこれからも生活していく事があるので制度が変わる事を願っています！！

(5歳児)

- 子どもの医療費について、県外に住んでいた時は窓口支払いがなかったもので、沖縄県でも同様の制度を実施してほしい。予防接種も高齢者だけ補助があって、幼児にはないもの（インフルなど）があるので、子供にも補助を出してほしい。
- 最低でも、18歳まで医療費を無料にしてほしいです。
- 3人目の子供が保育料無料がとてもありがたかったです。中学生まで医療費が無料になってくれたら助かります。医療費までは、1か月の家計の中の計算に入れないので、急な出費であせります。お金がないからカゼひくなどと言ってしまいます。本当は大丈夫？と言いたいのに。
- 医療費助成の差が市町村で大きすぎる！県で一律にするべき。
- 医療費について・・・中学生までが義務教育というのであれば中学卒業までは無料にしてほしい。

◆多子世帯への支援について

(1歳児)

- 子供が6人いて、国からの子供手当等子供が多い世帯への特別な補助があると助かります。

(5歳児)

- 多子世帯への援助が受けられないのが困る。双子・三つ子などのいる世帯は特に家計にダメージがあるので、援助制度を見直してほしい。同じ収入でも子供の人数、持ち家か借家か、たよれる身内の有無などで生活状況は全くちがうので収入だけで決めるのはどうかと思います。少子化の時代に多子世帯は生きづらい。子供は平等に育成される権利があるべきだと思う。
- 上の子がこのアンケートの対象の頃がたいへんでした。病院につれて行ってあげられなかったり、2人目の子を育ててあげられないかも、と妊娠しないようにとても悩んで出産しました。小さなことでも是非拾って頂き、集計してほしいです。子育ては1年1年変化するのでこまめにアンケート実施して頂けるといいなと思いました。今回のアンケート感謝いたします。
- 保育料の多子世帯に対する減額は有り難いが、対象が未就学児の間でしかカウントされないの、上の子が小学生に上がると割引がなくなり一気に家計が圧迫される。小学生になっても出費はかわらないので、対象年齢がもう少し大きくなるまでになってもらいたい。

◆待機児童について

(1歳児)

- 保育園に入れない（市内にないので市外にいられているが）。認定こども園が高すぎる。仕事をしていないと公立幼稚園以外の選択ができなさすぎる。他県をみならって。
- 公務員などと自営業の認可保育園に入所できる点数の差別を改善してほしい！労働時間で優先すべき！
- （本当にゆとりがない人はこのようなアンケートにも答えられる状態ではないのではないかと感じました。）保育園に4月から入れるか不安でいっぱいです。保育園ふやしてほしいです（職場復帰の為）。
- 保育園など利用したいのですが、収入のわりに保育料が高く、パートなどをしても家計の足しになるのはごくわずかになってしまうため、通わすことができない。もっと保育料を定める基準を教えてください。少子化というなら、もっと普通の家の暮らしをわかって支援を増やすなり助けてほしい。

(5歳児)

- 共働きでも安心して子育てができる様、保育・学童施設の受入体制を増やしてほしいです。保育園に関しては、保育士さんの給料が低すぎます。国・県からお金を下ろすことで給料を増やし、保育士さんを増やして、受け入れ先を増やしてもらいたいです。

◆病児の保育について

(1歳児)

- 現在第3子を妊娠中ですが、近くに祖父母がいないため、急な入院等になった時に誰に預けるか不安あり。急な入院等で預けられる施設があればと思っています。
- 子供に障害があり、よく体調を崩して保育所を休むので仕事を休まねばならず、通院などで年休をつかいはたして困ってしまう。療育園の病後保育が（私の地域）にもあるといいなと思います。
- 共働きで、子どもが病気になったときに、頼める人がいない。病児保育でも、流行り物で隔離出来ないと思われると本当大変。病児保育の対応をしている所が少ない。

(5歳児)

- 子供が熱を出したりした時、仕事が休めなくて困ることがあります。病児保育の充実を望みます。
- ファミリーサポート等について、子供2人共、アレルギーがひどく、エピペンを携帯している為、利用が出来ない。頼れる家族もいない為、就業にも支障が出る。アレルギーを持つ子供も預かってもらえる環境が欲しい。

◆認可外保育について

(1歳児)

- 認可外保育園に通園している世帯に保育料の補助をしてほしい。認可園に通わせる金額と同程度の負担になるように。
- 認可外保育施設の保育料をもとの費用にもどしてほしい。認可外の保育料が上がったので家計が苦しいです！！

- 認可外保育園に入れているが保育料が高い為、保育料で給料がなくなってしまう。子供が小さく体調を崩しやすい為休みやすい仕事を選ぶしかなく、賃金が安い所にしか就職できない。日々の生活費でお金がなくなる為、貯蓄が出来ない。
- 保育園を認可にするのは良いが、認可にすると、行きたい保育園の選択が出来ずに困っている。また、保育園の数を増やすのではなく、無認可を認可にしているだけなので、待機児童を減らすことには繋がっていないのではと感じる。

(5 歳児)

- 良くも悪くも公立や認可施設ばかりクローズアップ、優遇されているように感じます。基準や法律等で難しいのは承知の上で、もっと認可外施設自体へも公的支援をしていただき、認可外であってもそれぞれの、それならではの良さをもっとアピールし、多くの人に知ってもらい活用してほしいと思います。
- 認可外保育園を減らして、認可保育園へ移行することは進んでいますが、認定こども園の設立が遅れていて、認可保育園へ通えない子たちの（母が専業主婦等）行き場がないです。

◆保育・教育について

(1 歳児)

- 観光に関する仕事で、土、日も働きながらの子育てが大変。手当があるわけでも、保育所があいてもいないが、県では、こういう仕事ばかりで、働きにくいと感じる。
- 登園している保育園が、つねに保育士を募集している。職員が足りていないのに認可保育園で大丈夫なのかと少し不安になる。人手不足で指導できなくて、子供に目がいかないのではないか？と思う。
- 0 歳児の土よう保育は、午前中のみと言われた。ちゃんと、1 日保育があるからと希望して入所させてもらったが、毎回言われる。保育士の勤務も大変かもしれないが、私達も仕事をしなくてはいけない・・・ お金を払っているので、基本の時間は預かってもらいたい！
- 保育所の在園児に対しても、次年度もまた新たに認定を貰わなくてはいけない制度は親にとって厳しいです。
- 仕事柄(学習塾)夜の勤務が多いので、夜間保育園が増えると助かります。
- 家に障がいのある子がおり、私は子育てに専念するため仕事はしていません。下の子(2歳)を保育園に通わせたいのですが、自宅周辺には認可保育園が多く、通わすことが難しい状況です。もう少し幅広く家庭の事情に応じて認可保育園でも特別に通えることができるような支援があったらいいなと思います。
- 病児・障がい児がいて、児扶手1級で支給金もあり、小慢の制度も利用していますが、この子を出産する前に比べて、仕事を減らさないといけない状況になり(児童デイが基本16:00までしか預かってくれないので)、常勤からパートになり、生活がいつきにきつくなりました。私の収入が10万以上減るのは痛手です。産前もそんなにゆとりがあったわけではないので・・・。児童デイの預かり時間が、健常児の保育園なみに預かってくれたら、それだけでも助かるのになーと、いつも思います。児童デイの制度的に、それは難しいことなのでしょうか？まだ子を産める年齢ですが、3人目なんてとても考えられません。いっぱい働いて収入得たくても、安心して預けられるところがない。

(5 歳児)

- 子育ての為に越して来た。海も緑もあり満足しているが、学習面で心配。行きたい高校がない。塾や習い事もとても少なく格差を感じる。
- 幼稚園預かりは現在弁当だが、給食にしてほしい。あたたかいスープ、あたたかいご飯を食べさせたい。弁当は週1とかでもいいので・・・他地域は給食になっている所が多いと思う。よろしくお願いします。
- 子どもの預け先をなんとか見つけても、園の環境や先生方の多忙さに不安を感じる。ゆとりがないと、シワ寄せは、全て子どもたちへ行くから。保育士さん、幼稚園教諭の待遇を良くしてほしい。よりよい保育・教育を実現するために！！
- 夫婦共に、土曜日仕事のため、5歳児の子の預け先がなく困る。ファミサポの利用料とわたしの時給がほぼかわらないため、その都度仕事を休んでいる状況である。5歳児問題を解決してほしい。

◆学童の不足や質について

(1 歳児)

- 学童期（小学校）になると、夫婦共働きの為、学童に通わなければならないが、近所の方からの経験話で、「入るのが厳しい」と聞いた。実際、地域の学校はマンモス校であるので厳しい。それぞれの地域に児童館を作って欲しい。

(5 歳児)

- 学童保育がもっと沢山の人が入れるように内容も多様化するよう希望します。
- 小学校1年生になったら、学童に入れる予定だが、現在定員がいっぱいで、待機となっている。保育園だけの問題と思っていたので、びっくりしている。共働きでも、安心して子供を預けられる場所の確保を優先してほしい。スムーズに行けない事が多くなると、ますます子供を産み育てるのに自信がなくなります。
- 学童預り時間を認定こども園のように延長 19:30 までにしてほしい。働く時間を短くしないといけなくなり、収入が減るかもしれない、お金がどんどんかかるのに、収入が減る、、、借金がまた増えていく。
- 子どもの入学後の安全面が心配で安全確保のため、塾に入れている。出来れば安心して仕事ができるよう学童があるととても助かります。
- 学童不足だと感じます。学童側も、申し込み期間をわかりやすく周知する等してほしいです。私が申し込みをする頃（12月前半）には、「これから申し込みをしても待機となります」との返事でした。小学校での放課後教室も日数を増やしてほしいです。

◆ダブルケアについて

(1 歳児)

- 保育と介護のダブルケア及び共働きの時に、介護サービスを探すことが難しいので、代理してくれる人や認定までの時間短縮や手間の軽減がほしい。

- 「介護を在宅で」と国の方向性はありますが、それならば在宅で介護する人のために年金つけたり国民健康保険入れるなどの介護人のための対策も必要と思います。
- 親が介護状態であり、もし自分自身が病気になったときに、頼れる制度があまりわからないので、そういう制度があればいろいろな場所で告知してほしい。本当につらいときは動けず、子どもを預ける体力もないので怖い。

(5 歳児)

- 両親の介護で仕事を辞める事になって大変家計が苦しい。介護と育児の両方をする人には何か支援があってもいいのでは？また、男性 1 人の給料ではやっていけないため共働き（お互いにフルタイム）すると、女性にだけ育児も加わり負担が多すぎる。女性の就労時間を考えて欲しい。
- 一生懸命働いている人にも支援がほしいです。学童保育や幼稚園、小学校等希望する所へ入所、入園、入学させてほしい。高齢で親になると生活面は安定しているが、自分自身の親の介護等もあり、働きながら両方を同時にするのは心身共に大変である。あたりまえと言われればそれまでなのですが、役所関係の人へもう少し理解して頂きたいです。→介護の為の校区外申請も行っしてほしいです。

◆育休期間の保育について

(1 歳児)

- 昨年第 2 子を出産、父親が育休を取ったが、第 1 子の保育園は認可対象外となり新規申込できず。父親の育休を推進する一方で「誰かが在宅なら保育できる」という理由で認可保育園の対象外とするのは矛盾している。
- 保育園の入所がどの月でも入りやすければ、子どもの出産にも仕事にも復帰しやすいが、4 月に合わせると育休も 1 年は取れず、早めに子どもを預けるしかなかった。

(5 歳児)

- 育児休業中は保育時間が短くなるのもおかしいと思う。

◆情報不足・相談場所について

(1 歳児)

- 県外から下調べもせず、転居してきたので少し特殊な幼稚園（年長のみ）におどろいた。もう少し広報した方がいいのでは？
- 各制度を知る機会が少なすぎる。うまく活用できるように子供が生まれた時から産婦人科や病院で一覧表にして教えてもらえれば子供がいつその制度の対象に当たるか知ることができ、相談できるので少しでも改善できればうれしく思う。

(5 歳児)

- もっと知らせていく必要がある。「知らない」人が多く知っていても手続き方法がわからない人も多い。ポスターや冊紙で市役所だけでなく産院やいろんな所で手にとって知ってもらう努力をすることが必要だと考える。
- 保育園や特に学童についての情報が少ないので、もっと分かりやすく、且つ充実させて欲しい。

- 制度、サービス、福祉について、分からない事が多いです。役所は知り合いがいたり、相談しにくい事もあるので、年に1回4月に、制度・サービス・福祉に関する冊子等が各家庭に配布されるとありがたいです。

◆働き方・給与等について

(1 歳児)

- 沖縄経済は絶好調の様ですが、実態経済がなかなか伴っていない様に感じる・・・企業誘致の際にコールセンター系でなく、他の業種等の誘致にも力を入れてほしいです！
- 税金や物価が上がっているのに、給料が上がらずに、困ってます。学資保険などに入りたいけど、月々の支払いになると払えず断念しています。

(5 歳児)

- お互い（夫婦）フルタイムで働かないと生活が厳しいが、子育て、家事をしながらフルタイムで働くのは体力的にも精神的にもキツイので、子育て世代の支援策を考えて欲しい。沖縄県の賃金をもっとあげてほしい。
- 子の父親は帰りが遅く、平日子どもと遊ぶ時間が少ないです。子育て支援もありがたいですが、働き方改革もよろしくをお願いします。
- 主人の仕事がサービス業なので土日の休みがほとんどなく子供との時間がなかなか取れない。又、深夜帰宅がほとんどで私が仕事をすることも難しく（主人の休みが土日にあるかわからない為子供のあずけ先がない）育児もワンオペで正直しんどくなる日もあります。身内も沖縄県内にいないので私に何かあった時の心配はつねにあります。母親がリフレッシュできる様な何かがあったら子育てももっと良くなると思います。支援センターも赤ちゃんばかりでものたり幼稚園に入る前にはいかなくなりました。

◆遊ぶ場所・子どもの居場所について

(1 歳児)

- もっと子供が自由に遊べる屋外施設が必要だと思う。雨の日でも体を動かせる場所が欲しい。屋根の多くある公園等。
- ほぼ一人で子育てをしている状態で、保育園に土日預けられないため、毎週土日をどう過ごすか考えて毎週公園に行っています。子育て支援センターにもいきたいですが、土日休みのため、行けず、、皆さんが休みの日どこで過ごしているのか知れる場があれば助かります。
- 市内の公園を良く利用しています。管理会社の方が定期的に清掃して下さっているので、気持ち良く利用が出来て、ありがたいです。遊具が老朽化によるのでしょうか？撤去されていたり使用禁止になっている時があるのですが、そのような場合、新しい遊具の設置の有無や時期が分かるよう掲示があれば良いです！子供のおきに入りの遊具が悪くなっていたり、遊べなくなっている時に説明が出来る（いつ頃、新しい遊具が設置される等）と助かりますので。
- 子供がこんなに多いのに子供向けの施設がほぼ皆無です。児童館や、放課後あそべる場所を作ってください。とても子育てしにくいです。急な用事で預けられる場所がありません（かなり前からの事前予約が必須）。
- 子どもたちが遊べる室内施設も充実させて欲しい。休日雨が降ったら行くところはショッピングセンターしかないのはかわいそう。

(5 歳児)

- 歩いて行ける所に遊べる公園がなく近所の子供と遊ぶ機会（会う機会）がない。公園はあるが草がしげり遊具もこわれたままで遊べなくなっている。
- 小学校低学年などもあずかり保育があると助かる。現代は家に一人にできない。実母も認知症であずけられない。
- 身近に頼れる人がいないので、放課後、安心して過ごせる場所を小学校のとなりなどなるべく近くに、作ってほしい。毎日、どうにか生活できている状態で、決してゆとりがあるわけではありませんが、なるべく、子どもたちには、やりたいこと（習い事など）は、させてあげたいです。3人目も欲しいと思っていますが、もう子どもは2人で、金銭的に限界です。

◆その他

(1 歳児)

- いらなくなった服や着けなくなった服などの処分の際、まだ着けられるのもったいないなと思いながら処分しています。役所や支援センターなどで10円などで（←無料でもOK）売買したらとてもいいんじゃないかと思います。健診や予防接種の会場で持ちよりや展示などしてもいいんじゃないかと思います←まち時間も楽しめそうだから&健診率もUPするかな？と思います。
- 子どもの貧困問題への取り組みに力を入れてほしい。貧富の格差で子どもが犠牲になってはいけない。教育は平等でなければならない。未来の日本を明るくするために、行政がもっと子供に関わるべきだと思う。
- 奨学金制度についてですが、私が高校生の頃に短大へ進学する為、奨学金を利用しました。一種、二種とも通りましたが、入学金の支払いに大変困りました。その当時、母子家庭だった私は、パート働きの母と、バイトをした私の稼ぎで生活していたので、2人の収入でとても払える額ではありませんでした。母は、兄弟から借りたり、借金までして私を大学へ通わせてくれました。そのおかげで資格も取れて、ちゃんと手に職をつけることができましたのですが、現在子育てをする3人のお母さんになりましたが、奨学金を返済する余裕がなく、猶予も10年しかない為、近々返済していかなければなりません。この制度の見直しをして、額を少しでも軽減してほしいです。
- 地域のおじいちゃんおばあちゃんとの関りが欲しい。施設に集ってイベントというより、もっと生活に密着したやり方。たとえば、登下校の付添い（集団登下校を一緒にしたり各信号での交通誘導等）をしてもらい、普段の生活の中でお互いが触れ合っていければと思います。シルバー人材の就職にも繋がると思うのですが。
- アンケートの結果をよく反映しますように、子どもたちが安心して生活できる社会になりますように。
- 未婚の母にも税金など控除できるシステムを考えて頂きたいです。
- 沖縄の自然を壊さないでほしい。人間は便利をもとめすぎて、大切な、自然をこわしすぎている。みんなに、気づいてほしい。
- 貯金がまったくない。生きるだけでいっぱいいっぱい、将来が不安でしかたないです。

- 保育園を増やしてほしい。子どもは国や地方で育てるもの。社会の価値観を変えていかなければ沖縄の未来はない。与えるべきは「お金」ではなく「機会」。最低限高校まではすべての子どもが平等な教育を受ける「機会」が必要（*親の負担なく）。子どもたちが親の収入次第で「機会」が損なわれるようなことがあってはならない。

(5 歳児)

- 子育てについて悩んでいても、知らない人に相談するにも抵抗があるし、かといって身内に相談しても、聞いてくれないし、一緒に悩む様子もなく、ただ一人で悩み、きつくなることがある。こういう時に相談できる場所はあるのかもしれないが、勇気がでないし、気力もない。気持ちに余裕がなく子供をしっかりとつけて、自己嫌悪におちいって悪循環している。これをどうにかしたい！
- 発達障害のうたがいがあり、病院で検査予約をしましたが、早くても6ヵ月まちで、不安です。もう少し、スムーズに発達障害の検査を受けられるよう、取りくんでほしい。
- 母子の貸付金を使いたかった時があり、手続きやいろ×2としましたが、けっきょくかりれませんでした。私達よりもっと苦しい人たちにしかかせられないといわれました。私達も充分お金がなく苦しんでいるのに。なぜ協力してくれないのか、涙がでました。もっと充実した制度をつくって下さい。ニュースで、お金がなくて、親と子供が・・・と最悪な事が1年に何度かニュースになりますが、気持ちがわかるような気がします。助けてもらえず、たよる人もいなくどうしようもない……。どうにかして下さい。
- 食物アレルギーをもつ子どもが皆と同じ給食（低アレルゲン対応）が食べられるようになるとうれしいです。地域によって対応の格差があるようなので。。。
- 本当に困っている人の為にいいアンケートだと思いました。助けてあげられる人がふえますように……。本当に困っている人ほど制度のことを知らない人が多いなあと感じます。

